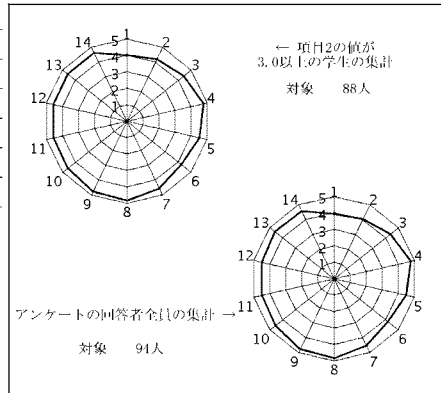


2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[II・II]
授業コード 10A01-001
教員名 佐藤 啓介
教員コード 102874
登録人数 131
回答数 94
回答率 71.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

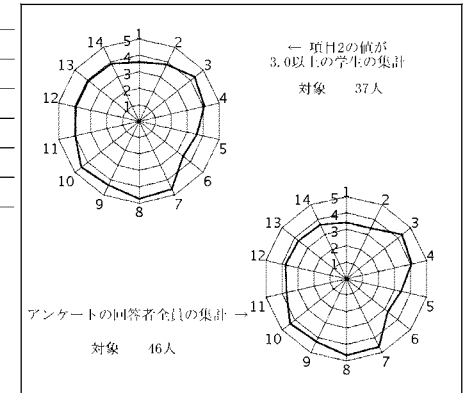
本講義の到達目標は4つあり、「1. 宗教を構成する基本的な要素や、その社会における役割を理解している」「2. 宗教的なものに対する人間の関心や関わりを考えることで、人間そのものへの理解が深まっている」「3. 現代世界において多様な信仰をもつ人々に対する寛容や理解の姿勢を身につけている」「4. 無宗教から宗教を考える視点や、宗教のもつある種の危うさへのまなざしなど、宗教を多角的に考えられるようになる」であった。学生の自由記述欄における評価および到達目標達成度（約4.5）より、その目標はおおむね達成されたと思われる。

全体的にみても、学生の本科目に対する評価は高く、楽しい、飽きない、分かりやすいなどの記述が多くみられた。全体的な満足度も4.55と比較的高い数値であった。また、自由記述欄において配布資料への評価が高く、該当項目の数値も4.76と高いものであった。

他方で、問題点として、例年に比べて項目3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」の数値が低く、4.37であった。これは、本科目の前に入れた講義、本講義ともに自身の研究室から遠く、15分以内での移動が終わらずに授業開始時間が遅れ、結果、授業終了時間も2回ほど守れなかったことが影響している。致し方ない面もあるが、改善を考えたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[IIA・IIP]1
授業コード 10A01-002
教員名 RAJCANI, Jakob
教員コード 103281
登録人数 53
回答数 46
回答率 86.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

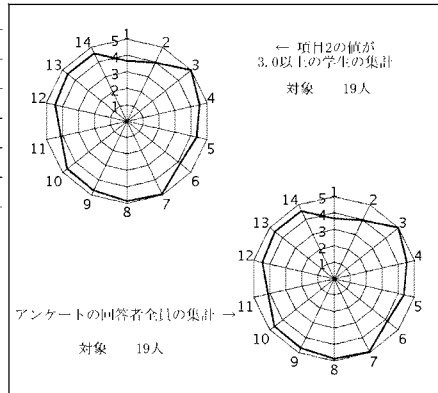
この授業の目的は宗教そのものに関するリテラシーを高めることであり、それ自体において無限の課題であるのだが、大幅に達成できたと思う。つまり、無意識に知っていることを改めて考え、常識として既に知っているはずだったことを学生に意識させることを目指してきた。なお、それぞれの宗教についての具体的な情報に親しむことは二次的な目的に過ぎなかった。

いつものことながら、「教室が寒い」という人と「教室が暑い」という人、また「声が聞きやすい」と「マイクを使ってほしい」という人に別れて、全員を納得させるように苦労してきた。仕方ないところがある。確かに、黒板は暗くてチョークの色が読みにくいことを認めざるを得ないが、こちらだけではどうにも出来ない。耳が聞こえる以上、スライドや黒板に書いてあることだけではなく、教員が話していることをもちろん聞き取り、ノートとして書き留めることが前提となっている。聞いたことを消化して、短くまとめるのも学生自身の役割である。確かに内容が多くて、何を省き何を優先すれば良いか迷っている時もあったが、時間通りに終わらなかったと言っても数回だったし、しかも超過したのは1-2分程度だったので、苦情を言われる場合かどうか疑問です。移動するのが大変なのはまず教員の方なのである。

改善点としては、学生の前知識をよりよく把握し、今まで考えていたほど楽観的に捉えないでいくことを目指す。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[P]1
授業コード 10A01-013
教員名 VARGHESE, Rejimon
教員コード 100555
登録人数 22
回答数 19
回答率 86.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



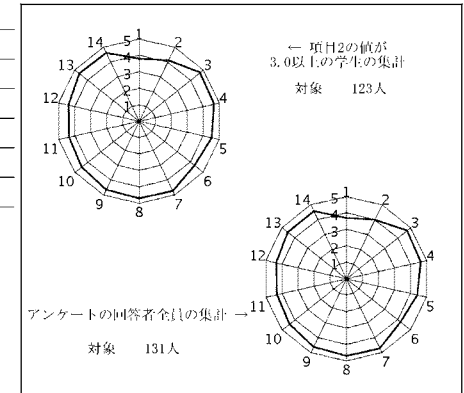
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2の宗教論【P】10A01-013はおもに講義形式で行われていました。本講義は宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げ、それぞれの宗教による人間観、世界観、教義および信仰の関連性について考察しました。取り上げられた宗教の一神教系のユダヤ教、キリスト教、イスラム教でした。この授業の中で、その三つの宗教理解と宗教への関心を深める基礎的知識を目指し、提供しました。学生の参加率および彼らによる評価に満足しています。

- ①私自身からも、そして学生による評価からもいえるのはこの授業は開講当初に設定した目標に到達したことです。その理由の一つは、この授業はいきなり上記のそれぞれの宗教から始まったからではなく、それに先立って2回にわたって宗教と宗教の必要性、多神教と一神教の由来に触れたからです。
- ②私はこの授業の数値データ（項目3から14平均4.58）および学生による自由記述等に満足しています。興味深い宗教映画を選び抜き、学生に見せ、内容を説明し、学生の積極的参加を招きました。マイク、パワーポイント、講義のスピードを適切に保っていたこともプラス点になっています。
- ③大幅にこの授業内容を改善する必要はないが、実践に関して細かいところで改善していく必要があるかと思えます。例えば、質問する時間を学生にもっと与えとか、毎回の講義内容について学生の意見や印象などを聞くことです。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[P]2
授業コード 10A01-014
教員名 HERA, Marianus Pale
教員コード 102689
登録人数 150
回答数 131
回答率 87.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、質問1の結果からはっきりとわかるように、必修科目である宗教論という授業に対する学生の興味は低いということがわかります。多くの学生は宗教に対して偏見を持っています。また、宗教について全く勉強したことがないので、難しそうだと思う学生が多いようです。

しかし、最後には、「今まで全く関心のなかった宗教に興味湧いた」「宗教に対する知識を深められて良かった」「今まで知らなかった日本と世界の宗教観の違いや、色々な宗教の特徴を学べてよかった」などの声が上がっているし、この授業全体の満足度の平均値が4.55という数字が出ていることから、授業目標に達成できたと思っています。

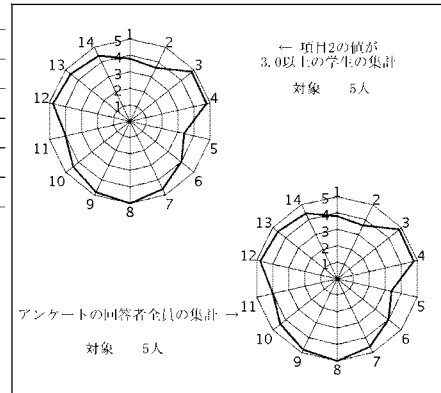
特に学生にとってパワーポイントがわかりやすいことや各テーマに関連する映像・画像の使用が効果的だということがわかりました。パワーポイントをWeb Classに載せるという要望もありますので、その可能性を今後検討していきたいと思っています。

学生の中に真剣に学びたい学生と単に単位を取れば良いという学生の授業に対する姿勢の違いがよく感じ取りました。「人数が多すぎる」「もう少し、人数を少なくしてもイイと思う」という声も数名の学生から上がっています。

学生の要望を全て答えることはできませんが、授業評価を一つのきっかけに、これからも授業改善を努めていきたいと思っています。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳5
授業コード 10D03-005
教員名 渡邊 学
教員コード 017186
登録人数 10
回答数 5
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

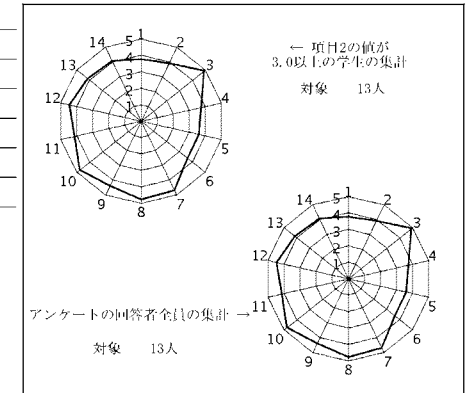


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標は、十分に達成することができた。とりわけ、ヨーロッパ社会における近代化をもたらした「脱呪術化」の余波としての不安や精神の病について理解を深めることができたのではないと思われる。また、ユングの思想の基本や問題点についても深めることができた。この講義においても「コミュニケーションカード」（大福帳）を導入し、毎回、個々の学生の感想や意見、質問などを記入してもらい、それぞれに次の講義までに答えるという作業を行ったので、学生とのコミュニケーションが図ることができた。学生のコメントにも、「コメントシートに毎回コメントがあって、質問や意見に関する反応が書かれていて、先生からのフィードバックが得られるという点において良かったです」という反応があった。今回の講義では、受講生が少なかったため、配付資料を充実させてそれを適宜読み上げる形を取った。しかしながら、今後は、登録した学生の数に応じて、PowerPointを充実させ、要点がさらに見えやすい形で講義を進められればとよいと考えている。また、受講生に対して教室が大きすぎたが、あえて教室変更は依頼しなかった。その点に関しては、今後は、受講生の意見を踏まえながら、適切に対応していきたいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語I講読[IIC]<全>1
授業コード 11J05-001
教員名 井上 淳
教員コード 100301
登録人数 19
回答数 13
回答率 68.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

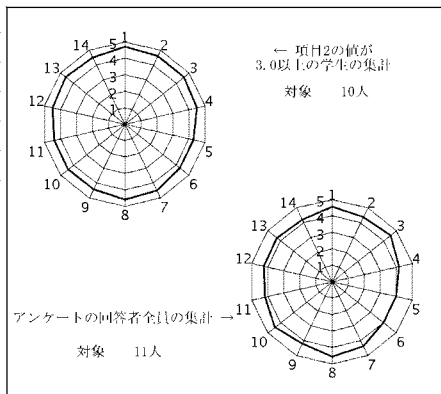


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標には到達できた。教科書に従って授業は進み、進むべきところまでは到達できた。Q2もわずか2か月しかないので、ラテン語のまとまった文法知識はまだ半分程度しか与えることができず、原典解読レポートの課題を作成するのに苦心した。②全体としては、まあまあ良い評価だったと思うが、授業の進行が速すぎると感じる受講生が何人かいたので、もう少し丁寧にゆっくり進むようにしたい。教室は新しい建物の教室に変更してもらい、ホワイトボードが適切な大きさがあり、使いやすかった。しかし教壇とホワイトボードとの間のスペースが狭く、講生に前に出て問題の解答を書いてもらう時はやはり窮屈だった。もっと大きなスペースの教室にしてもらえると良いのだが。備えているペンは使用済みのものが多く、常に何本か持参していかなければならなかった。③次のクォーターに向けてだが、基本的な進行方法は保持しながらも、より分かりやすい解説を心掛けたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語I講読<全>2
 授業コード 11J05-002
 教員名 松根 伸治
 教員コード 101833
 登録人数 21
 回答数 11
 回答率 52.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

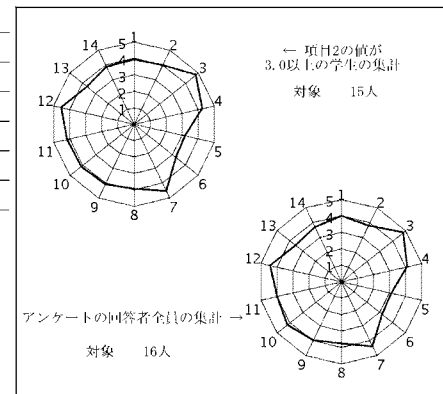


授業評価結果を踏まえた点検・評価

前クォーターの報告書で課題として挙げた設問6、10、11について、今期アンケートの数値に多少改善が見られたのはよかった。順に4.00、4.45、4.18。到達目標の第一点「分詞の用法を身につけている」は、現在分詞・過去分詞の基本的な用法や特徴をくわしく説明し、奪格別句の練習も多めにおこなうことができた。授業での応答と提出課題から見て、この目標はある程度まで達成できたものと思われる。しかし、第二点「ラテン語の文章読解の基本的手順を理解している」に関しては不十分だった。文法解説は簡略にして問題も精選したつもりだったが、Q1で学んだ基本事項の見直しなどにも時間をさいたために余裕がなく、実際の読み物を使った練習はすこししか組み入れることができなかったのが反省点である。今期は、教科書掲載の小プリーニウスの手紙を読解課題として提出してもらい、これをモデルにしてラテン語の文章を読むための基礎的方針を説明した。秋以降は読解の手順に慣れるための時間をもっと増やすよう工夫したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教史(古代・中世教会史)
 授業コード 21C03-001
 教員名 CAVALLAR, Osvaldo
 教員コード 018820
 登録人数 43
 回答数 16
 回答率 37.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

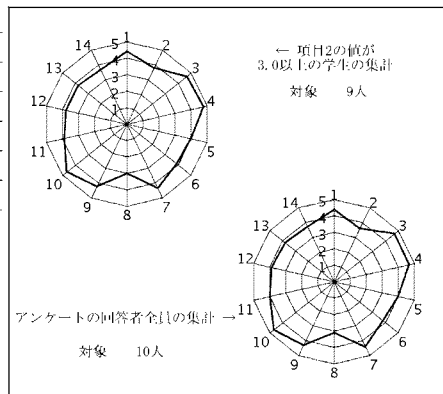


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course was simple: introducing the students to the history of Christianity from late antiquity to the middle ages with particular attention to the development of canon law and the impact it had on European civilization. This aside, imagining that sometime the student may take a trip to Europe, the history of Christian architecture was also taken into consideration and presented. Yet, the true novelty was that the course was taught in English and not in Japanese. This was done in consideration of the international spirit of Nanzan University. For the students it was a bit difficult but the attempt is worth repeating. As to facilitate the students' comprehension, all the classes had a PowerPoint presentation with fuller explanations than simple bullet-points, which took more time than I had initially expected. The PowerPoint presentations was made available to the students, though not everybody took advantage of it. Surprisingly, some of the students even attempted to write they final report in English. The basic structure of the course should be kept; the sections on gender and the role of women should be expanded a bit.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 初期キリスト教思想A
授業コード 21C30-001
教員名 岡寄 隆哲
教員コード 103614
登録人数 19
回答数 10
回答率 52.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

初期キリスト教とは何かという問いに対し、ユダヤ教からキリスト教へという歴史的展開をとおしておおよそのところを理解できるようになるという今学期全体の目標について、まず「人類の精神史上における古代イスラエルの宗教の画期的な性格について理解する」という点にかんじて、イスラエルにおける一神教の起源や当時の他宗教との違いなどを確認しつつ学べるようにつとめた。また、「ユダヤ教からキリスト教への移行において継承されたものとされなかったものの違い」をおさえることをとおして、同じ一神教の中でもキリスト教という宗教思想の独特の特徴について学べるようにした。とりわけ「三位一体論」、「キリスト両性論」という中心教理について、なぜそれがキリスト教独自であり、重要な位置づけを持つのかについて理解できるようにした。

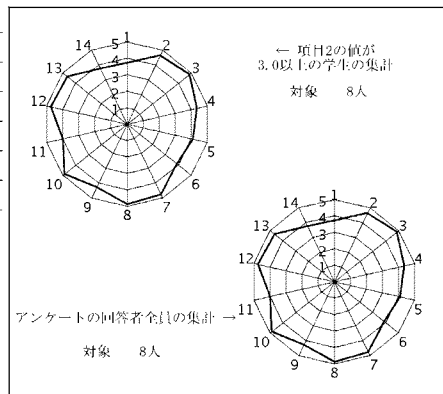
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

「教員の声や音声機器の音がよく聞き取れたか」との項目にかんじ点数が低く、教員の講義に際しての実践上の工夫、努力が必要であると感じた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
講義のやり方についてだけでなく、内容にかんしても、受講者が関心を持ってもらえるようなものにして行きたいと考える。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教史II
授業コード 21C58-001
教員名 MCMULLEN, Matthew
教員コード 103838
登録人数 18
回答数 8
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

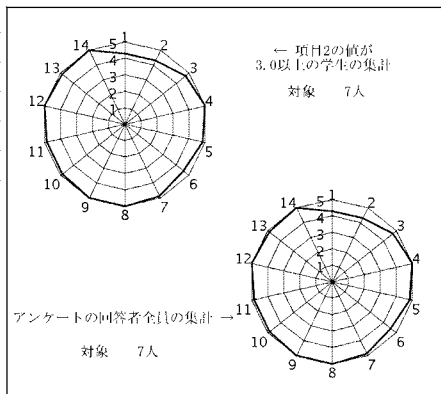
(1) I began the course with two goals. First, I hoped to introduce the students to life of the Buddha through various media, both traditional and contemporary literature. Second, the course was intended to be an introduction to lecture in English. The first goal was more or less successful. However, it became clear after the first class that only a few students had sufficient language skills to understand the lecture. Therefore, I abandoned this goal and taught the course in Japanese.

(2) Although the comments kindly stated that I communicated well in both English and Japanese, I do not think I did a sufficient job of lecturing in Japanese. Regarding material for the course, one comment complained that I assigned too much reading. However, this was the minimum amount of work I am willing to assign for the course to qualify as a university-level course.

(3) I hope to teach this course again. Next time I will organize the course differently. I will begin with a couple of lectures on the history of Buddhism in general and the life of the Buddha in particular before assigning the readings. I will also devote more time to analyzing the manga rather than the traditional materials.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践神学B
 授業コード 21C77-001
 教員名 鳥巢 義文
 教員コード 017848
 登録人数 12
 回答数 7
 回答率 58.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と達成

説教の課題と役割について、受講者自身が実践をとおして基本を習得することを旨とした。学期前半は文献研究により説教の使命を学び、授業の中で素読法による福音書の読み方を受講者に体験してもらった。受講者は福音書のメッセージを自ら把握し、イエスの時代と現代との間の「生活の座」の融合という視座を学んだ。中盤では、現代の文芸作品の鑑賞をとおして、受講者の日常レベルにおける「イエスのまなざし」の発見を試みた。後半では、受講者自身が説教を実践し、受講者相互に評価を行った。

②点検・評価

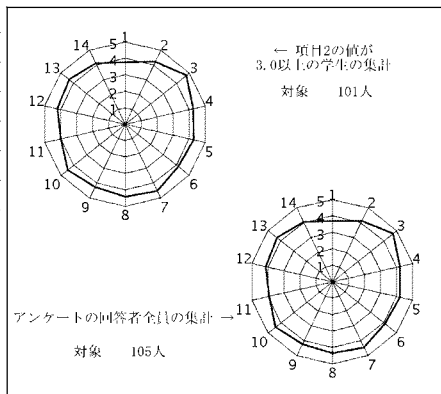
設問3～14の平均値が4.88ポイントであった。設問5、11、13などは4.86ポイント評価であり、目標理解、適切な指導と情報提供、新たな知識習得と理解深化に関連して、もうひと工夫の必要性があることを確認した。この点は設問6の4.57ポイント評価にもつながっている。設問4、9、12、14などの5ポイント評価は、受講者の満足の表現と思われる。自由記述には評価点として、「適度なペースで授業を進めていたこと。優しく教えてくださったこと。」「この授業の時間は静かに時間が流れるようでよかった。」などのコメントがあった。

③改善と抱負

引き続き、適切な教材を発掘したい。また、素読法の実践の後に、福音理解の深化のために、アイデアの「分かち合い」のような機会を設定してみたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[P]3
 授業コード 10A01-018
 教員名 ANTONY SUSAIRAJ
 教員コード 103820
 登録人数 143
 回答数 105
 回答率 73.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Goal of this course

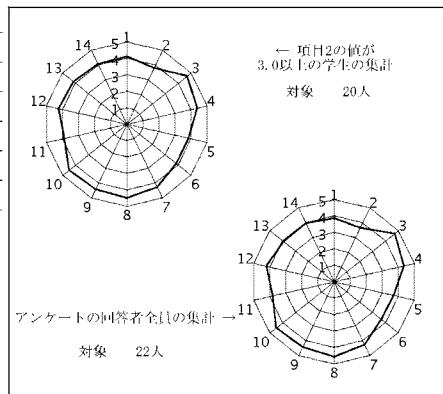
The goal of this course is to introduce different religions and their values to all the students. Mostly the world religions are introduced to students, and then small religions of the world. Students were also taught about the recent problems caused by religious disharmony. They were given chances to express their own views on lectures. They were encouraged to read at least a book regarding a particular religion. They were asked to visit places of prayers and give their report. Overall, it was a very good learning experience.

2. Overall assessment: 7/10

3. For the future plan: more time given for discussions among students

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学・倫理学における人間の尊厳1
授業コード 10D02-001
教員名 谷口 佳津宏
教員コード 016550
登録人数 36
回答数 22
回答率 61.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

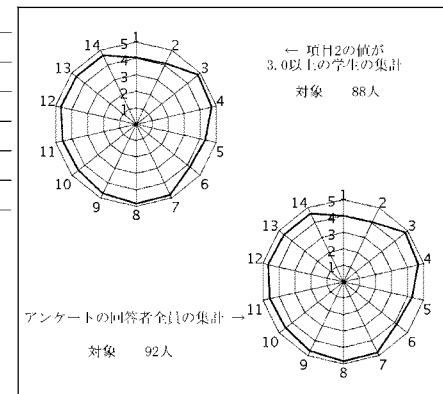


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は「1. 南山大学の理念を第三者に説明することができる。2. ヒトと理性的存在者の異同を説明することができる。3. 法と道徳の違いを説明することができる。4. 哲学書のある程度理解することができる。」であった。試験の結果からみて、8割程度の学生がこの到達目標を達成できたと思われる。アンケートの結果は、ほとんどの設問で全体平均を下回っており反省すべきところだが、今のところ適切な改善策は見当たらない。この授業の良かった点、評価できることとしては「先生が素人にも分かりやすく、噛み砕いて説明してくれていたところ。」「難解なカント理論を、適切な解説で解説できるように誘導していた。」という記述があった。一方、この授業の改善すべき点としては「出席してたのに欠席過多と言われ、テスト受けさせてもらえませんでした。ちゃんと出欠を記録できないのに出欠をとるかやめて欲しいです。迷惑です。」という意見と「もう少し、ゆっくりと話して頂けると助かると思いました。」という意見が寄せられた。前者に関しては、毎回ちゃんと出欠の記録をとったうえでの処置なので、こうした意見が寄せられるのは当方としても心外である。後者に関しては今後できるかぎりゆっくりと話そう心がけていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学・倫理学における人間の尊厳4
授業コード 10D02-004
教員名 和泉 悠
教員コード 103645
登録人数 106
回答数 92
回答率 86.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

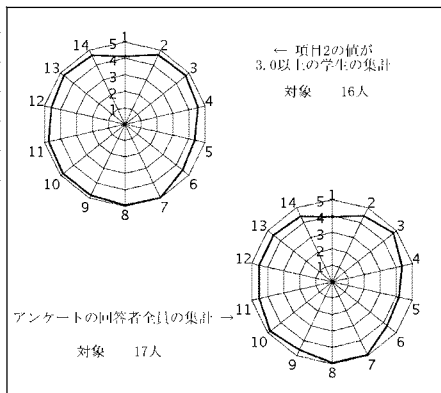


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①このクラスではアクティブラーニングの手法を取り入れ、excelでランダムにペアを形成し、授業中に移動・議論を行わせ課題に取り組みさせる時間を設けた。そのため、目標の「2. 他人の意見をよく聞くことができる」、「3. 自分の意見を根拠をあげながら述べることができる」、「4. 他人や自分の議論の妥当性や説得力を見極めることができる」を到達するための作業を行うことができ、数値化は難しいが、提出課題の質、アンケートを踏まえると少なくとも部分的にこれらに到達できた。
- ②他のクラスと同様数値とコメント上のスコアはほぼ天井に近いと思われる。WebClassの使用を含め数多くの工夫をしてきた効果は上がっていると思われる。しかし、より効果的な学習を目指して、以下のような変更点を検討している。
- ③授業中に一切注意散漫な時間帯を設けないため、より自主的に課題・グループワークに取り組む時間を増やしたい。そのため、レクチャーの時間を減らし、全体的な構造を考え直すつもりである。具体的にはより細かく学習内容のユニットを設定し、ショートレクチャーと課題の組み合わせを1時間半の間に二つ程度行なうことにより、メリハリをつけていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ギリシャ語II文法<全>
授業コード	11K02-001
教員名	坂下 浩司
教員コード	100471
登録人数	23
回答数	17
回答率	73.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

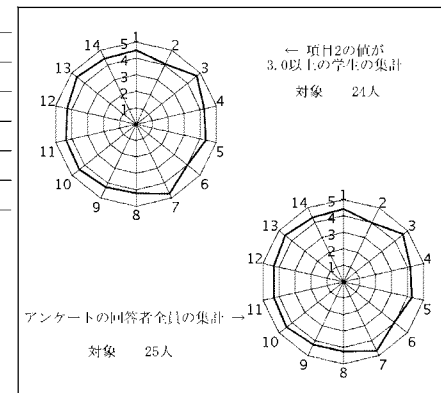


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講当初に設定した目標と到達程度は「古典ギリシャ語の初級文法のさらに進んだ知識が身につけている」であった。(2) 数値データは、設問1の「3.94」を除けば、平均値すべて4以上であり、ほぼうまくいっていたことがうかがわせる。数値データで気になったのは、「1」の記入が1人ずつであるが、9項目あることである。前回Q1にも、項目14についてだけ「1」をつけた方がいて、この方はレベルの高い知識を欲しているので「1」をつけたと推測し高度な教科書での読書会の企画を立てる対処をしたが、今回は、項目2「予習・復習など主体的な学習努力をしたか」にも、項目5「到達目標の理解」にも、「1」がつけられており、自由記述で「文法の話ばかりでまったくギリシャ語が話せないしつまらないし理解できない。もっと会話表現について授業すべき」とあった。この講義は題目からして「ギリシャ語《文法》」であり、また、シラバスにも「《古代》ギリシア語」を学ぶことが明記されている。古代ギリシア語は死語であり、現在これを話している・会話している人はいない。評価「1」を多数つけたこの方は、さまざまな点で誤解をされたままであった残念な方だと思われる。(3) 今後の抱負は、自由記述で評価された「自ら副教材を作成したりギリシャ語を使った活動を用意してくれた」という面を充実させる（「旅行現代ギリシャ語会話」の挨拶表現も少し取り入れてもみたい）。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	考古学A
授業コード	12B01-001
教員名	大塚 達朗
教員コード	019372
登録人数	37
回答数	25
回答率	67.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

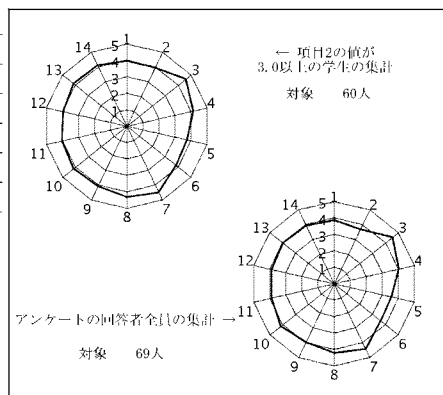


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標はおおむね達成できたと思う。掲げた授業目標は、狩猟採集と農耕の違いの理解、食器の変遷・食材の変遷の理解、食文化の変化と日本社会の変化の理解、身体性の変化の理解などから、日本人とは誰のことかを修得させる、である。授業評価は、集計表によれば、全体では項目1から14の平均が4.24、項目3から14の平均が4.28で、本授業はそれぞれ、4.33、4.34である。また、全体的な評価を問う設問（13・14）をみると、全体ではそれぞれ4.27、4.19で、本授業はそれぞれ4.52、4.32である。故に、高く評価されたといえよう。自由記述をみると、博物館での講義がとても新鮮で分かりやすかった、土器を手にとって観察できて理解が深まったなどの記述の一方で、プリントが多くて困った、説明がくどかったなどの記述があった。そこで、改善点としては、来年度は、観察前の説明を増やし、観察後の質問を増やすことにする。今後の抱負は、日本の食文化が時間の経過の中で自然に出来上がったのではなく、古代国家から中世武家政権の間に人為的に創造されたものである特殊性の歴史的意味を深く修得させたい。また、考古学が固有の歴史認識方法を有することも修得させたい。そこで、知識が抽象的にならないように、かつ、考古学の分析手続きの特色が理解できるように、アクティブ・ラーニングの観点から人類学博物館所蔵考古資料を最大限に活用することを、より心がけたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史A2
授業コード 12B03-002
教員名 青山 幹哉
教員コード 019323
登録人数 116
回答数 69
回答率 59.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

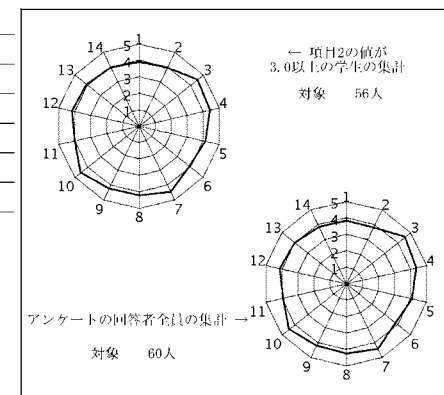


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定した到達目標は、(1) 日本中世史についての知識を習得することができる (2) 一つの歴史的事実に対して複数の見方があることを理解し、面的な思考力を養うことができる、であった。項目5・6で評価値5または4とした学生は回答数の6割程度、項目13・14の平均値は3.99、3.93と4.0を割ったので、目標への到達という点では、不満足な結果となった。
- ② 本科目は2015年度春学期における学生評価の対象であったので、設問が同じ項目を比較してみると、項目10以外の項目は全てダウンしていた。また、新規の設問を詳しく見ると、科目への関心度を示す項目1の評価値2・1は計17.39%もあり、逆に真面目に受講したかを示す項目2の評価値5は18.84%しかなかった。関心をもって本科目を受講した学生が、従来よりさらに減少した感がある。項目15には「この授業で始めて日本史がこんなに面白いことがわかった」等のコメントがあったものの、学生個別のアンケート結果を詳細に見ると、No.5とNo.34の学生は、ほとんどの項目に対し否定的な評価をしており、彼等にとってこの授業はまったくの期待外れであったらしい。
- ③ 今期は、初回の授業で、シラバスの内容、授業の進め方、成績評価の仕方、小レポート等、について丁寧に説明した。それで学生に受講の可否を再検討してもらうつもりであったが、残念ながら役に立たなかった。次期はさらなる方策を打ち出すつもりである。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジアとの出会い1
授業コード 13B02-001
教員名 宮沢 千尋
教員コード 019562
登録人数 97
回答数 60
回答率 61.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

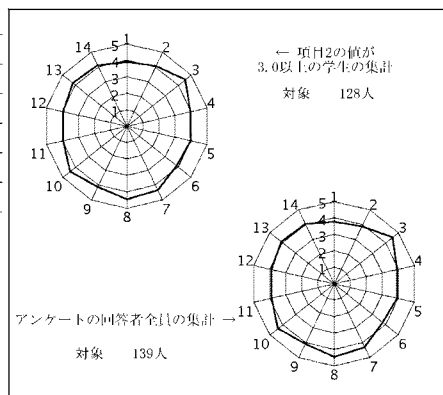


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 平均値には及ばなかったが、設問5と設問13が4点台だったのである程度は目標が達成できたと思う。しかし、履修者の2/3の学生しか単位取得にたどり着かなかった(本試験の欠席者10数名、不可者10数名)。出席は取っていないが毎回配布したレジメの残部から見て、常時出席者は70名前後だったと推定されるので、単位取得者数とほぼ一致する。欠席が多かった学生がこれらにならなかったものと思われる。
 2. 数値データは、いずれも学際科目の平均を下回る。設問2、6、11、14が3点台だった。自由記述での否定的な評価は「眠くなる」という記述が1件と、マイクの音量についてだけだった。レジメや資料がわかりやすく、映像資料を使った点が評価された。自主復習課題を課し、成績にはならないが提出者には添削して返却し、授業で解説したことも評価された。ただし、提出率が非常に悪く、10数人だった。
 3. 以上からわかることは、履修者は「ある程度知識はついたし到達目標を理解したが、力がついたとは思わないし、それほど満足もしていない」ということである。また、授業が理解できた学生とそうでない学生の間のギャップも気になる。これらの点をQ3の同一科目で改善していきたい。
- 授業態度で注意を受ける学生は結果的にいつも同じ学部学科である。不可者率も高い。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イスラムとの出会い1
授業コード 13B03-001
教員名 石原 美奈子
教員コード 100080
登録人数 399
回答数 139
回答率 34.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

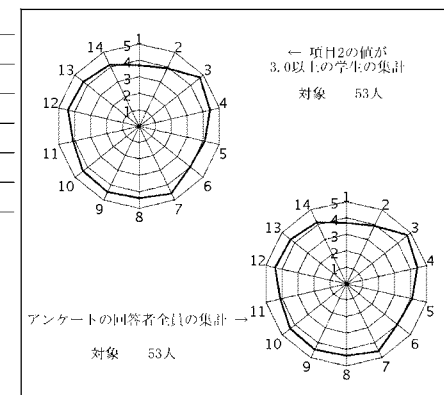


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業は、今日のイスラームをめぐる政治・社会情勢を理解する上で欠かせない、歴史や宗教上の発展について概説することを目的としており、イスラームの興りから現代の中東イスラームの情勢までたどり着くことができた。15回の授業のなかで小テストを5回実施した。
- ②昨年度からパワーポイントで授業を進める方針に切り替え、提示の仕方などについての学生のコメントを参考にして、webclassへの掲示や授業での使い方について、パスワードをなくす、掲示の時期を早めるなどの改善をしてきた。履修登録者数400人の授業だったので、パワーポイントのスライドは印刷媒体では配付せず、事前に個々人でプリントアウトして授業に臨むように指示した。今後も履修者数が減らないのであれば、印刷媒体での教材の配付はしないつもりである。授業への参加度を高めるために、webclassに掲示したスライドを、授業で掲示するものより簡略なものとし、学生が書き込める空欄や空白を設けた。スライドの切り替えのタイミングも、昨年度の「早すぎる」とのコメントを受けて、学生の理解を得ながら、十分設けたつもりである。
- ③クォーター4に同じ授業を行うが、今回とほぼ同じように進めるつもりである。webclassへのアップのタイミングは、少し早めることにしたい。また「イメージが難しい」という指摘があったので、写真をもう少したくさん利用することにしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス論
授業コード 15P03-001
教員名 浅石 卓真
教員コード 103263
登録人数 92
回答数 53
回答率 57.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

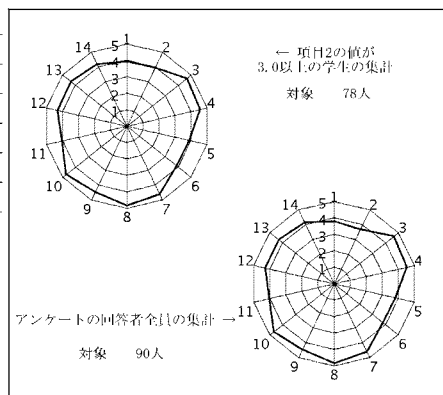


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。「図書館の情報サービスに関する基本知識を獲得できる」「情報サービス演習」に必要な参考図書・データベースの知識を獲得できる」という目標については、授業内での小テストの結果の平均が7割程度だったこともあり、概ね達成できたと考えている。「パスファインダーを分析・評価できるようになる」についても、受講者のプレゼンテーションを見る限り熱心に取り組んでいた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。数値データに関しては、設問3以降は概ねどの項目も平均を上回っていた。スライドやレジュメが見やすいという意見や、コメントシートでの質問に回答する工夫は評価する学生が複数見られたので、今後も同じ形式で進めていきたい。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など演習形式の内容をもう少し取り入れて、飽きさせない工夫をしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学基礎論A
授業コード 22A05-001
教員名 吉田 竹也
教員コード 019158
登録人数 105
回答数 90
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、人類文化学科1年生の必修科目であり、哲学・言語学・文化人類学・考古学・文化史など幅広い学科の学びを見通しながら、履修生がそれぞれの関心の方向性を考える素材を提供する授業と位置付けている。

自由記述を含む授業評価の結果は、おおむねそうした趣旨が履修生に受け止められていることを示しているものと判断する。「しっかり話を聞く」ことを身につけてほしい、という点を授業の最初に強調したが、こうした授業のねらいが理解されていれば幸いである。

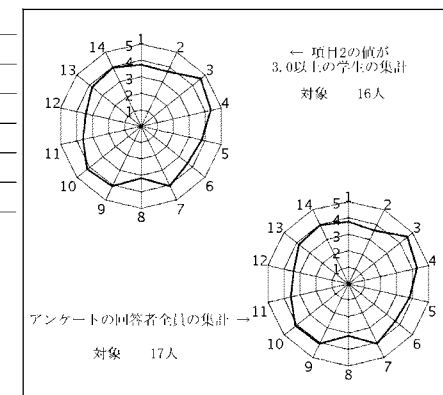
なお、設問項目2の平均値が3.67と低くなっているが、おそらくこれは、テキストの次回分を必ず読んでくるようにいう指示があったものの、自らがその努力を怠っていることにたいして、すくなく履修生が低めの評価結果を申告したことによるもの、と受け止めている。半数近くは予習をしているようであった。今年度からの試みなので、今後もデータを見ていく必要はある。

テキストが難しいという意見もあれば簡単であるという趣旨の意見もある。テキストをすこし離れた内容があつてよいという意見と（「雑談」だから）不要という意見があるが、今後はテキスト+αをもうすこし入れることを検討したい。

最後に、9割近い回答率は、授業に出てきた学生のほとんどが回答を寄せてくれたことになる。学生にこの場を借りて感謝したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学文化論A
授業コード 22C22-001
教員名 横山 輝雄
教員コード 015149
登録人数 38
回答数 17
回答率 44.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

項目4「この授業の到達目標を理解することができましたか」の点数は4.29であるが、項目6「あなたこの授業の到達目標に向けて力がついてきたと思いますか」の点数は3.65であった。目標に比べて、到達一「力がついてきたと思う」一が低かった。

2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

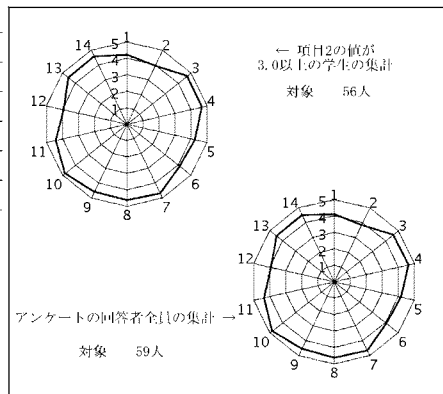
項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」の点数が3.59で相対的に低い。この科目は学科科目であり、学科全体の平均点数は3.75で、それと比べてやや低い。課題を出すなどの方法を検討する必要があるかもしれない。

3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点。今後mの抱負、方針など

項目2の点について、次学期以降、予習や復習などを促すために、次回までの課題を果すなどの方策を考えたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(オセアニア)
授業コード 22C46-001
教員名 後藤 明
教員コード 101380
登録人数 124
回答数 59
回答率 47.6%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



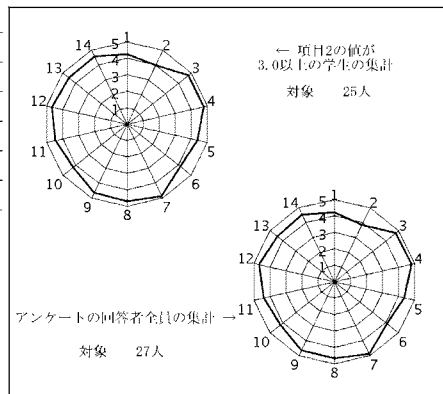
授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価が高かったのは、配布物や視覚資料（ビデオや写真）などによる多角的な講義の形態、また講師の真剣さ熱意、および私語などを注意し静粛な学習環境に努めていた点についてであった。配布物も従来の講義よりも、パートごとにまとめて配布することで事前の学習への配慮を行った。またパワーポイントを利用して、講師が長年の研究で撮ってきた写真を見せ臨場感のある講義に努めた。さらに今回は講義の途中で大講義室ではあるが学生に質問を投げかけ、それに応答する学生がいるなど、学生からの反応もよく、例年になく真剣な受講態度が感じられた。

しかし比較的评价が低かったのは毎回の予習・復習の度合いや講義後の質問の時間などについてであった。今回は資料をできるだけ事前に配布し、一種の謎解きの宿題をできるだけ出した、予習の意欲を高める努力をしたが、次学期も引き続き努力したい。講義後にも質問にくる学生がいたが、時間が十分でなかった可能性があるため、この点も改善したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域文明論G(アフリカ)
授業コード 70219-001
教員名 坂井 信三
教員コード 034264
登録人数 51
回答数 27
回答率 52.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

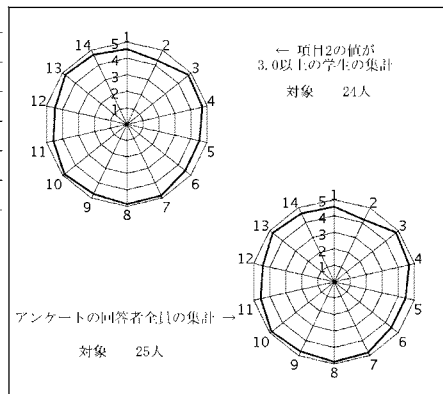


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期の地域文明論Gの受講者は例年（80人程度）と比べて少なく、50人程度だった。しかしアンケートの結果を見ると、設問1（受講前に興味をもっていたか）の数値が4.22と高く、満足度も高かった（4.52）ことが注目される。その他の設問に対する評価も、例年と同程度かそれ以上に高く、受講者の関心が高かったことがうかがえる。ただし、アンケートの回答者数は27人で、受講者のほぼ半数にとどまっていることも気にかかる点である。一方、残念だったことは、途中から出席者が半数近くまで減ってしまったことである。その原因は、1. 出席を取らなかったこと、2. 持ち込み自由のテスト形式について比較的早くからアナウンスしたことにあったかと考える。実際、そのアナウンスのあとから、出席者が減ったという印象が強い。それでも、20人程度の受講者は一貫して興味をもって授業に集中している様子が見えかけた。この数字は、授業評価のアンケートの回答数（27）とほぼ一致している。つまり、はじめからアフリカに関心をもっていた学生は、一貫して興味を持続し、かつ、授業に対する満足度も高かったが、そうでない学生は授業に出席せずアンケートにも回答していないということなのだろう。もともとアフリカに関心が薄く、選択必修の単位を満たすために登録してきただけの学生に、知的興味を抱かせ、さらには受講の後もアフリカへの関心をもたせる授業をどのように行なうのか、もっと工夫が必要だろう。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・文化における人間の尊厳4
授業コード 10D07-004
教員名 坂中 正義
教員コード 102720
登録人数 28
回答数 25
回答率 89.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の通りであった。

- ・ ロジャーズを中心とした人間性心理学の基礎的事項を理解している。
- ・ パーソンセンタードな姿勢や発想で自分や他者と関わることができる。
- ・ 自己理解を深める。

この目標実現するため、以下の取り組みを中心に授業を展開した。

- ・ 理論学習と体験学習を有機的に組み合わせた。
- ・ 傾聴を軸とした実習を多く取り入れた。
- ・ 毎回、振り返りシートを用いて自己理解を促した。

授業時の感想やレポート、定期試験、授業評価アンケートによる到達目標達成度4.48等を勘案すると到達目標について各学生なりの形で手応えを感じていることが伺えた。

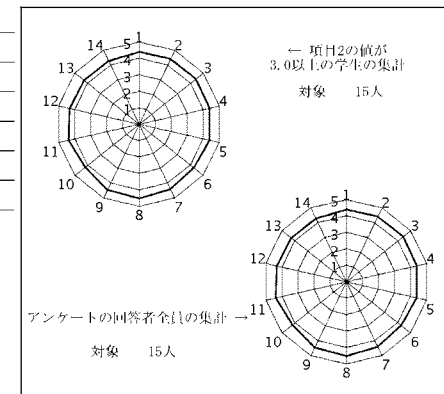
授業割評価アンケートの項目の全ての項目が4以上を示した。他の授業との比較においても概ね平均を上回り、総合的にみて良好であった。

これは、ワークや話し合いを取り入れた授業が学生の興味や関心を引き出したことなどが影響しているよう。こういった要因が授業への総合的な満足度に繋がっていると考えられる。

よって、今後もこの水準で授業が維持できるよう努力するとともに、到達目標に貢献するような新たな試みも試行錯誤していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育の方法・技術論1
授業コード 15A09-001
教員名 池田 満
教員コード 103141
登録人数 27
回答数 15
回答率 55.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

目標は達成できたものと思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

数値データについては、全項目について全学平均を上回っており、受講生にとっても満足できるものであったと思われる。

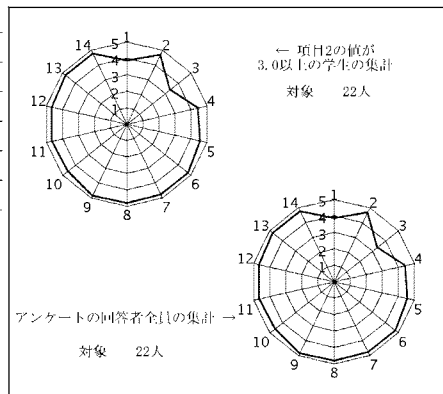
自由記述については、「カーペットがどのぐらい清掃されているのか不安だった。」という記述のみであり、これは教員から回答するべきことではないと思われる。授業環境について質問項目を設けているのであるから、しかるべき部署もこの回答を確認しており、しかるべき対応をするものと信じている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

引き続き、同様の授業運営を行っていく。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育の方法・技術論4
授業コード	15A09-004
教員名	解良 優基
教員コード	103910
登録人数	32
回答数	22
回答率	68.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本授業の到達目標は、以下の3点であった。

1. 「教育の方法と技術」を学ぶことの意義と必要性について理解する
2. 教育心理学の理論をもとに教育の方法と技術を捉える視点を身につける
3. 学習内容を踏まえ、児童・生徒の主体的な学びを支援するための適切な具体案を提案することができる

これらについて、1. については初回授業で説明したほか、最終授業で改めて詳細な解説を行った。また、2. と3. については、毎回の授業内で行うワークを通して学生は継続的に学習していた。これらを通し、理解確認テストや毎週の授業後に課す予習・復習課題への学生の回答を読む限りでは、多くの学生にとって概ね達成されていたと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

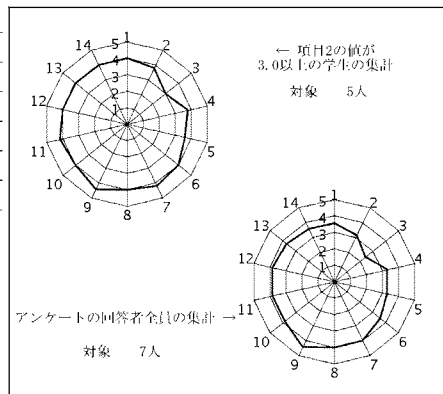
数値データについては、設問1と3を除く項目では概ね高い評価であった。毎週授業外の予習・復習課題が課されるという点でやや負荷の高い授業であったと思われるが、自由記述でも肯定的なコメントが得られたことから、学生は課題や教員の授業作りの意図を理解してくれていたと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

本授業は縦置き授業であったが、特に1限目の時間が伸びてしまって2限目で調整するということが何度かあった。項目3の点数が低いことは、この点を反映していると推測できる。授業の構成や時間管理を見直すことが今後の課題である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	パラダイム論
授業コード	20A09-001
教員名	アッセマ 庸代
教員コード	055491
登録人数	57
回答数	7
回答率	12.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

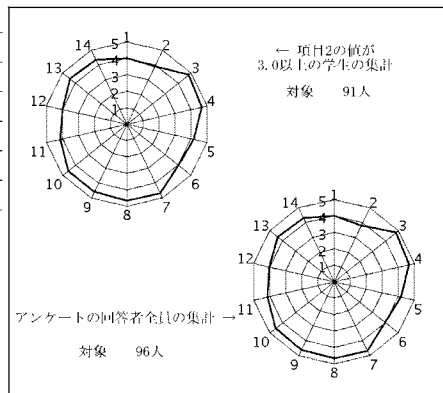
レポート提出時の学生自身の感想と自己評価も踏まえる。①授業の目標は達成されたと自負する。

②受講生の学年が高いこともあって、授業動機や意欲が、「学問」「研究」に理解を示す学生が多かったため、久しぶりに反応や主体性を実感し合える授業展開が可能と成った。学生との交流も生まれやすかった。学習内容は難しいので、評価が4から3であれば、おおむね学生の受容度の高い授業であったと評したい。当世は、板書をスマホ等で記録する学生が以前よりある。また、担当者の為に記録や、ワーク型の授業の協力も学生から生まれていて、大変ありがたかった。

③今後も、学問や科学（者）の歴史及び個人史における考え型を自覚し、尊重し合いつつ、信念を持った日本の大学人で居合う場づくりを心がける。感謝と祈りのうちに。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 青少年問題論
 授業コード 20A12-001
 教員名 林 雅代
 教員コード 018796
 登録人数 148
 回答数 96
 回答率 64.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

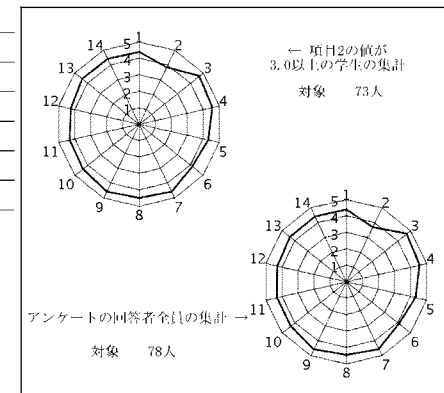


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今学期は、民法改正、オウム事件死刑執行など、授業に関連する話題に恵まれこともあり、そういった話題を適宜取り入れながら授業を進めることができた。ほぼ定員一杯の受講生で、教室もほとんど余裕がなかったが、暑い時期にも関わらず受講生が熱心に取り組んでくれたように思う。授業の全体的満足度4.31という評価を得ることができ、手応えを感じている。また、授業で見せたビデオに対する受講生のコメントも非常に深く考えられたものが多いと感じていたが、項目6の教材の使用に関する評価も4.60と高かった。自由記述を見ると、ビデオについての好意的なコメントがあった他、毎回の授業で前回の復習が入る点も評価されていたようである。改善すべき点としては、自主的な学習を促す指導や、質問などの機会の提供である。小レポートをもう少し効果的に使えるように思う。また、時事的な話題を提供するだけでなく、自主的な学習行動につながるような働きかけが何か盛り込めると良いのではないかと考えた。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 子ども・学校論
 授業コード 20A13-001
 教員名 高橋 亜希子
 教員コード 103582
 登録人数 139
 回答数 78
 回答率 56.1%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

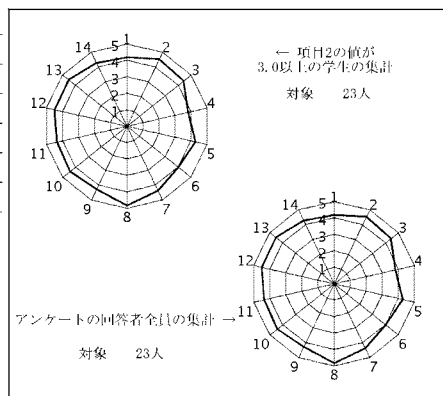


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの協力が難うございました。授業の環境は比較的落ち着いていて、授業で取り上げた題材についても関心を持って考えてくれた学生が多かったように思います。アンケートの意見としては、①視聴覚教材がよかった②ワークでのグループがマンネリになってしまうところがあるので席替えなどして時折グループを変えてほしい、が主でした。②については、来年度は一度席替えを入れようと思っています。大教室の授業ですが、みなさんも経験してきた教育に関するトピックを扱っているので、互いに話し合う機会を多く取りたいと常に思っています。ただ、後半の授業の学力に関する部分は、全国学力調査、PISAテスト、高大接続改革など状況の変化を詳しく伝えないといけないところがあり、紹介するのに精いっぱいグループで話す機会が十分に取れなかったと捉えています。来年度は後半の進行をもう少し整理したいと思っています。他に、スケジュールの都合で一度休講と補講があったのですが、来年度はこのあたりの運営をもう少しスムーズにしたいと思っています。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理調査法
授業コード 23327-001
教員名 浦上 昌則
教員コード 018788
登録人数 30
回答数 23
回答率 76.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

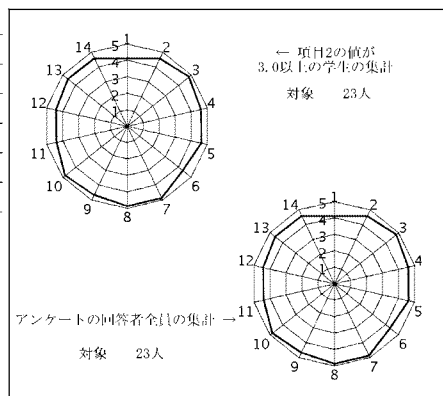
この授業では、質問紙調査法に関して、問題設定から、質問紙作成、実施、分析、まとめまでの一連の作業をグループで行う。また、質問紙調査法についての理解を深め、それを使った研究計画を立案できるようになる。適切な質問紙を作成できるようになる。Rを用いてデータを適切に分析できるようになる、といった諸点を目標とした。なおこの授業はセメスター制で行われた。

授業評価の回答は、概ね平均値が4以上であり、まずまずの評価を得られたと考える。講義と演習とをミックスにした内容であり、自主的な取り組みはもちろん、課題の量もかなり多い授業といえる。そのため「調査の仕方や論文の書き方などが学べた」といった意見が見られる一方、「課題が大変すぎて、授業時間外でグループで集まるのが何度もあり、他の授業や課外活動へ支障が出てしまい、辛かった。」という声もあった。担当者としては、目的に対する力が付いてきている感じはするが、それでも時間が不足している感は否めない。また大変であることはオリエンテーション時から伝えていたことであるが、実感を伴った理解をもって受講を決めることは難しいのかもしれない。

なおセメスター制で実施するのは今回が最後であり、来年度からは2単位と1単位の2科目に分割される。時間数的には1.5倍になるが、受講生の動きがどのように変化するかは注意したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-002
教員名 川浦 佐知子
教員コード 055855
登録人数 25
回答数 23
回答率 92.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

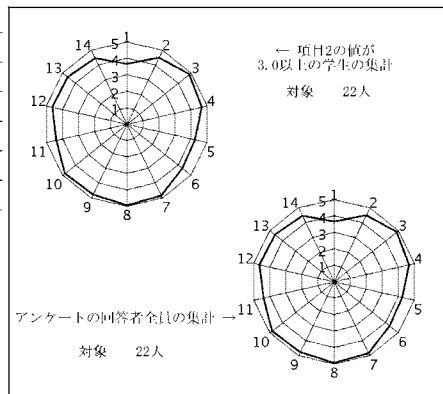
この授業は、心理学や教育学など人間科学の諸領域を学ぶための基礎力を習得することを目的としている。今年度は教育学、心理学、人間関係論に関わる論文を扱った。学生は各自論文を読み込んだ後、グループで発表のためのレジメを作成し、要約と批評のプレゼンテーションを行った。

学生は大学4年間の学習の基礎力を養う授業であるという認識をもって受講していたため授業内容への興味・関心は比較的高かった（項目1平均値4.13）。授業参加態度に関わる項目2の平均値は4.57であり、授業にも比較的積極的に取り組んでいたことが窺える。自由記述欄には「グループで論文講読に取り組んだことが良かった」というコメントがあり、疑問点を分かち合いながらの論文講読が、積極的参加を促したと考えられる。授業進度に関わる項目4についての回答は平均値4.61であったが、授業時間だけでは発表のための準備時間が足りなかった。学生たちは自主的に授業時間外の時間に集まり、グループごとに作業を進めていた。一方、自主的な学習の促進に関する項目11の平均値は4.39であり、論文講読に必要な知識（統計など）についての講義を含めるなど、改善の余地があると考えられる。

1年生の学科必修科目であるため、大学で求められる学習の在り方について概説しつつ、この授業がそれにどのように関係するのかについて、機会を伺いつつ何度か説明をした。関連する項目5の平均値4.65から、授業の到達目標はよく理解されていたと考えられる。その一方、授業到達目標に向けて力がついていないと感じているか、という問い（項目6）に関しては、平均値4.35という結果となっている。学生が授業で修得した力を実感する機会をどのように設けるか、という問題は、この後に続く学科基礎演習科目との連携のなかで考える必要がある。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-004
教員名 藤田 知加子
教員コード 100382
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

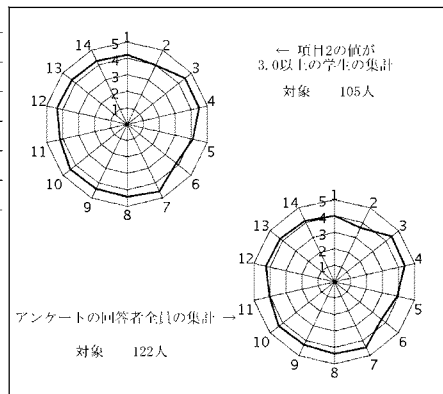
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
今後の大学での学びの基礎となる、「文献を読み解く」とはどういうことか、「要約するとは具体的にどのような作業をすることなのか」、「発表の資料はどのように作成するのか」ということについて、入門としては十分な到達を見せたと思う。これらの課題は、2か月程度で達成されるような簡単なものではないので、本講義での学びをもとに今後各自で十全に取り組むことを希望する。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
演習科目であるので、全体的に評価は高めであるが、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す」項目部分の平均点が質問内で相対的に低かったので、さらなる工夫が必要かと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
使用した論文の難易度に差があるのでは、という記述があったが、複数の教員で検討して論文を採用している。簡単に見える論文は、単に使用されている用語が日常使用しているものに近いものであったり、統計的分析が多くないものであったりしているだけで、内容理解には実はその領域や現代社会に対する深い洞察が必要なものである。その辺りが理解できていないための記述だと考えると、授業内での解説が十分ではなかったせいだと思われるので、今後対応を工夫したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学B
授業コード 12A04-001
教員名 辻本 裕成
教員コード 019042
登録人数 237
回答数 122
回答率 51.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

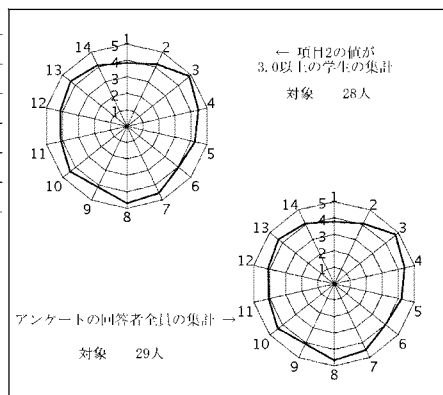
シラバスに掲げた到達目標は以下の通りであった。

- 1 古典文学を専攻する予定の学生については、古典文学研究の諸問題に関する入門的な知見を得ている。
- 2 古典文学を専門に学ぶ予定のない学生については、教養、趣味としての古典文学の面白さに気付いている。
- 3 人間の想像力の豊かさ、面白さに気付いている。
- 4 古典和歌の豊かな表現性や、歌人達の数奇な人生に興味を持っている。
- 5 文学作品の享受を通じて、時代による思考様式の移り変わりに気付いている。

このうち、2, 3, 4について、こちらの狙いに相応した自由記述の回答があったことは嬉しい。スキル科目ではないので、到達目標をどのように伝え、理解させるかは難しいが、授業をよく聴いてくれた学生には、ある程度こちらの意図は通じているものと思われる。共通教育の大規模講義なので、自主的な学習をどのようにさせるのかは大変難しく、今後の課題である。「担当教員の姿勢・熱意」についての項目の評価が大変高かったことに安堵している。配付資料の見やすさについて改善を求める声があったので、今後少しずつ改善していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは3
授業コード 13E02-003
教員名 榎山 洋介
教員コード 041806
登録人数 46
回答数 29
回答率 63.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

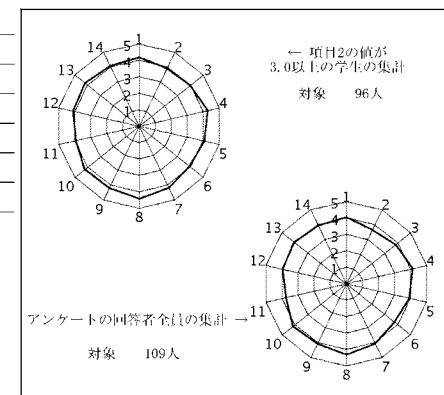


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「質問・コメントシート」（毎時間提出）、「筆記テスト」（1回）、「レポート」（1回）から総合的に判断して、この授業が目標とする水準に十分に達した受講者が約50%、授業の内容をある程度身に付けた受講者が約30%、不十分ながら授業から何かを身に付けた受講者が約20%であった。また、「学生による授業評価」の記述には、「講義内容が身近なものでとても面白かった」「事実、考察、結論の流れがはっきりしていた」「生徒の意見に対して様々な体験談などを交えて回答していて、面白い話がたくさん聞けた」等であった。今後も、日本語等の興味を持てる例を通して、言語学の基本的な考え方が学べるよう工夫していきたい。一方、「メトニミーやメタファーについて具体例が少ないと感じた」という記述があった。具体例の質および量についてさらに吟味して提示するようにしたい。さらに、「敬語について詳しく知りたかったのでそこを中心に話してほしい」という意見もあった。今後、敬語について意識の高い学生（特に、上級生）が多い場合、より詳しく取り上げる等、柔軟に対応するようにしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報4
授業コード 13E05-004
教員名 坂井 博美
教員コード 102981
登録人数 298
回答数 109
回答率 36.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

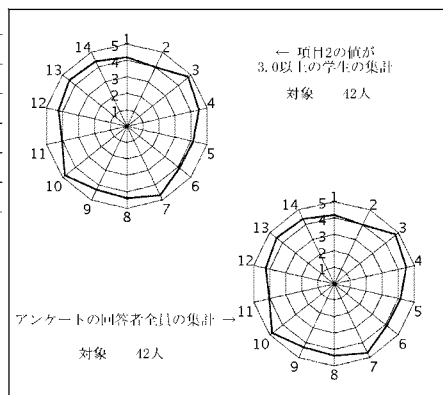


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた到達目標については、おおむね達成されたと考える。しかし、全体的に昨年度と同科目の受講生アンケートの結果よりも、各設問の平均値は全体的に下がった。その理由のひとつには今年度は特に受講者数が多く、かなり大きな教室での授業となったことがあると考えられ、これによりレジメの配布等に時間がかかり、また様々なフォローが行き届かなかったのだと思われる。空調の効きもよくなり集中できなかったとの声も聞かれた。パワーポイントのフォントも大きくしたつもりであったが、小さくて見にくかったとの意見があり、今後改善していきたい。リアクションペーパーで提出された受講者の意見や疑問について授業内で紹介しながら講義したことについては、周囲の考えが聞けて知識が深まったとの記述もあり、この点については基本的に今後も続けていく予定であるが、リアクションペーパーでの提出のみでなく授業内での討論等、受講生のモチベーションを上げる有効な方法を考えていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の多様性
 授業コード 20A10-001
 教員名 丸山 徹
 教員コード 015917
 登録人数 70
 回答数 42
 回答率 60.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

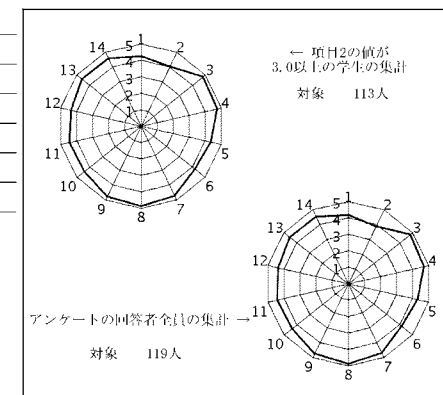


授業評価結果を踏まえた点検・評価

空間軸、時間軸の中で日本語に多様な相を認めつつ、一方でそこにいかに「ゆるやかな統一」を認めることができるかを、比較言語学と言語類型論の観点から考察した。「日本語諸方言に関する考察を通し日本語の空間的（地域的）多様性を理解」「日本語諸方言の比較・対照を通し比較言語学・言語類型論の基本を理解」という到達目標はほぼ達成したと思う。設問1～14の平均値が人文学部共通科目平均値4.33 より少し高い4.36、設問3～14の平均値が（同じく4.39 より少し高い）4.41であった。私に与えられている能力を考えるなら満足すべき値であろう。コメントも次のように肯定的なものが多かった。「例を出して説明して下さるところが、とても良かったです。リアペはむずかしかったけど、深く考えられたし先生が丁寧に意見を拾ってくれるのでよかったです。定期的に復習・まとめをしてくれたこと。毎回リアクションペーパーがあって自分で考える時間があること。はじめから正解が明かされないところが面白かった。方言の違いについて知ることができた。難しい内容でも理解しやすいように授業をしてもらえた。」ただ必ず毎年出る否定的コメントに「専門的な部分が多くて理解するのが難しかった」というのがある。反省点ではあるが（今年度で退職のため我が生涯最後の「日本語の多様性」となり）「今後」はなく「今後の抱負、方針」など記すことはできない。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文学入門
 授業コード 24C01-001
 教員名 濱田 琢司
 教員コード 101870
 登録人数 170
 回答数 119
 回答率 70.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



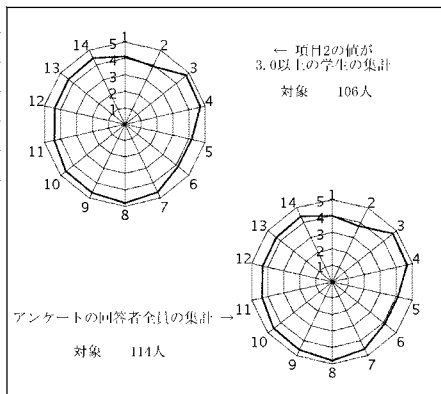
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、日本文化学科で1年次から履修できる専門科目の一つであるとともに、学部共通科目B群としても設定されているものであるため、1年次生を中心に比較的多くの受講者がある科目である。そのため、双方向的なやりとりは限定的にならざるをえず、基本的には、一方的な講義形式となっている。そのために、webclassを活用したアンケートや映像、動画の積極的な使用などによって、学生の関心を惹くための対応を実践してみた。自由記述である質問15)において、部分的ではあるが、そうした取り組みについて肯定的な評価が複数あったので、一定の意味があったかと感じている。また、全体的な評価となる設問13)、同14)が、それぞれ、4.56、4.51となっていることから、全体としては講義としての目的を達成できているのではないかと思う。

対して、各自の到達目標に関する設問6)は、4.14と必ずしも高い数値ではなかった。履修者自身が自らの到達具合と評価する設問であるため、低くなりがちではあるだろうが、こうした点についても、webclassなどを活用しつつ、到達度合いをよりわかり易く示すことができるような仕組みを準備すると良いのかもしれない。今後の課題としたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本思想史
授業コード 24C24-001
教員名 森田 貴之
教員コード 102286
登録人数 186
回答数 114
回答率 61.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



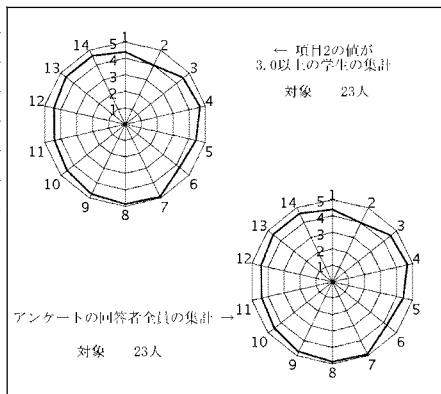
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1～18の総平均が4.38、4～18の平均が4.46であった。いずれの数値も全体の平均値を上回っていた。また設問14の満足度も4.40であり、当初の講義目標は主旨達成されたと考えている。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであると同時に人文学部共通科目B群にも指定されており、知識レベルや関心度に差のある受講生があつまっていた。また、対象とした中世という時代も比較的馴染のうすい時代であったほか、かなり踏み込んだ専門的な内容も扱った。一方で、日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。

自由記述欄の回答にも好意的なものが多かった。次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収率が114/186であり、授業時間においてきちんと回答時間を設けたがそれでも回答率は向上しなかった。今後の課題である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代文学研究
授業コード 24C35-001
教員名 岸川 俊太郎
教員コード 103907
登録人数 40
回答数 23
回答率 57.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2018年度Q2の開講科目「近現代文学研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

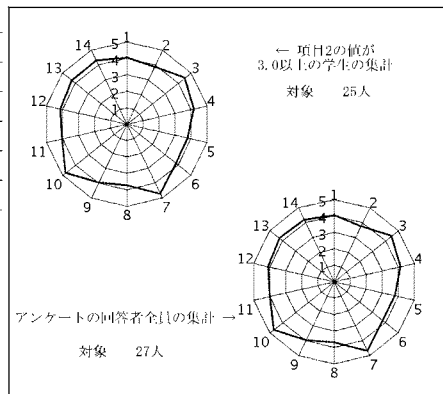
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問4、設問5でそれぞれ、4.70、4.43という高い評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データを踏まえての総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、全ての設問項目で日本文化学科の箇所別平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、ともに4.61という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてであるが、「学生による授業評価」の自由記述欄に、授業の最後に配布するリアクションペーパーの記述時間が短かったというコメントが寄せられたことを踏まえ、次クォーター以降の授業でリアクションペーパーを書いてもらう場合は、適切な記述時間を設けたい。また、その際は、リアクションペーパーの記述時間が授業時間を越えないように配慮したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国古典研究
授業コード 24C41-001
教員名 西岡 淳
教員コード 019315
登録人数 44
回答数 27
回答率 61.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

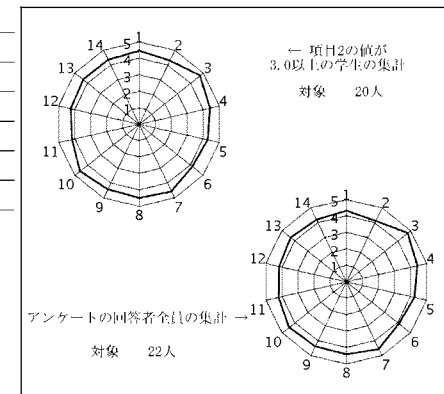


授業評価結果を踏まえた点検・評価

中国の古典詩に関する講義形式の授業で、近体詩の成立および中唐から晩唐までを講じた。授業の目標は、中国古典詩の形式について音韻的な側面も含めて理解できること、時代背景を知り、その上で個々の詩人たちについて知識を得ていることなど。成績評価は、記述問題と読解問題を内容とする定期試験によった。答案には受講者個々の意見がよく述べられ、読解の出来もまずまずで、授業目標はほぼ達成されたと考える。評価項目の平均値は4.11（除1・2：4.15）であった。評価項目の中では、設問8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」が平均値3.70と最も低い。これに関連する自由記述に、「進度が速い」「読みとりにくい板書があった」等の回答があり、注意したい。また設問5・6（到達目標への理解・および能力の獲得）が、いずれも平均値3.78と比較的低いのは些か意外であった。講義形式を取ったために受講者に自覚がないのかもしれないが、授業での資料読解を通して受講者が確かに能力を獲得していることは、試験結果からも明らかである。評価された点としては、「いろんな漢文を読むことで作者別に作風を学ぶことができた」「色々な情報を補足してくれるので興味がわく」等の記述があった。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教授法
授業コード 24C58-001
教員名 鹿島 央
教員コード 044164
登録人数 52
回答数 22
回答率 42.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

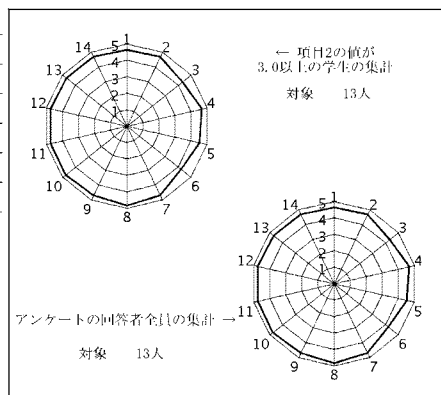


授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本語を教えることには知識と運用力が必要であるが、知識の面についてはある程度受講者には理解してもらえたと思うが、実際の運用力を養成できるところまでは難しかった。グループ活動では、初級の教科書をそれぞれのグループで分析し、発表してもらったが、この分析に基づいて日本語を実際に教えるという段階までいければ、より興味深い経験になったのでは考える。これには、受講生の人数、教室環境などが問題となる。今後の見通しとしては、日本語教員養成プログラムの一環として、この授業と実習の場を連携させ、即戦力となるような人材を育成することを目指していければと考えている。アンケート結果については、回答数が21と半分以下であったこと、自由記述が少ないことがあるが、回答方式に何か改善の余地があるのではないかと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[J]
19
授業コード 11A10-045
教員名 伊藤 聡子
教員コード 102445
登録人数 22
回答数 13
回答率 59.1%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度

この授業はreadingとspeakingの週2回の授業を通じて総合的な英語力を身につけることを目標としている。授業評価結果ではこの到達目標の理解度(5)および満足度(14)が平均より0.5ポイント程度高く、目標についてはほぼ達成できていると思われる。

②自己点検・評価

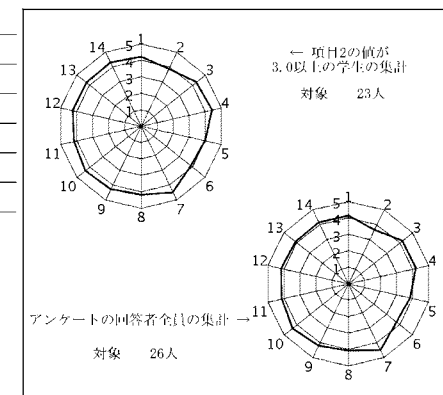
記述式回答に段階的に課題の難度が上がっていったことを評価するコメントがあったが、授業の難度についてはreadingは比較的得意なもののspeakingに苦手意識を持つ学生に合わせ、readingは自主作成教材を追加しつつ進度を上げ、speakingは難度を個別の場合は抑え目に、グループ活動ではやや高めにする、という形で調整した。また可能な限り個別のフィードバックの機会も確保した。授業評価結果で(2)主体的な取り組み、(11)学習意欲、(12)質問の機会がいずれの平均よりも高く評価されており、中でも(11)学習意欲が特に高く評価されているのはこの調整が上手くいったためだと思われる。

③改善点と今後の方針

力がついてきた実感についての項目(6)が、いずれの平均値も上回っているものの、全14項目の中では最も低い評価となっている。学習意欲との相互作用もあるため、次学期以降ではこの点が改善されるよう努力したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 南北アメリカとの出会い1
授業コード 13B05-001
教員名 上村 直樹
教員コード 102463
登録人数 80
回答数 26
回答率 32.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

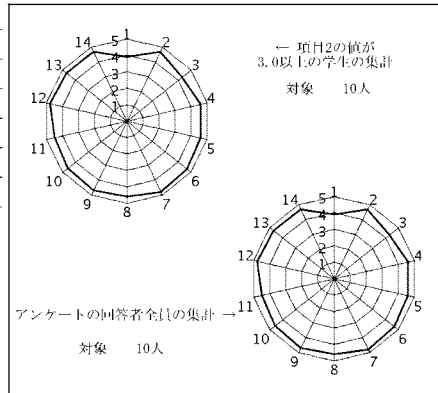


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず本講義の開講に際して設定した到達目標は、① 南北アメリカ社会の多様性を理解している、② 米州関係の歴史的展開を理解している、③ 南北アメリカにおける異文化間の交流・摩擦・共存の歩みを理解している、の3点であった。講義担当者としては、この目標達成のために必要と考える講義内容が15回の授業を通じて受講生にほぼ提供できたと考えており、また講義の際の質疑応答や最終試験の結果などからも目標の到達度は、比較的高いのではないかと考えていた。しかし、数値データからは、講義目標に関する設問5と6はそれぞれ3.88と3.77という結果で、設問2の予習・復習に関する項目(3.65)を除いて唯一3点台になっており、予想外に低い結果であった。講義の際には授業全体のテーマやその日のテーマについては繰り返し触れているが、到達目標自体に関する説明もしっかり行う必要があると思われる。次回の講義からは、最初や最後の講義の際に目標自体についてしっかり説明するとともに、通常の講義の際にも折に触れて到達目標との関連で授業内容について説明するように努めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 作家作品研究(アメリカ文学)B<国際
科目群>
授業コード 31283-901
教員名 TEE, Ve-Yin
教員コード 101626
登録人数 39
回答数 10
回答率 25.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

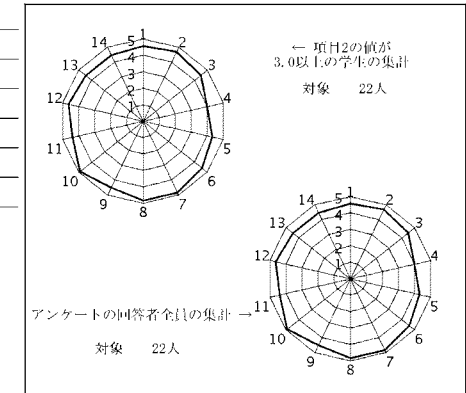


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is essentially a course to engage with environmental issues through the writings of American ecologists and contemporary novelists. I have also designed the course with CLIL (Content and Language Integrated Learning) objectives in mind. Having taken into careful consideration the comments of students over several years now, I strongly believe the course right now is the best it can be. This is strongly supported by the high level of student satisfaction. My only concern is the number of students that take this course, which has been steadily growing. I originally designed this course for 25 students, and the way I teach will have to be changed if more than 50 students register.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A III
授業コード 31A02-001
教員名 TOLAND, Sean
教員コード 103616
登録人数 22
回答数 22
回答率 100.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

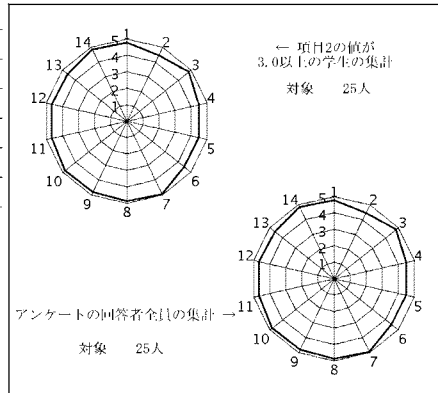


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the Academic English A course were achieved this quarter. The students worked hard and appeared to enjoy the collaborative assignments, especially the digital storytelling project. Each of the teams produced an impressive digital video and the final products were shared during an in-class 'film festival'. One of the items that emerged from the online evaluations is that a few of the learners felt that they had to do too much homework before each lesson. This valid concern was brought to the attention of the course coordinator and it is something that the team will address during the next reflective and revision cycle. Having said that, I believe that the 'flipped classroom' strategy (i.e., accessing digital content outside the lesson) fostered the students' autonomous learning, critical thinking, and information literacy skills. During the next quarter, our class will spend more time on the various stages of the writing process (e.g., editing) to improve the overall quality of the students' research papers.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A II2
 授業コード 31A02-002
 教員名 SAKAMOTO, Fern
 教員コード 103615
 登録人数 27
 回答数 25
 回答率 92.6%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

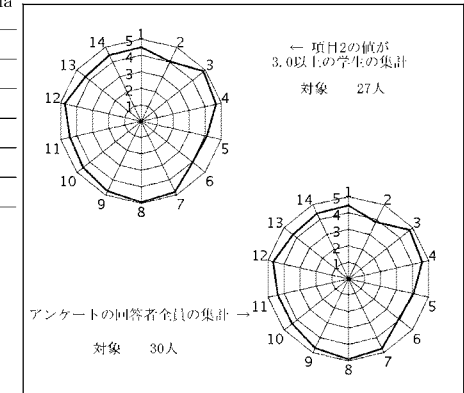


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, this course aimed to improve students' communicative abilities and equip them with academic skills necessary for future study in English. This quarter, I made an effort to help students understand the goals of the course and they seemed to have a better understanding of this than last quarter. All students expressed a high degree of satisfaction with the instruction and teaching materials. The quarter system necessarily limits the amount of out-of-time class that students have to work on assignments, and 4 students commented on this. However, overall satisfaction with the course was very high (average 4.84) and several students specifically commented that the challenging nature of the course really helped them to improve their general language, presentation, teamwork, communication, and writing skills. Students also expressed satisfaction with the opportunities to work in groups in this class. The lowest overall score was allocated to question 2, where students indicate their own degree of preparation and effort. I am glad to see that they are aware of the need to apply themselves even more. I am very happy with the first quarter course.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: International Studies A
 授業コード 31B04-001
 教員名 鈴木 達也
 教員コード 017871
 登録人数 46
 回答数 30
 回答率 65.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

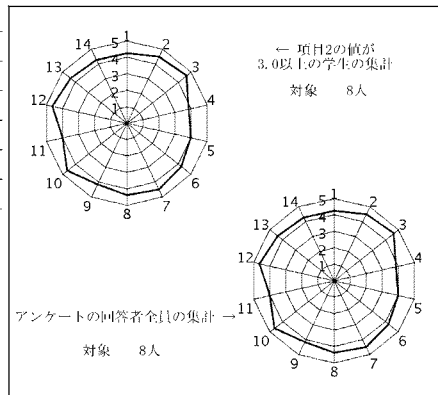


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、1. Understanding basic concepts relevant to international studies. 2. Understanding current issues in international studies. というものであった。到達目標に向けて力がついてきているかどうかについての学生自身の評価は、3.93となっているが、自由記述欄のコメントを読む限り、実際の到達の程度はもう少し上であると考えている。今学期初めて教える授業ということで、適宜微修正を加えつつの授業運営であったが、新しい知識を得たり、理解が深まったかについては4.30、全体の満足度としては4.40の評価を得ており、まずまずの出来であったと考えている。自由記述欄のコメントでは、授業中に使用した視聴覚教材に対する満足度が高く、それに関連する設問9の評価が4.67であることは、それを裏付けている。反省点としては、この授業の到達目標を理解することができたかを問う設問5の評価が4.07にとどまっている点がある。シラバスを提示したりして理解してもらえるよう努めたが、不十分であったと言える。さらに工夫を施し、4点台半ばの評価を目指したい。授業の性格上、英語で授業を行い、学生同士のディスカッションも英語で行ったが、非常に好評であった。今後も英語による授業を継続していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

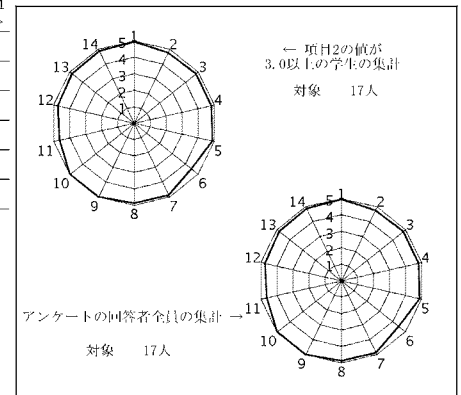
科目名	Special Topics in English: Language D<国際科目群>
授業コード	31C14-901
教員名	村杉 恵子
教員コード	019034
登録人数	23
回答数	8
回答率	34.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies A<国際科目群>
授業コード	31C16-901
教員名	今井 達也
教員コード	102469
登録人数	25
回答数	17
回答率	68.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：
英語を用いて行われる講義を聞き、学生がそれぞれ興味をもった内容について、自身でResearch Questionをたて、記述データを整理し、パラダイムを作り、分析を加え、結論を導き出し、パワーポイントを用いて英語で発表できるようになることを目標とした。最終日の発表と提出されたレポートから判断する限り、内容的にはその目標はほぼ到達できている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：
今回の授業評価について比較的低い結果を得たのは項目3と項目4である。最終日に発表会を行ったが16時間目に突入してしまったことについて、記述のコメントにも指摘があった。個々の発表のために設定した持ち時間を大幅に上まわる学生が少なくなく、準備を万全にしてきた学生にとっては不満を感じる最終日の授業運営となったと思われる。一方、従来に比して高い結果となったのは項目2である。学生が主体的に授業に参加し、内容を理解しようとしたというもので、発表に向けて準備を重ねたことがこのような数値としてあらわれたと考えられる。また、授業後の昼休みも質問に答えるなどして対応したことは設問12への比較的高い数値につながっていると思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：
この授業の本来の目的に鑑み、学生の発表準備を促し、研究結果を披露する発表会に十分な時間を設定することが必要である。したがって、今後も、学生の相談の時間を多くとりつつ、発表会をより早い段階で行うように授業運営をしていきたい。また与えられた時間内で発表することの重要性についても学生に伝えていきたい。

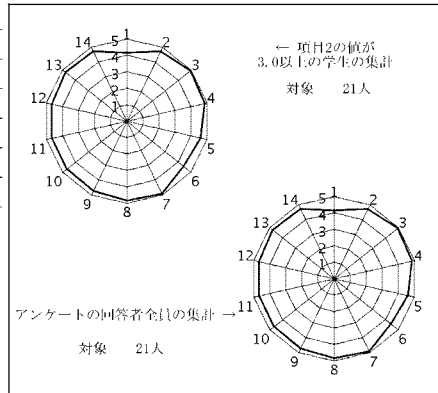
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業の一つの目標は、学生が偏見の内容について英語でディスカッションができるようになることである。授業では毎回学生がグループディスカッションを行い、あまり発言に偏りがでないように工夫していたので、ある程度学生は英語でやりとりができていたと思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
数値データは過去の授業の中でも高いものであった。自由記述を見ると、ほぼポジティブな内容であり、上記授業目標はある程度達成されたと感じた。内容としてはディスカッションが有意義であった、ということであった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業の内容について、もう少しSophisticateする必要があるように感じた。個々の偏見の事象を扱うだけでなく、その事象に一貫した理論やメカニズムについて、来季は触れていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B<国際科目群>
 授業コード 31C17-901
 教員名 DORMAN, Benjamin
 教員コード 100695
 登録人数 25
 回答数 21
 回答率 84.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

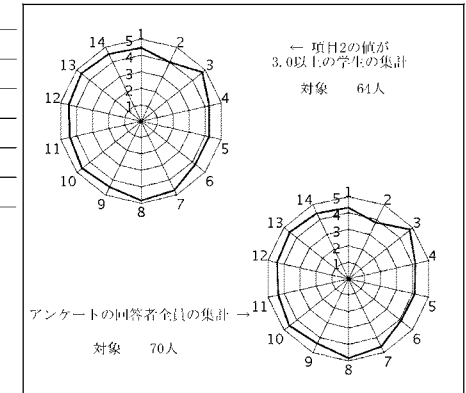


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course focused on aspects of Australian identity from a variety of different perspectives, including issues relating to language, literature, Australians' experiences in wartime, relations between Australia and the US, indigenous Australians, and Australia in the post-1945 period with respect to immigration. The course included three films — "Gallipoli," "Rabbit-Proof Fence," and "The Dish" — and the class viewed some episodes from two television series' — "The Sounds of Aus" and "The Making of Modern Australia." While these were well received by the class, students found some material difficult due to the lack of subtitles. Next time, I will reduce non-subtitled audio-visual material. In each class, students had the opportunity to write their ideas on the topic discussed. While this was effective in learning the students' ideas, one drawback was that it reduced the amount of time available for group discussion. Overall, the course ran smoothly throughout the quarter. The students were, in general, highly motivated to learn and the attendance rate was high. Future adjustments: (1) Less audio-visual material with no subtitles; (2) more time devoted to group discussion.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史研究の基礎 (アメリカ)
 授業コード 31D09-001
 教員名 川島 正樹
 教員コード 048116
 登録人数 81
 回答数 70
 回答率 86.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

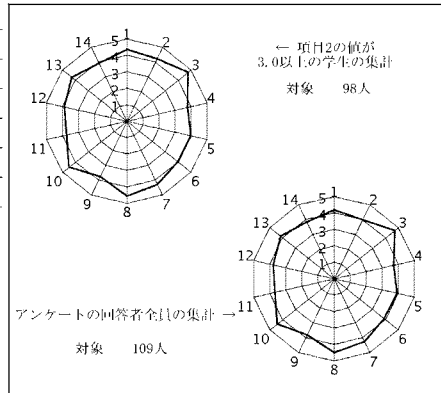


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：項目の5（到達目標の理解度：4.14）と6（到達目標の達成度：4.09）ではなお改善の余地がある数値となっている。
 ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：昨年度の同じ授業の評価と比べると、総合的な評価は上昇した（1～14の平均：3.89⇒4.39、3～14の平均：3.89⇒4.45）。この理由の第一は、本授業の受講資格を本年度より「Q1の『人権をめぐって 2』を受講済みの者」に限定した点にある。第二の理由は、途中（第3週の第5回目授業）から授業の最後の10分を利用して毎回の出席確認と復習を兼ねてWebClassでの小テスト（3択×3問）を導入したことである。
 ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：個別の改善要求の欄にも「時間配分」への不満（終わりごろに駆け足になる傾向など）が見られるなど、改善の余地はある。その一方で「よかった点」の記述者は30名に及び、その内容も大変に励みになるものが多かった。歴史研究の「科学性」と「解釈の余地」の矛盾した関係に関する理解について一つ例を挙げる。「事実を深く学ぶことを無しに様々な出来事に対して良し悪しは語れないということを学べた。充実した授業だった。」改善しながらこのままの姿勢を堅持したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アメリカの社会
授業コード	31E02-001
教員名	大井 由紀
教員コード	101888
登録人数	237
回答数	109
回答率	46.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

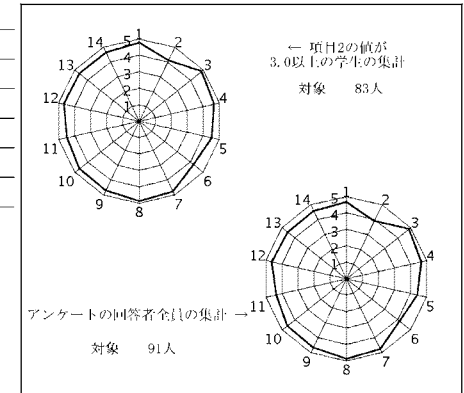
・目標と到達については、レジュメに記載したセッションを全部終わることができました。しかし、最後のセッションが時間ぎりぎりになってしまったため、全体のバランス・時間配分を再考したいと思います。また、予習・復習を促す工夫も不足していたと思います。

・総合的な自己点検・評価については、約250人の授業というのは学生さんの側にとっても教員にとっても望ましい環境といえないと思いました。理解度の把握・相互理解など難しく、参加者の方にも申し訳なかったと思います。本授業はこれまでこれほどの人数が受講したことはなく、毎年多くても50人以下でした。増加原因は、2年生も履修可になったこと、学科科目から学部共通科目に変更になったこと、国際教養学部も履修できるようになったことが挙げられると思います。しかしこういった変更は担当教員に一切連絡がありません。そのため、シラバス作成時に予定していたアクティブラーニングを実施できませんでした。また授業形式変更に伴い進捗を読めないこともありました。今後は、受講人数制限をしたいと思います。いただいたコメントに関してはいい点・批判を真摯に受け止め、参加者の理解度がより高まる授業にしていきたいと思っています。

・大学側への要望：火曜日に2回授業をしている場合、15回目が不足しているため、1回分を授業を別の日入れてくださいと言われましたが、このようなイレギュラー対応をしなくても済むよう、学年暦を組んでください。また、正規の授業にもかかわらず補講として案内するのも改善していただきたく思います。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化コミュニケーション
授業コード	31E11-001
教員名	花木 亨
教員コード	101269
登録人数	209
回答数	91
回答率	43.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、日常生活の中で自分が経験している異文化コミュニケーション現象を自覚できるようになること、自分が経験した異文化コミュニケーション現象を分析できるようになること、異文化コミュニケーションについての知的関心と思考を深めることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

項目3から14の平均値は4.60だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.24と英米学科科目の平均値4.43とともに上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるよう努力したい。

自由記述欄について、「考えたことを意見交換する時間が十分に設けられていた」、「リアクションペーパーを紹介して下さるのが面白かった。そこで前回わからなかったところをもう一度説明してもらえたりしたので理解が深まった」、「授業のはじめに生徒のコメントを取り上げてくれたので、自分も授業に参加できていると感じたし、他の人の意見を聞いたのもよかった」などの肯定的な意見が寄せられた。その一方で、「コメントを読む時間が長すぎる」などの改善を求める意見もあった。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの受講者たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が多い授業ではあるが、リアクションペーパーにフィードバックするなどして、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生の主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語教育特殊研究B<国際科目群>
授業コード 31E39-901
教員名 SHILLAW, John
教員コード 100560
登録人数 22
回答数 3
回答率 13.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

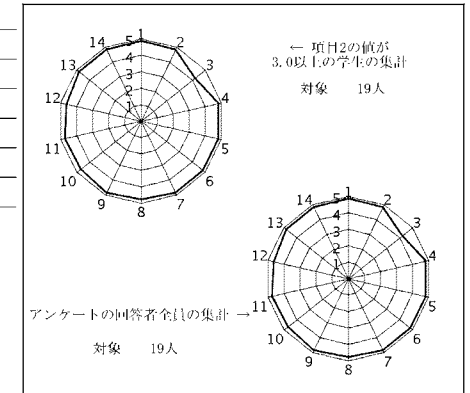
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course covers 3 principle areas of knowledge and expertise that teachers need to be aware of: teaching methodologies, curriculum and syllabus design, and testing and evaluation. Each component is given equal time and equal weighting. Overall, the students found the course to be interesting, despite the fact that few intend to go on to become teachers or to enter education as a profession. The use of video to demonstrate the range of approaches to teaching foreign languages was popular and generated a lot of discussion. The topic of evaluation and testing was also well received since it gave students the opportunity to collaborate on planning and executing a presentation. However, too many students were unwilling to spend time preparing for the next session by reading the handouts I gave in advance of each class. This was particularly the case with those classes that dealt with the topic of curriculum where students had to read texts that were more challenging in content and concept. For the future, I will try to summarize the key concepts about curriculum planning and present the information in an easier form for students.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語IV[FS]1
授業コード 11D04-005
教員名 泉水 浩隆
教員コード 102114
登録人数 35
回答数 19
回答率 54.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

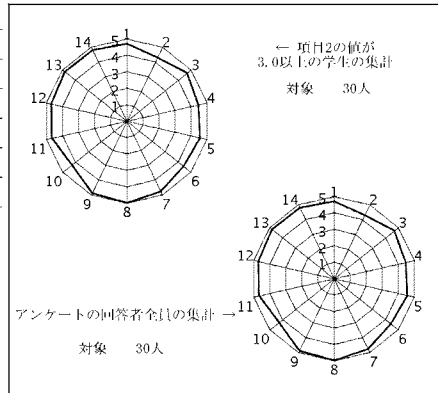
今回の授業評価では、設問3~14の平均値が4.75、全設問の平均値も4.76、レーダーグラフについてもほぼ外周に近い形であり、各項目の平均値も多くの場合4.8を超えていましたので、総じて大きな問題はなかったと考えます。設問13の「新しい知識の獲得、理解の深まり」、設問14の「満足度」がともに4.85でしたので、受講生の皆さんには全体として好意的に受け入れていただいたようです。今後の基盤を作る重要な科目として、概ねその役割を果たせたのではないかと思います。授業の進度も、極点に急ぐことなく、当初予定していた範囲まで終了できました。

自由記述欄では、「わかりやすい」(2件)、「質問に対してわかるまで丁寧に説明してくれたこと」(1件)という意見がありました。

いずれにしても、全体としては早急に対処すべき問題は特にはないようですので、受講生の皆さんには、今後、より高度なスペイン語の知識を身につけ、専門科目の履修が続けられるためのしっかりと基礎を作っていただけるよう、引き続き同様の方法で授業を展開していきたいと考えています。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語IV[FS]2
授業コード	11D04-006
教員名	小阪 知弘
教員コード	103689
登録人数	32
回答数	30
回答率	93.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

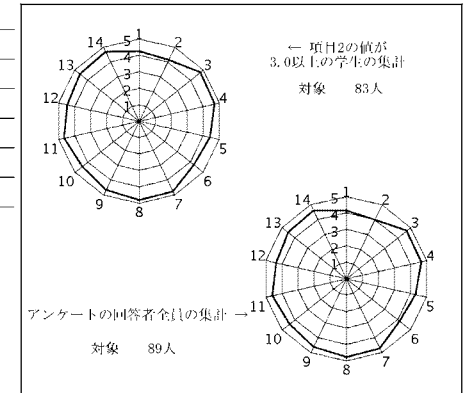


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度に関しては、ある程度達成できたと自負している。ただ、講義のスピードがやや速かったため、これからはもう少しゆっくり進んで、理解を浸透させるよう心掛けることにしたいと考えている。
- ②数字データ及び自由記述に関しては、概ね肯定的・建設的なコメントが多かった。だが、板書のミスがあったことが指摘されたので、今後はもっと板書を工夫し、ミスを減らすよう努力する所存である。楽しい授業だったと回答してくれた人が多くいたので、今後も楽しく学べる授業を展開させたいと考えている。
- ③今後の改善点に関しては、スペイン語のリズムと語彙を学ぶために、しばしば音楽をかけることにしているが、その音が大きすぎたという指摘があったので、音量に気を付けて音楽をかけることにしたいと思う。また、板書をわかりやすく書き、ミスがないよう、ゆっくり書いて見直したと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	南北アメリカとの出会い2
授業コード	13B05-002
教員名	遠藤 健太
教員コード	103936
登録人数	186
回答数	89
回答率	47.8%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

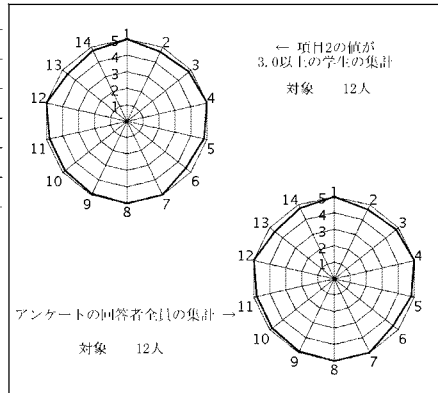
この科目のシラバスは本学への着任（今年4月）前に作成したものであり、いざ開講してみると多少の不都合があったため、一部の内容の差し替えや順番の変更をせざるを得なかった。しかし、設定していた到達目標は概ね達成できたと思われる。学生の自由記述による回答欄にも、ラテンアメリカ地域への理解が深まり知的好奇心を刺激されたという趣旨のコメントが多くみられた。また、ゲストを招聘して開催した講演会（レクチャーコンサート）も好評であった。来年度も同様の方針を維持しつつ、講義内容のいっそうの充実を図りたい。

他方、学生のコメントでも指摘されていたように、教室のオーディオ機器がうまく作動せず講義が中断してしまったことが何度もあった。これは私自身の操作方法の問題というより、教室の機器の不具合が主因であったとはいえる。とはいえ、教務課などより密に連絡を取り、早めに機器の修理や教室変更を依頼するべきであったと反省している（しばらく不具合が発生しないことが続いたので、現状維持でよいと判断した。が、最終回に近づいた頃に再び不具合が発生してしまった）。

また、講義の時間を割いて授業評価への回答を促したにもかかわらず、結果的に履修登録者186名中89名しか回答してくれていなかったということも反省点の一つである。今後はより強く回答を促すよう心がける。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語口語表現特殊研究I
授業コード	32B05-001
教員名	CARDENAS, Abel
教員コード	017525
登録人数	12
回答数	12
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

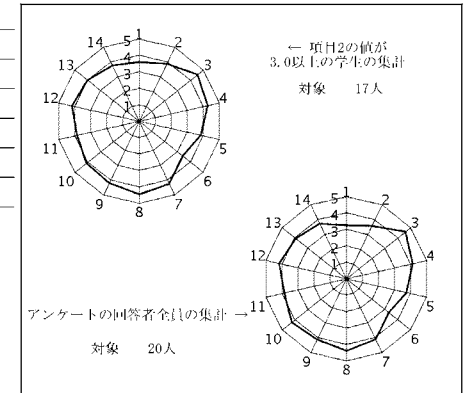


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to help students further develop their oral skills in Spanish while learning colloquial expressions. This was achieved by the use of authentic communicative tasks centered on thematic areas selected by students during a survey carried out at the beginning of the course. The results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all of the aspects included in the three major categories of the class evaluation received an average score of 4.85, which is higher than the average achieved by other courses in the department and across the university campus. In addition, comments provided by the students in the open-ended questions of the survey confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were: the use of a variety of pair and small group tasks, the relevance of the themes selected, and the non-threatening atmosphere of the class, which allowed them to participate to learn from each other and take risks without feeling worried about making mistakes.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペインの政治
授業コード	32C05-001
教員名	永田 智成
教員コード	103900
登録人数	46
回答数	20
回答率	43.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

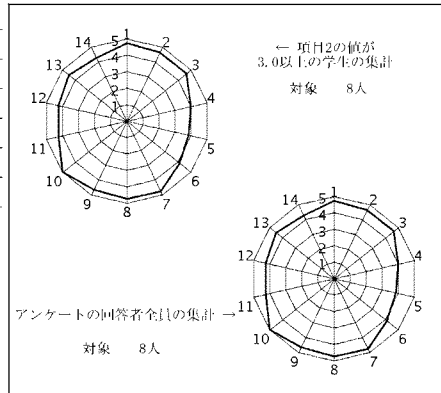


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初から法学部ではないので政治学の基礎知識がない学生を対象とした授業を行なおうと考え、政治学の理論とスペインの事例について交互に紹介する講義を行なった。その目標については達成できたと思う。無論、今後の課題がないわけではないが、数値データが平均以下なのは一部のアンケート回答者がほぼオール1をつけており（しかもその回答者は履修前から講義に関心がなかったと回答している）、それを閾値と考えれば、概ね多くの学生に満足してもらえる講義だったのではないかと推察する。講義の内容が難しすぎたという批判は甘んじて受けるが、今後ともレベルを下げるようなことはせず、講義の内容をブラッシュアップすることで改善を図りたい。小生が担当する科目は他の学科の科目との親和性が低く、なかなか学生としても受け入れがたいものであることは承知しているが、学生が質問しやすい環境を整えるように心がけて、講義の充実を図っていきたいと考える。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカ史B
授業コード 32C21-001
教員名 ESCANDON, Arturo
教員コード 102090
登録人数 21
回答数 8
回答率 38.1%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



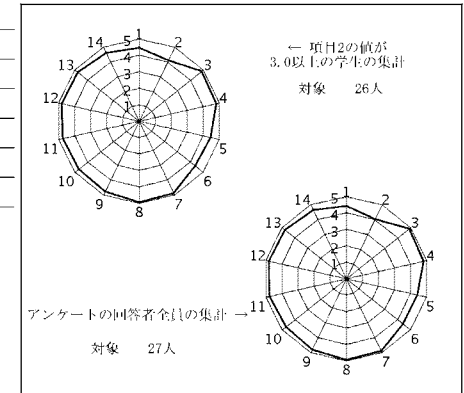
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe the goals set for this course were partly met. Students got to know the historical situation of Latin America as the area where colonial powers forged global mercantilism during the 16th and 17th centuries. And they understood this conceptually. The concepts learned allow them to analyse not only the history of Latin America but any other region or society including their own. However, much time had to be used explaining basic sociological and political concepts and no time was left to review the situation during the 19th and 20th centuries.

Overall the results of the students' survey are fine. It seems some students did not fully grasp the object of the course. I am concerned about the lack of basic knowledge students show about simple notions such as sovereign-subdit relations, the feudal system, taxation systems, political organisation, etc., and lack of study skills to undertake the study of what they are missing by consulting any textbook at the university library. Also, I understand there are some linguistic problems as most students enrolled in the course were second year students, most of whom could cope extremely well with the course, but, unfortunately, a few could not. It was hard to balance how to advance on the syllabus without letting a few students behind. For this and for future courses I have developed teaching materials that will help students to move more quickly on the syllabus.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの文化と社会A
授業コード 32C23-001
教員名 牛田 千鶴
教員コード 100657
登録人数 37
回答数 27
回答率 73.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

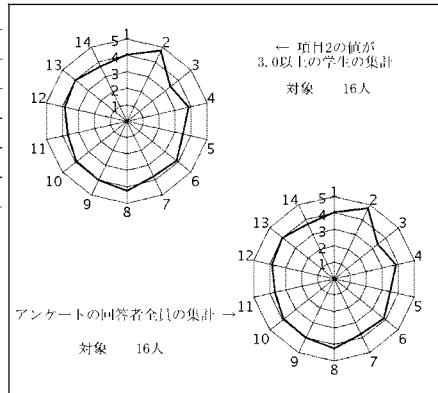
新規科目として今年度初めて担当することとなった授業である上に、木曜4～5限の縦置き2コマでの展開であったため、3時間分の講義内容を毎週準備するのは思った以上に大変であった。6月の下旬に、転倒による顔面および口腔内の負傷により、マスクをしながら授業に臨んだことがあったが、いつもと比べ、こちらの説明内容にメリハリがなかった影響もあってか、講義の後半で寝てしまった学生が何人もいることに気づき、大いに反省させられた。十分な情報提供とともに学生たちの学びの機会を保障し、満足度の高い授業を展開するには、教員側の日頃の体調管理（元気であること！）もまた不可欠な要件であるということを、改めて思い知らされた次第である。

とはいえ、今回の授業評価はまずまずの結果であったと安堵している。「ラテンアメリカ地域から米国への人の移動と教育を通じた社会参画の可能性」という副題を付した本講義であったが、自由記載欄にあった学生たちのコメントからも、及第点に達していたことが窺われる（アメリカ合衆国で暮らすラティーノの事情や歴史的背景がよく理解できる。特に教授が現地へ行った体験談に基づいて進められるため、説得力がある。また映画等の映像が効果的に使われており、わかりやすい。なかなか理解することが難しいラティーノの教育事情や社会情勢を丁寧に、かつ学生に興味を持ってもらえるように説明していた。先生の話が面白く、分かりやすい。内容的には難しかったと思うが、よく理解できた。ラテンアメリカへの興味が高まった。etc.）。

リアクションペーパーを通じた学生からのフィードバックの質も高かった。来年度は今年度の実績を基に、さらに充実した授業を提供できるよう、引き続き教材研究に力を注ぎたいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカ特殊研究A
授業コード 32C35-001
教員名 岩崎 賢
教員コード 103731
登録人数 57
回答数 16
回答率 28.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

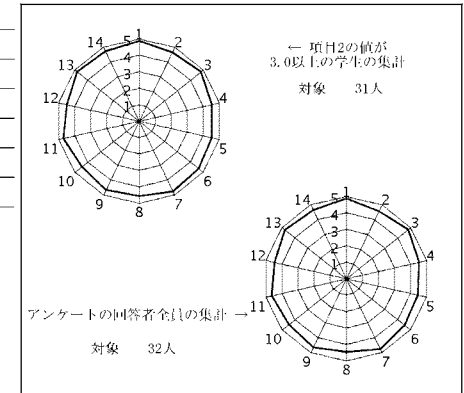


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① まず目標の1と2に挙げた、スペイン語のテキストを読解することでスペイン語力を伸ばすという目標は、授業がシラバス通りに全15回を進めることができたこともあり、おおよそ到達できたのではないと思う。ただし、受講学生の半分がスペイン・ラテンアメリカ学科、残りの半分が英米学科の学生であったが、前者の学生たちにとっては、やや内容が簡単であったかもしれない。3に関しては、テキストの内容を読むことに加えて、毎回10分ほど、テーマに関連する動画を見せることで、学生たちはラテンアメリカの世界遺産について具体的なイメージを持つことができたのではないと思う。
- ② 今回は、この授業を担当するのが初めてであったために、どのような学生が集まってきて、どのように授業を進めていくのかについては、手探り状態であった。この授業は基本的に、スペイン語の能力を伸ばすこととラテンアメリカ世界遺産の知識を獲得することの両方を目標とするものであることをシラバスに明記し、ウェブクラスでも通知したのだが、一部の学生にはそのことが十分に伝わっていなかったようである。そのため、最後まで、スペイン語のテキストを読むことに不満を覚える学生がいたことは、残念なことであった。
- ③ 次回では、シラバスの書き方を工夫するなどして、この授業の性質について学生が誤解することのないように努めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語III[FF]1
授業コード 11B03-004
教員名 茂木 良治
教員コード 102698
登録人数 38
回答数 32
回答率 84.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

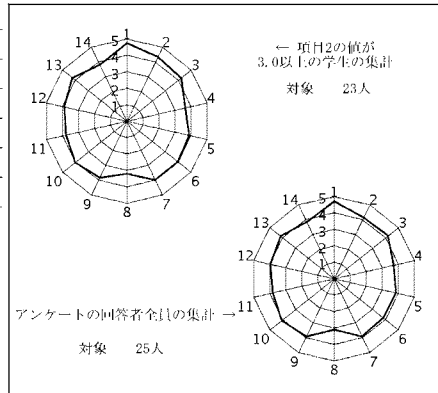


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Zé nithlという教科書を使用して、予定していた13～24課を全て終わらせることができたため、当初設定していた授業目標は達成できたと考える。学生たちは欧州言語共通参照枠のA1レベルのフランス語力をQ2までで身につけることになる。フランス学科1年生向けの科目のため、教員から見ても授業進度は比較的早いですが、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」で4.56点と高い数値を得られていた、また、設問9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って授業を進めましたか。」で4.63点だったことから適切な授業運営だったことがうかがえる。また、設問3～14の平均点が4.60と高得点であることから、授業全体でも満足度が高いといえる。自由記述欄に、「細かなところまで詳しく分かりやすく説明できていてよかった」「わかりにくいところが丁寧に事細かに説明されていた点」「重要単語を黒板に書いて説明してくれてわかりやすかった。」とあるように、肯定的な記述が見られた。一方で、改善すべき点として「一部の騒がしい生徒への注意があまりできていなく、真剣に授業を受けている身としてはせっかくなかりやすい授業なのに惜しかった」とあった。例年より履修者が増えたため注意が不十分であり、今後は適切に対応したい。また、「もっと音声を流すべき。」というコメントがあったため、指導法を改善しつつ、現在の実践を継続していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語III[FF]2
授業コード 11B03-005
教員名 平田 周
教員コード 103583
登録人数 36
回答数 25
回答率 69.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

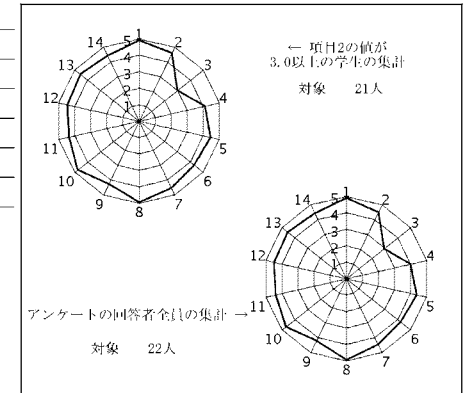
① 本講義で使用した教科書の範囲およびそこに含まれるすべての文法項目を終えられ、開講当初に設定した目標を達成することができた。

②、③ 数値データおよび自由記述を踏まえると、「黒板の字が見えない」、「教員の声が小さい」というデータや記述が散見された。授業期間中に観察した限りでは、最初の数回以降、自ら黒板の字が見え、教員の声が聞こえるような席に移動し、主体的に自らに適した授業環境を選ぶ学生は見受けられなかった。教員の側からこうした問題を解決できるように授業管理を行いたい。例えば、問題を解決するためにマイクを使用するが、それでも声が聞き取りづらいという主張があれば、席を移るよう指導する。黒板の字に関しては、毎回太いペンで大きく書いているが、後の席に座る学生に見えるか確認する。それでも答えが曖昧で、問題が解決されないようであれば、授業時間中に前の席に移るよう指導する。あるいは、後の2列から3列にかけては席を使用しないようにするか、座席表を作るなどしてクラスを管理運営する。

本講義の学生は多くが静かに真面目に教員の説明を聴いており、私語があったとしても講義の内容に関わるものであったように思われたので、特にいちいちそれを注意しなかった。ただし、自由記述にあったように他の学生の聴講の妨げとなっているのであれば、授業の進行の流れをとめてでも、私語を注意し、話した者の名前を確認し平常点を下げるなど厳しく処置を行って、クラスを管理運営していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語IV[FF]1
授業コード 11B04-004
教員名 COURRON, David
教員コード 019026
登録人数 26
回答数 22
回答率 84.6%
休講回数 3 回
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French through both oral and written exercises, with a particular attention given to pronunciation, spelling and acquisition of grammatical patterns in various contexts of communication.

2. Degree of achievement of initial course objectives

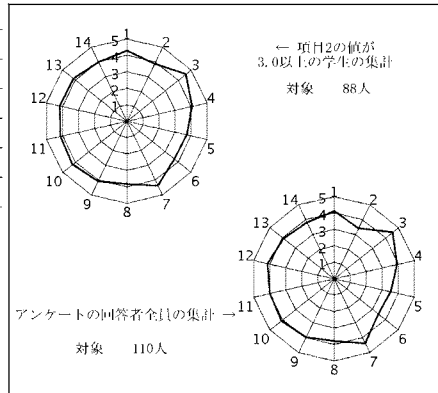
This quarter, even though the amount of homework may have seemed too heavy for a few of them, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them began to use French to communicate with one another inside the class. Some valued every class verb tests and dictations, the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also what was not in the textbook and the frequent chances they were granted to study over and over through their homework.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. Therefore I will do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my grammatical explanations along with my precise checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials on my home page. However because of my heavy load of administrative duty I could not provide the students with answers to their exercise booklet on due time which caused some of them to be unable to review their own answers without hurrying up too much. This issue has now been addressed and will not occur again in the future.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの文化
授業コード 33A06-001
教員名 吉澤 英樹
教員コード 103584
登録人数 234
回答数 110
回答率 47.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

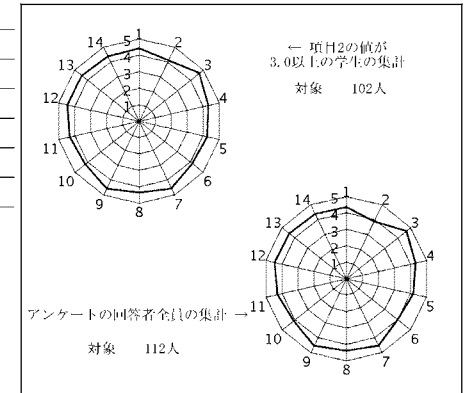


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達目標が「近現代のフランスの文化について概略的な知識をえる」という漠然としたものだったので学生と目標に共有が難しかったようにアンケート結果から感じられた。そもそも曖昧であるフランスの「文化」概念を考え、それについて各自自分なりの意見を持つことが到達目標であることに授業を進行している過程で気づいた。来年度はシラバス段階からそれを明示し、受講者との目標の共有を図りたい。②単なる教員による自己満足とアンケートに書いた学生もいたが、できる限り多様な文化現象を取り上げようと努力したため、全体としては受講者の感想は多様になるが方針に対して興味深く感じる学生の割合の方が多くアンケート結果からは感じられた。講義の内容や視聴覚資料を用いた授業スタイルは来年も踏襲したい。③この講座はカリキュラムの都合から、2コマ（3時間）続きの授業のため、1日に学生が吸収できる情報量を抑えたつもりだが、それでも毎回の授業の情報量がときに多すぎたことがアンケートからわかった。それを楽しんだ受講者もいたが、時に早口になり、ついてこれない学生いたことことを指摘されそれが改善すべきと感じられた。次回はもう少し、取舍選択をし、情報量を減らしたい。また（疲れてくるとだと思いが）抑揚がなくなるとの指摘もあり、意識していなかったことだったので気をつけるようにしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの社会
授業コード 33A09-001
教員名 中山 俊
教員コード 103891
登録人数 224
回答数 112
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



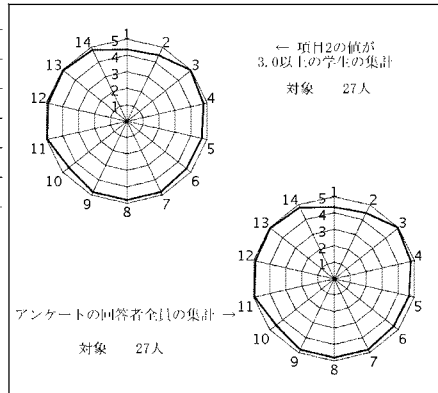
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、1年生向けの専門科目であり、「フランス社会についての基本的知識を得ること」を第1の目的とした。フランス学科でこれから勉強していくうえでの必要な知識を提供できたので、この目的は果たせたと思う。ただし、取り上げたテーマの中には十分に考察できなかったものもあった。1授業に（ほぼ）1テーマを当てるというシンプルな構成は学生に概ね好評であり、基本的知識の獲得が目的なのだから対象の掘り下げは必要ないのかもしれないが、今後どのような方針で講義を展開するかについて再考の余地はある。「フランスの社会が有する普遍的な側面及び特異な側面を理解すること」も目的に掲げていたが、日本などの他国の事象に多くの時間を割くことが難しかったために、目的の到達は十分でなかったように思う。受講者はほとんど気にしていなかった点であるが、改善したい。

また、当初の予想とは異なり、受講者が230人程度に増えてしまったため、教室をE棟のB1に変更したのだが、マイクが1つしかなかったせいで、学生の意見をスムーズに聴くことができなかった。私語が多かったことも反省点である。もちろん何度も注意したのだが私語はなかなか止まず、真面目な受講者に申し訳ないことをしてしまった。匂い、空調、電灯の明暗調節も非常に不評であった。内容以外で授業に対する受講者の印象が悪くなり評価が下がるのは理不尽なので、次回からは人数を制限せざるを得ない。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語アトリエA
授業コード	33C07-001
教員名	松川 雄哉
教員コード	103644
登録人数	47
回答数	27
回答率	57.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

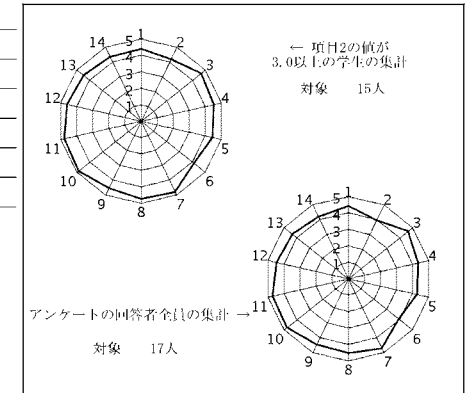


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、ケベックの歴史、社会、文化、フランス語などを扱った。目的は南山大学では習わないケベック・フランス語に触れ、ケベックについてフランス語で説明できるようになることと、ケベックの伝統的なダンスを覚え、ケベックの文化に慣れ親しむことであった。授業ではできる限りフランス語を使うようにし、授業の最後にはケベックについてフランス語で説明するための作文課題を課した。ダンスについては、学生達は楽しんで練習しており、実技発表では期待以上の出来だったと思う。反省点としては、学生からのコメントにもあったように、私語や不真面目に授業取り組んでいなかった学生を統制出来ていなかったことだ。この授業は履修者が47名もいたため、全ての学生に目が行き届かなかったことが原因である。今回のように履修者が多い授業を担当した場合は、グループワークをさせ、直接成績につながるような授業運営をする必要があるだろう。それから、授業内容についても、もっとケベックについてもっと深い知識を得られるようなテーマを扱って行きたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語II<II>1
授業コード	11C02-001
教員名	水守 亜季
教員コード	103678
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

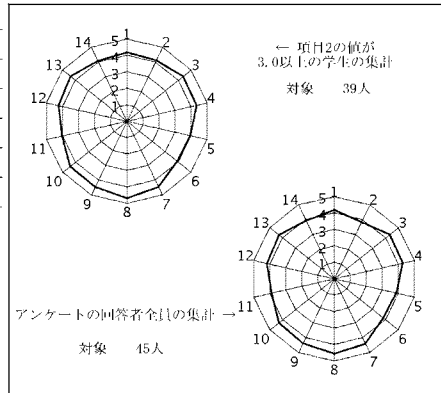


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づいたA1レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのために授業は以下のように構成した。①ペアワークやグループ学習を積極的に取り入れ、学生がドイツ語を使う機会を多くすると同時に、②文法規則などを学生が自ら見つけるための話し合いの活動も多くした。③図や音声を用いて、自らの知識・経験を手掛かりに未習事項を含んだドイツ語の意味を推測するトレーニングを行った。④ポートフォリオで学習の振り返りを行った。多くの学生にとっては慣れない方法で外国語を学ぶため、授業形態への理解が浸透するには時間を要すると予想されたが、設問(3)～(14)の平均値4.45は学生からの比較的高い評価を示している。実際にこのような学習者中心の授業形態が肯定的に評価されたことは、自由記述で、「実際に生徒にやらせることで、自分がどこまで出来るのかを把握できる」、「みんなで意見を出しながら授業できる」、「普段全く発言しない私も積極的に何か言うことが出来た」、「実践の機会が多く、楽しんで取り組むことができた」、「いろいろな人とコミュニケーションを取る機会があった」というように協働学習、自律学習を評価する意見が多いこと、また「楽しく学べる」、「楽しかった」という感想が多いことに表れている。一方で主体的な授業参加を問う設問(2)が3.94、到達目標への到達度を問う設問(6)で3.94と他の設問より平均値が低い点、また進行が早いという声があったことについては、引き続き学習者の理解度に配慮しながら学び方を体感してもらって努力を続け、改善したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ヨーロッパとの出会い5
授業コード	13B04-005
教員名	中屋 宏隆
教員コード	102885
登録人数	84
回答数	45
回答率	53.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

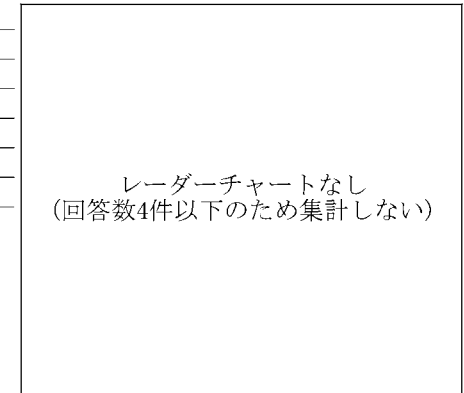


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、教員側としては概ね目標に到達したと言える。なぜなら、採用したテキストのほぼ主要部分は講義内で説明することができたからである。学生側としては、設問6の平均値が3.82であり、科目平均（項目3-14）の4.19に比べると低水準であることから、若干の消化不良があったことがうかがえる。これはテキストの扱う範囲の広さから起因していると考えられるため、来年度は多少調整する予定である。②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。数値データに関しては平均が4.1代であるため、概ね学生の要望に添う講義は実施できていると言えるが、学内平均が4.2代であることを考えるともう少し工夫が必要とも言える。ネガティブな意見の中に、「進行が少し単調である」「ちょっと授業が単調だったように感じた。もうちょっと「山」があってもいいと思う。」などの意見があったため、その辺りの工夫を来年度以降は検討する予定である。③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。さしあたり、扱う範囲の削減を検討し、学生の勉強負担の軽減を予定している。ただし、レベルの高い学生にとっても有意義な講義とするため、あまり水準を落とさないようには気をつけたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語作文III1
授業コード	34023-001
教員名	林田 雄二
教員コード	017434
登録人数	5
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	3 回
補講回数	3 回

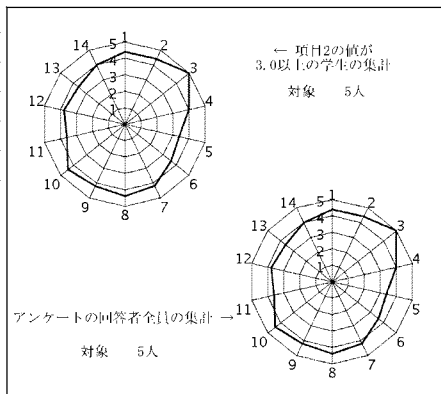


授業評価結果を踏まえた点検・評価

旧カリ「ドイツ語中級作文」の単位を落とした学生のための特別クラスである。昨年のテスト結果を分析すると、彼らのドイツ語能力が、まだ1年生の域にも達していない事がわかった。それで、1年生の作文の教科書を使い、基礎から徹底的に鍛え直すことにした。しかし、残念なことに履修生が授業に出席しない。メールなどで催促して、ようやく授業に出席し始めたが、不定期である。結局、授業の出席状況は、全員ギリギリ出席についての三分のルールをクリアする程度であった（4年生1名は、1、2度顔を見せただけで出席しなかった）。授業中の、履修生との会話の中で、かれらのドイツ語成績不振の原因が、彼らの知的能力にあるのではなく、生活態度（アルバイト、夜更かし、部活、ドイツ語に出遅れたことによる投げやり、諦め状態、ドイツ語に対するモチベーションの喪失）にあることが判明した。それで、まず遅れても授業に出席させることから始めた。（欠席した場合はメールで理由を聞いた）授業では、動詞の人称変化、名詞の冠詞、疑問文、命令文、人称代名詞、所有代名詞などを、具体的に沢山の文を作らせることによって、習得させようと努めた。また遅刻の大きな原因であるドイツ語に対するモチベーションの欠如を少しでも解消するために、ドイツ語の文章の中に隠された「異文化」という点にポイントを置いて、授業を進めた。そこで強調したのは、外国語を学ぶことの面白さ、それによる自己の成長ということである。皆、このような話には興味を示すのだが、3年生、4年生になってドイツ語に取り組みもうという意識改革には至らなかったかもしれない。それでも、期末試験の結果は、全員Bレベルで、最後はどうか頑張ったようである。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献講読（ドイツ語圏の文化）
授業コード 34A23-001
教員名 岡地 稔
教員コード 015206
登録人数 33
回答数 5
回答率 15.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



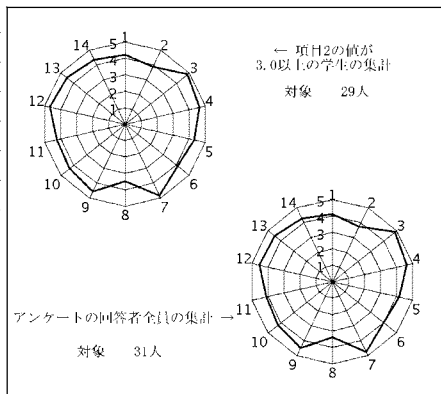
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業はドイツ学科の3・4年次生に対する専門科目であり、当初に設定した目標は、1. 精読を通して読解力を身につける、および2. 的確な訳文の案出、の2点であった。テキストは、すでに2年以上ドイツ語の学習をおこなっている上級生であることを考慮して、読解力を試し・身につける一助となるよう、概説書ではあるが、文章としては必ずしも平易ではないものを用意した。授業の進行は、読解の上でのポイントとなる点を指摘・説明しつつ、かつ、訳文の案出についても説明しつつ、さらに、疑問点に答えつつ、おこなった。実際、受講生は毎回、テキストに悪戦苦闘していた。結果として、全体の評定平均は4.07であったが、まずは及第点と思われる。

自由記述欄で「訳すのは難しかったが、授業で解説を受けてそれを解決していった」と述べる学生がいる一方で、「後から訳をかけたプリントを配布するなどしてほしかった。何を言っているかわからない」と述べる学生もいて、「訳を書いたプリントの配布」を求めるとい意識の低さに、また疑問点があればそれを解決するために自分のほうから行動を起こすこと（発問するなど）をしようとしなくて、不満を述べることに、驚かされた。ともあれ、今後はこうした学生がいることも考慮したうえで、授業の進め方を工夫していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ歴史研究
授業コード 34D10-001
教員名 SZIPPL, Richard
教員コード 017582
登録人数 105
回答数 31
回答率 29.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) 目標と到達度

目標は20世紀のドイツ史の主な動きと特徴を知り、その全体の流れを理解し、現代ドイツ事情を理解し興味をもっていることとしているが、設問5「この授業の到達目標を理解することができたか」と設問6「この授業の到達目標に向けて力がついてきている」という項目への評価はそれぞれ4.19点と4.00点であり、大学全体と学科両方の平均値を上回っているから概ね到達できたと思う。

2) 自己点検・評価

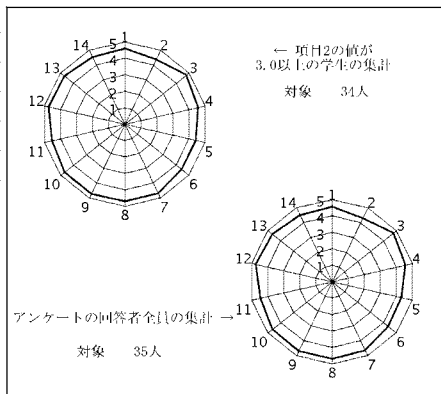
今回の評価では、設問8（教員の声や音声機器の音の聞き取り）と設問10（私語、携帯電話、遅刻等に対する適切な対処）以外は、すべて大学全体の科目と学科目の平均値を上回っている。去年年度のこの授業に対する評価が大学全体と学科の科目と比べるとほとんど下回っていたので、改善があったと言える。去年から外国語学部全学科の学生が履修できるようになり、大人数で授業を行うことになったということで、受講者の異なるバックグラウンドを考慮し授業の内容をより理解やすくするように努力した結果だと思う。

3) 今後の改善に向けて

上述の「声や音声機器」についての比較的低い評価（3.39点）があり、また自由記述欄に「声が聞こえにくい」という指摘もあったので、マイクの調子と声の大きさにもっと注意する必要があると思う。また、回答率（29.5%）が低いことも目立つ。15回目の授業の最後の15分を取っておいたにもかかわらず、回答が少なかった。今後は2回の授業で実施したいと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II発音・聴力2
授業コード	35A02-002
教員名	蔡 毅
教員コード	100086
登録人数	35
回答数	35
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は初級中国語授業として、全体からみれば、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したと思います。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

統計の数値から見れば、(2)の「主体的に授業に参加する」、(5)の「到達目標を理解する」、(6)の「到達目標に向けて力がついてきている」という点では、評価がわりと低いものであります。これについては、学生に対する要求が足りなかったのみならず、自分もそれをあまり重視しなかったのではないかと思います。

なお、(11)の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す」という点でも評価は高くありません。これは上記の(3)と関わりがあり、やはり学生の積極性を引き出すことには工夫をこらさなかったと思います。

今後の改善策として、

その一は、学生に対して予習や復習などをもっときびしく要求し、勉強の自覚を一段と高くさせることです。

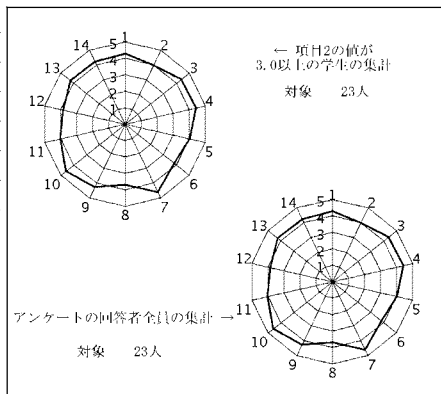
その二は、授業中はもっと学生に質問できるような機会を与え、授業後はもっと学生の意見や希望を聞き、いかに学生の授業への興味を引き起こすのかについて、さらに真剣に対応することです。

また、学生の自由記述には「暗誦の課題」や「漢字の成り立ちの説明」などいい評価が多くありますが、授業の内容と方法についてもさらに工夫する必要があります。

これからは一層の努力を払い、いい授業を学生に提供できるように、取り組んでいく所存であります。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	インドネシア社会研究
授業コード	35D11-001
教員名	小林 寧子
教員コード	100089
登録人数	30
回答数	23
回答率	76.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

インドネシア語を履修し続けている学生とそうでない学生との間に、だいぶ理解の差が出たようである。毎回、インドネシア語のキーワードを設定したが、それが差を大きくしたのかもしれない。しかし、インドネシア語を3年生でも履修している学生にとっては、インドネシア語を使わないと刺激がないし、理解度も高まらなかったであろう。

スマホを机に出さないようにと初回に注意したが、あまり効果はない。それでも教員は適切な処置をしていたという評価が高い(4.61)のは、やはり時代だからだろうか。また、かつての学生は、予習や復習が不十分であったと謙虚であったが、これも学生の自己評価が「あがっている」が、自分を客観視できなくなっているのではないだろうか。南山大学で行う最後の「インドネシア社会研究」の授業であった。歴史を学ぶことを喜んだ学生がいたことを何よりも嬉しく思う。

声が聞き取りにくかったのはよく指摘されることであると同時に、Q1で体調を崩してまだ療養中ということも響いた。この夏休みに体力回復に努めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	インドネシア言語研究
授業コード	35D13-001
教員名	稲垣 和也
教員コード	103887
登録人数	15
回答数	4
回答率	26.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

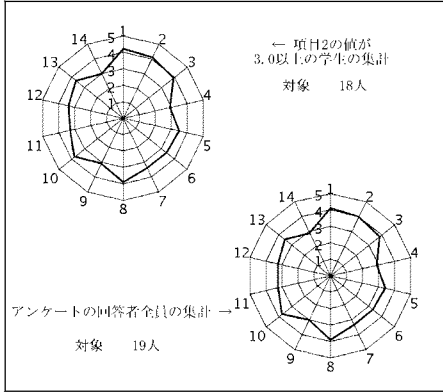
本授業が掲げた到達目標は3点ある：(1)インドネシア語に見られる言語現象について問題化できるようになる、(2)インドネシア語を分析するための方法論を身に付ける、(3)インドネシア語の分析能力を高める。このうち、(2)、(3)については、九割以上の受講学生に十分な向上が認められ、設定していた目標に到達した。(1)については、「問題化していくプロセス」を受動的に学習するにとどまったため、設定していた目標に到達できたかどうかを確認する機会がなかった。

学生による授業評価については、回答数が4件であったため集計がなされていない。しかしながら、4件の結果から、設問11～14の平均が4.00ないしそれを下回っていることがわかる。この点は注目に値する。

来年度に改善が求められるのは以下の点である。(i)到達目標のうち、言語現象に関する問題化については受動的に学習するのみであったため、受講学生達がより主体的に問題化できるよう工夫したい。(ii)また、学生による授業評価実施率が低かったため、さらに実施を促すことでこれを改善したい。(iii)授業評価設問11～14にある、学習意欲を引き出す、質問や相談機会を増やす、技能獲得の満足度を高めるといった課題をクリアしていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G 15
授業コード	11A02-036
教員名	CALANTAS, Teresita
教員コード	000187
登録人数	20
回答数	19
回答率	95.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

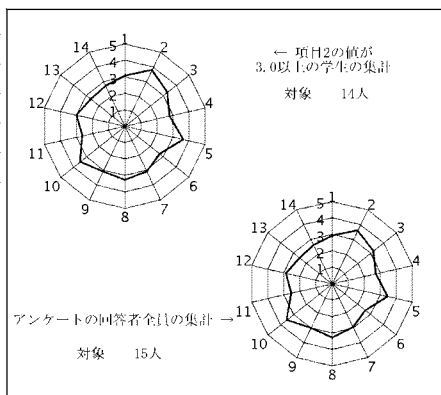
In Q2, students were given opportunities to listen to lectures, discuss and present short reports in class. Homework included listening to the listening parts of the textbook, writing reaction papers on assigned lectures on the Internet, conducting small surveys and writing a reports. Class activities offered a variety of learning opportunities for students to recall and learn new vocabulary, enhance their basic conversation skills, discussion with a partner or in a group, and reporting in front of the class. A vocabulary recall quiz after a 10-minute recall games and activities was an effective tool for a more focused conversation and warming up at the beginning of each class.

The students' evaluation is a little confusing. Students rated Q4, Q14, & Q9 respectively low. Number 4 is about classes being structured appropriately, and delivered at an appropriate pace. Number 14 is about overall satisfaction, and number 9 is about taking into account the degree of students' understanding in relation to textbook, materials, hand outs, etc. On the other hand, some students also commented positively, e.g., 'Lots of opportunity to speak English.' 'We were encouraged to speak English.' 'Questions were easy.' 'Discussion a good activity.'

I always make an effort in knowing my students' ability by asking them to fill out a kind of data sheet at the very first day of class. Based on the information, I try to monitor the area of weakness and

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[S 12
授業コード	11A14-008
教員名	V. Bose, James
教員コード	100757
登録人数	22
回答数	15
回答率	68.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

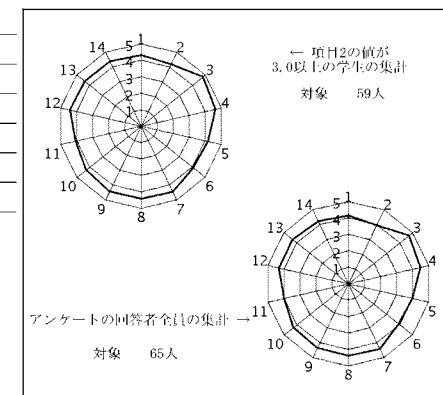
The objectives set were 1.To enable and motivate the students to develop their basic communication skills of listening, speaking, reading and writing in English. 2.To help the students to understand the key vocabulary items in an English text. 3. To help the students to arrange the main points in the correct order and write a good English paragraph on their own.

To achieve these objectives, the following steps were taken 1. After consulting with my more experienced colleagues, appropriate text-books were selected for the course. 2. Basing on the contents of the text-books, appropriate audio-listening exercises and pair/group activities, were provided in the class. 3. Focusing on the text-books and the fundamentals of English grammar, on a lower to higher basis, I prepared teaching materials for students, with activities for class-room and home. 4. To help the students to cope with their insufficient competence in English, I prepared the relevant portions of such materials in English and Japanese. 5. Students were introduced to the web-sites of text-books, in order to encourage autonomous learning. 6. In the first class, a bi-lingual (English and Japanese) hand-out, which clearly explains the course structure, objectives, policies of attendance and grading, was given to students, so that they know all they need to know about the course.

In view of the over-all evaluation, and observing students' class-room participation and performance in the examination, I feel that the objectives set were largely achieved, and students have improved their communication skills in English.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本史A3
授業コード	12B03-003
教員名	林 順子
教員コード	101007
登録人数	143
回答数	65
回答率	45.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



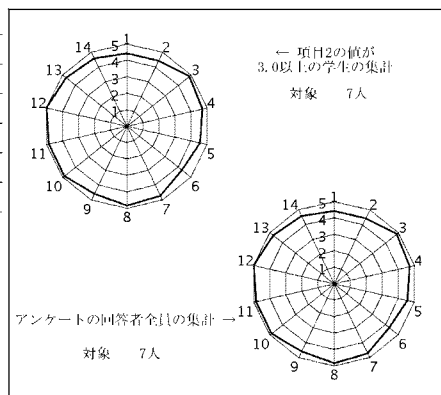
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標は①現代とは異なる、あるいは共通する江戸時代の社会の仕組みの特徴の理解②歴史的な観点からの現代の社会問題の背景の考察、の2点であったが、試験結果からみると去年に続き2極分化する傾向がみられた。なお「理系に配慮した内容を」とのコメントもあったが、理系の中でも成績に2極分化の現象があった。

数値データとしては全体に悪くはないが、最終講義まで3回ほどは回答を促したにも関わらず回答率が低いのが、気になる場所である。寄せられたコメントでは「話し方が遅い」といった意見が数件ある一方、数字データ上では、聞き取りやすさの評価が低めであった。昔は意識せずともできていた大声ではっきり話すことが年々できなくなっているようである。今回、はじめてwebクラスで出欠をとって見たが、教室(M棟)にWi-Fi(無線LAN?)が入らず、こちら当初それに気がつかなかったため、混乱と不満が生じた。なお、これを受けて途中で無線LANが入る教室への変更も希望したが、空き室がなかった。事前に教室の要望をするときに気をつけたい。講義開始時に出欠を取り終わると退席する学生もおり、コメントの中には、出欠をとる時間を変えてはどうかという意見をあつた。他にも、講義中に出す問題の解答をすぐにチェックできるようにしてほしいなどのコメントもあり、webクラスの効率的な利用を、今後も模索したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B1
授業コード 12C09-001
教員名 岸 智子
教員コード 100346
登録人数 40
回答数 7
回答率 17.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、この授業科目については、開講当初に予定していた目標がほぼ達成されたのではないかと考えている。

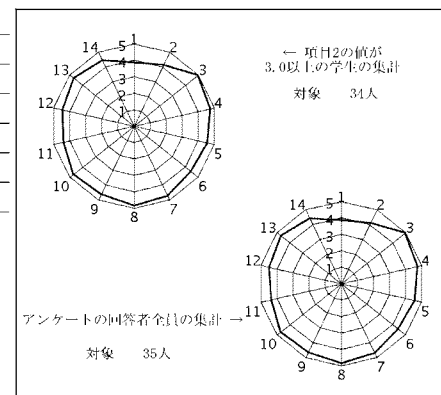
数値データは想像していたより高かった。ただし、回答したのはわずか7名であり、回答していない人たちが回答していれば、より低かったのではないかと考えている。ほぼ毎回出席をとっていたが、その割に出席率が低く、履修放棄をした学生も多かった。テキストの購入を強制したのが気に入らなかったのであろうか？ テキストが難しすぎであったのか？ 本来は、履修放棄者にこそ聞くべきであろうか、それはできない。

今回、ほぼ毎回グループ・ディスカッションをさせたのが良かったと思う。

自由記述にもグループ・ディスカッションを評価する記述があった。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門3
授業コード 40B03-003
教員名 宮崎 浩伸
教員コード 101892
登録人数 37
回答数 35
回答率 94.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価結果は、設問3～14の平均値が4.63であり、この授業での過去の結果と比べて、かなり高い値となり、たいへんうれしく思っている。また、開講当初に設定していた目標に対する到達度も手ごたえがあったように思う。

今回、高い評価が得られた要因は以下の3点と思われる。

第一に、課題レポートについて、授業の中でも、時間をとって、計算方法だけでなく、その意味するところについて、詳しく解説したことで、理解が深まったようである。

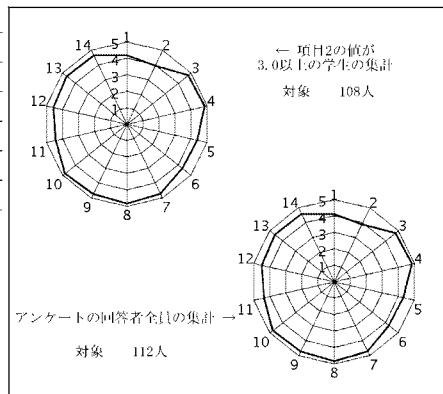
第二に、授業の中で、統計学の新しい概念の説明はほどほどにして、むしろ、練習問題を実際に解く方に力点を置くようにしたことである。

第三に、教室が以前のようなパソコン教室と違い、コンパクトな教室であったため、学生との距離感が近くなり、インタラクティブな授業を行うことができたことである。この点は、実際、授業をしていても、実感することができた。

自由記述欄では、「理解できるように数式など示してくれとでも分かりやすかった。」「難しい内容を扱う授業だが、宮崎先生がとても優しく教えてくださるので十分に理解することができました。」等の肯定的な意見をたくさんもらうことができ、今後もこのようなスタンスで、きめ細かな授業を心掛けたいと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代経済入門
授業コード 40D01-001
教員名 西森 晃
教員コード 100624
登録人数 191
回答数 112
回答率 58.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

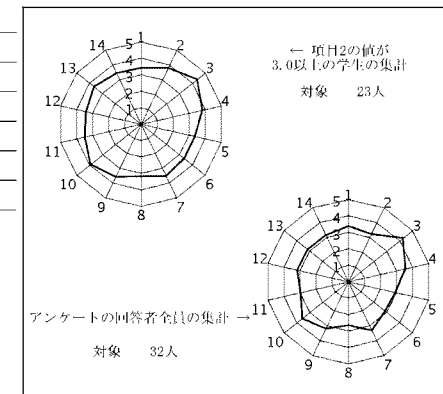
今回初めて担当する科目だったので試行錯誤しながらの講義になったが、当初の予定通り進行することができた。また、期末試験を見る限り学生の理解も十分で、全体的には満足行く講義になったと自己評価している。

数値データを見ると、全体の平均点が4.52、設問14が4.57とそれなりに高く評価されているようである。自由記述欄に多くの回答があり、そのほとんどが好意的な評価であることをとても嬉しく思っている。講義で最も重視したのは学生同士のディスカッションで、「自分で考え、他人とディスカッションすることによって、単なる知識の詰め込みではない講義にしたかった。授業中に全く話をしない学生や、ディスカッションの時間を割けて出席する学生などもいたが、アンケートを見る限り、少なからぬ学生がその姿勢を評価してくれているようで、苦勞が報われた気がしている。次にこの講義を担当することがあれば、また同様の工夫をしていきたい。

「講義の最初だけでなく、途中でもう1度ディスカッションの時間が欲しい」という意見が2人から出されていた。時間の制約などでやや難しいところがあるが、傾聴に値する意見ではあると思う。一度検討してみたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済思想入門
授業コード 40D04-001
教員名 大谷津 晴夫
教員コード 015222
登録人数 90
回答数 32
回答率 35.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



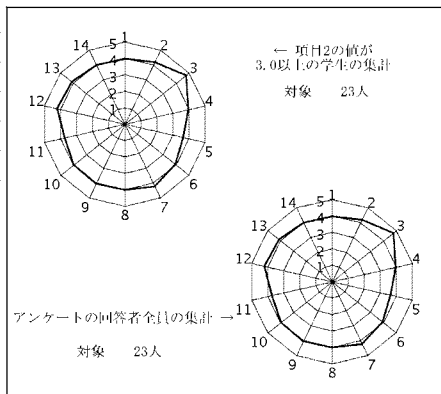
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目について、設問3~14の平均値が3.24であったことは、総合的に見て及第点の評価をもらったと受け止めている。その中で設問3, 4, 9の値が4.25, 3.59, 3.19であったことは、授業の形式面の条件を充足していたという評価と受け止める。また、設問7の3.31の評価に示されているように、授業への真摯な取り組みについての評価もまずまずの水準にある一方、全体的な満足度を問う設問14の値が3.13と低いこと、設問5, 6の到達目標にかかる評価も2.94, 2.88と低いことに課題を残している。授業履修前の興味度が3.38で、参加度も3.22と低かったのに比例して、新知識を得られたとする度合いも3.16と低くなっている。学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すもう一段の工夫が必要であると痛感している。

自由記述欄の回答では、プリント配布やWebClassで復習できる点を評価してくれている一方で、プリントの文字が小さい、文字数が多い、滑舌が悪いとかの苦情も寄せられている。反省して改善したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	理論経済学A
授業コード	40D15-001
教員名	井上 知子
教員コード	019166
登録人数	45
回答数	23
回答率	51.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

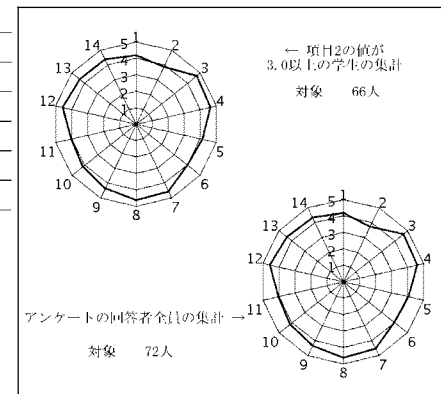
この授業は2コマ連続の授業であったため、毎回の授業の始まりおこなう前回の復習をする時間が、1コマずつの授業の半分で済んだ。このため、時間に余裕もでき、シラバスに予定した通りに授業を進めることができた。

自由記述欄について、評価できる点に書かれていたことは、①質問の時間が十分あった、②質問すると教員が快く答えてくれた、③確認問題を多く解くことで自分が内容を理解できているかを確認することができた、の3点であり、他方、改善すべき点に書かれていたことは、①うるさい学生がいた、②たまたま板書なしで口頭だけの説明があったので、すべて板書してほしい、の2点であった。

1コマ終了後の休憩時間に質問に対応した取り組みがよかったのだと思う。また、うるさい学生がいたという指摘についてであるが、1限の授業の途中、あるいは、2限の途中から参加する学生がおり、そういった学生がその日の提出課題の内容をすでに出席している受講生から聞いたりしていたようで、2コマという長い時間、何度も、そういった学生の途中出席によって、授業の緊張が切れてしまう場面があった。今後は、途中から来た学生に座ってもらうゾーンを決めておくなどの対策をとろうと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報経済学A
授業コード	40D17-001
教員名	小林 佳世子
教員コード	100487
登録人数	144
回答数	72
回答率	50.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次生以上を対象とした、専門科目です。ここでは、情報の経済学の基本的な考え方が理解できることと、この基本的な考え方を、現実のさまざまな問題へ応用ができるようになることを目的としました。

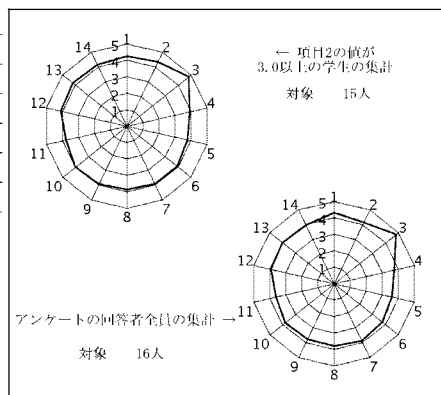
そのために、数式の使用は最低限とし、現実の応用例をたくさん使うことで、経済理論と現実とのつながりを理解することを意識しました。「ここまで実社会とリンクした経済学の授業は初めてで、とても面白かった！」など、自由記述にも、この点を評価した回答が非常に多く見られたことは、素直にとれもうれしく思います。

残念だったのは、例年おしゃべりがほぼないので、今学期は、おしゃべりの注意を少し控えめにしてみたところ、後ろのほうでこそそとしゃべっている人が迷惑だったとのコメントがあったことです。やはりまた、おしゃべりへの対応は、例年のようにもう少し積極的にかかわっていかうかと考えました。

今後の課題は、学生が積極的にかかわっていく形を作ることです。とはいえ、数百名の登録者のいる大規模講義では、学生が積極的にかかわっていく形を作ることは非常に難しく、模索をしているところです。ただ、もう少し、参考文献の紹介など、自主的に学ぶ方向を示すことはできたかなと思ひ、この点は今後考えていく予定です。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析A
授業コード	40D19-001
教員名	吉根 勝美
教員コード	018358
登録人数	45
回答数	16
回答率	35.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

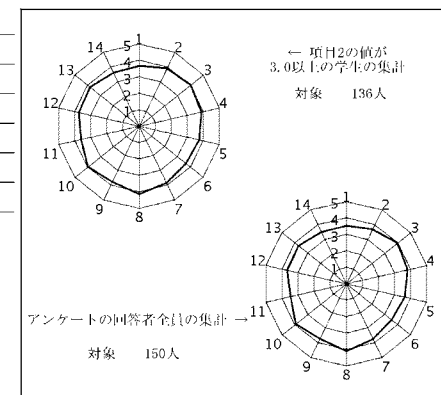
開講当初に設定した目標は2つある。1つは、1年次の必修科目「データ処理入門」で取り上げなかった分析手法をエクセルで実行できるようになること。もう1つは、インターネットを通じて入手したデータをエクセルで分析するための前処理をVBAで記述することによりプログラミングを理解することである。これらに対して、前者についてはほとんどの受講生が、後者については半数程度の受講生が到達することを想定していた。

項目2の値が3.0以上の学生の集計したレーダーチャートを見る限りでは大きな問題はなさそうだが、「授業が早くついていけないので、理解できていないか確認してほしい」「説明が雑で何をすれば良いのかが全く分からない」と自由記述で回答した学生2名からは、項目1～14についても厳しい評価を受けた。自由記述で良かった点をあげた学生2名も、「スピードが早く、追いついていけない人が多い」「ここまでで質問や疑問点はないですか等の問いかけをして欲しい」とも回答している。学生、教員ともに消化しきれないほど、授業内容を詰め込み過ぎてしまったことが、今回の授業の反省点である。

今回の授業では、エクセルの利用機会が多いことを考慮してVBAを選択したが、今後、選択科目「データ解析A、B」の中でプログラミングを取り上げる場合には、別のプログラミング言語を使いながら経済データ分析を学ぶことに重点を移して、授業内容を再構築したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域経済学A
授業コード	40D40-001
教員名	相浦 洋志
教員コード	103642
登録人数	245
回答数	150
回答率	61.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



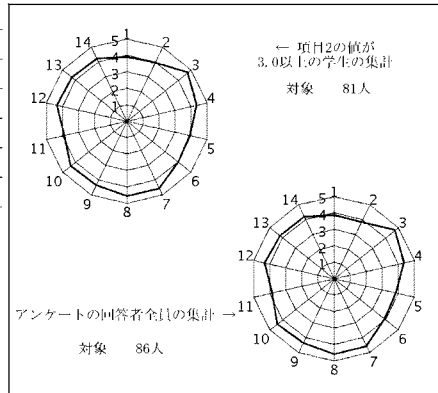
授業評価結果を踏まえた点検・評価

経済的なつながりを持つ地域や経済学的特色を持つ地域が形成される理由について、ミクロ経済学を使って理論的に明らかにし、期末試験の結果を見る限りおおむね理解してもらえたと考える。今回、授業環境や学生の理解を向上させるために、以下の2点のことは行った。

(1)座席を指定した。(2)WebClassを多用して小テストや学生の意見を求めた。まず、(1)の工夫については自由意見に否定的なコメントが多く寄せられた。また、(2)についてはwifiが整備されていない教室で講義を行ったため、WebClassを多用するのであれば、wifiの整備された教室で授業を行ってほしいという声が多くあった。その結果、アンケートのすべての項目について平均値を下回ってしまうという結果になってしまった。wifiについては、私が講義室の要望をしなかった結果であり、次回からはwifi設備の整った講義室を指定するつもりである。また、座席指定に関しては私語対策のために講義途中で実施した点で生徒を混乱させてしまった面もある。次回以降はシラバスに明記し、初回の授業で適切にアナウンスしていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別テーマ講義(政策)A
授業コード 40D42-001
教員名 大鐘 雄太
教員コード 103641
登録人数 210
回答数 86
回答率 41.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「企業の資金調達の方法について理解できる」ことを目標とした。授業評価アンケートおよび定期試験の結果はそれなりに良好であったため、この目標を到達できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

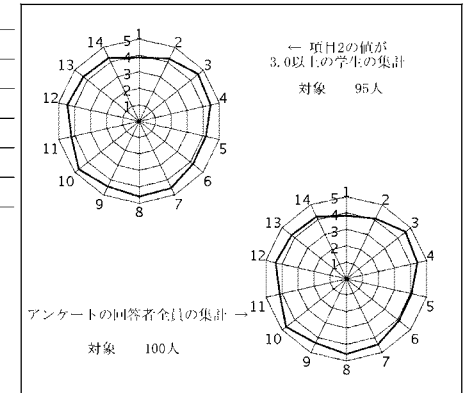
数値データでは、昨年度に引き続き、履修生の到達目標に関する質問項目（設問5、6）、および積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供に関する質問項目（設問11）が3点台にとどまっていた。しかし、設問3から設問14のうち、設問12と設問13以外の10項目の値が昨年度を上回っており、設問3から設問14の平均も、4.28に上昇していた（昨年度は4.12）。また、設問3から設問14までのすべての項目において、学部平均を上回っていたため、総合的にはよくできたと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来年度の特別テーマ講義(政策)Aでは、すべての項目の値が4を上回るように、授業の到達目標をより明確にするとともに、積極的な授業参加や自主的な学習をより一層促していくつもりである。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済学A
授業コード 40D44-001
教員名 太田代 幸雄
教員コード 100347
登録人数 285
回答数 100
回答率 35.1%
休講回数 3 回
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【授業目標および目標達成度】

この科目は、経済学科2年次生以上向けの選択科目であり、国際経済学関係の科目における基礎的科目であると位置づけられている。今回の講義に際して、昨年度担当分において学生から指摘された部分を改良した講義ノートを作成したつもりである。データとしては、回収率が全受講生中35.1%と、これまで担当者が実施したアンケート中でも際立って低い数字であったことが挙げられる。アンケート結果としては、全設問の平均値、設問3~14の平均値がともに4を上回っている。また、ほぼ学部の平均値通りの結果であり、まずまず目標を達成できているのではないかと考えている。

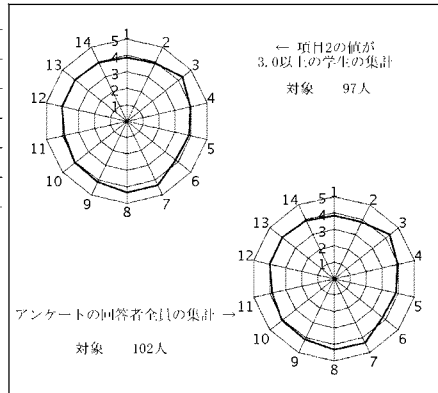
【授業評価について】

今回の講義で気を付けた点は、週2回のペースでも十分に理解できるよう、適切なスピードで講義を進めるということであったが、設問4の評価がまずまず高かったので安心している。また、設問12で評価の平均値が学部のそれを上回ったのは、非常に嬉しく思っている。次回は、より評価を高めるべく努力して行きたいと考えている。

自由記述欄についてであるが、今回の講義では好意的な意見を頂いている反面、改善すべき点も数点コメントを貰うことができた。これらの意見は、ここ数年の講義の中でも、かなり建設的な意見で、有り難く感じている。これからも、より興味を持って授業に臨んでもらえることを来年度以降の目標の1つとしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 開発経済学A
授業コード 40D46-001
教員名 林 尚志
教員コード 017897
登録人数 205
回答数 102
回答率 49.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

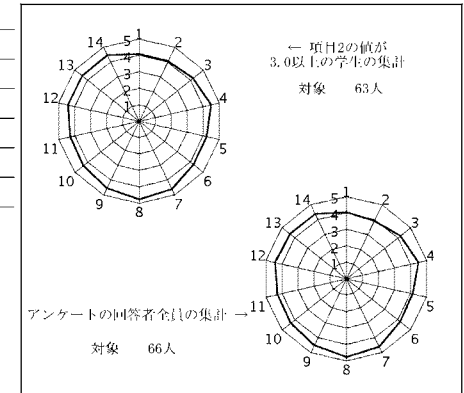
この授業では、発展途上地域の貧困、ならびに貧富の格差に関わる諸問題を概観したのち、“マイクロ・ファイナンス”の事例を中心に、近年の制度的イノベーションの動向を紹介しながら、途上国における“貧困削減に向けた取り組み”に関する理解や関心を深めることを目標とした。また、授業中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、これらの疑問に対する解答を探るという形で授業を進めた。

この目標の到達度については、1) ていねいな説明で授業の内容がわかりやすかった、2) 情報、資料が豊富であった等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問(9)と関連し、「板書が見やすかった」、「板書の授業でわかりやすかった」等のコメントがある一方、「板書の量が多すぎる」、「板書のスピードが速く、説明があまりきけなかった」等のコメントも見られたため、「内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、何回か「授業中の問いかけ」や「次回内容に向けた予習課題」をもうけたこともあり、「一人一人が主体的に授業を受けられるような工夫がなされていた」というコメントがみられたが、授業進度に支障のない範囲で、さらにこれらの内容を充実させていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済政策論A
授業コード 40D50-001
教員名 蔡 大鵬
教員コード 103260
登録人数 191
回答数 66
回答率 34.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

[1] 授業目標および達成度

本講義は、(1)モノ・サービスの国境を越えた取引に関する様々な問題を経済学の見地から理解できるようになること、また(2)海外直接投資、関税、貿易摩擦や貿易と環境など国際経済に関わる様々な問題に対する関心が深まることを目標としている。講義では、上記の目標をほぼ達成できたと考えられる。

[2] 点検・評価

授業評価の結果としては、設問3から14の平均値は、「4.39」であり、また、「設問3」を除き、他の設問はすべて学部平均を上回り、ある程度満足してもらっていると理解している。

[3] 次学期以後に向けての改善点等

今後、特に以下の3点について、対策を講じていきたい。

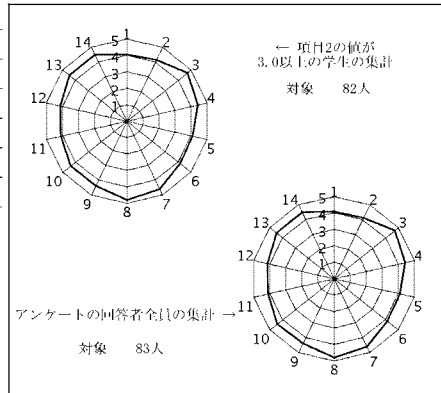
第一の課題は、私語に対する対処である。そうした学生に対してその都度注意してきたが、さらに厳しく対応してほしいとの要望があった。今後、より厳しく対応すると共に、内容を工夫することで、より集中しやすい雰囲気を作りたいと考える。

第二の課題は、「もう少し学生の理解度を確認しながら講義をしてほしい」との要望に対する対処である。取り入れるトピックスが多く、そのため十分な説明ができていない箇所があったようである。今後、シラバスの設計において、この点について配慮していきたい。

第三の課題は、板書が分かりづらい箇所があるとの指摘に対する対処である。今後、色分けする等、板書の内容を工夫すると共に、写す時間を設けることで、内容を写し終える前に、消してしまったり、上下のボードを重ねて見えなくなったりということがないように改善したいと考える。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本経済史B
授業コード 40D63-001
教員名 川本 貞哉
教員コード 103865
登録人数 186
回答数 83
回答率 44.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

到達目標として、①ミクロ・マクロ両面からの日本経済の歴史の理解、②今日の課題に対する歴史的処方箋の提示、という2点を掲げていたが、経済政策や個別企業のケースを適宜紹介することで、これらの達成に努めた（ただし、②の到達については、後述のように課題が残った）。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

総合評価（設問14）の平均値は4.48であり、概ね肯定的な評価を受けたものと理解している。特に自由記述からは解説や資料が丁寧でありわかりやすいなどの声があった。

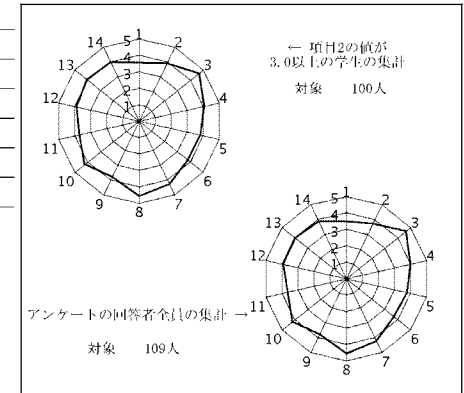
一方、設問11（学生の学習意欲の引き出し）については4.12とやや低く、改善が必要である。また、授業中の飲食（特に食事）への注意がなされなかったなどのコメントもあり、こちらも対応が必要だと感じた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

学習意欲を引き上げる手段として、中間試験やミニクイズを行ったが、それだけでは十分ではなかった可能性がある。経済史を学ぶ意義をより理解してもらえるよう、テーマごとの現代的意義をより強調するなど工夫したい。また、適宜私語の注意などは行ったつもりであるが、こちらも目が行き届かなかった部分があるようである。注意深く観察し、授業環境の維持に努めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別テーマ講義(歴史と思想)A
授業コード 40D70-001
教員名 梅垣 宏嗣
教員コード 102397
登録人数 368
回答数 109
回答率 29.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

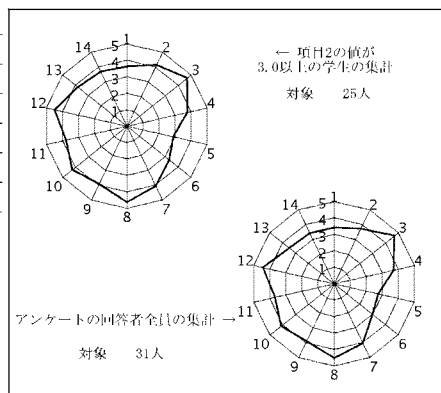
毎回練習問題を出題・解説し、それをベースとした定期試験問題を出題した。そして、練習問題の出題・解説により理解が深まったと、このやり方を肯定的に評価する自由回答欄のコメントが見られた。ただし、出席してこなかった学生や、出席しても解説を聞いていない学生が多かったようで、試験の答案から判断すると、必ずしも多くの学生が理解したとはいえないようであり、その点は本科目担当者として大いに反省しなければならない。

スコアからは、予習復習を促したり、より効果的な講義展開を進める余地があったものと考えられる。予習復習については、経験上、強制力の伴うものでなければほとんどの学生はやってこないもので、きちんと予習復習をした方がよいということが、明確に学生に伝わるようなやり方を作り出していきたい。

自由回答欄においては、「量が多くて板書が追いつかない」というコメントと、「情報量が少ないのでもう少し進行を早めてほしい」というコメントがあり、相反する意見が見られた。試験の結果から考えると、後者の意見はよほど優秀な少数の学生によるものと考えられるので、進行速度については現状を維持していく所存である。ただし、優秀な学生にも、進行が遅いと感じさせない、情報量が少ないと感じさせないための工夫を講じていきたい。また、進行速度の問題だけではなく、板書をとらせるというスタイルそのものも見直していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学
授業コード 46D03-001
教員名 寶多 康弘
教員コード 100751
登録人数 80
回答数 31
回答率 38.8%
休講回数 4 回
補講回数 4 回

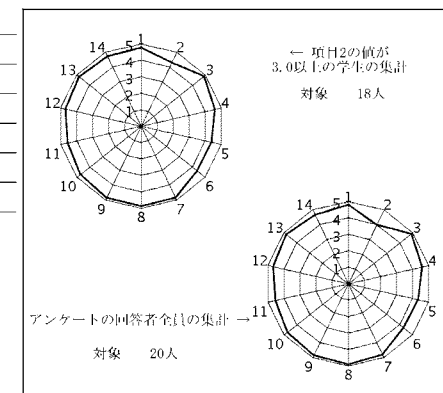


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、ミクロ経済学の数理的な分析手法を理解して、市場による資源配分の効率性や市場の失敗について理解することを目標としている。また、基本的な理論モデルを用いた経済分析を行う能力を養うことも目指している。第一に、目標はおおむね達成できた。本年度は海外出張などで休講をせざるを得ず、その代わりに補講では練習問題を解いてもらい、補講内に解説を丁寧にすることにした。学生にとっては復習になり、自由記述では、途中の計算も丁寧に説明してありよく理解できたとの高評価であった。また、レポートを課してその内容を通常の授業中に解説することで、学生の勉学意欲を高め、理解度を確認しながら授業を進行することができたことが大きな理由と考えられる。第二に、受講者数が昨年度よりも倍近くに増え、一部の学生にとって数式を用いた分析が高度すぎた一方、一部の学生は説明が分りやすく、とてもよく理解できたとの評価があり、評価が二分された。微分など数学的な説明を丁寧にいったが、受講者数が90名近くもあり、その理解に個人差があることが理由と考えられる。授業の最初に授業内容について丁寧に説明したが、そもそも数理的分析の意味について理解できない受講生が増えたために不十分だったかもしれない、次年度はより丁寧に説明しようと思う。第三に、今後の改善点や抱負については、学ぶ目標や今後の学びにどのようにつながるかをより一層丁寧に説明して、数理的な分析手法に関心のある学生の能力をもっと高められるようにする。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B5
授業コード 12C09-005
教員名 山下 忠康
教員コード 101152
登録人数 54
回答数 20
回答率 37.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

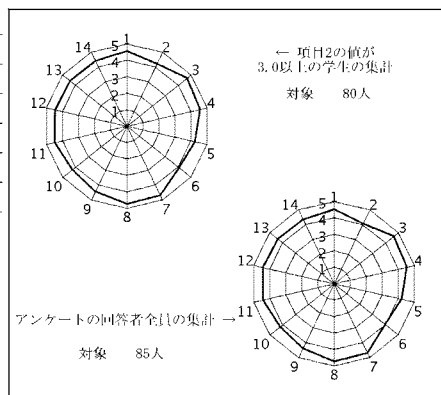


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度
 1. 税金および税額計算の基本的な仕組みを理解している。
 2. 不動産に関する基本事項を理解している。
 3. 相続の基本を理解している。
 4. 財産評価の基本を理解している。
 5. FP3級試験に合格できる。⇒ ファイナンシャルプランナー（以下、FPという。）3級の資格試験の合格レベルを想定して授業を進めたが、FP3級の過去問をベースとした定期試験の結果をみる限り、平均点が80%を超えており、当初目標は十分にクリアできたと評価している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
⇒ サンプル数が20人程度と少ないので何とも言いえないが、FP3級の資格試験に関心を持っている学生が履修し、教員側もFP3級の資格試験に特化した形で授業を進めたので両者の期待がズレるということもなく、うまくマッチングできたと考えている。学生からの評価はその表れだと考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
⇒ FP3級程度の知識は金融業界に就職する者にとっては最低限の常識である。南山の学生の就職先として金融業界の割合が高いことを考えると、もう少し履修者の数を増やす努力が必要かもしれない。現状、学生がシラバスを熟読しない限り、中身がよく分からないと思われるので、FPあるいは資格試験を強調する工夫をしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学B2
授業コード 12E04-002
教員名 中尾 陽子
教員コード 064188
登録人数 200
回答数 85
回答率 42.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

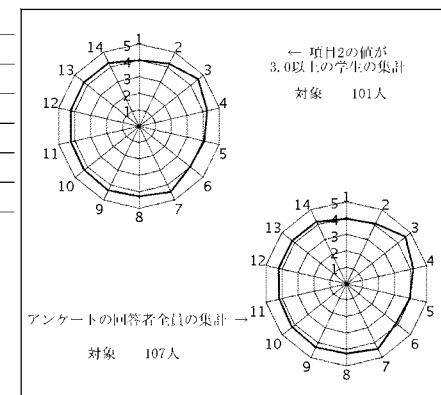
この授業は、心理学、特に、パーソナリティ、社会、臨床心理学領域の概要を理解し、その知識を日常の中で起こっている事柄と関連づけ、活用できることを目標としてきました。全体として平均値を上回る評価をいただき、授業の到達目標は概ね達成できたのではないかと推測しています。

自由記述の内容を見ると、良かった点としてグループワークで受講生同士がコミュニケーションを取りながら学ぶという授業スタイルをあげてくださった方が多くいらっしゃいました。始めは非常に緊張した方も多かった様ですが、答えが一つではない問いについてメンバーへ自分の考えを伝え、他者の考えを聴き、話し合いながら考えるプロセスは、刺激的で充実した時間となりました。やる気の低いメンバーがいた際の不満も記述されていましたが、そういうメンバーを排除する方法を考えるよりも、いかに巻き込み、お互いに高め合うかを考え実践してみることが、おそらく今後生きる体験となるでしょう。グループワークをしにくい教室であったにも関わらず、熱心に取り組んでくださった受講生のみなさまに感謝し、今後も、より充実したグループ活動となるようなディスカッションのテーマを探っていきたいと考えています。

とは言え、この授業は、受講生が多いため、全員の希望やペースに配慮しながら授業を進めることがとても難しく、私も苦しい思いをしています。最後の最後の授業評価で、早く言ってくれれば改善できたのになあ…という内容を読むと、本当に残念な気持ちになります。これは、教員と受講生の皆さんとの関係づくりがポイントではないかと思しますので、よりよい授業は受講生のみなさんの意識と取り組みにもかかっているのだ、ということをもより一層理解していただきながら、受講生の方々と一緒になって、更に充実した授業を実現していきたいと思っています。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想・文化をめぐって2
授業コード 13A06-002
教員名 長谷川 高則
教員コード 000162
登録人数 196
回答数 107
回答率 54.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標

この授業では、今後の都市のあり方を検討するため、都市デザインの系譜を概観し都市計画について学習している。専門的で難解にならないように、今年度も新聞記事やインターネットのニュースから都市のイメージ・コンパクトシティ・西日本豪雨の課題等を取り上げ、都市環境とまちづくりのあり方について検討した。

2. 目標達成度

今年度は希望者が多く抽選となり、熱心な学生も多かったが取り敢えず的な学生との間に学習意欲の差を強く感じた。出席状況は就活中の学生を除いて大変良好で、開講当初に設定した授業目標は概ね達成することができたと思う。レポート課題も各自の意見が述べられており有意義なレポートが多かった。

3. 授業評価

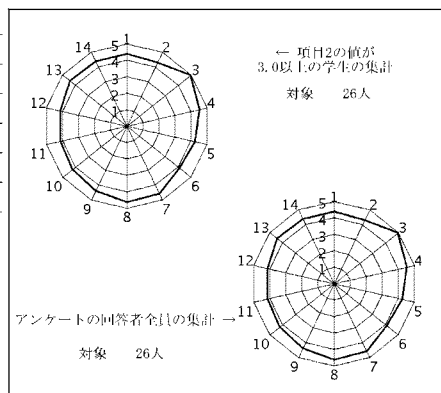
設問別の平均値を見ると、評価が高いのは設問3（開始・終了時間）4.61、設問7（教員の取組む姿勢）4.41であり、評価が低いのは設問6（到達目標への力）3.89、設問1（授業内容への興味）3.93であった。設問5・6の評価を改善するために、今後も充実した分かりやすい授業になるよう検討を続けていきたいと思う。

4. 今後の抱負

設問1の評価を向上させるため、都市デザインへの学習意欲を引き出し積極的な授業参加を促すように創意工夫し新しいテーマも取り入れ、これからの時代に対応した授業内容にしていきたいと思っている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む3
授業コード	13E07-003
教員名	宮元 忠敏
教員コード	017293
登録人数	96
回答数	26
回答率	27.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達の程度： 暗号と誤り訂正符号の紹介。暗号については、対称（DES, AES）、非対称（RSA）について、また、誤り訂正符号については、線形、巡回（BCH, RS.）、QRコードについて紹介した。それぞれ、数学的準備が必要であるが、項目をリストし、直観的な扱いを優先した。正確さについては、信頼してもらうことにした。各回、お題の時間を設け、復習をするなり、新たな話題の提供するなりした。

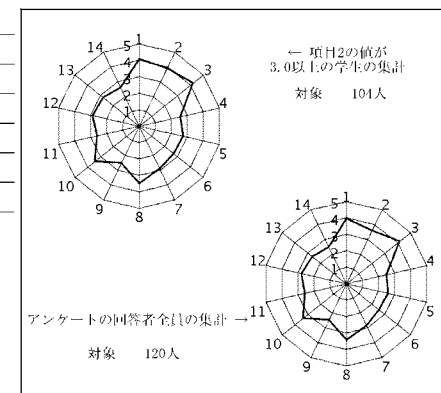
総合的な自己点検・評価： レーダーチャートによれば、高めの評価が確認できる。ただし、回答者数が履修生の数にくらべて、少ないのでそこをどう考えるかである。履修生は約二極化しており、興味関心が途切れたグループ、目がらんらんと輝いていたグループが存在した。

以下履修生のコメント 「テンポのよい講義であった」、「知らなかったことをたくさん知れた」（4）、「楽しかった」、「情報量が多い」、「プロジェクターを使うとよい」、「解答が早すぎる」、「板書量が多い」、「授業中、学生がうるさい」（2）

今後の抱負・改善点： この分野は応用が広く、陳腐化も早い。時勢に遅れないよう、着いていくことを心掛けたい。履修生の多様性に鑑み、説明にメタ説明を与え、見通しや安心感を与えることが重要である。だれもが、毎日、知らないうちに利用している分野である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	会計原理A
授業コード	40F16-001
教員名	斎藤 孝一
教員コード	018259
登録人数	222
回答数	120
回答率	54.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、企業会計と複式簿記のしくみについて取り上げたもので、取引の仕訳から試算表、精算表、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書を取り扱った。アンケートの結果は、設問1～14の平均値は3.00、設問3～18の平均値は2.86であった。平均値の4点台が1項目、3点台が2項目であった。設問1から設問14まで5をつけた学生は平均15.8%（18.9人）、4をつけた学生は平均24.2%（29.0人）、3をつけた学生は平均25.9%（31.1人）、2をつけた学生は平均12.3%（14.8人）、1をつけた学生は平均21.9%（26.3人）であった。

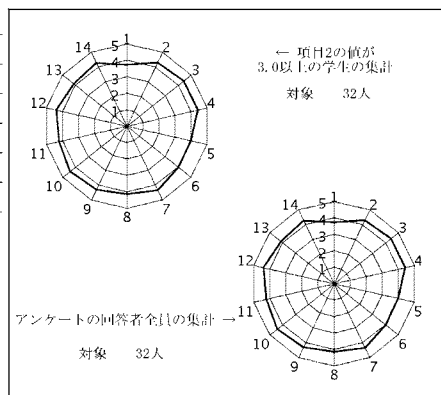
設問(2)「予習や復習など、主体的に授業に参加し、内容を理解しようと努力したか」の点数は、3.60、設問(1)「授業を履修する前に、授業の内容に興味を持っていたか」の点数は、3.99であった。

授業はテキストを使用した。設問(9)「板書、配布資料などは効果的であったか」は2.43であった。設問(11)「学生の学習意欲、積極的な参加を引き出す工夫」は2.59であった。

授業で例年と比べて変えた点は、予習・復習など事前にテキストを読むなど準備を期待して授業を進めた点である。今後は、問題演習を増やすなど学生の学習意欲を引き出すように努力したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学I3
授業コード	42B03-003
教員名	池田 亮一
教員コード	101880
登録人数	100
回答数	32
回答率	32.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

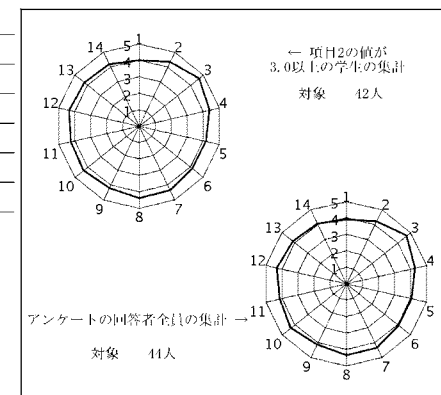


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の到達目標は(1)行列の性質を知っている。(2)行列で連立一次方程式を表現したことがある。(3)掃き出し法で連立一次方程式を解いたことがある。(4)行列式の性質を知っている。(5)行列式の計算をしたことがある。の5つであったが、思いのほかよくできていたように思われる。初めて文系諸君に線形代数を講義したが、レジュメを丁寧に作ったことが奏功したと考えられる。特に行列式に関しては、標準的な定義ではないタイプの方法で教え、その方法が受け入れられるか否かが非常に心配であったが、8割程度の学生が正確に行列式を計算できていたので今後もこの方法で教えたいと考えている。自由記述欄には、レジュメがわかりやすかったとの好意的なコメントが並んでいた。なので今後も続けたい。ただし、学部からは紙の使いすぎを指摘された。私は片面印刷で大きな文字で書くレジュメを配布することが、数学に興味のない学生の勉強意欲をこれ以上落とさないための必要条件と考えているのだが、資源の節約も確かに大事であり、今後は両面印刷にするなどして状況を見極めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	会計原理II
授業コード	42C03-001
教員名	窪田 祐一
教員コード	102901
登録人数	172
回答数	44
回答率	25.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

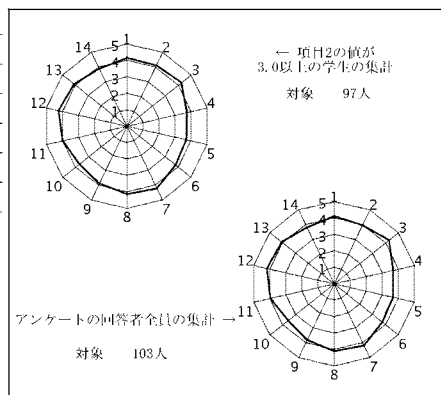
①この授業は、ビジネスに不可欠な会計の基礎知識を提供するものであり、受講生の到達目標として、会計の意義と役割について説明できるようになること、複式簿記の仕組みについて説明できるようになること、基礎的な決算手続きについて説明できるようになることの三点を設定していた。これらの目標に対して、定期試験の結果を鑑みると、多くの学生は到達できたものと思われる。

②この科目については、履修前の興味が3.91と低い（1をつけた学生の割合が10%以上であった）。興味・関心がなくとも、他の経営学科目を学ぶうえで必須の知識であることから、受講生の関心を高める必要がある。学習意欲を高めるためには、ビジネス実務や他の経営学関連科目との関連を丁寧に解説すべきであったが、基本学習を一巡させることを優先させたために、十分な時間を割り当てることができなかった。しかし、学生の全体的な評価（理解度・満足度）は、学部平均とほぼ同じレベルであった。

③この授業は第4クォーターの「会計原理II」に引き継ぐため、内容を充実させ、改善を図りたい。受講生が多かったこともあり個別対応が十分でなかった点や、会計学に興味を持たせる動機付けが弱かった点を反省し、受講生の関心を確かめた上で、実務動向の紹介や発展科目とも関わりの説明を今後は充実させたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 流通論A
 授業コード 42C21-001
 教員名 南川 和充
 教員コード 100478
 登録人数 229
 回答数 103
 回答率 45.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

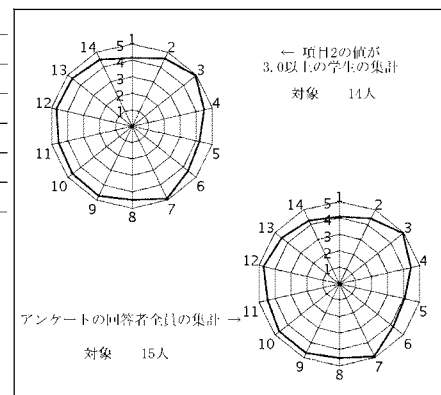


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1を除くすべての項目が経営学科科目での平均点を下回っており、毎年のように授業評価結果は低迷しており反省している。毎回の（とくに授業評価実施期間の）出席率は高かったが回収率は45%と低い。(1)商業者の存在根拠を理解している、(2)商業構造の規定要因、チャネル構造とその再編の規定要因を理解している、の2つを到達目標とした。この目標を達成するために今回も中間・期末筆答試験に加えて演習を課した。とくに(2)については具体的なデータ分析を実習課題とし、詳細な手順プリント配布と併せて授業時間終了後の昼休みを利用した、課題に関する説明会を出席任意で行った。これについての肯定的な評価が自由記述欄に2件あった。この内容は後に中間試験で出題したが概ね正答していた。(1)については期末試験直前の授業中に内容を復習し、試験予想問題のかたちで要点を整理したプリントを配布して理解の定着を図った。このプリントをしっかりと勉強したか否かによって、ほぼこの予想問題どおりに実際に試験した期末試験の出来不出来が受講生で二極に分かれた。自由記述欄（改善すべき点）は、説明の分かりにくさやパワーポイントや板書の見難さ、私語、声が聞き取れない、といったものがあった。これらは例年もあったが、今回はじめて「受講生が学んでいることとテストで求められている答案が離れているように感じた」という指摘があった。これはおそらく、経営学部生なら1年生で統計学を履修しているはずの内容を前提にして試験や授業を進めていたことか、外書講読科目でもないのに中間試験で設問に英文読解を含む出題をしたことを指しているか、あるいは、試験には応用問題は出題してほしくないということかと思われる。前者については今後は統計学の知識は前提にしないように改善したいが、後者2つについてはその狙いを説明したつもりでいたがよく伝わっていなかったとすれば、さらに説明したうえで継続実施したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際財務論A<国際科目群>
 授業コード 42C31-901
 教員名 BREMER, Marc
 教員コード 017913
 登録人数 48
 回答数 15
 回答率 31.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

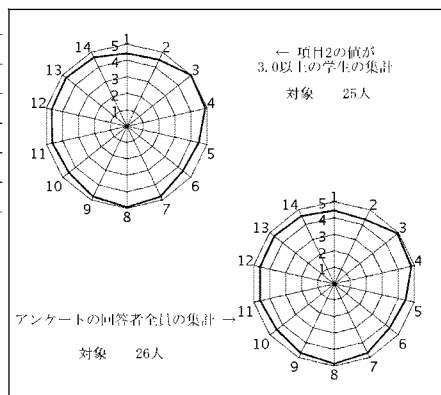
This course is an introduction to international financial decision making by companies. The main issue is how to deal with unexpected exchange rate changes. These changes have been extremely large in recent years. The course also discusses foreign direct investment, portfolio investment and trade finance. The course is offered in English. Notes for each lecture are distributed to students; the lectures are accompanied by PowerPoint slides.

The goal of the course was achieved. Most students felt that they learned substantial new knowledge about international financial management. These students are now ready to understand basic international financial decisions at the firms they will join after graduation. In general, most responses by students were in the good or very good categories. The overall evaluation of the course was high at 4.47; this value compares favorably with the evaluation for courses in the management department (4.18).

The material covered in this course is advanced. To make it more accessible, I have revised the lecture on foreign exchange options to use an intuitive example. The title of this new material is Dollars to Donuts: Why a Discount Coupon to Buy a Donut is the same as a Foreign Currency Option to Buy a Dollar. I have also added a special lecture to explain foreign currency put options. This lecture is supplemented by a paper published in the Nanzan Management Journal, Euros, Eclairs and Foreign Currency Put Options.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング・コミュニケーション
授業コード	42C36-001
教員名	川北 眞紀子
教員コード	102879
登録人数	81
回答数	26
回答率	32.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

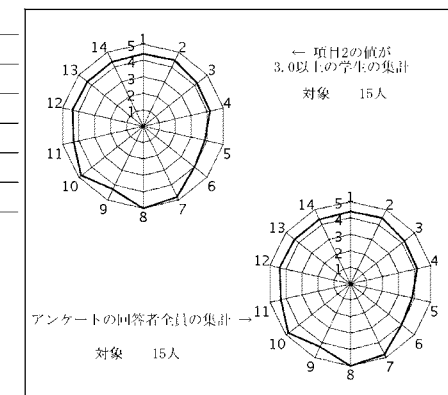


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. マーケティング・コミュニケーションの基礎的な知識を獲得するという点については、試験結果をみると、比較的理解が進んでいると思われる。また、その知識を使って制作物をすることで、応用するチカラを身につけると同時に、現場と理論との行き来ができていように見受けられる。
2. 全体の満足の数値が4.58とかなり高い。また、すべての回答について、1や2をつけた学生がゼロであった。そこを考えると満足度も高い授業であり、それほど不満もなさそうである。また、講義による理論編、外部講師の方による現場編、自ら課題を発表する実践編という3つの組み立てに、興味を持ってきている学生もいるようである。「とても興味をもてる授業形式」「外部講師の方が来てくださる機会があってよかった」「発表の時間があって色々な人のアイデアを見ることができたこと」と、この仕組みは概ね功を奏しているようである。ただし、課題を3回ださねばならず、これを面倒に感じる学生は履修していないことを考えると、学生はまじめなタイプの学生が多そうである。
3. 人数が増えてきたため、課題の発表に時間がかかりすぎるのが現在の悩みである。また、「課題の趣旨が明確でない」という指摘があったように、3つのうち1つの課題の説明が細かくできていなかったのも、もっと丁寧にすべきかもしれない。ただし、どこまで誘導すべきかは悩ましいところである。みんなが同じような回答になってしまっており、様々な視点ができてくれることが望ましい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営数学
授業コード	42D04-001
教員名	後藤 剛史
教員コード	100374
登録人数	26
回答数	15
回答率	57.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

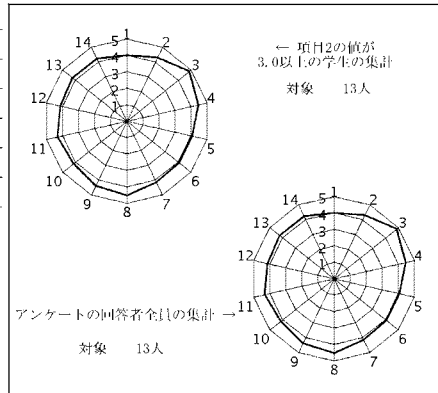


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
「1変数関数の最適化」, 「2変数関数の最適化(制約条件付きの最適化を含む)」, 「完備情報下の静学ゲーム」, 「完備情報下の動学ゲーム」について、受講生に適切に知識を提供し、またそれらに関する問題を自ら解くことができる程度に習熟してもらうことが、開講当初に設定していた目標である。講義中に設けた問題演習の機会および期末試験における彼らのパフォーマンスから、この目標にかなりの程度到達したと判断している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
設問14(全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。)の平均値は4.33であった。これは、経営学科の同設問の平均値4.13を上回ったものの、読み取り枚数30枚以下の同設問平均値4.48を下回った。また、同科目の過去の授業評価における全体的な満足度の平均値(2016年春4.91, 2015年春4.64)を下回っている。また、同科目の過去の授業評価では見られなかった、回答が1点であった項目も散見される(設問1・1枚, 設問6・2枚, 設問13・2枚)。回答数は15枚で、期末試験受験者数(23)や授業評価期間中の出席者数(20~23)に比して物足りない。自由記述については3件あり、そのうち2件は肯定的なもの、1名は彼が考える不足な点に関する要望であった。以上を踏まえての総合的な自己点検・評価は次のとおりである: 全体としては問題なく授業を運営できたが、過去の結果と比較すると物足りず、改善を必要とすると思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
設問6で1点を付けた学生2名は、設問13で1点を付けた2名である。設問6と設問13の質問内容から類推するに、彼らにとって授業の内容が高度すぎたのではないかと、少人数クラスであった以上、各人の理解度をもう少し把握できたはずであり、その点が改善点である(自由記述は無回答だったので、残念ながら類推

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営統計学
授業コード	42D05-001
教員名	松井 宗也
教員コード	102275
登録人数	21
回答数	13
回答率	61.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

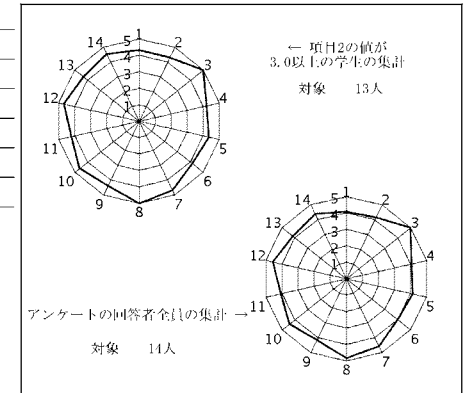
この授業では「経営学を学ぶ上で将来必要となるデータ解析方法を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は「統計学Ⅰ・Ⅱ」で学ぶ理論的知識を前提として、それをシミュレーションないし実データを用いて実践するというものである。無料の統計言語「R」のプログラミングを用いる。教科書はごく標準的なもので、プログラミングが一から学べるようになっている。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。もちろん卒業論文作成にも役立つ。

実際に学生がプログラミングするところを観察すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難い。しかし、最終レポート（データを見つけ、「R」と「Excel」で解析し、考察する。）から判断すると、学生の多くは実データの解析がきちんとできているようである。両ソフトウェアの結果もきちんと一致していた。それゆえ、授業目標の6割から7割程度は達成できたと判断する。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってあげれば良い。

授業評価集計を踏まえた反省点はそれほどない。一人一人のパソコンを見回ってプログラミングを丁寧に指導したためか、設問1～14の平均値と設問3～14の平均値はともに4点台前半であり、評価基準を十分にクリアしている。しかしこれに満足することなく、「使える技術的な知識」としてより深い内容に興味を持ってもらえるよう一層努力していきたい。さらには、学生がより効率的にプログラミング言語を身に付けられるよう工夫するなどして、満足度も高めていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析B
授業コード	42D10-001
教員名	奥田 隆明
教員コード	102600
登録人数	50
回答数	14
回答率	28.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

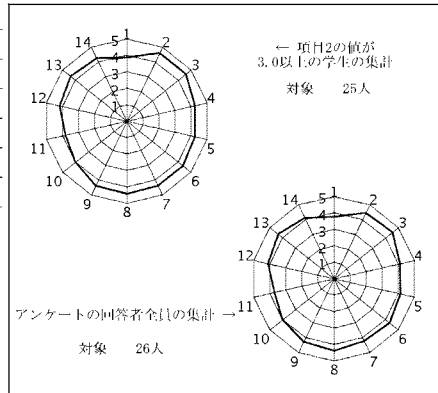


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、身近な都市（市区町村）を対象にして都市成長のメカニズムとそのマネジメントについて講義と演習を実施した。数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にも理解できるように、できる限り復習を行いながら授業を進めた。実際、受講生の目標理解（設問6）については平均値4.14（学部平均4.00）、目標達成については平均値4.00（学部平均4.02）となった。また、受講生の総合的な満足度（設問14）は平均値4.33（学部平均4.23）、質問全体での平均値4.33（学部平均4.23）と比較的高い値を示している。来年度は、今年度の経験も活かしながら、数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にさらに理解できる内容にすることを心掛けたいと考えている。また、授業内容についても、今年度は途上国都市を含めた幅広い内容としたが、来年度はさらに身近な都市を対象にしながら、イメージを持ちやすい内容にしていきたいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス・シミュレーション
授業コード	42D11-001
教員名	姜 秉国
教員コード	019547
登録人数	30
回答数	26
回答率	86.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



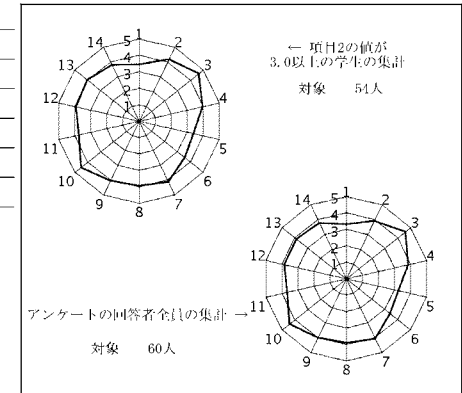
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は「不確定な要素を含む問題のシミュレーションシートが作成できるようにし、小規模なビジネス問題のシミュレーションができるようにすること」であった。学生の出席、またレポートと発表内容から、授業の目標は十分達成されたものと判断している。ただし、表計算ソフトの使い方に関して、生徒の習熟度のばらつきが大きい。中にはほぼはじめて表計算ソフトに触れるような生徒もいる。そのため、できるだけ講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていくことに努めている。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメントがあった。

- －自分の身になる授業だった。
- －将来役に立つことを学習できた点。
- －エクセルの理解が深まった。
- －わかりやすかった点。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営環境論A
授業コード	42E05-001
教員名	薫 祥哲
教員コード	018168
登録人数	103
回答数	60
回答率	58.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

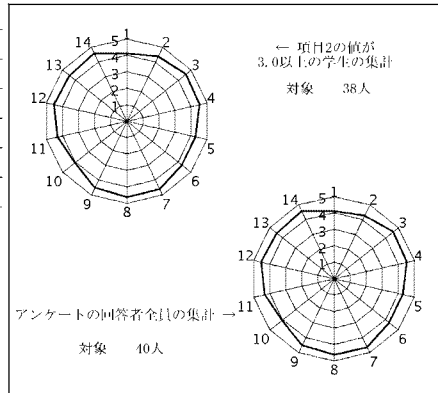
枯渇資源の最適利用、汚染問題、そして環境資源を公共財や共有資源として捉えた場合の最適な資源利用などについて、ミクロ経済学的なアプローチから講義を行った。また、環境税や排出権取引制度についてもその特徴やメカニズムを説明した。何ごとにも費用と便益が発生し、これらを比較検討してはじめて最適な環境政策が決定できることの重要性を理解することを目的としたが、概ねこの目的は達成されたと思われる。授業では毎回レジュメを配布し、その内容に沿って講義を進めた。学期中に2回の練習問題課題を出し、その回答を提出させた後、回答例を解説した。また、関連する新聞記事を配布することで、実際に社会で起こっている事例に触れながら理解が深まるように工夫した。

質問項目3～14の評価平均値は3.89、全体としての満足度を尋ねた質問項目14の平均値は3.77であった。例年と比較して、若干これらの平均値が下がってしまった。後述するように、自由記述欄で指摘された点に注意しながら、今後の改善に努めたい。

自由記述欄には、良かった点として「わかりやすいレジュメ」、「説明がわかりやすかった」というコメント以外に、「うるさい学生に対し、しっかりと注意し、授業が円滑に行われるように努力されていた点」という記載があり、雑談している学生をたびたび注意した点を評価してもらえた。これからも、これを続けたい。一方、私の体調の関係で、授業中にたびたび咳が出て、マイクにその音が入って不快感を与える事があった。多くの学生から「咳をするときはマイクを塞ぐなどの配慮をしてほしかった」といったコメントが書かれていた。この点については配慮が足りなかったため、今後、注意したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営倫理
授業コード	42E07-001
教員名	高田 一樹
教員コード	102887
登録人数	97
回答数	40
回答率	41.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

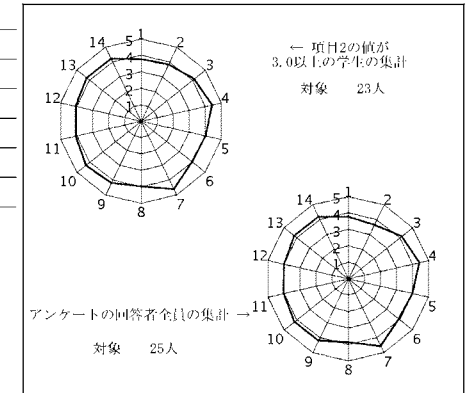


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本科目では、学生が経営倫理を学びつつ、批判的に思考する機会の提供に努めた。企業や組織に関するケースを使い、受講者の関心に従って倫理的な課題を見つけ、みずからのアイデアを述べたり記述したりすることを通じ、経営倫理への理解を深める授業を目指した。
- ② 今年度は100名弱が受講し、学生による授業評価では総合評価で4.41の評価を受けた。また自由記述に肯定的な感想が散見されたことから、授業の目標はおおむね伝わったと考えている。自由記述には、授業中の私語の注意への要望が散見されたものの、講義担当者としては成人に達する学生の自律に期するところである。そのほか倫理について深く考えることができたとのコメントもあり、さらに深く学びきっかけになることに期待する。
- ③ 欠席者に配慮し、授業内の配布資料をWebclass上にも掲載した。講義の進行方法や成績の評価方針を記したレジュメ、期末レポートの作成・提出ガイドも予定通り配布した。事前の課題が多いことについて初回時に重ねて予告し、また学生への作業負担に配慮して提出期間にも余裕を持たせた。自由記述には、視聴覚資料の使用やスライドの提示が興味深く印象に残ったとのコメントも複数寄せられたこともあり、引き続き、新たな教材開発と授業設計に努めたいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル・ビジネス論A
授業コード	42E11-001
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	36
回答数	25
回答率	69.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

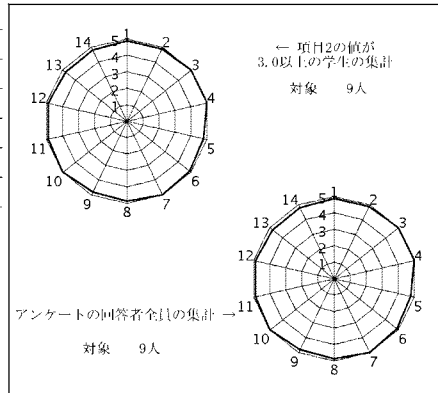


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本授業の目的は、国際経営戦略に関する基礎的知識を学ぶこと、国際経営の応用的戦略を学習すること、異文化環境における経営の実践を学習することである。授業は、テキストを利用し、レジュメおよび関連資料を配布し、ケースなどを利用して、休講・補講なしで、シラバスを終了しました。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。
- 設問1から設問2「授業への参加について」に関しては、2018年度第2クォーター全科目と経営学部の42001-001~42H04-999番台科目群とを比較すると、殆ど同様の評価を受けている。設問3から設問7「授業全体について」の平均値4.55、4.24、4.00、4.02、4.42 に対して、本科目の評価は、4.16、4.44、4.00、3.92、4.56となっている。設問8から設問12「授業の運営について」では平均値4.38、4.24、4.23、4.16、4.31 に対して、本科目は3.88、4.20、4.20、4.04、4.00となっている。設問13から設問14「全体的な評価」では平均値4.26、4.18 に対して、本科目は4.20、4.20となっている。また、設問15から17「自由記述」では、「先生が分かりやすい解説のプリントを配ってくれた；内容は面白かった；授業内容に沿った資料が配布されていて理解しやすかったです；授業内で課題が出され、それをもとに自分の言葉で知識をフェードアウトする機会が設けられていて、良かった；章の終わりに、アウトプットする取り組みや小テストがあったため、どのくらい自分が知識を得たのかを実感することができた；配布資料を配ってくれてわかりやすい」、など
- 以上から本科目の評価は、2018年度第2クォーター全科目と経営学部の42001-001~42H04-999番台科目群とを比較目群と比較して、良いと思っている。私の努力・労働を考えると、この評価数値について満足ができない。授業時間内には私語、遅刻、無断早退や授業以外の内職などがあったが、適切な注意をかけた。今後もより高い水準をめざして様々な改善を試みる。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション2
 授業コード 42G03-002
 教員名 BIERT, Thomas
 教員コード 102517
 登録人数 10
 回答数 9
 回答率 90.0%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

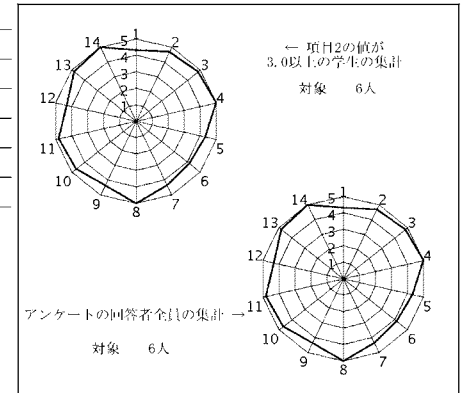


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Most students did well or very well on ongoing and formative assessment tasks and all students did very well on the final assessment in this course. This shows that through a combination of my guidance and their efforts, the students were able to achieve the goals set out in the syllabus.
2. The students in this course seem happy with the class and the atmosphere is good. They appear to be making improvements in their English skills. The numerical data supports this impression with scores on all items being 4.78 or above and no individual responses less than a 4. Scores on all items were higher than campus and department averages, including for classes of the similar size. In comments, one student mentioned that it is easy to participate in the class. The only negative comment was regarding the elevator service to the 6th floor being delayed frequently.
3. As always, I am striving to regularly get direct feedback, observe my classes, and improve both the general atmosphere and the achievements of the students. I continue to incorporate new pedagogically-appropriate techniques and technologies whenever possible.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIリーディング3
 授業コード 42G04-003
 教員名 HEATHER, James
 教員コード 103649
 登録人数 7
 回答数 6
 回答率 85.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

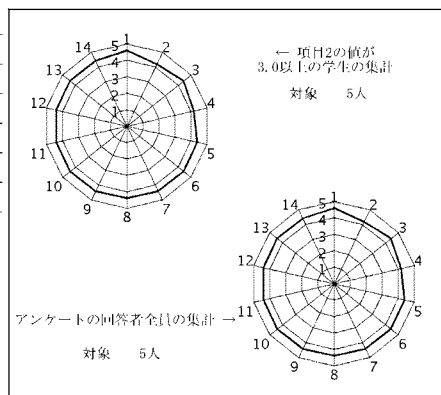


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- We completed all of the course goals as set by the Department of Business Administration. The goals themselves were not difficult to achieve thanks in part to the attitude of the students. One thing we didn't do in class so much was quiet reading. It was written as part of the syllabus and I think we could have done more of this.
- Reading is never an easy course to be in charge of because it is a rather staid subject. Some weeks the students completed all of their tasks with no trouble, however other weeks students were busy with extra-curricular activities and couldn't complete their required reading/assignments. Towards the end of this Quarter it was clear that the students were getting tired of doing so much reading for homework. I think I motivated them enough to complete the course with success.
- In the future I wish to create some more fun and lively activities related to Reading. Moreover, while I believe the textbook was actually perfect for the level of students, I feel most of the students didn't benefit from its use. I will take some time to try and find an alternative textbook that also covers Reading but perhaps with a more Business Management major focus.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語で学ぶ経営学(マーケティング)
授業コード 42G22-001
教員名 湯本 祐司
教員コード 017533
登録人数 13
回答数 5
回答率 38.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

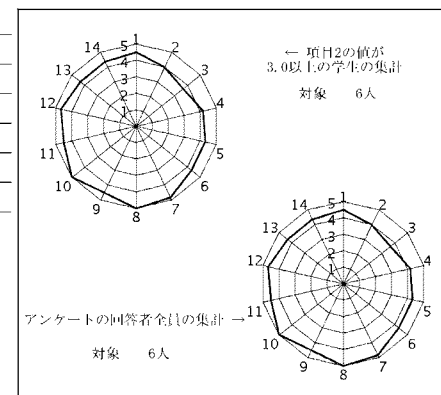


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は英語で価格戦略の基本的な理論や考え方および事例と価格戦略の理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択科目であるが、外国学部英米学科の学生も2名登録した。学生の報告、授業毎のワークシートおよび期末レポートをみるかぎり、きちんと出席した学生は目標を達成している。授業評価では履修登録者13名のうち5名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はそれぞれ4.39と4.38であった。また、すべての設問の平均値は4.20から4.60の間にある。自由記述欄には、「一人一人に対してしっかり英語を教えていただき、学習しやすかった」「先生の説明が非常にわかりやすく、教材も面白かった」など好意的なコメントのほかに、「教科書が高かった」というコメントがあった。教科書として指定した洋書はおよそ2400円であり、この程度の負担は学習のために仕方ないと思う。今年度は途中から専門用語等の日本語訳を渡したが、次年度からは事前に渡しておき、学生達の報告の質を高めると同時に彼らの価格理論の理解をより深めたいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計学 / Accounting
授業コード 48C14-001
教員名 安田 忍
教員コード 101561
登録人数 7
回答数 6
回答率 85.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

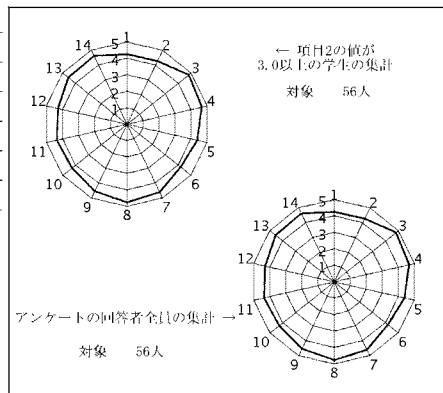


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、第1に、複式簿記によって基本的な会計取引を記録し、会計情報である財務諸表を作成するプロセスを理解すること、第2に、財務諸表によって示される内容と利用方法を理解することにあった。今年度初めて開講される科目であるため、手探り状態であったが、幸い受講者が少人数であったため、学生の様子を見ながら進行することができたので、定期試験の結果からみて、当初の目標は概ね達成できたと思われる。本科目は、国際教養学部を開講主体としているため、①英語を取り入れること、②アクティブ・ラーニングを取り入れることの2つの条件が課されている。①の英語を取り入れるため、国際会計検定(BATIC: Bookkeeping and Accounting Test for International Communication)を想定した英文会計を教材としたが、日本商工会議所簿記検定3級程度にも対応できるよう意図したところ、15回での範囲として少し多かったと反省している。学生の自由記述にもそのような記述があったので、次回からは内容をより厳選していかなければならない。また、アクティブ・ラーニングもグループでの検討による練習問題の解答と発表・解説に終わったが、集団のなかで自ら考えて方法を導き出すような力を養う問いかけをしてゆきたい。授業評価自体は、少人数であったため、概ね良好であったが、上記の反省に立って、次年度は授業内容を工夫したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済と人間の尊厳2
授業コード	10D04-002
教員名	長谷川 一年
教員コード	103576
登録人数	188
回答数	56
回答率	29.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

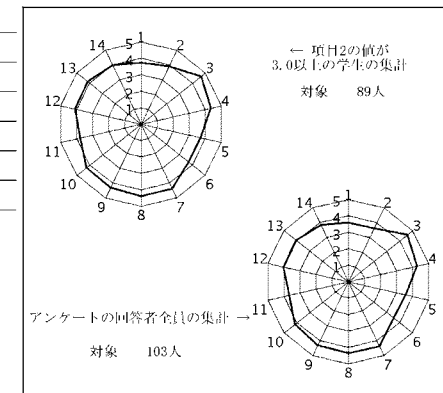


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は、a) 国内外の政治について基本的な知識を身につけることができる、b) 「人間の尊厳」を実現する政治・経済・社会とは何かについて議論できる、c) 映像資料を読み解く作法としてのメディアリテラシーを習得できる、という三点であった。そのうち、aについては、日本はもとより、アメリカの民主主義、ドイツ政治とナチズム、フランスの移民問題、アフリカにおける人道的介入、イスラム教とイスラモフォビアなど、幅広いテーマを扱うことができた。期末試験答案から判断する限り、b・cについても、映像を通して「人間の尊厳」について真剣に考えた様子がうかがわれる。
- ②数値データおよび自由記述をみるかぎり、おおむね問題なく授業を終えることができたと考えている。
- ③自由記述で指摘のあったレジュメの必要性については、今後の検討課題としたい。また空調の問題については、大教室ゆえに場所によって温度差が生じている可能性があるが、授業時に指摘があればすみやかに対応したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法2
授業コード	12C03-002
教員名	三上 佳佑
教員コード	103637
登録人数	209
回答数	103
回答率	49.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

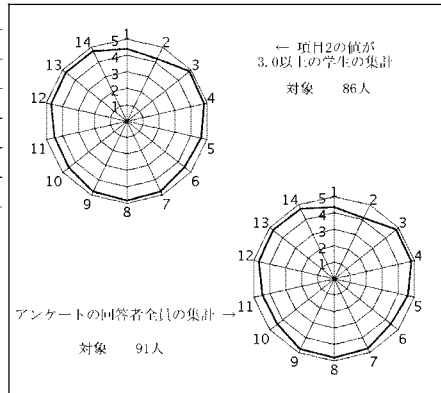


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度に関しては、シラバス記載の内容に関して教材作成を行い、当該教材に関して全回の授業を用いて講じ切った点からみて、時間切れになったわけではなく、主観的には十分な到達度を持っていると考える。ただし、昨年同時期・同規模の本講義に比べると、学生全体の成績が著しく悪い気味があり、客観的には十分な到達度とは評しえない可能性がある。
- ②学生による授業評価の数値データに関しては、昨年同時期・同規模の本講義よりも向上している（昨年度は評定平均値3代。今回は4をわずかが超えている）。法学を専門としない学生を対象として200人を超える大規模な講義で一定以上の満足度を得られた点で、総合的には、よい授業づくりができたものと自己評価できるのではないかと考える。昨年度に比べると、レジュメ内容をスリム化・直線化して、教科書内容への準拠度を高めたことが、学生による授業への印象の度を向上させるに功を奏し、ひいては授業評価アンケートの評定値向上にもつながったのではないかと考えている。
- ③学生による自由記述を参考にして今後の改善を図ることが重要なのであろうが、同一の内容に関して評価が真っ向から対立する声が出ていて悩ましい。「向上心のある学生を伸ばす」か「護送船団方式」で行くかが悩み所である。大学である以上前者が筋であろうが、一考を要する。なお、「教室のざわつき」は私・学生とも、今年から不満感が出始めた。去年よりも全体の成績が落ちていることと考え合わせても興味深く、教員の側も学生の側も、態度変革が求められている可能性がある。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生命と倫理問題2
授業コード	13A03-002
教員名	森山 花鈴
教員コード	103223
登録人数	184
回答数	91
回答率	49.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

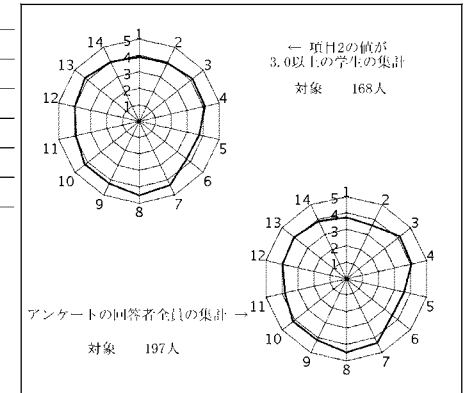


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標については到達していると考え。生殖補助医療をはじめとする生命と倫理問題について、学生自身が深く捉え、考えて続けていることがリアクションペーパーや課題から見る事ができた。
- ②すべての設問において、大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値を超えることができた。これは以前からの課題であるが、設問1～14の平均4.61（設問3～14の平均は4.67）となっているものの、その中で設問2の予習・復習の項目については4.11とやや低いため、予習・復習用の課題を新たに設けるなど改善していきたいと考える。
- ③自由記述欄では、受講者数は多いもののリアクションペーパーを通じて毎回学生からの質問に答えていたことに対して、「質問に丁寧に答えてとてもわかりやすかった」「リアクションペーパーの質問に丁寧に対応していた」等の評価が非常に多かった。オリジナル教材や映像教材も併用した点に対する評価もあがっており、「説明がとてもわかりやすかった」「毎回魅力的な話がかった」との評価も多かったので、今後もわかりやすい授業を心がけていきたいと思う。さらに、一方的な授業にならないよう、引き続き授業運営の方法を適宜見直していきたいと考える。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	憲法B
授業コード	44A06-001
教員名	菅原 真
教員コード	102064
登録人数	305
回答数	197
回答率	64.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

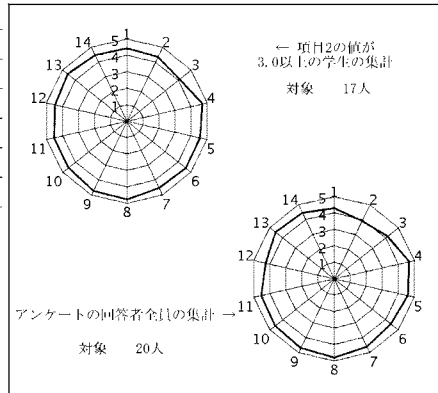


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、Q1の「憲法A」の続きの人権領域について体系的に学ぶことを目標とした。特に「歴史」と「比較」の観点を重視しながら、種々の憲法問題に対して学説・判例の展開を中心に理解をすすめられるよう心がけた。そのため、毎回、詳細なレジュメと資料を配布し、可能な限りわかりやすい説明を心がけた。法学部1年生にはやや難しい理論的な内容も入れたが、概ね授業目的は達成できたと考える。Q1の「憲法A」の学生による授業評価アンケートで出された意見のうち、①90分は長すぎて集中できないという声が多数あったことから、途中で5分間の休憩を取ったこと、②より理解を深めるため、映像資料を交えて講義を行ったこと、③マイクを学生に渡して発表させることで緊張感が保たれたこと、④判例等の解説がわかりやすいなど、好意的な声が多く記されていた。Q2に入り、授業に毎回真面目に出席し勉強する学生と、時々しか来ない学生とに分かれるようになった。本科目は、事実上1年生の必修科目となっており、300名以上の受講者がいるため、双方向授業等を取り入れることにはなかなか困難があるが、引続き努力をしていきたい。なお、学生授業評価アンケートには、大学生は生徒ではないということを繰り返し指摘しているにもかかわらず、自分たちのことを「生徒」という者が多くおり残念である。また、「出席点」を付与せよという声や、予習も復習もせずにもっと楽しんで単位を取りたいという声もあるが、大学における学問は自主的・主体的な学びが大事であり、点数至上主義的発想に私は抵抗する。人間の尊厳を柱にすえて教えているはずなのに、定期試験の解答をみると、刑事収容施設にいる犯罪者は社会に役立たずコストも問題だからという理由で、いとも簡単に死刑に賛成する見解や「人権」そのものを否定するような見解が多々見られ、自分の力のなさを実感せざるをえなかった。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑事政策
授業コード	44B12-001
教員名	水留 正流
教員コード	101566
登録人数	52
回答数	20
回答率	38.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

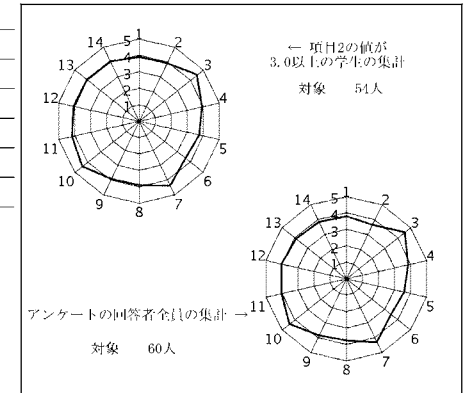


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目では、統計その他様々な素材を用いて、犯罪者処遇の問題を多角的に把握することを目標としていた。設問5が4.60と高得点を得たことからすれば、この到達目標は学生にうまく伝わったと考える。
2. 全設問の平均値が4.47ということで、学生からは一定の評価を得たものと思っている。とりわけ、授業構成・進度にかかる設問4や授業進行の適切さにかかる設問9（いずれも4.70）の高評価は喜ばしい。
ただし、アンケートの回答率が38.5%と、31～60名登録の科目の平均回答率50.8%と比して著しく低いことを考えれば、今回の評価は手放しでは喜べない。その要因のひとつに、今回の授業登録者の65%が4年生以上であり、Q2に開講したと相まって、全体的に見て出席率が非常に低かったこともある。ただし、アンケートの自由記述欄に記入してくれた学生が1名だけだったことも考慮すると、出席者全体の傾向として、この授業に興味を持ってくれる度合いが、数字に表れるほどには高くなかったのかもしれない。この点は、今後、よく検討したい。
3. 以上のような留保を付けつつも、今回の評価を今後とも維持できるよう、授業を工夫していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際法総論A
授業コード	44B13-001
教員名	洪 恵子
教員コード	103537
登録人数	234
回答数	60
回答率	25.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

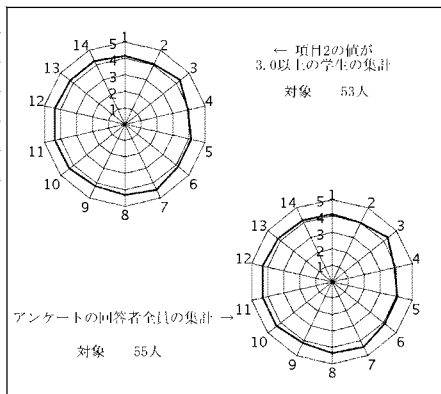


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①②この授業は「実定国際法の内容に関して知識が増える。現実の国際関係と国際法の接点を見出すことができる」ことを到達目標としていた。後者を達成するために、毎回、時事問題を取り上げ、その国際法問題を指摘し、さらに学生に意見を聞くなどした。自由記述欄でこの方式を評価する意見がみられたことは、私の意図が伝わったものと理解している。また高い評価を得たのは、時間を厳守したこと、授業に真剣に取り組む姿勢、学生の授業態度を注意したこと、質問に丁寧に答える点など、私自身も重要と考えている点であり、それが伝わったことは安堵している。他方で、改善を求める自由記述の多くは、授業の改善に役立たない意見であり、残念である。レジュメや判例の音読など、授業開始時に説明してあるものについて不満を述べているのは、おそらく授業にあまり参加していないのではとの疑念を抱かせる。またこの点に関連して、一般的な問題として、学生に授業の「改善」について意見を求めるという質問方式は適切ではないのではないだろうか。授業を受けていて困ったことは何か、を聞くのは有益であるが、「改善すべき」というのは、そもそも良くないところを尋ねることであり、受講生と教員との間に信頼関係がなければこうした質問はなりたないように思われる。③次クォーターも200名といった大人数であれば、アンケートで指摘されていたマイクの問題など、技術的な問題にも注意を払いたい。また大事なことは繰り返し説明することで、欠席の多い学生にも対応せざるを得ないだろう。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 契約法B
授業コード 44B18-001
教員名 平林 美紀
教員コード 100773
登録人数 296
回答数 55
回答率 18.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度と同じ科目につき、同じクォーターで評価を受けたが、教員に対する全体的な評価（項目3から14）は、0.3ポイント以上下げた（4.58→4.22）。昨年度と比べ今年度は受講者数が2倍となったこと（296名）も作用していると思われるので、昨年度の評価ではなく、受講者の似通った今年度Q1の評価と比べて、以下、振り返っておきたい。

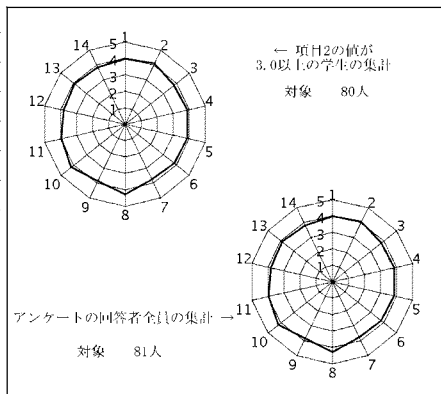
全体としての評価は、Q1との比較でも若干下げた（4.27→4.22）。Q1の自己点検の際に約束した項目7（担当教員の取組態度：4.39→4.42）については、緊張感を持って授業に取り組んでいたつもりであるので、わずかとはいえ評価をあげたことに安堵している。また、項目11（学生の意欲を引き出す工夫等）が上がったこと（4.19→4.33）、自由記載欄には、いつもながら「わかりやすいとの声が多かったことは嬉しかった。

しかし、もう一つの約束であった項目3（授業の開始・終了時間）についての評価は下がった（4.43→4.33）。自由記載欄では、遅刻はなかったつもりであるので、もっぱら終了時刻の問題であろう。実際、「チャイムが聞こえないのか終了時間が守られないことがあった」との趣旨の指摘があった。私の身体的な問題かもしれないが、S21の教室のチャイムが聞こえにくいのは確かなので、自分自身の時計でも確認するなど、容易に取り組めることから改善に務めたい。

ただ、終了時間をオーバーしてしまうことがあったのは、話し足りない、時間がないと焦っているという別のより本質的な要因があるためではないかと自省している。改正法の割合を増やしたとはいえ、現行法のことに引き続き触れる必要もあるため、容量オーバーになっていることは否めない。こうしたことが、項目4（毎回の授業構成・進行速度）がついに4を下回るという低評価に繋がっていると思われる。進度については、自由記載欄への書き込みによると、ゆっくりすぎるという声、早すぎるという声の両極があるが、「進むスピー

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会社法B
授業コード 44B24-001
教員名 家田 崇
教員コード 102459
登録人数 317
回答数 81
回答率 25.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

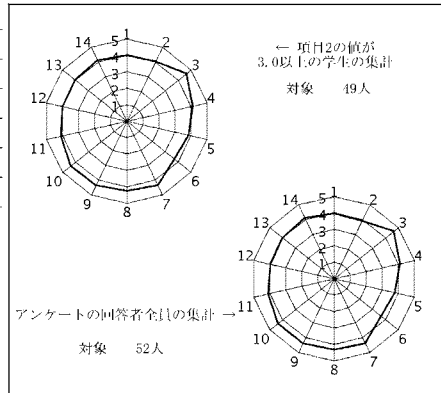
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
リアクションペーパーを導入し、双方向型の思考を目指す目標を設定し、こちらについては一定の理解があるものの、さらに改善すべき点があるか、課題を検証して行く。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
予習復習と、リアクションペーパーのフィードバックが課題となるのではないかと考えられる。
確実な知識定着には、なんらかの形でのノートテイクが欠かせないと考えられるが、その形態などさらに効果的な方法がないか検討して行く。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
論述力の習得と、確実な知識を体系的に身につけることの達成を限られた時間数の中で、どのように実現できるのか検討して行きたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法哲学A
授業コード	44B31-001
教員名	服部 寛
教員コード	103600
登録人数	238
回答数	52
回答率	21.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

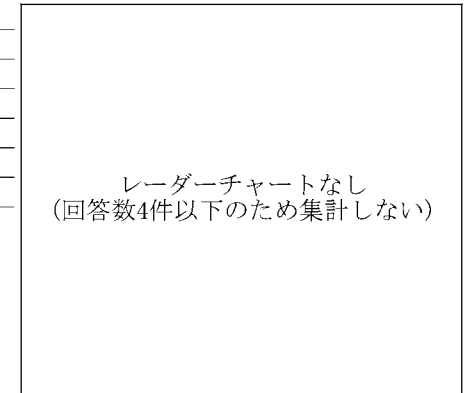
①シラバスに掲げていた授業計画から若干遅延気味ではあったが、後半で遅れを取り戻し、内容については、15回の授業で概ね当初の予定を扱うことができた。このこともあり、「学習の到達目標」については、シラバスに挙げた、開講当初の2つの目標を達成できたものと思われる。受講者の受講態度も、大変まじめで、授業の遂行については（大きな）支障は無かった。

②昨年度の反省を踏まえ、本講義の前提となる、世界史の基礎知識について、資料集を活用しながら、歴史的展開と法思想の動向との交錯について、分かりやすく説明するよう心掛けた。また、授業のあり方についても、淀まないよう、話し方などに改善を行った。この結果、数値データにつき、ほとんどの項目で、想定していたよりも、大きな前進が見受けられた。正直、数値が異様とも言うべきほど良くなっていることに、一抹の不気味さを感じることも禁じ得ない（蛇足だが、《授業環境、とりわけ空調の管理が、学生の授業評価を「ほとんど左右する」といってもよいくらい、重要なファクターとなっている》という仮説を立てられるほどである）。ともかくも、結果に甘んじることなく、より意欲的に受講してもらえよう、改善を試みたい。

③内容としては、扱う諸テーマの分かりやすさの追求と、現代の法哲学の問題に連なる点をより多く扱い、過去の法思想史の重要性を説得的に提示できるようにしたい。形式面でも、メリハリをつけるなど、平板とならないよう、工夫したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読A（英語）1
授業コード	44B50-001
教員名	副田 隆重
教員コード	045880
登録人数	8
回答数	3
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、登録者8名で、目立った欠席者も休講もなく実施されたが、学生による授業評価に関しては、回答数が3件のみであったため、集計の対象とならず、個別の意見も寄せられていない。授業時間中に何回もランダムに訳が当たることと、四半期末には訳文を提出することなど、予習や復習の負担はそれなりに存在したと思われるが、全員がクリアできた。訳については、実体を理解することを心がけるよう促し、そのためにも主語、動詞…という文章構造を把握するように促した。もともと、各回の受講学生による訳文や提出された訳文では原文に拘泥しすぎで、あるいは、一つの単語について複数ある訳の内では適切ではないものを選択したため（多くは辞書に一番初めに掲載されていた訳か？）、しばしば意味不明のものが見受けられた。集計はなされていないものの、結果的にはほとんどの項目が「5」という肯定的な評価を受けている。当初予定したテーマについては、時間がなく積み残した部分もあるが、日常表現というより法律や裁判に関わる英文になじむという趣旨は達成できたとすれば幸いである。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読A(英語)5
授業コード	44B50-005
教員名	王 冷然
教員コード	103577
登録人数	12
回答数	4
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

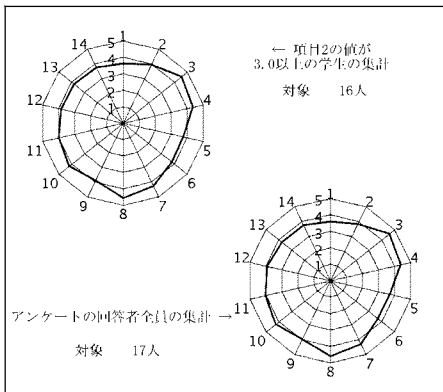
当該講義では、アメリカの学者により書かれた約款に関する本を使って、学生たちに法律の英語文献を読む力を身につけてもらうとともに、英米法上の契約理論や約款理論を学習させることが設定目標である。毎回の講義は、事前に指定した英文の翻訳を全員に提出させたうえで、英語文献の音声を聞かせて、段落ごとに学生にその場で説明させ、わからなかった法律用語や意味、文法などについて解説する形で進行していました。受講生が少人数であり、それぞれの学生の学習状況を把握し、それに合わせて進度ややり方などを調整しながら講義を進めることができた。当初の設定目標はほぼ実現できたと思われる。

学生からの評価データがなかったため、学生たちの具体的な評価を把握することができないが、講義中の学生たちの反応や話などからみると、法律の英語文献を読む力が鍛えられ、英米法の知識も習得することができたと思われる。

来年度以降は、学生に翻訳文を提出させ、講義中に説明させるといったやり方が継続し、学生の多方面の能力を鍛えるために、学生たちに英語文章を読ませたり、内容に関する自らの意見を述べさせたりというやり方も導入しようと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	企業法務
授業コード	44C25-001
教員名	佐藤 勤
教員コード	101599
登録人数	75
回答数	17
回答率	22.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



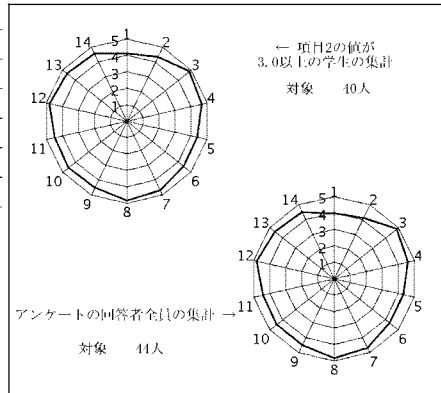
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価項目の設問1(履修前の興味)および設問5(到達目標の理解)が3.59および3.71と極めて低く、時間割の関係から履修していると思われる学生が非常に多いことに驚かされた。本授業は、会社法および民法契約法の理解を前提に、企業などでの法令遵守の基本を学修することを目的にしたものである。したがって、これらの授業での基礎知識をもとに、企業の不祥事への対応方法や重要な法令などを理解するもので、発展的な内容である。興味がなく、かつ到達目標がないことから(設問1および設問5の評点)、当然の帰結として、設問6、設問13および14の評点は、低くなる。学生の履修科目選択方法の改善が望まれる。なお、設問1および設問5の評点5を選択した学生が約30%いるので、今後、このような学生が増加することを期待する。

設問9(教科書などを効果的に使用したか)の評点が3.94と低かった。本授業は、他の科目と異なり、学問的に確立したものではなく、適切な教科書がない。このことは授業最初に説明し、適宜参考となる資料や判例(事例)を配布し、説明を行ったが、その意図が伝わらなかった。次年度以降は、さらに授業の進め方や参考資料を効果的に使用するよう、心がけ、授業を進めることとする。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治行動論
授業コード 46N08-001
教員名 野口 博史
教員コード 100473
登録人数 115
回答数 44
回答率 38.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

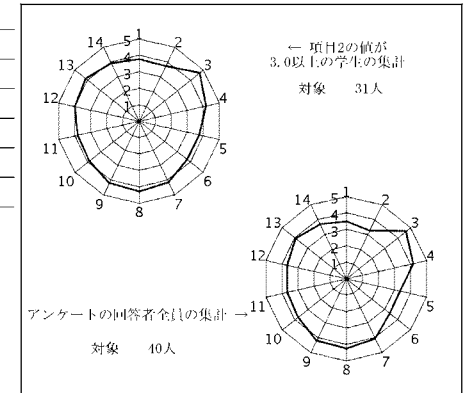
本講義の目的は政治体系論にもとづいて現代政治学の主要理論を理解し、修得することである。定期試験結果からみる限り、良好な成績をおさめたものこそ例年よりやや少なく10%程度だが、単位取得率は受験者中95%であり、その目的を達成したと考えられる。

学生による授業評価の回答率は40%と昨年同クォーターより低下していることが気になるが、いずれの設問も昨年より上昇しており、昨年3点台であった設問5が4.34、設問6も4.32となっており、この結果、設問13が4.11であったのが4.61、設問14も4.16であったのが、4.50となっており、授業改善がおおむね成功したと考えてよいようだ。

しかしながら、自由記述欄の回答計6件のうち、改善すべき点2件はいずれも昨年同様、早口に関するものであった。従来から当報告書に記しているように、10年程度以前には最大の指摘であり、4～5年かけてこの指摘がなくなったものの、昨年から復活している。以前から報告者の講義における長期的課題であり、今後、より意識的にゆっくりとした説明を心掛けてゆきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地方自治論
授業コード 46N14-001
教員名 洞澤 秀雄
教員コード 102443
登録人数 125
回答数 40
回答率 32.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

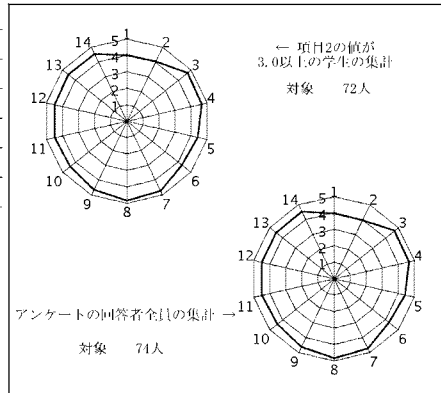
地方自治について、全般的に扱う講義を行うことを内容とする講義であるが、法学部生ではない学生向けであるため、地方自治の法制度を扱いつつも、極力、法学固有の難しさを避けることを、開講当初からの目標としていた。また、レジュメも詳しく説明する一方で、分かりやすくするために、具体的事例を盛り込んだりと工夫をして、講義に挑んだ。

数値データとしては、概ね4点台であり、自分の他の法学部での講義でのこれまでの結果と比べると、少し低めの評価をいただいた。評価が低かった項目としては、設問2の主體的な学びができたか、設問6の力が付いたかといった項目である。主體的な学びができるよう、考える問題を提示したりし、また、丁寧な説明を心掛けたが、改善の余地がありそうである。

他方で自由記述欄では、説明については、図を用いたり、丁寧な説明をした点を評価する意見が見られる。レジュメについては、詳しい点を評価していただいた一方で、より一層の工夫を求める意見（見やすさ、誤字脱字など）も散見された。来年度以降、こうした意見を参考に、レジュメをブラッシュアップし、法学部制以外の学生への法制度についての丁寧な説明などにおいて、より一層の改善を図っていく所存である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳2
 授業コード 10D01-002
 教員名 山田 望
 教員コード 000211
 登録人数 161
 回答数 74
 回答率 46.0%
 休講回数 1 回
 補講回数 0 回

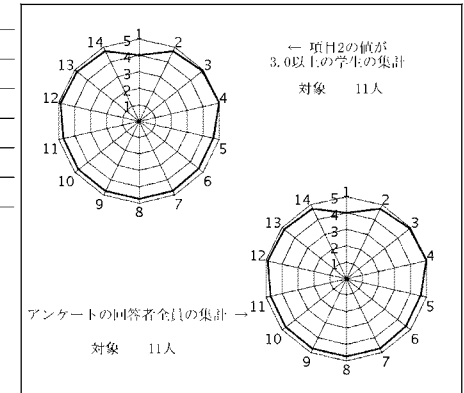


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、本学の建学の精神である「人間の尊厳のために」を反映させた授業として開講される本学独自の科目である。本科目の目標は、キリスト教における人間観について学びながら、建学の精神である「人間の尊厳」について理解を深め、自分なりの考察ができるようになることである。その点で、設問13が本科目全体の平均値よりも3ポイント、設問14が8ポイント上回っていたので、ほぼ、開設当初に設定した目標は到達できたと考えている。今回、他の科目に比して、平均値を下回っていた設問が3つあった。その二つは、設問1の、履修前に学生が「授業の内容について興味を持っていたか」を問う設問で、人間の尊厳科目全体平均値を11ポイントも下回っていた。また、設問2の、学生が、「予習や復習を含め主体的に参加し内容を理解しようと努力したか」という設問についても、9ポイント下回っていた。ということは、本科目について、学生は、履修前の段階では相当興味を持っていなかった、ということ、また、履修中も、主体的な学習ではなく、どちらかといえば受動的な学習になっていたとことが窺える。しかしながら、設問13や設問14では、最終的に平均値を大きく上回る結果になっているので、授業内容を通して、学生が科目の内容に興味を持つようになったということが確認できる。この点は、自由記述による評価でも確認することができており、概ね、自由記述を記した全員が、教員が「体験を交えて話してくれたので分かりやすかった」という趣旨の記述を書いている。平均値を下回った残る設問は、設問10の、私語、携帯電話、遅刻などに対して適切な対処がなされていたかを問う設問で、平均値よりも5ポイント下回った。特に遅刻や授業中のスマホ使用に対する対処の仕方を、今後をもっと工夫したいと考えている。（補講回数が0となっているが、補講時間の確保が難しかったため、課題に答える形の補講レポートを提出させることで補講の実施とした。この点について、教務課にあらかじめ伝えておくことができなかった。補講措置について、学生は全員が了解済みである。）

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(総合)1
 授業コード 11L12-001
 教員名 山口 和代
 教員コード 049726
 登録人数 12
 回答数 11
 回答率 91.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

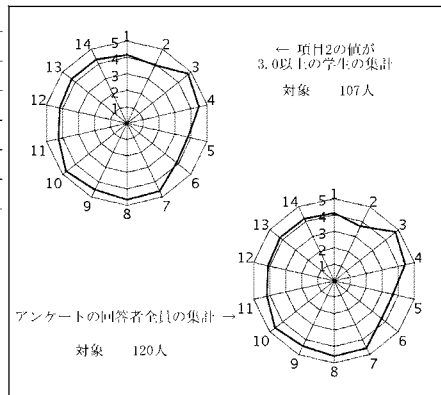


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では専門科目を履修する際に前提となる社会的トピックに関する基礎的な知識を学びながら、学期中に3回発表し、発表内容をまとめてレポートを書くという作業を行った。週2コマの授業で行う作業は非常に多いが、能動的学習により知識と技能を活用し身に着けることを目的とした作業を行う宿題を多く課した。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、1項目が4.00であったが、この項目は履修以前に授業に興味を持っていたかどうかを問うものであった。それ以外は4.64から5.00という結果で、履修によって力がついてきているという項目も4.64であったことから、学生たちが授業の目標を理解し、真摯に授業に取り組んだことが伺われる。以上から判断する限り、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。自由記述欄に記入してくれた学生が5人いたが、専門的な言葉や表現をビデオを使用して学ぶことで、難しい日本語レベルの能力が身につくなど、いずれも授業内容を肯定的に評価する内容であった。ただ、さらに内容への説明を求める改善点への要望もあり、扱うコンテンツが総合政策学部の講義に準じたものであるため、難しいと感じる学生もいるようである。さまざまなレベルの学生の能力を少しでも高めるために、今後も学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるよう、工夫をしたいと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学A3
授業コード	12A01-003
教員名	中島 靖次
教員コード	000246
登録人数	244
回答数	120
回答率	49.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



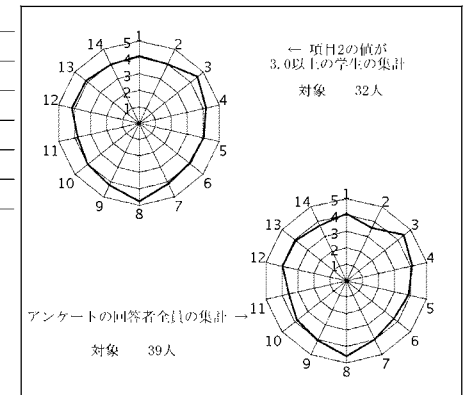
授業評価結果を踏まえた点検・評価

自由記述を見ると、概ね授業の目標は達成されたように思われる。たとえば、「今までとは全く違う考え方が持てるようになった」や「これからの人間としての生き方に直結」したとあるとか、「他人に対しての考え方が変わった」などの表記は、この講義が掲げていた以下のような目標、「自らについて考えるとは、どういうことか」、「よりよく生きる」とはどういうことか」について「自ら考える」行為ができるようになることを、ある程度達成できたと考えることができる。授業の方法としては、専門用語の説明をひたすらするようないやり方を取らず、様々な視覚情報や日常的な事象を出発点にして、そこに伏在する問題を哲学的に考察するというやり方を取っているために、掲げられた目標を達成やすかったと思われる。また、以下のような自由記述、「身近なことをテーマにしてありながら難しいことに入っていくのがとてもやりがいのあるものでした」という指摘は、こちらの授業の狙いをよく受け止めてくれた結果と評価しうるように思われる。

しかしそうでありながら、一方で第5と第6の項目において、いずれも4ポイントを下回ってしまったということが、上記の評価を手放しでは受け取ることができないことを示している。理解する問題としてはやはり難しい内容であり、それを理解した実感としては、確実なものを獲得しえたとはなかなか言えないということかと判断できる。「哲学すること」そのことを理解するというのは、学生諸君の授業内容を踏まえた今後の思考の実践いかにゆだねられるという側面もあるかと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相3
授業コード	13C06-003
教員名	金網 基志
教員コード	102923
登録人数	99
回答数	39
回答率	39.4%
休講回数	0 回
補講回数	1 回

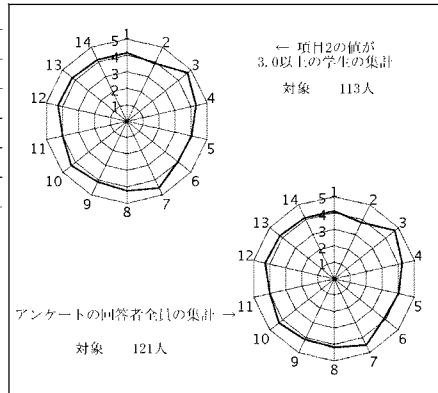


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度の同一科目の評価に比べて、ほとんどの項目で評価がアップした。自由回答欄を見ると、グループワークを取り入れている点、学生にエクササイズを考えさせ、それを発表させている点、DVDを視聴させている点などで評価されている。学生参加型の講義を目指しているが、その点が評価されていたのではないかと考えている。また、授業に取り組む姿勢、声の聞き取りやすさの評価が高かった。批判的な意見としては、プリントを用意してほしい、穴埋めした資料をWebclassにアップしていると、出席する意義が感じられないなどのものがあつた。プリントをWebclassにアップしているのは、Web機能の活用能力の向上を学生に期待していることもあるが、評価にはつながっていないようである。また、穴埋めした資料をWebclassにアップしているのは、就職活動などの事情で授業に出席できない学生への配慮のためである。共通教育科目の評価は、学科科目と比べて低い傾向にあるが、なぜそうなっているのかについて今後検討していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際政治学B
授業コード 44B48-001
教員名 POTTER, David M.
教員コード 100098
登録人数 382
回答数 121
回答率 31.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



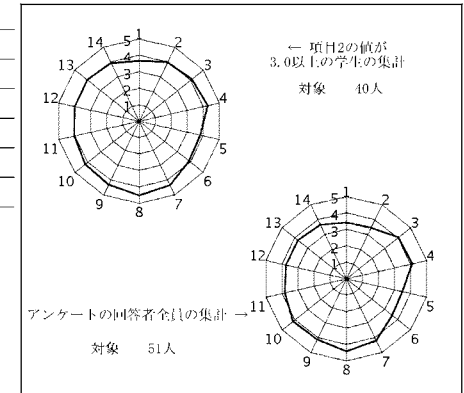
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is the second half of a survey course on international politics that covers institutions, policies, and actors. The course was huge this time, with nearly four hundred students enrolled, one of the largest I have ever had to teach. The evaluations were generally positive, especially given the fact that this is a general studies course. The student comments indicated that they found the content interesting. Based on student comments I will try to do the following in subsequent versions of this course:

- 1) change the pace of the lectures to better allow students to write information presented in powerpoint slides
- 2) work to achieve better correlation between the textbook and lectures
- 3) better clarify lectures and readings to follow each lecture

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東洋と文明
授業コード 46B07-001
教員名 原田 直枝
教員コード 018754
登録人数 117
回答数 51
回答率 43.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

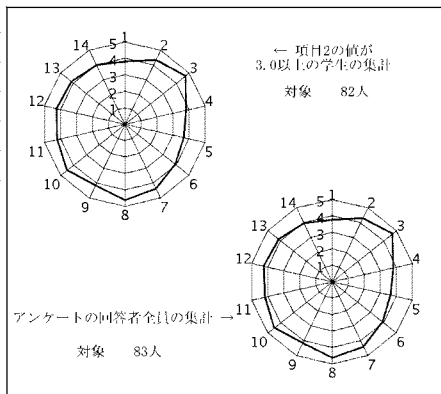
(1) この科目の授業目標としては3点、「1. 東洋という言葉の背景について理解する」「2. 「東洋」という考え方における日本の立ち位置について理解している」「3. 東洋と文明に関する文献を理解することができる」を掲げた。授業では、この3点の到達に必要な資料を随時使用し、担当者としては、繰り返しを厭わずに重要な事柄を指摘し、確実に理解されるように努めたという実感がある。授業後に学生が提出するリアクションペーパーの記述を信頼するならば、学生の側でも一定の手ごたえを得られているようであった。但し、これに関する設問項目5, 6の数値は到底高いものとは言えず、実態を把握しきれていなかったのかも知れない。

(2) 授業では、次回使用する文献資料をその前回に配布し、授業前に予習することを学生たちに求め、授業ではその予習を前提に解説や説明を加える形式をとった。学生の側における予習・復習等の自己評価に関する設問項目2の数値が3.0以上の学生たちの評価数値が全般的に（全回答者の数値より）高いのは、そうした比較的積極的に臨んだ学生たちにおいて授業の方法・内容が一定の満足を得てもらえたのであろうと推測できて、うれしい。他方、全回答者の数値は、授業の運び方から内容、目標に至るまで、十分な理解を促すことができなかったことを表すと受け止める。

(3) この科目を開講するのは2回目で、担当者として内容準備、手法が充足しきれていない部分があることを認識している。次回の開講まで、それらを補い、万全な態勢で開講できるよう努力したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学
授業コード	46D01-001
教員名	水落 正明
教員コード	102745
登録人数	126
回答数	83
回答率	65.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

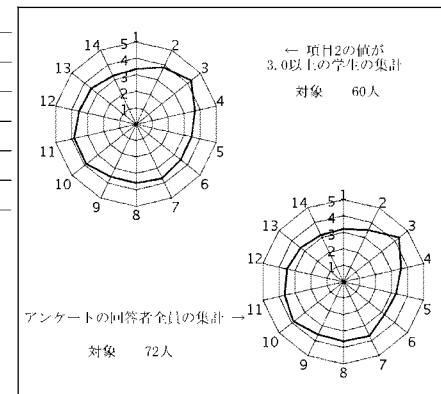


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業に対する総合的な満足度（設問14）が3.96と、総合政策学科平均4.13をやや下回る結果となった。また、全学の同規模の登録者数61～120名の平均4.13も、わずかに下回る結果となっている。統計学は、確率の基礎知識や公式の理解と暗記および実際のデータを用いての計算能力を必要とする、あるいは身につける内容であり、数学が非常に不得手の総合政策学部の学生にとっては最も難しい講義の一つである。統計学を担当するのは今年が初めてであり、どのような内容にするかについては試行錯誤な部分もあった。できるだけ授業内に計算練習を行わせたり、ミニテストを増やして次の授業でフィードバックを行ったりしたことが評価された部分もあったが、やはりこの分野の内容をまともに理解させようとすると、満足度は下がりやすい。自由記述の感想を見ると、進度が早いという意見が多かった。これも一長一短あり、全体を理解したあとでこそわかる部分も多いため、初年度の今年はやや早めに行ったが進度調整は次回の課題である。各質問項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14項目のうち、7項目で平均点を上回り、残り7項目で下回った。教室の構造上、学生からは非常に見にくいホワイトボードの位置になっており、その点についての意見もあったが、一教員としては如何ともし難いものであった。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域環境論
授業コード	46D15-001
教員名	前田 洋枝
教員コード	102264
登録人数	197
回答数	72
回答率	36.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

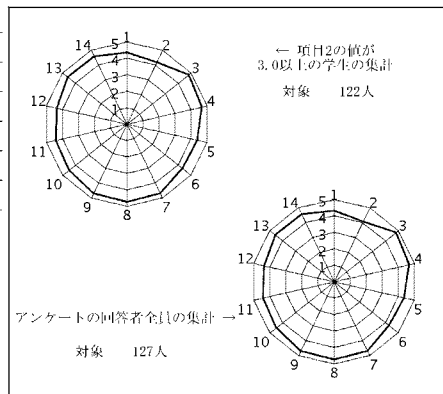
全体的にあまり高くない評価結果となった。自由記述欄での「改善すべき点」はコメント課題用紙の返却方法、配布資料の印刷方法・配布方法、マイク使用に大別される。コメント課題用紙の返却方法について、友人の分も受け取っていくことに対して注意をすることに対して「全員が前に取りに行ったら混雑して余計に授業進行が遅くなる」のではないかという意見もあったが、基本的には授業開始時間よりも15分かそれ以上前からコメント課題用紙は受け取りできる状態にしており、また、学籍番号順にした状態で学生番号の区切りのよいところで小分けの山にして学生が自分のものをスムーズに受け取れるように配慮していた。コメント課題返却に時間がかかることが原因で授業開始時間が遅れるということは、一部の回で教員が十分早めにこれなかったときを除いてはほとんどなかった。友人の分を受け取ることに対して注意をすることは、コメント課題点を成績評価の一部にしていることから、不正行為防止の観点から行なっていることに学生の理解を求めたい。

配布資料の配布方法については、今後、効率的にしていきたい。なお、印刷方法として1ページ9スライドとしたことは、200名分×2コマ分（1・2限連続の授業のため）の印刷物をスライド提示用ノートPCとともに教室まで持ち運ぶ負担を考慮して決めたものであった（1コマ25スライド以上～36スライド以内の場合、1ページ9スライドだと両面2ページ、1ページ6スライドだと両面3ページとなり、200名×2コマ分ではその差は400枚分にもなる）。1枚のスライドの記述分量の調整など、見やすくするための工夫は行ないたい。

なお、「グループでやる実習が早く終わってやることが何もなく終わった時に次に何をすればよいのかの指示が一切なかった点。」は、実習が終了したグループには結果のまとめなどの記録用紙の配布・記入指示を行っていた。ただし、200名を6人程度のグループに分けた実習でグループ数も多いため、「待たされた」ということはあったかもしれない。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織行動論
授業コード 46K05-001
教員名 久村 恵子
教員コード 100026
登録人数 255
回答数 127
回答率 49.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

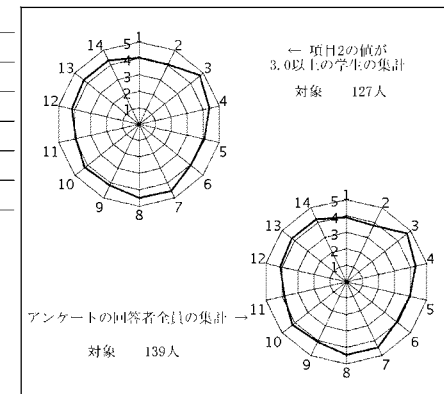
この授業では、組織とそこで働く人々の行動や態度、またその関係について興味を持ち、既存の理論への理解を深めてもらうことを目標としている。そのため、モチベーション、ストレス、リーダーシップ、組織開発といった組織行動論の主要トピックスについて、社会問題や日常生活を事例として扱いながら理論への理解を深めると共に、組織行動論に関わる社会問題にも興味や関心を高めてもらえるように努めた。

今回の授業評価の結果を見る限り、設問1～設問14の平均値が4.51、設問3～設問14の平均値は4.56であり、授業運営および全体として肯定的な評価が得られ、授業の到達目標の達成に関する設問についても平均値は4.3以上であり、ほぼ達成できたと判断できよう。自由記述では「わかりやすかった」、「将来に役立ちそう」、「社会に出る前に聴けてよかった」など肯定的な評価が得られた。

また、主体的な学習に関する項目（設問2）についても項目全体では最低値（4.08）であるが、全体平均よりは高く、トピックスごとの課題とWebClassでの教材提示により、学生の自発的学習を促すことができたといえよう。ただ、自由記述の中には「一部の提示資料が分かりにくい、見にくい」、「映像をもう少し取り入れて欲しい」などの意見もあり、これらの点は次年度の授業運営に繋げ、より学生の自発的な学習が促進される授業運営と、授業目標の達成を目指し、授業内容および構成についても改善を図っていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際社会と法
授業コード 46L05-001
教員名 山田 哲也
教員コード 100839
登録人数 328
回答数 139
回答率 42.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

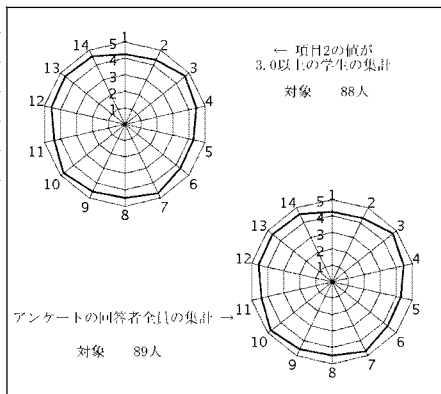


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①B11で300名近くの受講者がいたため、私語等については、十分注意が行き届かなかった可能性はある（後ろの方の私語は、教壇にいると聞こえない）。これだけ受講者が多くなると、学生の感想も千差万別になることを初めて認識した。
- ②自由記述をみると、「板書が多くてよい」という意見と「板書を消すのが早い（早過ぎる）」という意見とが拮抗している。これは学生のノートテイキングの技量の差によるものと思われるが、こちらとしては、できる限り、消してよいかどうかを学生に確認してから消すようにしていたので、あとは学生の問題と割り切るしかない。
- ③これまで、授業は、教科書、レジュメ、板書の3本立てで進めてきたが、学生の自由記述や試験結果（驚くほどできていない）を見る限り、もう少し分かりやすい進め方を考えるべきだと認識を新たにした。今後、別の授業でも新たに教科書を使用するつもりで講義があるので、まずはその授業で実験的に講義を行ってみたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済政策論
授業コード 46M04-001
教員名 鶴見 哲也
教員コード 102265
登録人数 190
回答数 89
回答率 46.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

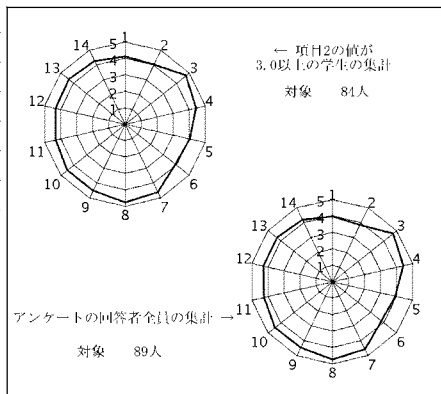


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均 4.51および項目3から14の平均 4.54を得ることができた。これは総合政策学部の平均が前者が4.21後者が4.26、全学での同じ受講者数（120人から240人）の平均が前者が4.2後者が4.24であったことと比較して、それぞれ0.3程度高い数値であることから、相対的に高い評価を得ることができたと認識している。自由回答方式の感想についても好意的な意見を多く得ることができており、当初の目標・到達点についておおむね達成できたと考えている。特に自由回答方式の記述からは説明が分かりやすかったという感想を多数得ることができ、総合政策学部という経済学のバックグラウンドがほぼない中での経済学の基礎を伝える当初の目標は果たすことができたと考えている。今後も最新の時事問題を踏まえながら経済学の基礎を具体的事例を踏まえながら伝える努力を続けていきたい。一部講義のスピードがはやいという指摘があったが、金融政策部分についての指摘と考えられる。必要最低限の講義内容となっているか再確認を行い、必要に応じて教える内容を厳選し、次年度の講義を作っていくと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際貿易論
授業コード 46N04-001
教員名 佐藤 創
教員コード 103882
登録人数 246
回答数 89
回答率 36.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

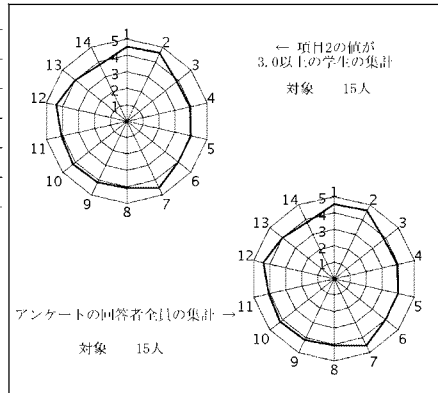


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達： 目標と内容は、おおむね授業ではフォローしたが、学生の理解度は、テストの結果をみると、期待よりも若干低く、授業の進め方にもう一段の工夫を試みたいと考える。
- ②数値データや自由記述を読むと、授業の理解度が3.84で、他の質問項目よりも低い値となっている。250名あまりの学生のうち、ミクロ経済学、マクロ経済学の知識がないものがほとんどであり、また世界史を選択していたものも20%程度であったため、内容を数式等を使わず、記述的な説明でもって講義したが、それでも難しかったようだ。講義時間に限りがあるので、経済学の基礎的な知識があることを本講義を受ける条件として課せばよいのかもしれないが、なるべく経済学の基礎知識もつけながら授業を進めるよう工夫していきたい。
- ③経済学の素養がない受講生がほとんどであったため、中間レポートの内容も、当初予定していた新聞記事の批判的検討は無理であるため、データの収集、加工、解釈に代えるなど、試行錯誤が多かった。来年度には、こうしたことは織り込んで授業を構成したい。以上。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Introduction to Global Studies B
 授業コード 48E01-001
 教員名 CROKER, Robert
 教員コード 100082
 登録人数 42
 回答数 15
 回答率 35.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

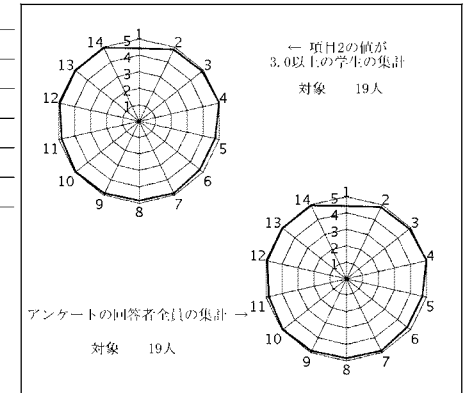


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class was to help students develop a deeper understanding of social issues facing Japan and other modern societies, and to analyze and discuss these contemporary social issues from a comparative perspective. The students were second-year Faculty of Global Studies undergraduate students and short-term exchange students from the Center for Japanese Studies (CJS). There were 54 students altogether. This was the first time that I had taught this class, students from the Faculty of Global Studies, and had students from the CJS studying with undergraduate students. It was a steep learning curve. In undergraduate students' written feedback, these students wrote that they expected more emphasis on global issues rather than Japanese topics. Moreover, the students felt that they had already covered these topics in other classes, so the information was not challenging for them and they would have preferred a greater variety of classroom tasks. The students liked to have the CJS students in the class, but noted that some of these students preferred to speak in Japanese. The students requested that the class ends on time every time. I will address these issues next year.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読I(英語)4
 授業コード 70101-004
 教員名 O' CONNELL, Sean
 教員コード 100448
 登録人数 22
 回答数 19
 回答率 86.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

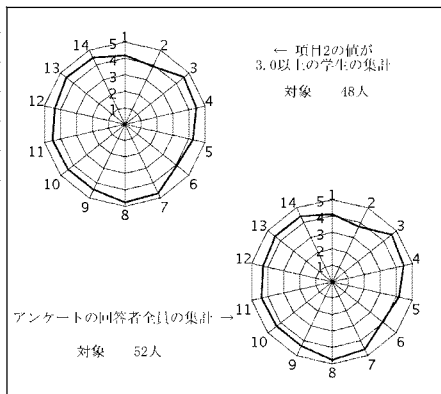


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course aimed to expose students to readings in English that focused on the three main pillars of the Faculty of Policy Studies-(1) International/Foreign Policy, (2) Public Policy and (3) Environmental Policy. Students were encouraged to use the four skills through reading, writing, discussion and listening exercises in order for them to enhance their knowledge of the content. Another challenge set was regular presentations in English on topics related to the three policy areas. Students were required to conduct their own research and present their findings in English at least twice during the quarter. Overall, the 4.85 evaluation and written comments suggest that the students were extremely satisfied and stimulated by the way the class was run. I will continue to run the course as per its current design and endeavor to help future students broaden their knowledge of policy studies through the use of English content and activities.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む1
授業コード	13E07-001
教員名	松田 眞一
教員コード	017566
登録人数	70
回答数	52
回答率	74.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標と目標達成度
本授業の目標は身近な情報についてその見方を深め、情報に基づく考察ができる力を培うことである。その目標達成のため、全部で7回の実験を伴うレポートを課した。また、その結果の確認はWebClassによる時間外の学習とした。

単位を修得した学生はX、Sを除いた受講生66名中53名であり、合格率は去年より下がり例年並みの80%となった。X2名、S2名は例年より少なくミスマッチが減った分合格率が下がった感じである。A+となった学生は4名で去年より大幅に減ったが例年より少し多い。去年はクォーター制になったことの良い影響が出ていたが目減りした。慣れた分手を抜く学生が増えたのかもしれない。

・授業評価
ここの所低くなっていた回答率は例年並みの8割程度に戻った。アンケートに答える時間は1回しか設けなかったが、授業の中間に設けたことがよかったのだと思われる。

設問3から14において全学平均を下回った項目は2つになった。

設問6は到達目標に近づいているかを聞く項目であるが、前回同様初回の授業で丁寧に説明しても2回目から参加した学生が10数名はいるので影響は大きいと思われる。もう少し本格的に再度到達目標について説明するか単元ごとに到達目標との関連を入れてみるように考える。

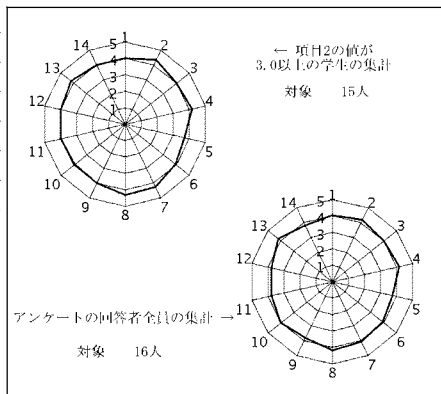
設問10は私語に関する注意の項目であるが、今回は割と注意した方であるのにわずかに全学平均を下回った。

・次年度に向けた改善点
回答率の改善は達成した。授業の中間に時間を設ける方法がうまくはまった。終わりの方では帰ってしまう人もいたので今後ともこれでいきたい。

WebClassの活用をもっと促す工夫が足りなかった。成績の悪かった人の中にはWebClassをほとんど見ていなかった人もおり、注意を促していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	微積分学II および演習[SE]2
授業コード	50A04-005
教員名	小藤 俊幸
教員コード	101907
登録人数	51
回答数	16
回答率	31.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

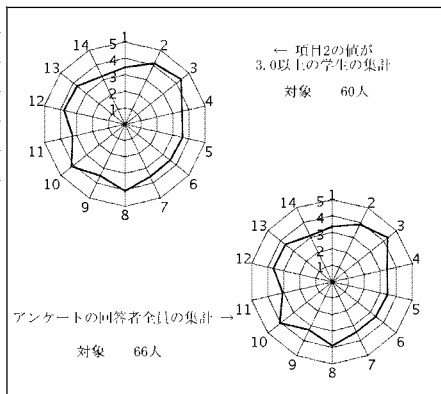


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第1クォーターの「微積分学Iおよび演習」に引き続き、微積分学の初歩について学習する入門的な授業である。授業は、おおむね1時間を講義に、残り30分を学生が演習問題を解く時間にあてている。積分が中心で、基礎的な微分方程式の解法や広義積分が主な内容である。2年次の「確率と統計」での応用を意図して、広義積分では、正規分布や正規分布表も紹介している。そのように、2年生以降の勉強に役立つことを強調したことが功を奏したらしく、比較的熱心に勉強に取り組んでくれたようである。第1クォーターの「微積分学Iおよび演習」と比べて、全体的に成績が良かった。不合格者の数も少なかった。引き続き改善に努めていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	確率・統計
授業コード	50A12-001
教員名	白石 高章
教員コード	102104
登録人数	160
回答数	66
回答率	41.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



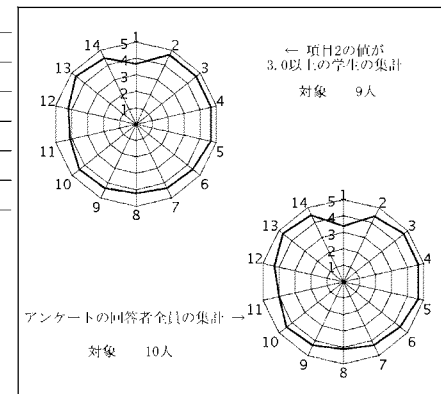
授業評価結果を踏まえた点検・評価

白石のテキストと講義ノートを使って講義した。テキストの特長は以下である。(1) 統計学の基礎の確率は、論理の綺麗な部分である。しかしながら、論理が弱いと理解することが難しい。この理解を容易にするために、数理論理学(記号論理学)の初歩を説明することから始める。高校時代曖昧であった論理が記号論理を介して明瞭に理解出来る。(2) 統計理論の構築のため直前に、高等学校数Ⅲからの微分積分学と行列の内容を説明する。(3) 通常の統計書は、各章の最後に演習問題をいれている。本書では、定義や定理の直後に、それに関係した難しくない演習問題を配置している。(4) 現在高等学校の教科書で使われている記号と用語を出来る限りとりいれた。また、通常の数理統計学の教科書よりも行間を埋める必要がないように証明や解説を詳しくしている。

上記のテキストを使って、学生が、統計の科目として最初に受ける授業であるので、その基礎が身に付くように数理の講義を行った。補足部分は、pdfファイルにし、白石のホームページからも見るようにし、授業前に配布した。また、授業で行ったテキストのページを公表した。授業終了20分前に高等学校の数学の内容も含め演習問題を与え、解かせ、回収した。これらの演習問題70問の解答を再度レポートとして提出してもらった。レポートとして提出後、高校の知識でできるもの以外は、問題の解答を講義中に行うか白石のウェブページからも見るようにした。自らが考え問題を解決する能力を身に付けさせることが重要である。この理由により、解法のテクニックを覚えさせる教育は行わなかった。授業評価の結果も配慮し今後の他の科目の教育にも役立てていきたいとは思っている。最後、講義終えたあと練習問題を解かせる時間に、手についたホワイトボードマーカーのインクを落とすためにトイレの水道の水を使用した。落とす理由は、練習問題をさせているときに質問を受け紙で答える場合にインクが紙に大量につくことを防ぐためである。用を足しているという勝手な想像は止めてもらいたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[B]3
授業コード	10C01-037
教員名	大月 英明
教員コード	047340
登録人数	35
回答数	10
回答率	28.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

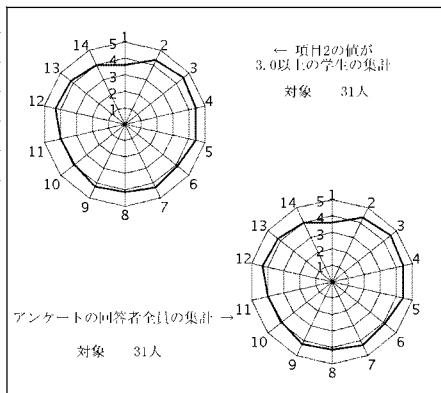


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①学生全体の成績、および設問5、13の数値を総合すれば、開講当初に設定していた目標と到達の程度は、十分満足できるものであると思われる。
- ②今セメスターでは回答者が少なく、自由記述欄を記入する学生がいなかった。これは今までになかったことであり、少々驚いている。授業評価の実施については、最後の2週間でアナウンスしており、特に今セメスターでアナウンス方法などを変更したことはなかったはずである。スマホ利用の割合が年々高くなってきている印象があるが、スマホでは自由記述が回答しにくいなどの理由があるのかもしれない。設問13、14の数値を見る限り、回答した学生の満足度自体は高いことはわかるが、非回答の学生について十分調査しきれていないのが不安要素ではある。
- ③前述のように、回答者が少ないことが今回の最大の反省点であると思われる。最終回は学生のプレゼンテーション回になり時間の余裕がないが、その前のグループワークの回を利用し、授業評価として時間を割り当てることにしたい。学生が全員、授業に端末を持参しているわけではないことと、授業評価のために授業時間を割くのは本末転倒では、と思いつつ実施していなかったが、今回の結果を見る限りそれもやむを得ないと思われる。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[B]8
授業コード	10C01-042
教員名	金山 知俊
教員コード	019455
登録人数	39
回答数	31
回答率	79.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

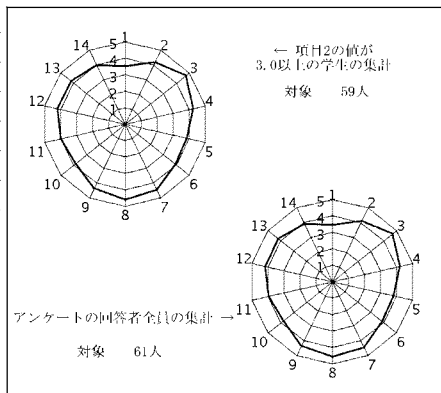


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目のシラバスに示された3つの到達目標はおおむね達成できたと考える。情報倫理はe-learningとグループディスカッションや発表を組み合わせたアクティブラーニングによって学習を進める科目であり、昨年度の経験も踏まえて学生の積極的な参加を促しつつ計画通りに授業を進めることができた。
2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.18、項目3~14の平均が4.22であり、情報科目全体の集計結果とほぼ同等であった。個別の項目の評価はおおむね4以上であるが、履修前の授業に対する興味を示す項目1が3.61、私語等に対する対処への項目10が3.94であり、他の項目に比べ低い値であった。自由記述欄にはグループでの学習や発表によってコミュニケーションやプレゼンテーションの力がついたことや自主的学習による理解の深まりが挙げられており、アクティブラーニング形式で行われた本授業に対する評価が得られたと考える。一方で、私語の問題やグループのメンバーに対する不満も一部で見られた。レポート相互評価やディスカッションの時間は学生の自主性に任せているが、もう少し細かい目配りをすべきであった。
3. 昨年度に引き続きの担当であり、昨年度に数件発生したe-learningのトラブルもなく、これまでの経験を踏まえて順調に授業を実施することができた。欠席や課題の未提出で履修をあきらめる学生も昨年度よりは減少しているが今期も数名見られる。次クォータ以降は初回ガイダンスでグループの顔合わせを行い、授業への参加を促すよう指導したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	論理と集合
授業コード	50A05-001
教員名	佐々木 克巳
教員コード	018051
登録人数	154
回答数	61
回答率	39.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

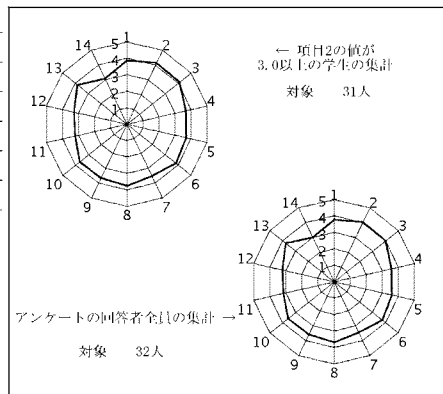


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 目標：この授業の目標は、数学で用いられている基礎的な概念に対し、(1) それらの数学的表現を正しく読み取ること、(2) それらの概念を数学的に正しく表現すること、(3) それらの概念の性質を理解すること、(3) その性質の論証を定義に基づいて行うことである。具体的に扱った概念は、「論理のことば」、「集合」、「写像」、「関係」である。運営面では、事前に講義資料を配布し、それに従った解説を主とした。昨年はスクリーンへの投影と板書を併用したが、説明が速くなりすぎないように板書のみで進め、さらに、昨年は行わなかった中間テストを復活し解答の返却と解説を行い、内容を振り返る機会を設けた。また、練習問題の解答は問題の配布と同時に、試験の案内は2週間前から行い、昨年よりも予習を行いやすくした。
- 評価と改善点：結果の数値は平均4.11で、2017年度3.80、2016年度4.39、2015年度3.94と比べ、改善方向に向かうことができた。設問16からは、事前の資料配布、板書・説明のわかりやすさ、多方面からの説明・丁寧な説明などの評価を得た。他の科目との比較では、設問7(教員の誠実さ)、設問8(教員の声)、設問9(板書・配布資料・視聴覚教材など)でよい結果を得ている。事前の資料配布や、板書の工夫は、昨年と比べて改善しようと試みた部分なので、それが反映されたと考える。これらの点は継続し、さらに、精度を上げていきたいと考える。一方、説明17の記述に、講義資料のわかりにくさ、説明の速度への指摘が各1件あり、さらに気をつけたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アルゴリズムとデータ構造
授業コード 52A01-001
教員名 横森 励士
教員コード 101114
登録人数 150
回答数 32
回答率 21.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年は、復習時に整理して理解してもらうつもりで、授業中に主に動作原理についてメモを取るべき内容を指示しながら解説した。授業中にメモを取れなかった意味が理解できていない学生、そのせいで動作原理を示せない学生は、きちんと落ちてもらうつもりで講義を行った。その点は、突き放しているように捉えられたかもしれない。

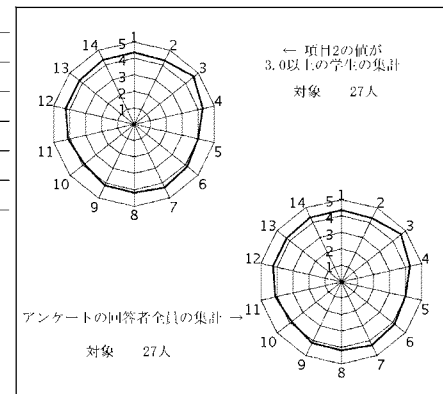
案の定、単位を落とした学生は増えたが、いずれも動作原理を全く理解していない答案であった。不合格になっている学生は、猛省したうえで、来年度は単位が修得できるように努力してほしい。

二分探索木の問題の出来が悪い。同じパターンの間違いがとても多く、対策用に出回っている過去問の答えが間違っていると思われる。クイックソートのプログラムの説明問題はできるはずの問題なのだが、初出だからなのか出来が悪い。教え方の改善を含め、クイックソートの動作原理に注意を促すようにしたい。

来年度は、最後のテストに向けた勉強量をふやしてもらうために、点数配分の見直しや、得点源となっており誰でもできる問題を平易だが勉強していないと取れない問題に変更すること、質問しやすい環境を整えるとともに、試験で出来の悪いアルゴリズムの解説時に、何について注意すべきかを詳しく解説することを検討したい。また、講義資料やスライドに関しては、白地を中心としたもののほうが見やすそうであると思われるので、来年度の準備に向けて、改善を図りたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 オブジェクト指向プログラミング[S]
授業コード 77355-001
教員名 蜂巣 吉成
教員コード 019448
登録人数 213
回答数 27
回答率 12.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では原則として毎回、その日の授業内容についての演習課題(15点)を出題した。学期末にはレポート課題(35点)を出題し、定期試験(50点)を行った。

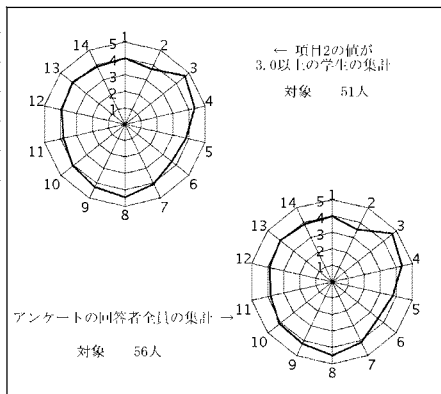
(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
授業は概ねシラバスに記載した通りに進んだ。
7割弱の学生が到達目標に達して合格した。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての総合的な自己点検・評価
授業評価は設問10を除いて4点台であった。
授業中にアンケートに回答する時間を設けたり、Webの講義資料にもアンケートを回答するように記述したが、回答率は10数%であり、かなり低かった。授業の出席率も高くなかった。
自由記述欄の良かった点では「講義資料が丁寧であった」「説明がしっかりされていた」「演習問題の解説があった」、改善すべき点では「課題の締切までの期間がとても短く、その期間でやりきるには大変で課題が多いと感じた」「演習問題の問題においてももう少し補足があると良かったかもしれない」などがあつた。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
来年度からは新カリキュラムの「情報モデリング」となる。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と機械1
授業コード	13E04-001
教員名	高見 勲
教員コード	100495
登録人数	181
回答数	56
回答率	30.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の達成目標は以下の3点である。

1. 実社会での現象を動的システムとして捉えることができることを知っている。
2. 実社会の多くのシステムに制御が適用されていることを知っている。
3. 制御の基本的な構造を理解している。

レポートを見る限り概ねこの目標は達成できたと考えられる。

学生による授業評価で着目すべき点として以下が挙げられる。

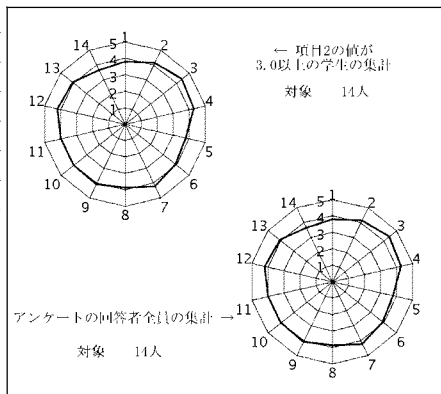
(11) 学生の意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供がありましたか。

(12) 質問や相談の機会が十分設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。

これらは3点台 (3.82, 3.91) であり、改善が必要である。本授業は「人間と機械」という名のもと、世の中に存在する機械とその制御について講義するものであるが、受講生の知る機械はせいぜい車程度であり、世の中に存在する、あるいは世の中を支える機械 (例えば発電所) を知りそれをいかに上手に利用するかという点において知識の段差が大きすぎる。これを解消するには普段からの機械に関する関心が重要であり、その時々トピックを織り交ぜて講義をしたが十分ではなかったようである。この授業は学生諸君に世の中を支える機械に関心を持ってもらう出発点となることを期待している。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	微積分学II および演習[SE]1
授業コード	50A04-002
教員名	杉浦 洋
教員コード	100769
登録人数	53
回答数	14
回答率	26.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・開講当初に設定した授業目標

この授業は火曜開講の微積分学IIの演習であり、金曜開講の微積分学IIの講義の内容に習熟することを目標とする。

毎回答案をレポートとして回収し、採点して次週に返却する。授業が終われば、webclassで解答を公開する。

・実践状況 (目標達成度)

毎回5問程度の問題を出し、演習形式の授業を行った。様子を見て、20分に1回程度、ヒントを与える時間を取り、全く問題に手がつかなかったり、途中で頓挫したりしても、課題に取り組み続けられるようにした。レポートはTAにより採点して次回授業の冒頭で返却した。解答を授業後webに掲載し、復習し易くした。全体的に、実践的な授業内容となった。

・授業評価

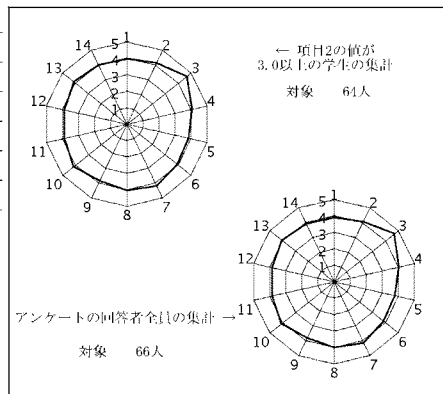
アンケート結果をまとめてみる。教員は張り切って授業をしている。板書も見やすい。配布資料やweb資料はまずまずで自習もしやすい。しかし、授業の到達目標が少し分かりづらく、少し不満もある。火曜の演習はさておき、金曜の講義は難しい。

・改善点抱負方針

要点を絞り込んだ解説とレイアウトに配慮した板書を心がけたい。配布プリント、web資料を毎年改良し続け、適切な資料の配布・提示、参考文献の紹介に努めてゆきたい。全員が90分間、数学問題に集中できる雰囲気を作ってゆきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 通信ネットワーク基礎1
授業コード 50A14-001
教員名 奥村 康行
教員コード 101219
登録人数 152
回答数 66
回答率 43.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

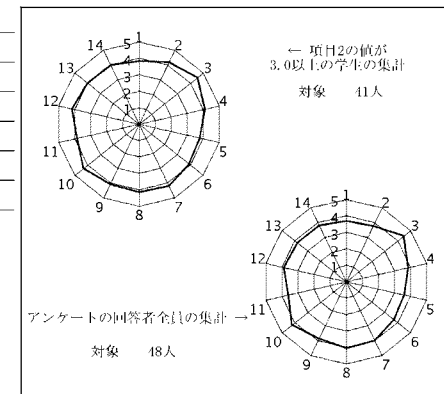


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標：通信システムの基礎知識を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度：期末試験結果より、約80%の受講者が目標を達成した。なお、定常的な出席率は80%であるので、講義に定常的に出席している学生のほとんどは目標を達成したものと考えている。
3. 担当科目についての授業評価：評定値は学部科目平均より少し高く概ね好評だったと考えられる。自由記述のうち改善を希望された項目は、ホワイトボードの文字が薄い(13)、ホワイトボードの記述量が多く消すタイミングが早い(1)、進度が早い・わかりにくい(2)、各項目をもっと詳しく説明してほしい(1)、演習の解答をはっきり示してほしい(1)であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、演習の解説がわかりやすい(2)、講義のわかりやすさ(4)、聞き取りやすい(1)などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の改善方針：ホワイトボードの文字が薄いという指摘が多くあった。これは毎回ではないものの、ときどきすべての太字マーカーが薄かった。事務方には適切なマーカーの準備をお願いしたい。ただし、前方の2列は常に空いていたので、そこに着席すれば解決したであろう。また、この講義は通信ネットワークに関する概論的性格があり、内容が総花的だったので、来年度は項目を絞って、より深い説明をするつもりである。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報技術倫理[SS]
授業コード 52B01-001
教員名 杉原 桂太
教員コード 101115
登録人数 199
回答数 48
回答率 24.1%
休講回数 3 回
補講回数 3 回

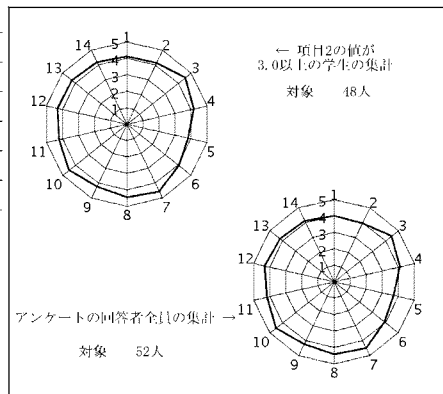


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、昨年度までと同様に、各回の資料をPDFとしてWebClass（この利用は初）を用いて提供し、各回の時間配分は概ね解説に60分程度、解説の理解を確認する課題に30分程度とした。そこで、このような授業がスムーズに展開し、内容をより理解できるように受講者にとって受けやすい授業とすることが目標となった。設問1から設問14を通じて、平均値が4点台の設問が4個、3点台の設問が10個であった。ここから、この授業について、極端に低い評価を受けている設問はないものの、必ずしも全体的な評価は高くない、ということが分かった。そこで、この授業の目標を十分に達成するためには、来年度以降、授業の改善が必要と考えている。個別の設問については、設問3は平均値4.48、設問10は平均値4.23だった（そもそも私語等はごく少なかった）が、設問5は平均値3.63、設問6は平均値3.69であった。設問5と6を含め平均値が3点台の設問の平均値を来年度以降引き上げるための方策を考えたい。自由記述については、項目15において「授業の内容がわかりやすくpdfにまとめてあった。」という評価がある一方で、項目16では「pdfがわかりにくい」、「早口すぎる」、などの指摘があった。項目16において求められている改善点を念頭において来年度以降の授業に取り組みたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械電子制御工学基礎
授業コード 53A01-001
教員名 藤井 勝之
教員コード 101244
登録人数 142
回答数 52
回答率 36.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

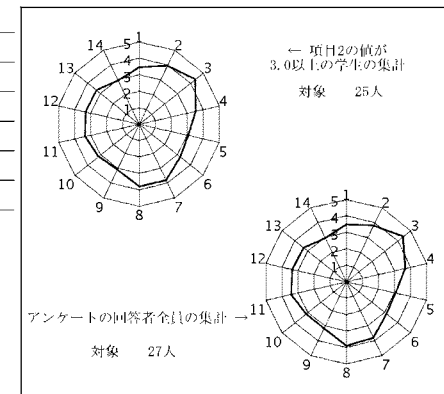
本講義で一番の山場である、交流回路のスタインメッツ表示を扱った日がワールドカップ（日本対ベルギー戦、AM3:00開始）にぶつかってしまったため、講義を休んだ多くの学生達は交流回路の計算ができないのではないかと危惧している。回路理論と電磁気学は学生泣かせの分野で、独学で身につけられるほど甘くはない。特に電磁気学は物理現象を理解する上で必須の基礎学問で、身につけていないと実験やシミュレーションの結果を考察することができない。座席指定にして毎回出席を取って厳しくやってもいいのかも知れない。設問項目7と10が高めに出たことは良かったと思う。

自由記述欄

説明と話し方が非常にわかりやすい。やる気。基礎から学べる。楽しかった。担当教員のドライブを掛けようとする姿勢が伝わってきた点（同様2件）。理解できたと思います。来なくてもいい。問題を解かせてほしい。レポートの説明を詳しくしてほしい。課題用の教科書を買わないといけないのがつらい。レポート課題の説明が具体的に欲しかった。理解度チェックの小問が欲しかった。真ん中の席からでは、ホワイトボードの文字が薄いのか、細いのか、そこが暗いのかよく分かりませんが見えませんでした。教科書を読ませるのは授業のテンポが悪くなると思った。わからないとこがあっても携帯を使えないからモヤモヤしたままになる（上記で「来なくてもいい」と回答した学生）

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データベース[S]
授業コード 53B09-001
教員名 河野 浩之
教員コード 048595
登録人数 194
回答数 27
回答率 13.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

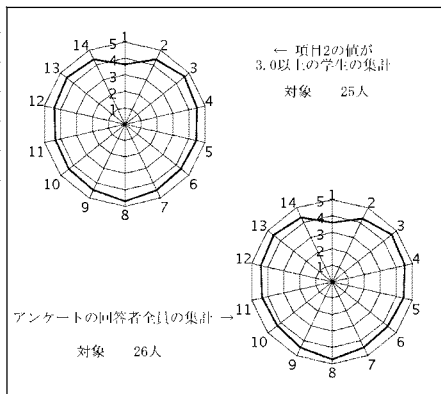


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1)
SQLを中心に扱う教科書に準拠したが、SQLが身についたかどうか尋ねる21項目が1.96となっていることから、十分に目標に到達できなかった。
その結果、合格者数も大幅に減少した。
この一因は、昨年度利用した教科書が学生数入荷できなくなったため、今年度は参考書指定とし変更した書籍に準拠を進めるようシラバスの順序を変更した点に関係するかもしれない。参考書とシラバス順序変更は、授業初回に案内した。丸善の販売情報から、受講者数から非常に少ない部数の販売実績となった（受講者数の20%程度とのこと）。
加えて、本回答数は、受講登録者数194名に対して、27名（3.0以上の学生25名）と、昨年度より減った。実施アナウンスは、7月12日に行い、再度7月19日に行い、最終回の7月26日に実施時間（40分程度）を確保している。最終回の実施時間中は授業の総括（復習）を行っている。回答数を増やすため、総括（復習）時間を削るかどうかが判断に迷う。
- (2)
SQLが身についたかどうか尋ねる21項目が1.96となっている点を改善する必要がある。
また、項目16に「レジュメ」「プリント」が多いとある点の改善が必要である。また、「使ったことのないツール(diaなど)をいきなり使え」については、授業時に、レポートで作成する図は、WORD、Powerpointなどでも作図が可能であることを説明している。その上で、より適切なツールが色々あることを紹介している。
- (3)
SQLに関しては、発展的内容を大学院授業とし、よりSQLの演習時間に充当することが考えられる。ただし、データマイニングやビッグデータに関わる技術用

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[B]6
授業コード 10C01-040
教員名 吉田 敦
教員コード 101920
登録人数 35
回答数 26
回答率 74.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

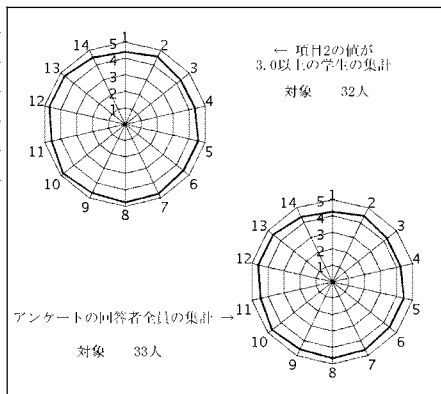


授業評価結果を踏まえた点検・評価

情報倫理は、その科目名の印象から学生からは期待されないが、グループワークを中心としていることから楽しく取り組み、最終的には高評価を得られている。第10までの授業評価で、各グループが同じ内容になってつまらないという意見があったことから、今回は、基本的なテーマは与えるものの、関連する内容であればテーマを変えても良いようにした。その結果、テーマの重なりは減り、多様な内容になった。また、これまで異なり、テーマを決めるという作業が加わったことで、関連する知識を広く調べるようになり、議論の時間も長くなるといった利点があった。一方、テーマ決めにかかることや、発表時間の関係で盛り込める情報が少なくなることから、全体的に調査が浅く、発表の完成度が低くなりがちであった。学生からのコメントで、発表を聞いていない学生が多く、質疑の時間は意味がないのでは、という意見ももらった。これも完成度の低さが要因の1つと考えられる。テーマを増やすという点については効果的であったが、テーマそのものは教員側でもう少し具体的に与えるなど、工夫をしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・文化における人間の尊厳3
授業コード 10D07-003
教員名 VOLPE, Angelina
教員コード 000167
登録人数 77
回答数 33
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

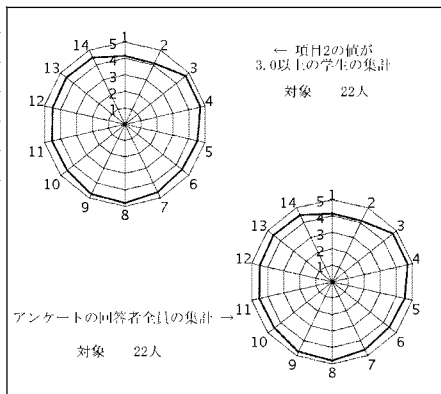


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2の「教育・文化における人間の尊厳」の講義の目的は達成されたと言えます。特に、学生たちは社会に溢れる情報の中で真実を探求し、物事を自分の頭で思考する重要性をよく分かったと思います。また、「平和」という用語は、単なる響きの良い言葉にすぎないものではなく、むしろ「人の命」と関わるものであることを理解しました。最終レポートの中にいくつか素晴らしいものがあり、ある学生はこう書きました。「この講義を通して何が『引き出された』か、それは、以前私は自分とは関係がないと考えていた様々な問題は、実は自分たちの日常や将来に実際に関係するもので、決して無視していいものではないということが分かった。無関心でいれば、私たちの生活は一部の人の都合のいいようにますます扱われてしまい、なによりも自分自身の人間性や良識を欠いていってしまうのだと学んだ」。クラスには韓国人、インドネシア人、またタイ人の留学生も在籍していたため、アジアを出身とする仲間たちと共に平和な国際社会をつくる必要性を、学生自身が感じたと思います。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳3
授業コード	10D08-003
教員名	吉田 早悠里
教員コード	103066
登録人数	37
回答数	22
回答率	59.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、民族問題に関する基礎的な知識を習得するとともに、自らが暮らす日本における民族問題を自分自身の問題として考える洞察力を身につけることである。

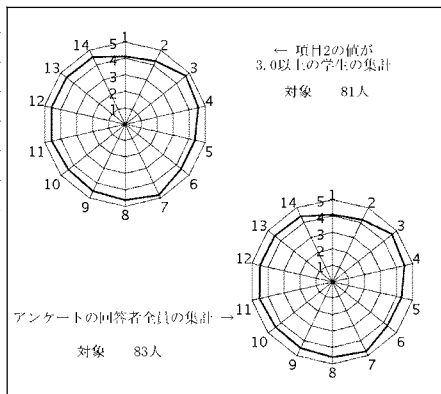
まず、民族問題を考えるうえで前提となる、民族や人種、国民、エスニック集団の概念を押さえた後、アイヌ、琉球、滞日・在日外国人、日系、同和問題というテーマを取り上げて授業を進めた。毎回の授業では、レジュメを配布するとともに、授業内容に関連する映像資料を用いて学生の理解が深まるように心がけた。

今年度の授業から、授業内でのディスカッションを取り入れたアクティブラーニング形式での授業を試みた。その結果、自由記述の欄では「ディスカッションがあり、理解が深まった」という回答があった。学生の評価の平均値は設問(3)～(14)では4.60(2017年度4.47)、(1)～(14)では4.53(2017年度)4.41であり、昨年度と比べて全体的に評価が上がっている。以上から、本授業の目標はおおむね達成することができたといえる。

ただし、最低値は学生の予習・復習に関する設問(2)4.09であった。授業時に、次回の授業内容に関する小レポートを課して、この小レポート自体が予習の役割を果たすように工夫をこらしたが、改善を検討していく必要がある。次年度以降の授業では、学生の自主的な予習・復習および発展的学習を促す機会を授業のなかに組み込むことで、さらなる向上に努めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳5
授業コード	10D08-005
教員名	MUNSI, Roger Vanzila
教員コード	101925
登録人数	187
回答数	83
回答率	44.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

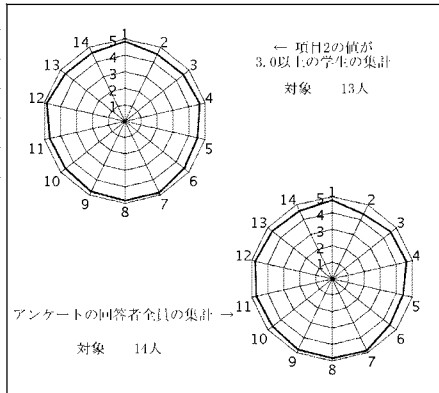
This course “Ethnic Issues and Human Dignity” was designed to provide students with basic and new information and analyses on the contemporary issues of Ethnicity and their implications on Human Dignity. The discussion subsequently led us to a case studies on Middle East and Africa. On the basis of previous comments from students, I tried to adjust the homework and discussion themes to meet the expectations of Quarter 2 students. I developed the discussion with a Key Note Address by Prof. Francis Ndamira, a trained Sociologist from Caritas Uganda.

This time (Quarter 2) I really dealt with a class which impressed me very much. Most students produced good home works and their term reports were also impressive. In reading academically committed students’ comments I am very glad to see that most of them benefited from the elaborated input and could follow my teaching and that of Prof. Francis Ndamira with particular attention while getting both a fairly decent knowledge base and theories and practical skills. As usually some students were a bit lazy in doing their home works and participating actively in class. However, as an anthropologist, I tried my best (using my teaching skills) to empower all students them to get interest religious studies and in analyzing specific religious issues from the standpoint of the social anthropology.

I have taken into consideration the observations made by students and will try my best to improve where there are some shortcomings. On another line of thought entirely, I really liked teaching this course, given that it helps students much during their academic life and

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G]
11
授業コード 11A02-032
教員名 DEACON, Bradley
教員コード 046920
登録人数 18
回答数 14
回答率 77.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

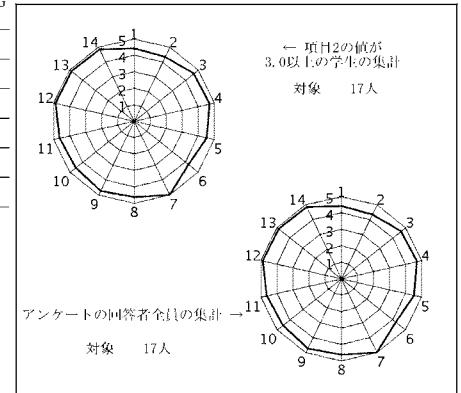
The goals set at the start of the course focused mainly on developing the students' ability to improve their discussion and presentation skills. They were encouraged build the academic vocabulary and structures in order to do so both through the class materials and while learning independently.

Student feedback showed that they had a favorable impression of the course as a whole. I was pleased to see that they perceived value in what we did both inside and outside of the class.

To improve, I would like to continue to explore ways to help students to be more involved in their learning through independent learning projects. Some students can be challenged more due to their high ability and would benefit more from also doing some alternative autonomous projects. I will reflect and consider how to make this more of a possibility.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G]
12
授業コード 11A02-033
教員名 YARDLEY, Gabriel
教員コード 016998
登録人数 20
回答数 17
回答率 85.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

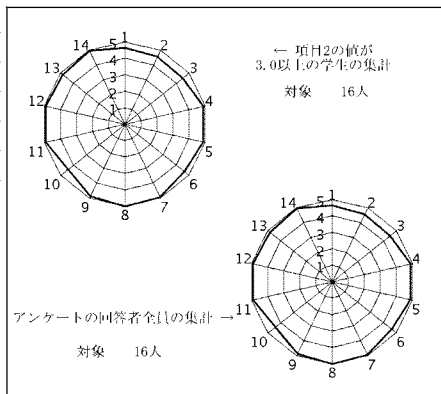


授業評価結果を踏まえた点検・評価

There appeared to be general satisfaction with the course in terms of the syllabus, the knowledge acquired and the materials and teaching methods used throughout the quarter. The instructor hopes that the teaching objectives as reviewed to students at the start of Q2 were, overall, satisfactorily applied throughout the term. All students attended individual feedback interviews in relating to progress from Q1 to Q2, so the instructor will ensure that the issue outlined in Question 6 relating to doubts among some students regarding their progress and the aims/goals of the course will be addressed in future feedback sessions. In the additional remarks section, comments were generally positive but the instructor was requested by two students to speak more slowly/clearly on occasion. The instructor will also strive to provide a more satisfactory learning experience in all areas outlined in this survey. Where appropriate, additional listening activities and materials will be introduced or extended as requested by the anonymous comments and suggestions presented in this and in an additional class questionnaire.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]1
授業コード 11A06-032
教員名 MILES, Richard
教員コード 101363
登録人数 18
回答数 16
回答率 88.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

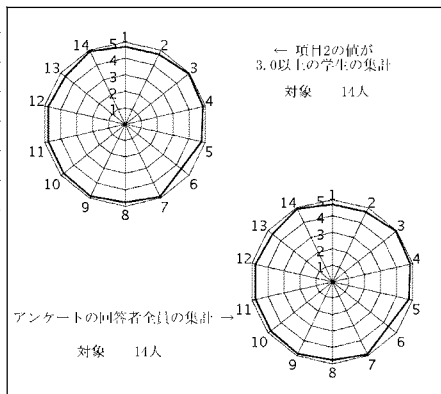
1. Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the course went. I taught these students four times a week, in two different courses, so we got to know each other very well. The students were very positive overall in terms of their comments and the scores they gave the course. The course was designed specifically to help students become more independent writers, and editors, so that they can work autonomously when they have to write essays during their studies abroad next year, and for their graduation papers/reports after that. Students answered very positively to questions #13 and #14, indicating they felt they had achieved a lot and had improved their writing skills.

2. The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the teacher and students. A few students mentioned that other students were a bit too active, but this is to be expected in an advanced level class and one with students from different cultural backgrounds. Responses to question #4 indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was especially pleasing, as there was a wide range, in terms of the students' abilities and English level.

3. For next year, I intend to continue to concentrate on teaching writing skills, but to also try and focus more on developing the students' reading skills.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]3
授業コード 11A06-034
教員名 鹿野 緑
教員コード 101092
登録人数 20
回答数 14
回答率 70.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

国際教養学科の英語リテラシーは、1年次生の授業にしてはかなり高め目標設定をしている。Q2までには複数パラグラフで300ワード程度書けるように、またリーディングについても量を読み情報を的確にとる目標設定をした。おそらく大学英語の授業運びにとまどった学生もいたのではないかと想像する。

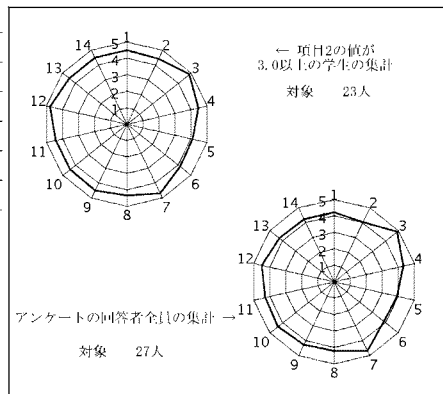
アンケートにおいて、目標達成したと感じられたかという設問が他の設問より若干低めだったのは、担当教員の実感と一致する。外国語リテラシーの授業で、全員が目標に達成したと回答するようでは、目標値があいまい、あるいは学生の実態より低いのであろうから、適度なところかもしれない。が、今回の授業に関しては、英語を使うという基礎訓練が足りていなかったり、文の組み立てなどにやや弱さを抱えており、その基礎のカバーが不十分だったと考える。今後はその点を工夫をしたい。

アンケートの数値は平均4.79と、ある程度の満足度は得られている。しかし、前述したように、スタート地点から目標達成まで、学生が自らの伸びを実感できる授業であるためには、「実際に伸びること」、「伸びが可視化されていること」、などにさらに工夫して行きたい。

そのような中でも、わかりやすい、自分の意見を述べる自由な空間があったというコメントからは、一定の効果がうかがえる。今後も継続していきたい点である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとはく国際科目群>2
授業コード 13E02-902
教員名 齋藤 衛
教員コード 018333
登録人数 34
回答数 27
回答率 79.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



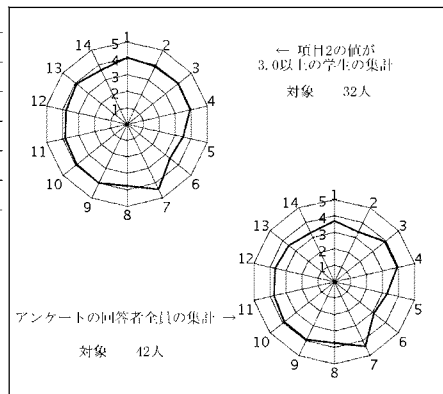
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の評価平均値は昨年度大きく低下したが、今年度は、項目13（新たな知識、理解の深まり）が4.26、項目14（満足度）が4.22と改善が見られた。英語の聞き取りの授業ではなく、言語学入門を英語圏の大学できるように教える科目であることを、第一回目の授業で十分に周知したことが大きな要因であると考えられる。ただし、改善すべき点に関する自由記述には「アクティビティリスニングにすること」とあり、また、ワープロを使ったレジュメを配布し、板書は活字体に近い筆記体になっているにも拘らず、「英語を筆記体で書かないこと」に加え、類似するコメントが2件あった。

全体として受講生が協力的で、いい雰囲気での授業ができたのではないかと思う。しかし、目標到達の程度については、宿題や最終課題の出来を見る限り、不十分であったと言わざるを得ない。類似する問題の解答例を授業中に配布または板書しているが、提出された宿題や課題は、解答の内容が的外れであったり、英語の文章があまりにお粗末なものが多かった。授業時に注意はしたが、(i) 毎回配布するプリントを読み直して復習すること、(ii) 宿題や課題は時間をかけて、丁寧に解答を書くことの2点をより徹底して指導したい。使用言語が日本語であれ英語であれ、授業を聞き流していただいただけでは、理解にも限界があるだろう。また、英語を書く時に、中学や高校で習った英文法の基礎的な知識を使い、書いた文章を見直すことくらいはしなければ、いくら経験を積んでも文章力は向上しないだろう。授業内容を改善するとともに、受講生に授業をより上手に活用してもらうことができるように工夫をしていく。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求1
授業コード 13E03-001
教員名 永井 英治
教員コード 018861
登録人数 97
回答数 42
回答率 43.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回欠席している受講生が20数名、配布資料だ入手して退出する受講生が同じく20数名くらいと考えると、アンケートの母体数は授業の出席者数にほぼ相当する。その結果のレーダーチャートの円がやや小さいことは素直に認め、反省しなければならない。とくに問題となるのは、授業が理解できない、関心が持てないとされる点である。その理由に、自由記述に散見された「声が小さい」「板書がわかりにくい」という技術的問題が挙げられるのであれば、直ちに改善したい。それ以上に、配布資料のどこを話しているかわからないという指摘は、再考を要する。配布資料は要するに授業の補助教材であって、それを理解することが授業の目的とは言えないからである。実際、試験結果を見る限りでは、資料読解の成果や事物を歴史的に理解するために適切な資料の選択など、当初設定していた授業の目標に十分到達している受講生は少なくなかった。現状の出席者数が続くのであれば、実際に資料を読んでみるなど、受講生の提案にもあった方法を是非試みたい。その際、必要となるのは漢字が読めることであって、日本史の知識ではない。この方法を実践する場合は、この点を強調したい。その結果、受講生が授業に参加したという実感が得られれば、授業への関心も上がるように思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語科教育法A1
授業コード	15B09-001
教員名	松永 隆
教員コード	015081
登録人数	11
回答数	2
回答率	18.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職関連科目としての英語科教育法である。第二言語としての、あるいは外国語としての英語の習得理論と教育の実践的なスキルを習得することを目的とした。実践面では、グループによる教案のディスカッション、模擬授業、ビデオによる授業観察を講義に導入した。レポート1回、教案2回、模擬授業2回を課題として課した。教材収集・教材研究・教材準備にとってコンピューターリテラシーが重要であることも考慮し、提出物はすべてコンピューター利用を義務づけた。

授業評価に回答した学生が2名と極端に少なかったため統計的な集計は出ませんでした。

高く評価できる点

模擬授業への取り組みも積極的で、楽しそうにおこなっていました。レポート課題に対しても熱心な取り組みが見られた。多くの学生たちが言語活動のデザインにユニークな工夫をしていました。

改善点

使用するデモ授業のDVDについてはバラエティーを増やしたいと思います。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育入門1
授業コード	17599-001
教員名	北村 雅則
教員コード	100212
登録人数	5
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

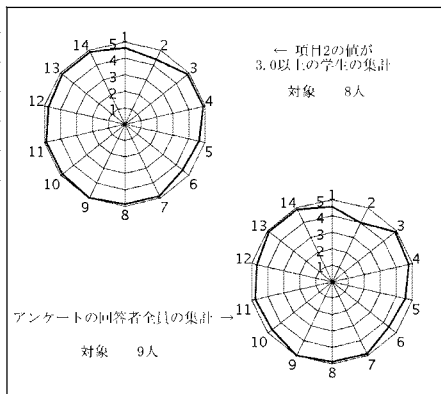
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、当初より履修者数が減り結果的に、アンケート対象科目とはならない人数で授業を行うこととなったため、自己反省と今後の展開を記述したい。本講義は「1. 言語学の基礎を習得できる」「2. 日本語を母語から切り離し、一言語として分析的に捉えられるようになる。」「3. 外国語（例えば英語）との対照を通して、日本語教育をする上での問題点と課題を把握できる」「4. 日本に関する様々な知識を有し、理解できるようになる」の4点を到達目標とした。NHK-WorldのEasy Japaneseを素材に、初級の学習者に対して難しいと思われる点を拾い上げ、どのような点に注意すればよいのかを、履修者に毎回小レポート形式でまとめてもらった。欧米語にはない、助詞・動詞の活用などが意見として挙がってきた様子を見ると、日本語の基礎知識が身につく、外国語との対照等ができており、この課題をこなすことで到達目標にある程度はたどりつけたと考える。しかし、この授業は短期大学の残留生に対して行ったものであり、少人数（ほぼマンツーマン）、かつ、出席率も高くないという特殊な状況下の授業と言うこともあり、授業外での対応も多かった。必ずしもシラバスに記載した通りには進行できなかったが、一对一の学生対応という点で得るものがあつた。今後、この経験を他の授業でも生かしていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ政治研究
授業コード	34D12-001
教員名	大竹 弘二
教員コード	101968
登録人数	41
回答数	9
回答率	22.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



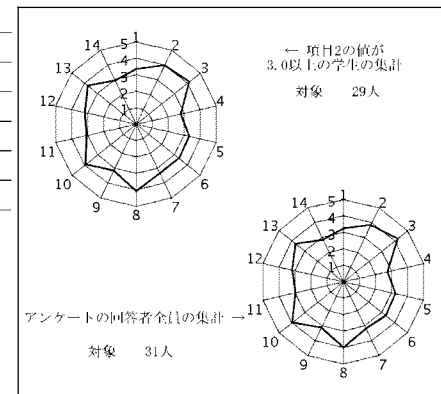
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、学生たちがドイツ政治についてある程度の基礎知識があることを前提としたドイツ学科3,4年次生向けの授業であるが、今年度は例年とは若干内容を変えて行わざるを得なかった。というのも、特に現3年次生は、私の国際教養学部移籍などの理由から、通常私がドイツ政治の基礎について教えているドイツ学科旧カリキュラムの「ドイツ研究入門」を受講したものがおらず、ドイツの政治に関する初歩的な知識から改めて教えざるを得なかったからである。それゆえ、いつにもまして映像資料を多く使うなど、なるべく親しみやすい内容の授業になるよう気を配ったつもりである。

とはいえ、細かい歴史的事実や政治状況に立ち入った箇所では、学生たちの理解が追いつかないケースもあったようである。とりわけ哲学や思想との絡みでドイツの政治状況を説明した部分では、話が若干抽象的になり、分かりにくいものになってしまったのではないかと反省している。ただ、1920年代ヴァイマル期の大衆文化や芸術運動を政治的なコンテキストとの関連で解説した箇所では、少なからず興味を持ってくれた学生もいたようで、多少は安堵している。また、今回はもっぱら歴史の話が多くなり、2000年代以降のアクチュアルなドイツ政治の状況についてほとんど話ができなかったのが残念である。より学生たちの興味を引く授業ができるよう、積極的に知識のアップデートを図ることにしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ICTリテラシー1
授業コード	48A02-001
教員名	後藤 邦夫
教員コード	016428
登録人数	39
回答数	31
回答率	79.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

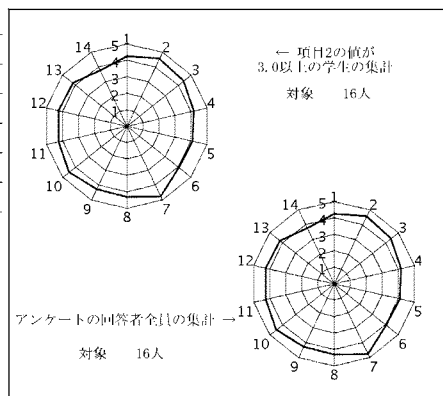
この授業の目標は、シラバス記載の到達目標を達成し、受講者の全員が良い成績で合格することであった。一度も出席しなかった2名を除き全員が合格したが、成績は前年度と比較して良くなかった。このクラスは他の担当1クラスと比較して、特に欠席回数が多い、または出席していたが宿題を提出しない受講者が多かった。20 words/min のタイピング速度目標は約半数の受講者が当初から満たしたが、向上が見られなかった。

学生による授業評価は、全体に低く、平均値が3を下回ったものは、項目4(授業構成、進行速度)、11(学習意欲、授業参加)、14(満足度)である。自由記述では、肯定的コメントが12件あった。否定的コメントは11件あり、進行や説明速度、皮肉や言葉遣い、情報倫理との内容の類似性に関するものであった。

今年度は、前年度の反省を踏まえ、ノートPCの持参を前提としてMS Officeを使用し、教科書の例題でOfficeソフトウェア操作を練習したので、教科書に書いてあることは要点だけ説明した。進行が速いとのコメントから、授業外の予習復習を怠った学生が多かったと思われる。担当教員で次年度のシラバスと授業運営の改善を検討する。また、皮肉と誤解されないように発言に注意する。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English I18
授業コード	48A06-008
教員名	森泉 哲
教員コード	100542
登録人数	18
回答数	16
回答率	88.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

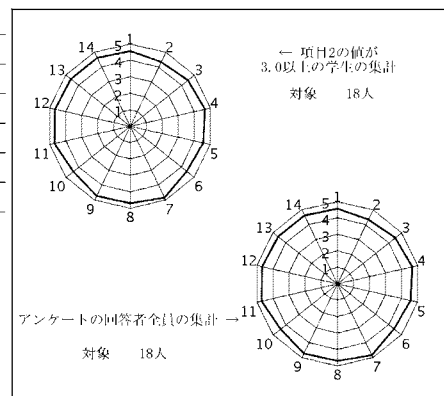
本講義は、第1クォーターGLS English I に引き続き、英語の4技能の能力を高めるとともに、英語を教室の使用言語として、国際教養学部のコンテンツ科目を英語で学ぶ力を養うことを目的として、トピックとして主にジェンダーについて教科書を読み、その後ディスカッションを行った。Q1の授業評価では、特に授業構成や進行速度、ならびに総合的な満足度が中点以下になってしまうという結果を受けて、今期の授業ではこれを踏まえた授業を行うよう細心の注意を払った。特に、初回の授業で学生と対話をする機会を持ち、学生の期待とこちら側の狙いについて理解を深めた。また4、5回目の授業で、学生が授業についてきていない印象があったので、無記名で授業改善について意見を求める機会をもち、その意見を踏まえて授業を行った。

学生の評価から判断すると、授業の総合的な満足度は、まだ4点台に達していないが、教師の取り組む姿勢に対しては4.75と一定の成果は得られており、その他の項目についても4点以上であるために、今学期の授業はある程度好意的に受け入れられ、また学生の参加度や本科目に対する関心も、Q1の値と比較して上昇し、学生も熱心に取り組んでいる様子が見られた。ただ、スコアを見ると、Q2においても、到達目標が理解できておらず、また到達目標にむけて力がついているという点数が相対的に低く、学生の期待と本授業のずれも見られる。

次クォーターについては、担当するクラスが変更になるが、引き続き本科目を担当するので、学生に対して本科目の位置づけを理解してもらうとともに、自身の能力が身につけていることをディスカッションの場面を録音するなどして、振り返ることを通して可視化し、学生に少しでも授業が効果があるとともに、自分の自信や成長、英語スキルの向上にもつながることを丁寧に伝えながら、授業を展開していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]6
授業コード	11A06-037
教員名	中田 晶子
教員コード	055624
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は必修の英語科目でQ1に実施された「英語 I リテラシー」に引き続き、readingとwritingの力をつけることを目的とし、原則としてすべて英語で実施するものである。

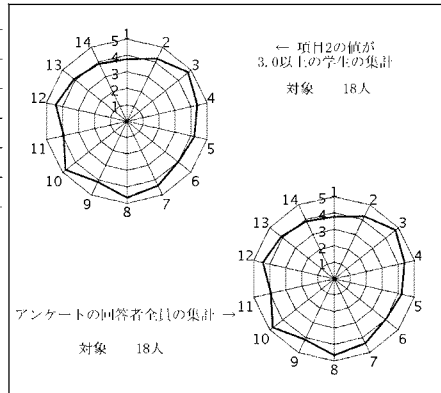
昨年度は「英語 I リテラシー」で授業評価を受けたが、各自の数値評価を見るとほとんどの項目で1から5までの幅がある上、回答者ほぼ全員が1から5の評価をしており、評価の多様性が際立っていた。初めて担当した科目であることに加えて共通テキスト・共通シラバスによる授業メソッドも初めてであったため、試行錯誤の授業となったことも評価に反映したと思われる。

今回は前年度の反省に基づき、writingにより時間を割き、補助教材も工夫した。学生同士の関係も良く、グループワークにも意欲的な学生が多かったため、グループワークをより効果的にwritingに活用することも可能であった。最終レポートを読むとこの授業で目標としたacademic writingの基礎はどうやら身についたようである。前年度は2回しか練習できなかったTOEFLのwritingにも時間をかけて取り組むことができ、大半の学生が2種類のwritingのコツを掴むところまでこぎつけた。

数値的な評価の比較では、前年度評価の低かった5、6、7、9、11、12、13、14の項目すべてにおいて1～1.7点の上昇が見られる。10名が回答した自由記述では、writing課題すべてに添削があったこと、説明のわかりやすさ、TOEFL対策を十分に実施したことへの評価があげられており、担当者の意図が汲み取られていたようである。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]7
授業コード	11A06-038
教員名	丹羽 牧代
教員コード	055715
登録人数	19
回答数	18
回答率	94.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

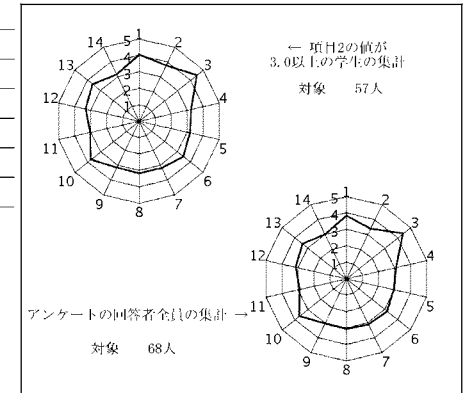


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず(1)授業の目標到達については、最終的に提出されたレポートから判断すれば、押さえなければいけない英文作成のポイントはほぼ全員の学生が修得していたことが見て取れたので、ライティングについては良好な到達度であったと思われる。一方リーディングについてはQ1で学習したポイントを忘れてしまった学生が多くいたようでもあり、構造を理解しながら読むという読解力はなかなか定着しないものであることが今回もわかった。理解度を測りながら、読む訓練のデザインを来季は少し構成しなおさなければならないと感じている。(2)総合的な評価としては悪くないが、学生が「やりたい」「してほしい」と思っていることは当然ながら登録者の数だけのヴァリエーションがあるので、そのすべてに応えるのがいかに難しいかを今回も数値や自由記述から感じた。この授業に関しては、英語の基礎訓練という面が強いだけに学生のモチベーションがあがりにくい側面があり、どのような授業デザインがもっとも適しているのいかさらに考えるよい機会となった。(3)自由記述に「わかりやすい」「わかりにくい」と両極端な記述があるのが、悩ましいところである。昨年と同じ授業よりさらに丁寧に、追加資料や課題詳細繰り返し、質問の機会を授業内・Webクラス上に複数回設けていても、なおわからないという学生がいるということは、大きな課題だと思われる。学生の自主的な理解する態度が不足している、というのは簡単であるが、こちらもお工夫する必要性のあることを反省させられたと同時に、細かなサポートと自律的学習態度の妨げになるような先回りの世話との混同がないかどうかなどは、吟味しなおさなければならないと感じられた。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法律学概論
授業コード	44A13-001
教員名	清原 泰司
教員コード	100774
登録人数	115
回答数	68
回答率	59.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

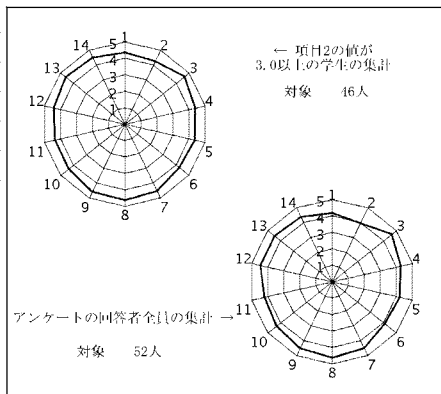


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、教職課程必修科目なので、20名程度の少人数受講者を想定していたが、115名の受講登録があった。授業内容は、法学概論と法学入門的な内容で、法学を学ぶ意味を理解し、法学に興味を抱いてもらうことを目標とした。そのために、政治や社会との関わりや憲法・民法・刑法の基本的な内容について、指定テキストを使用しながら、適宜、新聞等の資料やレジュメを配布して、具体的事例を交えて講義するようにした。また、成績評価方法として授業参加度30%を評価することにしていたので、抜き打ち的に授業内容の理解確認テストを3回行ったが、全3回の受験者は47名(約40%)であった。また、定期試験を含めた成績の合格者は52%であった。小テストや定期試験の結果を見る限り、授業内容の理解者は非常に少ない。また、授業に際して、教室の中程から後部の座席に座る学生が多いので、ほぼ毎回、「前に座る方が私の声も聞き取れるし、白板の字も良く見える」と指示したが、前半部に座る学生はほとんどいなかった。このような授業風景は授業評価にもよく反映しており、項目3~14の平均値が3.25であった。この数値は、14年間の授業評価において最低の数値である。また、自由記述欄にも、「よくわからない」という趣旨の記述が7名、「レジュメをもっと配ってほしい」が3名いた。このような多くの受け身の学生にも、わかりやすい授業をするための工夫をしていかなければならないと反省している一方で、A+の成績を修得した学生が9名いたことや「テキストの内容に即した授業でわかりやすい」や「民法や法律の基礎がよくわかった」などの記述が6名いたことは救いである。多様な学生のニーズを満足させるための工夫に努めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政法総論B
授業コード	44B05-001
教員名	豊島 明子
教員コード	101192
登録人数	229
回答数	52
回答率	22.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



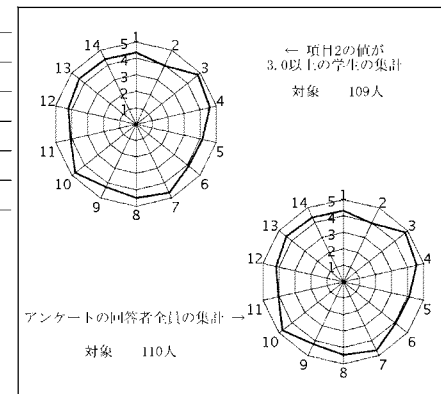
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、以前は半期4単位科目であったが、クォーター制導入に伴いQ1・Q2開講各2単位の科目に再編されたものである。担当者は、今回、クォーター制が導入後初めてこの科目を担当した。しかも今回は、週1回2コマ連続形式の開講であり、担当者はこの科目をこのような形式で開講することについても初めてであったので、学生がどのような反応を示すか、いつも以上に気がかりであった。

ところが、終わってみれば、学生の満足度は比較的高いものであった。例えば、項目3～14の平均は4.40で、法律学科科目全体と比べても高評価であった。説明のわかりやすさや、レジュメが効果的に用いられていることを評価する旨の自由記述も多数あった。ただし、その反面、少数ではあるが、「レジュメに判例が要所要所にあるが、判例は別紙の資料として配り、分けたらどうだろうか？判例を別紙にするほうが読みやすいのではないか」、「私語がうるさかったのもうすこし注意してほしい」、「講義中に教室を出入りする人の数が多い」、「講義中、教室の後ろの教壇から最も離れたベンチのような場所に、座っている人がいた」、「先生の話し方は聞き取りやすいが、抑揚が無く個人的には2限連続で聞いているのは少々辛かった。」との指摘もあった。これらは、私自身はさほど気になっていなかった点であるが貴重な意見であり、今後は、これらの点にもできるだけ注意を払い、適切な対処ができるよう努めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	少年法
授業コード	44B11-001
教員名	丸山 雅夫
教員コード	017517
登録人数	216
回答数	110
回答率	50.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

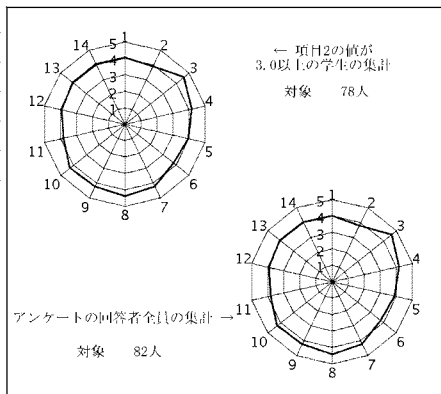


授業評価結果を踏まえた点検・評価

久しぶりに200名程度の講義となったが、時間割の関係で学生の登録が左右されることには重大な問題性を感じている。全体的な評価としても、例年とほぼ同様であり、標準的な講義として認識されていたと思われる。ただ、予習・復習に関する評価の低さは、例年よりは改善傾向が見られるものの、教科書を指定し、それに沿って講義をしている以上、担当者としては対処の仕様がないうというのが実状である。設問15の自由記述については、分かりやすさ、丁寧さ、板書の適切さ、5分間の中途休息による緊張感の回復、不適切な受講生・受講態度に対する注意等、が高く評価されていた。当然のことながら、その反面として、設問16および17との関係で否定的な記述も少なくなかったが、いずれも、いわゆる2チャンネル的な書き方のもので、真摯に対応すべきものではないと判断している（実際に読んでいただければ、この対応は反論されないと思う）。ただ、法学部生がほとんどを占める講義で、少なからずこうした書き方がなされることには大きな失望を感じるし、時代の流れを痛感させられる。最後の講義時に授業評価をするため、普段は出席しない学生がこのような書き方をしていると思いたい。それを検証するには、中間的な時点で任意的な授業評価をすることが有用と思われる。いずれにしても、こうした書き方の学生が単位を取れているとは考えられないし、是非ともそうであってほしいと願っている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事訴訟法B
授業コード	44B26-001
教員名	石田 秀博
教員コード	101939
登録人数	272
回答数	82
回答率	30.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均が4.09（法学部平均4.08）、項目3から14の平均が4.13（同4.11）ということで、「民事訴訟の基本的な流れを理解することができる。民事訴訟法の基本構造や基本的理念を理解し、説明することができる。」という到達目標は、おおむね達成できたのではないかと考えている。以下、自由記述欄の記載をなども踏まえて、今後の授業の在り方についての所見・抱負を述べたい。

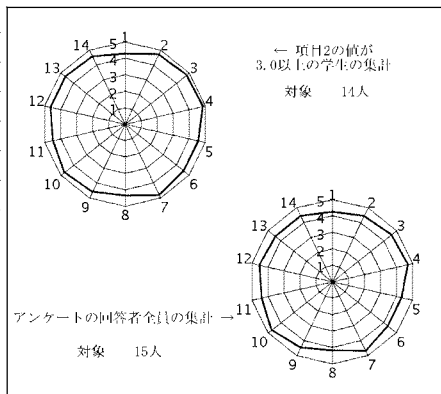
登録者が約270名ということで、少人数の講義に比べて学生の私語が目立った。講義中、何回注意しても繰り返されることがあり、かなり厳しく注意することもあったため、自由記述欄では、その点に関するコメントが多かった。厳しい対処に対してはほとんどが肯定的ではあったが、「注意はいいが怒鳴るのはよくない」、「個人を特定して咎めるのが良いのでは」という意見もあった。前者の意見に対しては真摯に受け止めたいが、学生の皆さんにも、どうか受講ルールは守っていただきたい。

その他の、評価できる点としては、レジュメに対する肯定的評価、進行速度が適切でわかりやすかった、等の評価をいただいた。改善事項としては、予習のため、レジュメの事前配布をしてほしい、ホワイトボードの字を大きく書いてほしい、という意見があり、今後、留意したい。

総じて、受講生の中で、かなりの学習意欲のばらつきがみられ、試験結果にも明瞭に表れていた。また、アンケートの回答数も約1/4にとどまり、その点で、そのような印象を持った。ただ、今後とも勉学意欲のある学生を対象とした講義を続けていきたい。民事訴訟法という領域なので、受講にあたっては、シラバス記載の注意事項を踏まえて受講していただきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講義A（英語）3
授業コード	44B50-003
教員名	今泉 邦子
教員コード	019505
登録人数	20
回答数	15
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

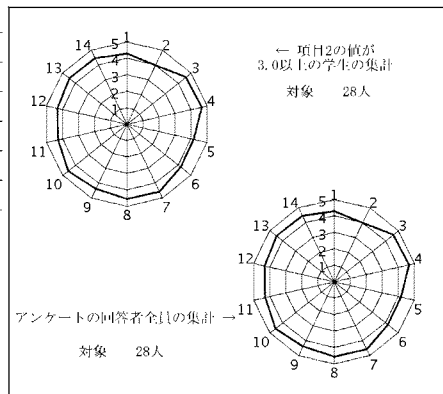
当初の到達目標は、「①アメリカ会社法の背景にある思想および政策を理解できる。②法律の専門用語に対応する英語を修得する。」です。この目標達成のため、アメリカ会社法のmerger and acquisitionに関するcasebookに所収の主要判例6つについて、受講者を6グループに分けて、担当報告をしてもらいました。さらにmerger and acquisitionに関するアメリカの会社法、連邦証券諸法、独占禁止法およびその他の法制と、国際的な企業買収規整に関する概説書を輪読し、この分野について広い視野を持ってもらうよう努め会社法にしました。判例報告は予定通りに実施することができました。配布した概説書の第3章を全部読むことはできませんでした。

授業評価アンケートを見る限り、報告分担の量と概説書の輪読のための予習復習の負担は、適切であったと思われます。配布した部分の概説書をすべて読むとして進度をあげたとすれば、かえって内容の理解が追い付かない結果になったと考えられます。

今学期初めてなのですが、声の大きさに対する評価が、授業評価アンケートのこの項目における平均よりもやや低いことがわかりました。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳9
授業コード 10D06-009
教員名 大塚 弥生
教員コード 000065
登録人数 70
回答数 28
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



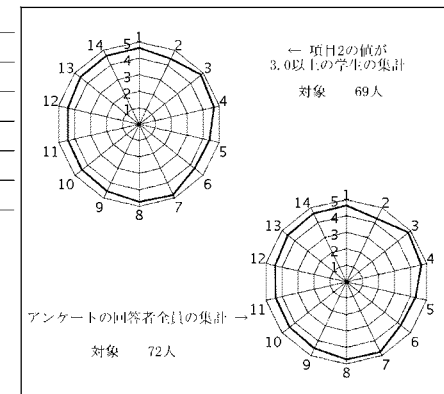
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3~14の平均値は4.44、項目13（新しい知識の獲得や理解）の平均値は4.46、項目14（全体としての授業満足度）の平均値は4.46であったことから、本授業のねらいはほぼ達成できたものと考えられる。また、すべての項目において、平均値は4以上であったことから、アンケートに回答した学生の評価においては、大きな個人差もなかったと思われる。

本講義で取り上げるテーマは「児童虐待」「自殺」「高齢者介護」であり、学生自身が現時点では直面しない社会問題であることから、ドキュメンタリーの映像を多く取り入れていた。このことに対して、自由記述においては、本授業で特に良かった点として映像資料を使ったことを評価する学生がいる一方、映像資料の内容が重すぎると感じた学生もいた。次回からは、一部の学生にとってはショッキングな内容であることを配慮しながら、提示をしていきたいと考える。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学A4
授業コード 12E03-004
教員名 宇田 光
教員コード 100494
登録人数 133
回答数 72
回答率 54.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

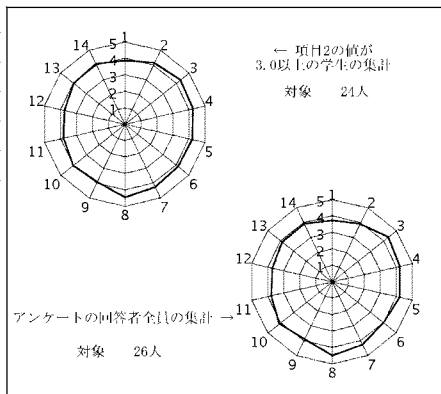
BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をしている。今回の回答数は72件である。まず集計結果の概要をみると、設問14（満足度）の平均値は4.61、設問3から14の平均値も4.54となっている。まずまず満足であるという回答を得ていて、全学の平均値より高かった。

個別の自由記述では、（a）良かった点として「毎回ブリーフレポートを書くことで授業の内容理解が深まった」「教員の熱意が伝わったこと」「授業が丁寧な点」「授業の進め方が非常に良い。集中力を継続させることができる」など。一方、（b）改善すべき点は、たとえば次の通り。「もう少し実践的なことをやりたかったです」「ペア課題は必要ないのではないかと感じた」「映像見ただけじゃ覚えられないことが少ないから、レジュメを使った先生がする授業の方が好き」「レポートを書く時間が足りない」。ペアで組んで行う課題については、他にもいくつか意見があった。一人だけで出席する人に、何か配慮が必要かもしれない。

今回、昨年の内容をかなり変更したが、期末テストの結果などを見ても、全体として理解度は高かったようである。次からは、さらに内容を練って進めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	道徳教育指導論1
授業コード	15A07-001
教員名	笹尾 幸夫
教員コード	103858
登録人数	73
回答数	26
回答率	35.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

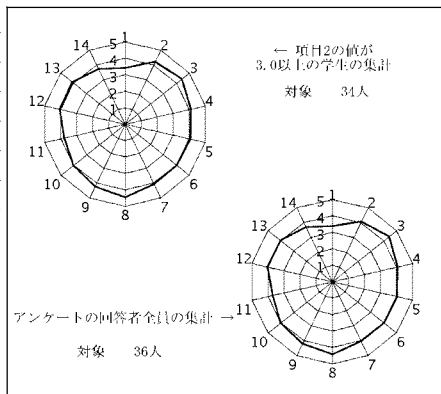


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①中学校の「道徳」は、来年度から「特別の教科 道徳」に変更されるため、新しい学習指導要領解説を授業に取り入れて実施し、従来との違いを明確にして授業を展開した。また、当初計画した「模擬授業の諸準備」と「模擬授業」は73名の人数では一人一人実施することは難しいため、模範授業をビデオで視聴し、実際の授業をイメージさせた後、一人一人学習指導案を作成させることに変更した。これ以前にも学習指導案の作成を3回実施することで、概ね実践するための基礎を身に付けさせることができたと思う。
- ②「特別の教科 道徳」は「考え、議論する」ことに重点をおいているため、本講座でも、グループで協議させ、さまざまな考え方があることを理解させるようにした。グループを学部ごとに作成したが、グループ協議のある授業では、あらかじめグループごとに着席させることも考えていきたい。また、視聴覚機器の操作については、事前に操作方法を確認しておくことにする。
- ③8月に「特別の教科 道徳」に関するシンポジウムに参加したので、ここで得た成果を学習指導案づくりに取り入れて指導していきたい。生徒による評価の時期が学習指導案作成の授業と重なり、授業内に評価する時間を取らなかったためか、26名と少ない回答であった。次回以降、授業内に時間を確保していく。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[S15]
授業コード	10C01-055
教員名	栗原 寛明
教員コード	103522
登録人数	45
回答数	36
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



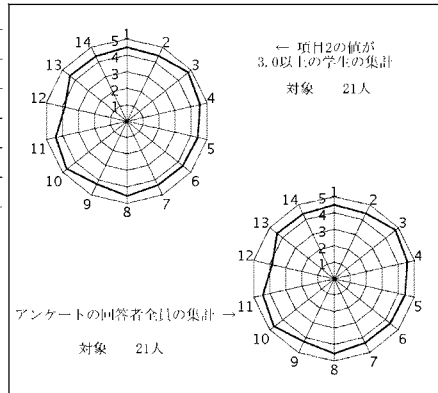
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出した受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。特に、ネット上の行動とプライバシーや著作権との関わりに対して理解を深められたと思われる。

授業はe-learningと対面授業の組み合わせであり、e-learningで学習した内容に関して対面授業でグループディスカッションや発表を行うことで理解を深めるというものであった。e-learningについて、教材と課題の分量は適切であり、受講生の理解は十分に追いついていたと思われる。ただし、少なくとも受講生について、e-learning教材の一部あるいは大半に目を通した記録がないことは非常に残念である。小テストやレポートとは異なり必須となっていないが、教材も必ず読むあるいは視聴するようにしてもらいたい。対面授業については授業の中心となるグループ活動に十分な時間を確保するように努めた結果、いずれのグループも十分にディスカッションや発表の準備を行うことができたと思う。テーマによっては各グループのディスカッションや発表の内容が似たものになりやすいので、ディスカッションの途中で新しい話題を提供するなど、多様性を持たせる手段を検討してもよいかもしれない。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[F]
B]2
授業コード 11A02-002
教員名 BLYTH, Andrew
教員コード 102982
登録人数 26
回答数 21
回答率 80.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



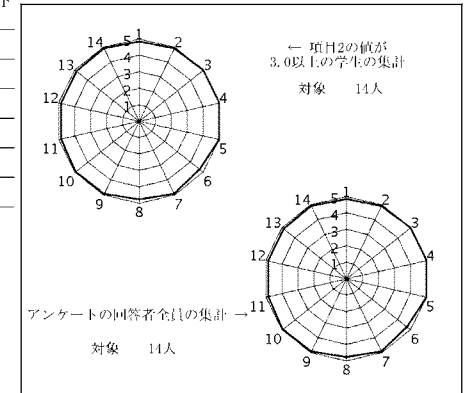
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The results of this survey are interesting. There are two new factors this survey. Firstly, the quarter went by very fast, and so there wasn't much time for homework and preparation. This issue was reflected in students' comments. Despite this, results are pleasing for questions 11, 12, and 13. Considering question two, it appears that students may be more motivated to engage in the class, whilst question eight I had made no special effort to make myself louder students must have been judging me based on the clarity of instructions.

Generally, increasingly through the quarter, and as witnessed in this quarter, the students are participating more, and their confidence and class engagement are increasing. I fostered an environment of trust, and so those with less ability could also gain confidence in speaking out. Of course, building student confidence is not a task that can be achieved in a single quarter, or year for that matter. The final reports indicated that they are aware of their improvements, what more improvements are needed, and how to achieve these.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[F]
B]3
授業コード 11A02-003
教員名 KJELDGAARD, Marie
教員コード 103478
登録人数 28
回答数 14
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

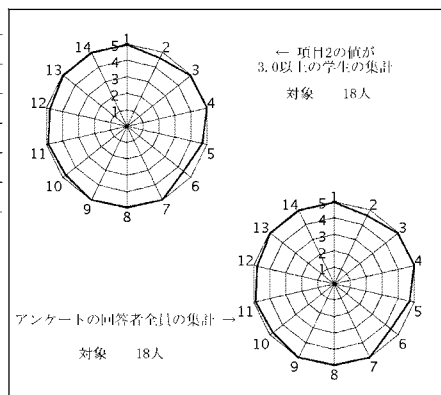


授業評価結果を踏まえた点検・評価

In this course, the main goals were to develop students' communication and presentation skills. I do believe course goals were met; based on in-class conversations, I believe many students showed a noticeable improvement in fluency and comprehension by the end of quarter 2. Unfortunately, the number of students who responded to the survey was small - only 50%. I will be sure to give students extra time to finish the evaluations in class and attempt to emphasize its importance in quarters 3 and 4. However, the students who did respond had very positive responses. Students were especially satisfied with the pace and structure of the course as well as their understanding of class goals and expectations. However, they were less confident that they were making progress towards accomplishing those goals. In the future, I will try to provide more positive feedback when students are successful, to help increase their confidence in their learning progress. I also need to remember to speak loudly and clearly, as two students said they had some trouble hearing my voice in class. Overall, though, students said they were very satisfied with the class, so I hope to continue many of the same classroom practices and use a similar class structure in quarters 3 and 4.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[F
B]4
授業コード 11A02-004
教員名 MORRISH, Jaime
教員コード 103479
登録人数 28
回答数 18
回答率 64.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

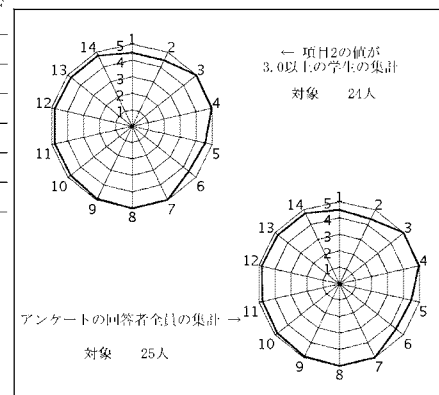


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were completed by all of the students, this was reflected in the feedback I received where students commented that they had ample opportunities for talking in English. The students' attendance was mostly exemplary with only a few students missing more than 2 classes, and only 2 students missing 3 or more and none missing more than 5. The overall motivation and attitude was very good. I aim to give the students as many opportunities as possible to interact with each other, one aspect that received positive feedback was the group work we carried out, I didn't realise they enjoyed this so much, as a result I will endeavour to include more group work activities moving forward in to the next quarter. The students seemed to appreciate this as it was reflected well in the student feedback I received. As I am teaching the same class in quarter 3, albeit with over half new students, I will take the quarter 2 comments and feedback on board and strive to improve the class as a whole. Overall, this class is very enjoyable and rewarding to teach. I hope that by taking note of the comments from the students, I can improve on what is already a great class. I feel that by varying the in-class activities and changing partners and group members regularly contributes to a lively classroom atmosphere. Also, by keeping the students' on a continuous class by class assessment, together with some key speaking tasks throughout the quarter keeps their motivation and attention throughout the whole quarter.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[F
B]5
授業コード 11A02-005
教員名 LOTT, Danielle
教員コード 103593
登録人数 27
回答数 25
回答率 92.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

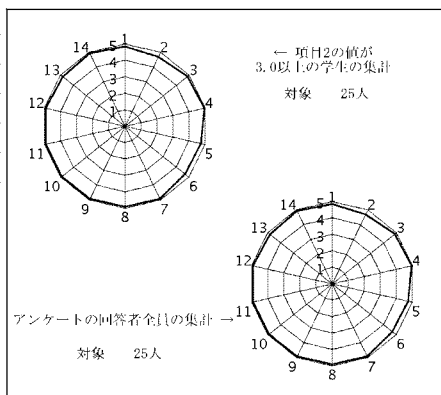


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) My goals were to develop students' communicative competency through recursive practice, the teaching of conversation strategies, and self-assessment. In the previous quarter students had expressed that they felt some difficulty in preparing for and completing three speaking tests. This quarter I only conducted one speaking test and allotted more time for review. I also incorporated a research element into their quarter project to encourage them to expand on the content learned. Students were able to use conversation strategies in the speaking test. They were also able to discuss the content they had covered with some depth. In addition, according to their final reports, the students felt more competent.
- 2) Based on the numerical data and comments, I feel that from the students' point of view the course was a success.
- 3) In an informal survey that I administered, students said that they preferred one speaking test to several. However, I would like to hold two speaking tests from next quarter- one to review strategy use with a free topic, and one speaking test to assess their understanding of the content. In the same survey some students requested more work on vocabulary learning and pronunciation, and these are my next goals.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[F
B]7
授業コード 11A02-007
教員名 FILER, Benjamin
教員コード 103850
登録人数 28
回答数 25
回答率 89.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



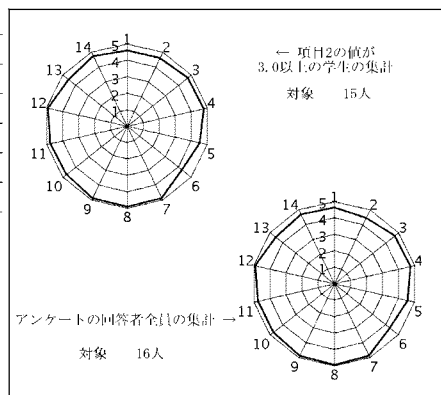
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I changed the methods of assessment from Q1 to Q2 on this course. As a result, the syllabus and materials were slightly different to the 1st quarter. I made more of my own materials to help achieve the goals on the syllabus. I had found the coursebook alone was not sufficient in the 1st quarter to meet the goals. Having changed my approach slightly, I was honest with the students and explained the changes in the first class of Q2. This change actually meant they had more homework and assessment. However, they rose to the challenge and seemed to thrive under the heavier workload. I think this is because they are an extremely motivated group, in general, who are keen to work hard to improve their English.

I am delighted that these changes seem to have brought about positive results- judging by the feedback scores. The students marked all sections with an average over 4.5. I therefore have the confidence to keep working on improving the courses I teach on, making changes when necessary and creating the best learning environment I can for the students.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G
]4
授業コード 11A02-035
教員名 GOTOH, Mie
教員コード 100186
登録人数 18
回答数 16
回答率 88.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

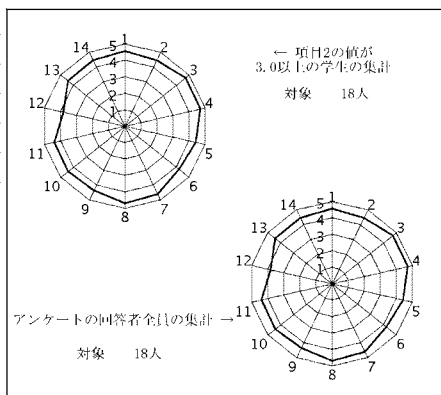
この講義は、国際教養学部の学生が、自分の言いたいことを英語で自信をもって話せるようになること、スピーチやプレゼン、ディスカッションができるようになることを目標にして行いました。毎回ペアを代えて行うペアワークやグループワークを多く取り入れ、たくさんの生徒とコミュニケーションを英語で取る練習を重ねました。トピックによって難易度は異なるものの、多くの生徒の成長がスピーキング力で見られました。

生徒のコメントには、「英語を話す力を伸ばすために実践的な表現を教えてもらえた」、「授業をわかりやすく丁寧に教えてもらえたので、楽しみながら英語を学ぶことができた」、「英語でコミュニケーションをたくさんとることにより、初めの頃よりも抵抗なく英語を話せるようになった」などの内容が多く、授業目標はほぼクリアできたかと思います。

今後の課題としては、毎回の授業での到達目標を明確にし、生徒にも着実に力がついていることを実感してもらえるように工夫したいと思います。これからも、一人でも多くの生徒に英語の楽しさ・おもしろさを伝えられるような授業作りに努めたいと思います。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G]
16
授業コード 11A02-037
教員名 KUMAI William N.
教員コード 000204
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

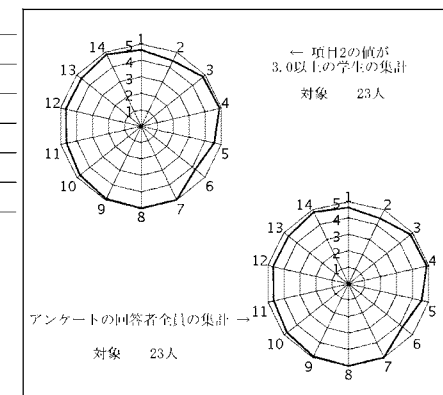


授業評価結果を踏まえた点検・評価

From the comments the goal of communicating better in English was attained by the students. Through a combination of English practice activities which demanded not only proficiency in English but also imagination and creativity and regular listening assignments, half of which were aimed at native speakers, that is, not simplified for second language learners, the students received training toward the ultimate goal functioning communicatively in English in a foreign country for study abroad. Question 12 drew the lowest score, though there was plenty of time for questions and answers, especially at the beginning of class and during group conversation exercises. Question 6 comes in as next lowest. This result is puzzling for the comments say otherwise. The next in line is Question 9. Students were expected to complete textbook exercises at home except those involving a partner. This increases their individual responsibility and enhances active learning. For the next quarter, an increase in the amount of required listening is envisioned because of the perceived lack of listening skills among the students studying in the Arizona program.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]2
授業コード 11A06-002
教員名 ELLIOTT, Darren
教員コード 101579
登録人数 26
回答数 23
回答率 88.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



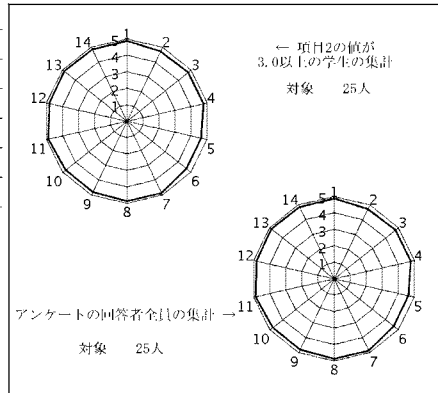
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year I have taken a more innovative approach to this class, teaching using authentic short stories and thematically connected news stories as reading content and writing prompts. Students are producing good work. They seem to understand the process and how the activities we do are building towards our goals. The atmosphere is very positive and inclusive.

However, being self-critical, there is one aspect I would like to improve next quarter. Although the students didn't report any serious issues, the fact that Q10 (Did the instructor take appropriate action with regard to behavior that might disturb the class, such as students talking, using mobile phones or being late?) received a slightly lower relative score is of mild concern. In a written report, one student mentioned that some students perhaps feel too comfortable. I am not usually a 'strict' teacher, but my classroom is well-managed. However, I will pay attention and try to ensure that 'fun' does not overtake 'learning'.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]7
授業コード 11A06-007
教員名 HOWREY, John
教員コード 100371
登録人数 28
回答数 25
回答率 89.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to help students communicate effectively and clearly in writing in English as well as help them improve their reading comprehension and vocabulary range. Students wrote two short essays and a professional email, read 10,000 words a week from extensive reading texts, and studied vocabulary from the Academic Word List. Essays were 350-500 words in length.

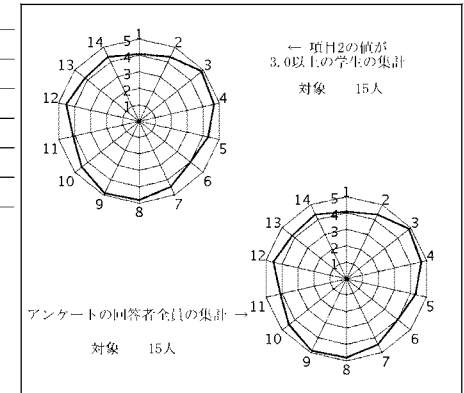
I am obviously pleased with the results of the questionnaire, particularly since the number of students was much higher in Q1 and Q2. Normally there are only 20-22 students in the class but this spring there were 28. This made giving individual feedback more difficult. This was also the first year where we did not stream a lower-level class for this department, so there was also a greater range of student abilities in the class. However, the class worked well with one another and nearly all of them could reach the course objectives.

Students comments were few but positive. Students commented that it was easy to ask questions in class, that they got lots of homework but that the homework helped them improve their writing, that they felt their English level had improved and that they liked the personal stories I give before each timed writing assignment.

For Q3 and Q4, I will focus more on using source support for argumentative essays and introduce terms related to literary analysis

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]4
授業コード 11A06-035
教員名 石崎 保明
教員コード 102444
登録人数 18
回答数 15
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

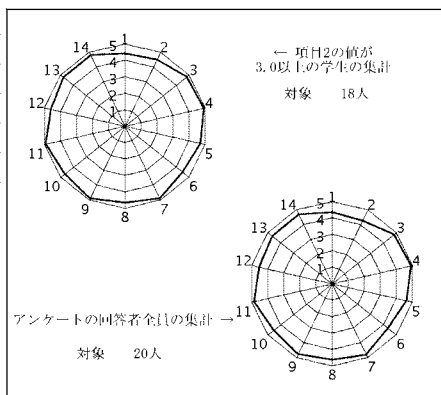


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①私は、今回、外国語教育科目の共通科目（英語）の授業評価を受けました。Q1では、科目は異なるものの、同じ学科・学年の受講生から授業評価を受けており、その際、個々の課題の量や時間配分にメリハリが必要という課題が残りました。本授業では、本授業が主眼に置くacademic writingの指導に加えて、毎回の授業に少しでも英語で話し発表する機会を設けるなど、各時間内の中での時間配分に注意を払いました。設問9の評価が全体の中で最も高く、設問5が今年度Q1と比べて0.5ポイント以上も上昇していることを踏まえると、当初の目標に近づくことができたと考えています。ただし、設問6は、評価は経年的に高まりつつあるものの、全体としては最も低い項目となっており、個々の授業間の関係性を明示するなど、改善の余地があります。
- ②③今年度Q1と比べると、設問3と10,11でほんのわずかに評価が下がった以外、すべての項目で評価が上がっており、徐々にではあるものの、着実に受け入れられている状況を実感する結果となっています。Academic writingの指導に対しては、おおむね好意的なコメントが多い中で、詳細な添削を希望する意見もありました。添削指導については、教員による添削の前に受講生同士のピアレビューを行っています。この仕組みの有効性ととも改善を検討したいと考えています。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[II
A, IP, II]2
授業コード 11A10-002
教員名 WOOD, Joseph
教員コード 103072
登録人数 20
回答数 20
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

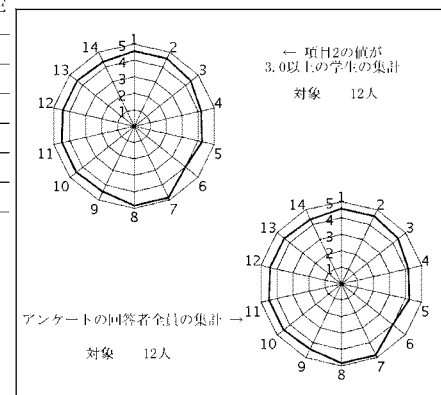


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am very happy to learn that my students are satisfied with my class and the way I teach it. The results from the survey, especially from the students' written responses are encouraging to me as a teacher and let me know that I need to continue doing what I have been doing so far. I am glad to know that students appreciate that I recommend English learning applications for their smartphones as well as online websites that they could use to study outside of class. It is also good to know that students can recognize that I care about them and want them to be successful in learning English in my class. Some students wrote that they believed their listening skills and reading skills improved over the quarter due to the course. Some students wrote that they enjoyed the English games we played, but would like to play more. With this in mind, I will try and find more English games that I could teach to students to make the class more fun and interesting for them. I will continue to focus on making my classes the best that they can be and to find new and interesting ways to get students more engaged and interested in learning English. I will find a way to have students spend more time in class discussing the topics and ideas from their weekly readings and will continue to improve my classes.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E
]2
授業コード 11A10-026
教員名 FLORES, Ana Maria
教員コード 102899
登録人数 19
回答数 12
回答率 63.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



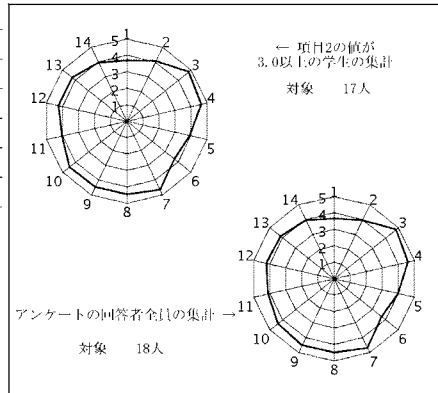
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aims to help students improve their overall ability to use spoken English. Classes includes variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Tasks and activities in this class also include both extensive and intensive reading tasks using a variety of texts (graded readers, authentic text) for improving student skills in surveying, predicting, skimming, scanning, inferring, and making connections with the readings.

Based on the students' responses, 95% of the goals of this course have been achieved. One thing that I believe needs some changes, and perhaps a bit of adjustments, is that the feedback needs to be quicker than what was done during quarters one and two. Also, since there are only 19 students in this class, I plan to set aside days for individual and group tutorials.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[S
13
授業コード 11A10-051
教員名 OTTOSON, Kevin
教員コード 103121
登録人数 22
回答数 18
回答率 81.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

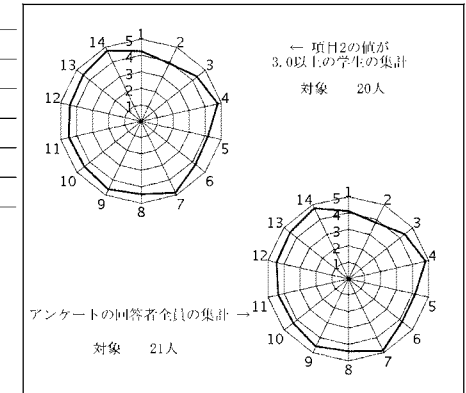
1) For this quarter, the students really focused on reading 4,000 words per week, writing summaries of their books, and communicating on various topics from 4-6 minutes. Students improved their ability to summarize their books. We spent more time in class reading and writing reports. The students demonstrated better knowledge of their books. Students improved their ability to communicate. Through increased time spent with conversation strategies, the conversations got better.

2) At 4.67, the students rated themselves quite high in their attention to their work in this class. I agree. A lower score at 3.72 showed the students were not so confident about their ability to reach the course goals. Again, I agree with this feeling. Unfortunately, there were a few students who failed this class to due excessive absences. Had they taken this survey, I feel that this would be lower.

3) I need to make some changes to this class to increase motivation and self-assessment. There were more absences this quarter. Perhaps the students did not see their progress or lacked interest in the topics. I will work engaging the students and increasing their self-efficacy in this class.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング3
授業コード 11A26-007
教員名 BROADBY, Deborah
教員コード 103594
登録人数 24
回答数 21
回答率 87.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



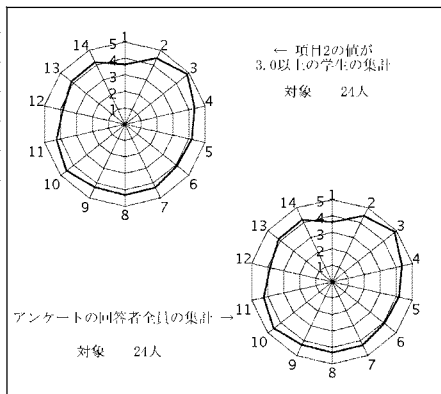
授業評価結果を踏まえた点検・評価

According to the goals that were set out at the start of the course, I believe that I was able to achieve them to an average/above average standard. I think that this is well represented in the results of the questionnaire. I tried my best to have as many students interact and participate during class as possible as well and give them the opportunity and resources for private study in their free time. The students reacted well to the topics and class work that I introduced and were creative with their group work projects.

Now that I have a better understanding of the students, their ability and level, I believe that I will be able to create future lesson plans for the same students in Q3 and Q4 that will meet both their personal and collective needs. In the following quarters, I aim to provide class content that is relevant and thought-provoking for the students.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング4
授業コード 11A26-008
教員名 都築 千絵
教員コード 103924
登録人数 24
回答数 24
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

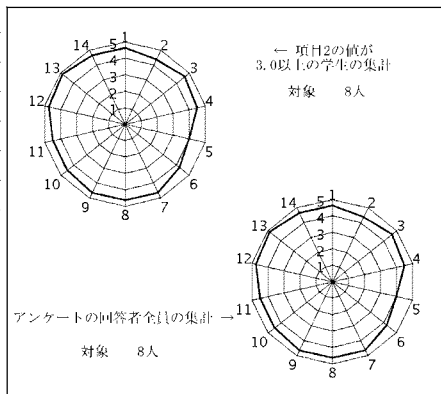
この授業は、第1クォータと第2クォータを通して、英語のリスニング力を向上させることを目的とした。学生が興味を持ちやすくするために、教科書は洋楽を扱っているものを使用し、英語を聞く時間を増やすために、宿題には毎回ABCニュースシャワーのニュースを1つ選んで聞き、ニュースのまとめと新しい単語を書いたレポートを提出させた。受講生の多くは、英語が漠然と聞き取れないレベルから、具体的にどうして聞き取れないのか手がかりを得て、シラバスに記載してある目標を達成できたと思う。

学生のアンケート評価結果の中で、設問12の数値が他の設問に比べて低かった。「質問や相談」の機会は、授業中や学生が毎回授業最後に書いて提出する内省コメントの教員とのやりとりで十分行われていたので、「課題、実習等に対する事前・事後指導」をしっかり行っていきたい。授業評価の自由記述では、自分の好きな洋楽を一曲クラスで紹介するSong Presentationの評判が良かった。学生が授業に能動的に参加できるように取り入れたが、WebClassに紹介された曲をアップすると多くの学生がアクセスしていた。また、教え方について「丁寧」という言葉が2人の学生のコメントに入っていたのは嬉しい。

今回の授業評価の結果を踏まえ、今後は、すべての学生が課題の事前・事後指導をしっかり受けたとわかるような指導をしていきたいと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語II<E>1
授業コード 11B02-007
教員名 Garance DUCROS
教員コード 103732
登録人数 11
回答数 8
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

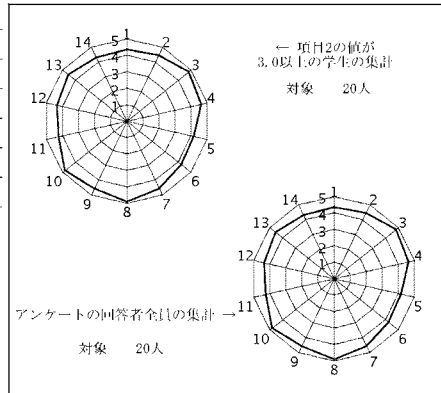
Thank you for your appreciation of this class and for your comments. This class is based on interaction and practice and I think you have done very well regarding this point. All of you have been very active and shown intellectual curiosity which I hope you will keep. You developed very good speaking and understanding abilities even, if sometimes, the exact spelling is not there yet but I think it will come with time and hard work.

The aim of the first quarter was to present the base of the French language and to have students be able to introduce themselves. The aim of the second quarter was to work on time (hours and so on) and on space. During the third quarter, you will study one past tense (le passé composé) and how to describe a person. I am sorry that it will be another teacher however because, unfortunately, I have to go back to France.

On a more personal level, I had great time with you. I hope you will do your best to learn more French and that you will even try to pass an international exam as the A2 or the Japanese Futsuken. Maybe one day you will even have the opportunity to visit France and use what we have learnt together.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語II<J・P>2
授業コード 11C02-009
教員名 梶浦 直子
教員コード 102557
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

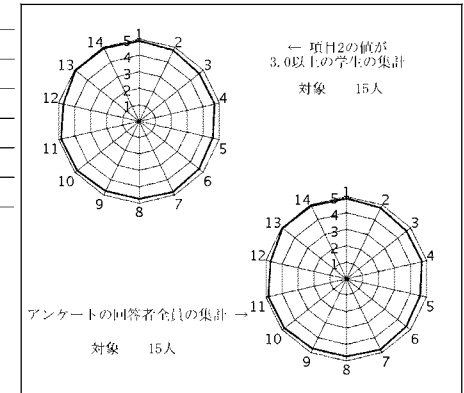


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、コミュニケーションに必要なドイツ語力を習得することにある。授業では多くのグループワークを取り入れ、学生は積極的に参加することが求められた。Q1と比較して学生はその意味で十分に課題に取り組んでいたといえる。その結果は筆記、口頭試験、プレゼンにおいて表れていると感じる。しかしながら学習者は自身の学習を十分に評価していないという結果が見られた。自由記述においては学習者が「力がついてきている」と感じている傾向がうかがえるが、問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」(4.25)の評価はそれほど高いとは言えない。その要因として考えられるのは、グループワークを中心とした学習に馴染んでいる学習者が増える一方で、受動的な授業態度から抜けられない学習者が見受けられることである。学習者の授業に対する考え方が、先に触れた問6や問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」(4.25)の評価につながっていると考えられる。今後はこの点に留意し、授業を進めていきたい。また、これまで以上に授業の目標を明確に伝えるようにし、設けている学習相談の機会を利用してもらえるように努めたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III[FS]2
授業コード 11D03-006
教員名 LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
教員コード 103688
登録人数 17
回答数 15
回答率 88.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

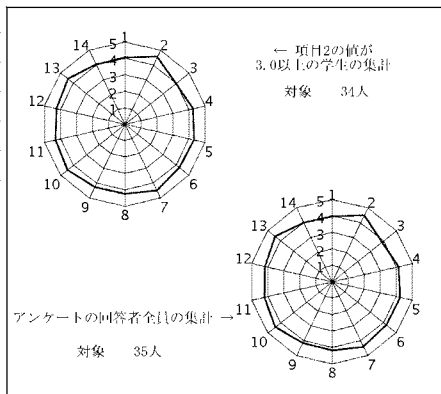
Evaluation report for class 11D03 006 (FS)2. 2nd. quarter. Prof. Sergio Neri

The original objectives for this class were as follows:

- 1)-To continue developing the foundation for the pronunciation of Spanish, this time making emphasis on the stress sign as a diacritic writing for homophones with different meanings. We continued working with focus on prosody, the patterns of stress, intonation and rhythm.
- 2)-Developing functions and notions of Spanish language according to a constructivist approach, taking advantage of the knowledge already acquired by the students in Japanese language and adjusting them to the Spanish particularities.
- 3)-We were specially working on developing a communicative competence that allows students to be able to do some shopping in Spanish:
 - Describe and evaluate objects, more specifically, merchandise.
 - Ask for prices and let others know the price of a merchandise.
 - To use the numbers including hundreds, thousands and millions, which is
 - useful in the case of conversion of currencies from the Spanish speaking countries into Japanese yen.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II2
授業コード 11F02-007
教員名 虞 萍
教員コード 101432
登録人数 40
回答数 35
回答率 87.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

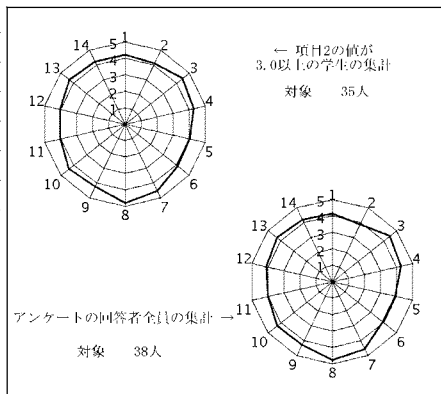
本講義の到達目標は、「基礎単語500語を習得している。中国語検定準4級レベルの運用力を身につけている。」となっている。授業で使用しているテキストは拙著（中国語検定準4級対応）であるため、全体としては目標に到達していると言えよう。

「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という項目では、「先生の教え方が良かった。」「予習復習をしっかり出来たので、中国語が身についたと思った。」「ペアでの練習で発音を確認できたこと。」「しっかりと教科書にあった教え方をしてもらえた。」「先生のレベルが高かったので、授業の質も高くとてもよかった。」などのコメントをいただきました。

今年度から「積極的授業参加度は、ペアで組まれる各教員が0～10点で評価する」ことになった。積極的に授業に参加できる前提としては、毎回、授業前と授業後にきちんと予習と復習を行うこと。この評価方法を導入することによって、学生一人一人の学習意欲を引き出せるようになったと考えられる。これからもこの公平で且つ有効な評価方法を活用したいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語II<E・B>
授業コード 11G02-003
教員名 陸 心芬
教員コード 101225
登録人数 40
回答数 38
回答率 95.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2の授業目標にしていた、基礎文法の習得や基礎会話ができることについて、おおむね達成したと言える。学生による授業の評価をみると設問項目の平均値4を超えており、評価にそれが表れていると思われる。

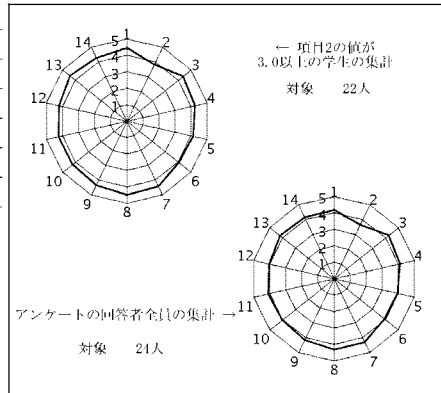
今回の授業ではQ1に引き続き、学生が授業に取り組む姿勢が良く、楽しく授業ができたと思う。その中で、授業に付いて来れない学生のための工夫が足りなかったのも事実である。なお、学生の実力の差が日によって広がる一方になり、それが授業の運営を厳しくしている。今後の課題である。

学生の自由記述欄の良かった点としては、いつもと同様に「楽しい」「丁寧に教えてくれた」「先生が積極的で、優しい」「発音の練習が多いので耳に残って頭に入りやすい」「プリントが分かりやすい」「声がよく通っている」などが挙げられている。特に目立つ意見として「生徒を見捨てない」があった。授業に付いて来れない学生に時間を与え、少しでも理解できるように気を配っていたが、それが評価されて嬉しかった。

ところが、改善すべき点として、「ひいきがすごい」との意見があり、教員の態度をどのように取った方がいいのかが悩みとして出てきた。40名という大人数の中、レベルの差が段々広がる中、みんなに満足できるような授業には不可能かもしれないが、分からないところを教えることは間違いないので、今後も粘り強く学生と向き合って工夫していきたい。改善すべき点の他の意見としては、難しく感じる側から「少し進行速度が早いと感じる。初めて聞いた内容を即座に覚えることはできない」「進むの早かった」「韓国語が難しい」があり、韓国語が簡単だと思っている側から「もう少し学ぶことのレベルを高くしてほしい」があった。これらはレベルの差がもたらす結果であると思われる。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	健康科学論1
授業コード	12D09-001
教員名	畑山 知子
教員コード	101969
登録人数	150
回答数	24
回答率	16.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

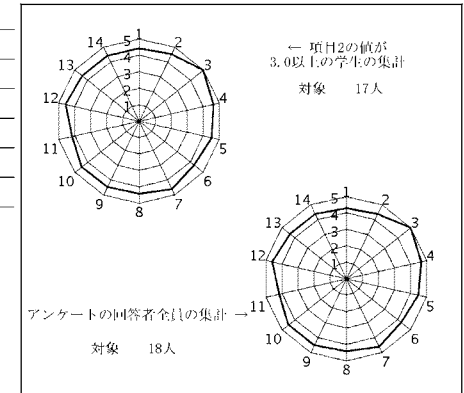


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問3-14の平均は4.13であり、やや低めの評価であった。今年度はレポートの形式を少し変更し、自身の身体や生活状況について少し細かく把握、評価したり、今現在の学生自身の健康づくりの一つとして重要と考えられる性に関する講演や、現代の社会状況や健康づくりを考える上で避けて通れない高齢化の問題と向き合えるよう外部講師の講演を取り入れるといった新しい試みを行った。性の講演会には男子学生の出席も多く、今まさに自身の身に起こりかねないリスクや将来像について考える機会となったようであった。しかしながら、4.5を超える評価となった項目はなく、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか、については3.92という結果であった。残念である。これは新しい試みによって、結果として個々のテーマについては浅く広く学習する形になってしまったことと、毎年、毎回の授業でコミュニケーションペーパーを書かせていたが、今年度はレポートの負荷が多少増えたこともあり、それを毎回実施しなかったことが影響しているのではと考えている。質問時間をとることで対応したつもりであったが、十分な対応ができていなかったと推察され、次期以降はやり方を工夫して実施したいと考えている。また、授業評価の依頼が遅れPORTAで呼びかけたこともあり、登録数に対して非常に少ない回答数になった点は多いに反省している。次回はこのようなことのないよう努める。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ科学演習A
授業コード	12D10-001
教員名	中路 恭平
教員コード	015255
登録人数	27
回答数	18
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

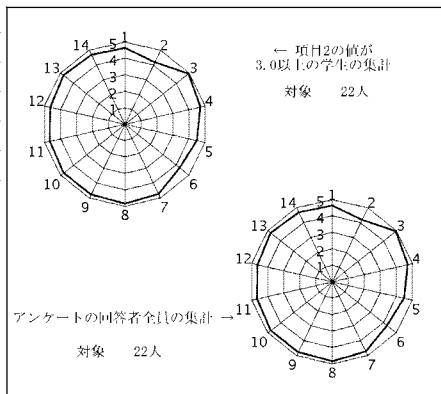


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標は、概ね達成できたと思う。
ただし、最終レポートにおいてスポーツイベントの企画書作成という課題を課したが、その記述内容が曖昧で細かい点への思慮が欠けているものが散見された。受講者に1年次生が多く、レポートの書き方がまだ未熟であるということも関係していると思われる。そういった点を踏まえた授業構成をしなければいけないと感じた。
授業全般についての学生の評価は概ね良好であった。自由記述にも、グループワークによってコミュニケーションが図られたことを評価する者が目立った。ただ、次回の課題を明示して事前に調べてくるよう指示したが、当日授業内でスマートフォンによって調べている者が多く、こちらが意図したコミュニケーションは必ずしも十分であったとは言えない。一部の者に、人と意見交換するよりも自分で調べたことをミニレポートに反映させることを重視する傾向が見られたのは残念であった。こうした点も何らかの対策を検討すべきであると感じた。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ科学演習B
授業コード	12D11-001
教員名	平川 武仁
教員コード	101419
登録人数	39
回答数	22
回答率	56.4%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、履修者各自にとって最適なトレーニング計画が立案できる能力を習得できるように、トレーニングの一般原理と歴史的・国家的背景を学び、各履修者における効果的なトレーニング方法を学修することを狙っていた。授業内容に関する設問3から14の平均値が4.70という評価が得られたことから、到達目標は概ね達成されたと考えられる。項目別にみると、特に、教員の声（設問8：4.86）、効果的な教材（設問9：4.77）、授業の妨げ行為への対処（設問10：4.77）、新しい知識の獲得・理解（設問13：4.77）、教員の授業に取り組む姿勢（設問7：4.68）の評価が高かった一方で、学生の能力の育成（設問6：4.27）、主体的参加・内容理解の努力（設問2：4.18）が低いという評価になった。これらの点に関しては、自由記述において「内容が面白い、相談時間確保、課題・レポートによる学修の定着、説明がわかりやすい、私語のない授業で集中できた」など、板書・記入式資料・新聞報道などの補助教材などを用いて効果的な教材を準備・提供したことが好評価に繋がっていたことを裏づけられている一方で、レポート修正し再提出する機会を設けていたにもかかわらず、設問2と併せて設問6（4.27）の平均値が若干低かったことが残念である。今後は、更に学生の自己研鑽・能力育成を喚起するような授業構成とするよう、具体的方策を取り入れることを中心に、授業改善に取り組む所存である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(健康スポーツ)ダンス
授業コード	14E04-003
教員名	飯田 祥明
教員コード	103610
登録人数	13
回答数	4
回答率	30.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

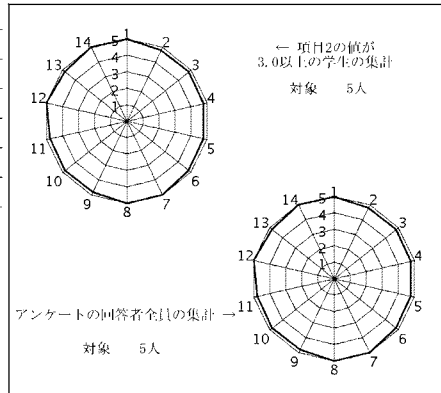
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目の設定目標は「ストリートダンスのジャンルとリズムの概念について理解できる」「リズムによってダンスを楽しめるようになる」「グループでダンスルーティーンを作れるようになる」の3つであった。1点目については、初回の授業で講義を実施したため、出席した受講生は概ね達成できたと感じているが、初回欠席や遅れて登録した学生は達成できたとはいえないため、今後は実施回を変更したり、複数回に分けるなどの工夫をしたい。2点目については、全受講生がダンスへの抵抗感を払拭し、楽しめるようになったため達成できたといえるだろう。3点目のルーティーンについては、グループでの実施で非常に良い作品ができたが、作成への貢献度が個人に偏ってしまった可能性が有るため、今後は全員が参加できるように工夫したい。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
回答数が少なかったが、数値データからは本科目への高い満足度が伺えた。次回からはアンケート回答を呼びかけるだけでなく、スマホの持参してもらい回答のための時間を確保するなどして、回答率を高めていきたい。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記のようにいくつかの改善すべき点が見つかったが、次回からは特に受講内容や参加度の不均等性の改善に努めていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(生涯スポーツ)テニス
 授業コード 14E05-002
 教員名 金 興烈
 教員コード 102721
 登録人数 11
 回答数 5
 回答率 45.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

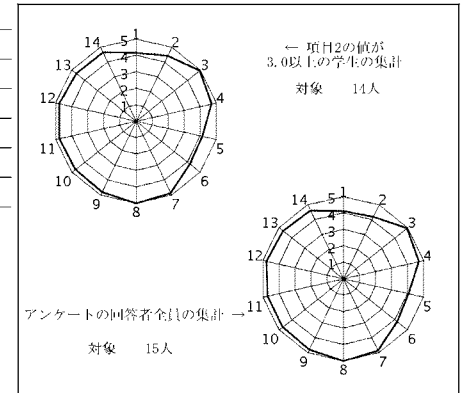


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が、全体平均の4.8点以上を達成していることは、それなりに評価してよいのではないかと思います。今回は、開講当初に「①テニスに関する理論的背景(歴史と道具の進化によるプレースタイルの変化)を理解すること、②テニスを通じた生涯スポーツに向けた基礎体力の獲得と他人との対話能力や協調性などの社会的適応の基礎を獲得すること」という目標を一人一人に設定させた。今回のような高い授業評価の結果には、とりわけ受講者らのモチベーションも一因であったと思われる。今回の受講者らは学習意欲が非常に高く、毎回の授業にも積極的に取り組んでいた。それによって、様々な知識がストレートに受け止められ、テニスの機能面でも高い目標に向かって自ら取り組んでいく姿勢が見受けられた。これは授業内容だけでなく、授業運営に関する取組も評価された結果であると判断される。一方、開講クォーターにおいては、7月から平年より猛暑が続く中、熱中症対策による授業時間(練習や試合)を十分取れなかったことは、今後の改善すべき点である。次年度の授業においては、開講クォーター(Q1またはQ3)を変更するなど熱中症の対策について考えていきたい。これからもテニスの学習意欲が高まるような授業展開と指導法を工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の言語学
 授業コード 22C08-001
 教員名 菅原 彩加
 教員コード 103579
 登録人数 32
 回答数 15
 回答率 46.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

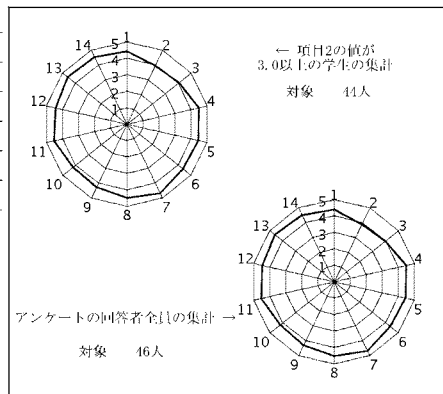


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標としては、ヒトが扱っている「言語」とは何かについて考察してもらうこと、また、なぜ言語の研究が認知科学の一つと言えるのかについて、科学的な根拠をもとに他人に説明できるようになること、を掲げていました。昨年度のアンケートでは、「この授業の到達目標を理解できたか」「到達目標に向けて力がついてきていると思うか」という設問に対して4.07、4.00と他の設問に比べて低い数値であり、この点を今年度は改善したいと思い、授業途中で授業目標やレポートの目指すところをリマインドしたりしました。今年度の当該の設問に対しては、4.07、4.20とあまり変化が見られませんでした。ただ、「2」や「1」と回答した学生はいなかったことから、少しずつ改善されているようにも思います。設問1の、履修前の興味の数値は4.13であったのに対し、設問13、14の「新しい知識を得たり、理解が深まったか」「全体として満足したか」については4.67、4.60と比較的高い数値であったことから、講義を通して学生の学習が促進されたと言えるのではないかと思います。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学習心理学
授業コード	23C22-001
教員名	中谷 素之
教員コード	102692
登録人数	98
回答数	46
回答率	46.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・目標と到達度

今期『学習心理学』では、心理学における学習および学習動機づけの理論の基礎を学ぶことを目的とした。

授業時の小レポートにて理解度や関心度の自己評価を求めているが、おおむね関心や理解度が高いことがうかがわれた。

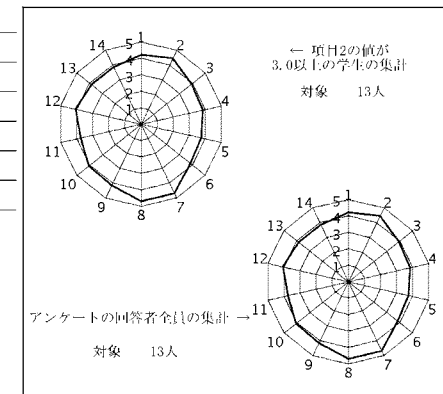
授業評価項目5『授業目的の理解』項目6『目標の到達度』について、全体、心理人間学科、および60~120名登録授業のいずれに比べても高い評価であり、授業目標と授業を通した目標の習得について、肯定的な評価が得られていた。

・自己点検・評価

本授業では、1. 授業の全体構成と現在地を明確にすること 2. 日常の話題につながる具体的事例をあげ、学生の関心を引き出すこと 3. プリントやスライド、動画を用いて学生の関与を引き出すこと を行った。その結果、授業評価項目3~14（授業全体について、授業運営について、全体的な評価）の12項目のうち、心理人間学科科目との比較では7項目、同登録人数の科目では10項目が評価を上回った。自由記述の内容から、『やる気が出た』『DVDや資料も多く視覚的にも面白かった』など好意的な評価も多かった。一方、『黒板の文字が薄い』などの指摘もあり、修正すべき点である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	からだことばII
授業コード	24C07-001
教員名	土谷 薫
教員コード	064352
登録人数	37
回答数	13
回答率	35.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①第1クォーターで基礎的な「からだことばのレッスン」を行った上での、第2クォーターでは上演に向けて、いかに学生が目的意識を持ち、主体的に参加するかが目標であった。

そのために、まず初回の授業で一人一人この授業に向けての目標を明確にし、どう取り組むか確認した上で進めていった。

演目毎の稽古に入ってから、自主練習を充実した時間にするためにリーダーを設けるなどの工夫をした。

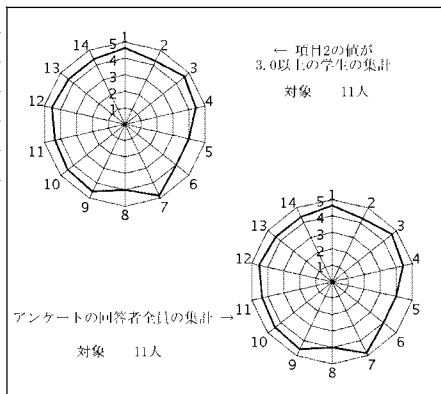
その結果、学生の授業評価アンケートでの項目（「興味を持って取り組んだ」「主体的に授業に参加した」「新しい知識を得、理解が深まった」）から概ね目標は達成できたと思われる。

②「この授業の到達目標を理解することができたか」という項目についてのポイントが他の項目より低い値であった。「からだことばのレッスン」から上演まで行うことの意味、授業としての到達目標としては明言せず、各自がそれぞれの目標や意味を見出すよう取り組んだ。その結果であろうか・・・

③毎回のふりかえりを丁寧に行ったことで、上演に向けての稽古期間が短くなってしまい、学生にとってはもう少し準備期間が欲しかったという声があった。来期は、内容に関してより丁寧に伝えていくことと同時に上演に向けての準備期間をより計画的に組んでいく必要がある。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本美術史
授業コード	24C27-001
教員名	四辻 秀紀
教員コード	100351
登録人数	33
回答数	11
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

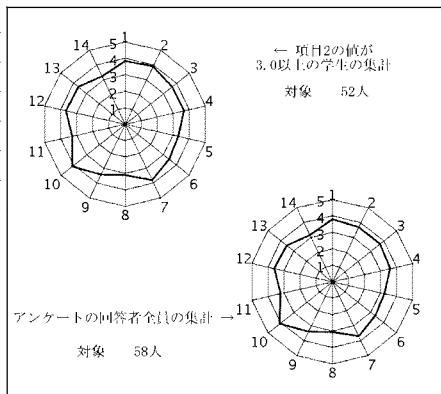
授業目標については、例年のごとく授業の進行が後半やや押し気味になってしまいましたが、おおよその目標には到達できたかと思う。

美術史にくわえ文化史的な側面を加えた講義内容とした。国宝や重要文化財級の作品から直接撮影した貴重なスライドが多く、部分拡大写真など出版されている図版などからは得られない情報が豊富であるため、今後ともスライドを用いつつ、文献資料とあわせて、日本も美術や文化に親しみ、理解を深めてもらえるような授業運営を心がけ、配付資料をさらに充実させていくことにしたい。授業内容については、関連のある応用的な知識も沢山披露されたので面白かった・興味を掻き立てるような知識が多くあった、とする意見がある一方で、・全体の目標を示されても、具体的なことが理解し難いことがあったとする意見もあり、今後受講生諸氏が幅広く理解していけるように、授業の進行について善処していきたい。また声が小さくて聞こえにくいのでマイクを使うなりして欲しいという受講生からの要望があったが、この点についても留意して授業をおこなっていききたい。しかし毎回マイクをつかって講義をしており、また授業についての要望や質問があれば授業中に発言してもらっても、また出席カードの裏に書き記してもらっても良いと受講生諸氏にあらかじめ伝えており、もし声が届いていないのであれば忌憚なく発言してもらえればよかったと思う。

。授業の進行が遅れないよう、心がけていきたい。また折角メンバーズシップで、徳川美術館が無料で入館できるようになっているので、最大限に利用してもらいたい。今後とも日本の文化歴史の知識と理解が深まるよう、受講生諸氏とともに授業運営を推進していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	和歌文学研究
授業コード	24C28-001
教員名	伊藤 伸江
教員コード	103266
登録人数	138
回答数	58
回答率	42.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

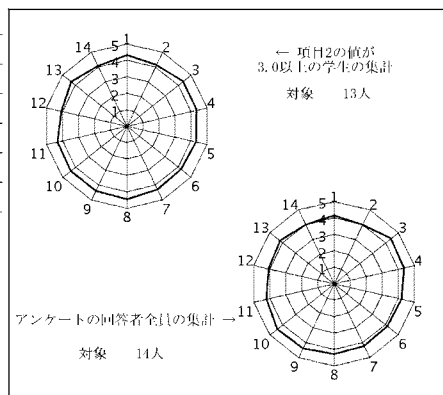


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、中世和歌と連歌の歴史をたどり、時代ごとに代表的な歌人や和歌、歌論、連歌論を味わうことにより、日本の韻文を知り、韻文の特性を考えることで日本の文化を理解することを目標にしている。そのためまず、学生が15回を通して、概説により、通時的に和歌の流れ、歴史を理解できるようにつとめた。日本史の知識も必要であり、授業で補充している。歌の技法理解に関しては、資料にできるだけ例歌をのせ、必要と思われるものには現代語訳をつけて、復習の際に役立つようにした。また、出席票に、毎回感想を書いてもらい、学生が多く疑問を持つところは、次の授業に説明をするようにつとめ、理解をうながした。多く質問にくる熱心な学生もあり、高校時代に歌に触れ、興味関心のある学生たちがいることがわかり、和歌の知識を深め、日本文化を歌の形から理解する一助になるようにつとめた。連歌に関しては、さらに学びたいという学生が多かったが、和歌よりも複雑で難解であることもあり、試験結果を見ると、15回では時間が足らず、もう少し説明時間をとることが必要であったかと思う。なお、二時間続きの講義であり、どうしてもコマの区切りがあいまいになるので、学生の希望もありコマの間の休み時間をちゃんと確保したいと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 女性と近現代文学
授業コード 24C38-001
教員名 酒井 敏
教員コード 101869
登録人数 77
回答数 14
回答率 18.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

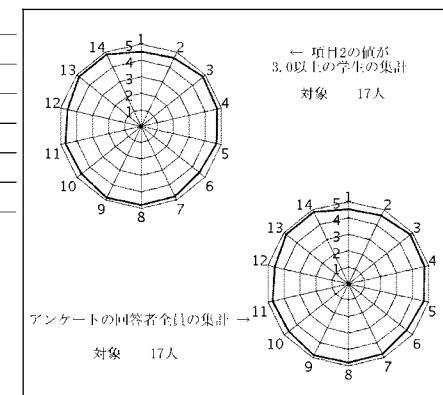
そもそも回答数が少なかったが、自由記述でのコメントを見る限り、開講当初の目標には到達できたようだ。教材にした作品を軸に、伝えたかった知識や考え方（ものの見方）など、興味を持って聞いてくれた様子がわかる。AIが注目される時代だからこそ、文学作品やテキストの読解・解読によって身に付く能力やメディア・リテラシーが重要になる、との講義全体を通しての根本的な主張・問題意識が、共感を以て受け入れられたと思う。そのために、シラバスの一部を変更して講義したが、それも良かったのだろう。

ただ、数値データを見ると、必ずしも良好ではなく、例年高い評価を受ける項目が低い評価だったり、残念な部分もある。今年から変更された方式が孕むリスク（教室で紙媒体で行うより回答率が低下する）には一定の理解を持っていたつもりだが、もっと回答を強く促すべきだったと反省している。冒頭に書いたように回答数が（例年に比べて極端に）少なく、それが両極端の回答のみが提出された結果だとすれば、例年との比較が行えないからである。

この結果が、講義者努力不足なのか、今年を受講生の特色なのか、回答を促す努力が足らなかったからなのか、判断がつかないが、肯定的な評価を受けた要素を大切に、有効なデータが得られるような工夫も含めて、今後も努めてゆきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語分析B
授業コード 24C51-001
教員名 宮地 朝子
教員コード 102059
登録人数 45
回答数 17
回答率 37.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

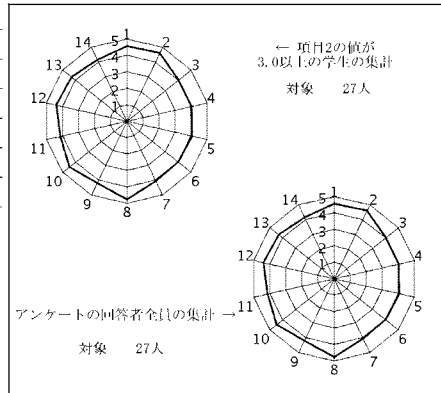
評価の平均値は(1)-(14)が4.71、(4)-(14)が4.74であり、いずれも全体の平均を上回った。担当者自身としても最も高い値といえる。受講者数が過年度の6割程度であったので、対応が行き届きやすいクラスサイズであったことがこの結果に影響していると思う。

自由記述(15)においても全体にプラスの感想で「質問にも丁寧に対応してくださり、先生の熱意を感じました。」「毎週生徒からの練習問題の回答も丁寧に解説してくれたのでやる気が出ました。」「分かりやすく解説してくれた。」「スクリーンで一つ一つ詳しく教えてくれる。」「先生が授業をすごい楽しそうにやっていてこっちまで楽しくなった。」「先生がとても明るく元気がある。また、授業も興味深く面白い。」といったコメントがあった。日本語について相対化し、言語現象としての分析課題とおもしろさを見いだすという授業目標について、おおむね達成できたと考える。

改善点について、項目(16)にも記載は無かったが、過年度には、出席・遅刻の確認方法や、スライドの文字の色、私語への対応、扱う内容の量などに具体的な指摘・要望があった。引き続き留意改善を心掛けたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A II3
授業コード 31A02-003
教員名 RICART, Michael
教員コード 103617
登録人数 28
回答数 27
回答率 96.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

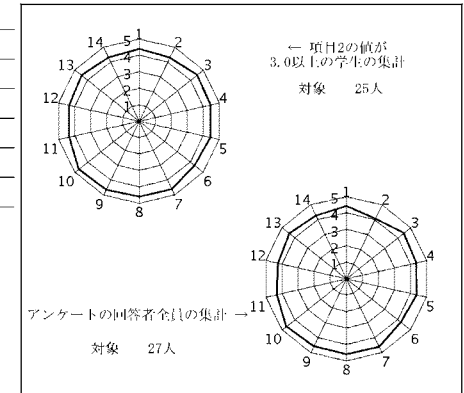


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the class were as follows
Students performed well regarding listening to formal talks. Students listened to various internet talks esp. TED Talks
Read English texts for development of reading skill: listening for the main ideas/details/ overall comprehension.
Academic Writing skills were studied and APA 6 was implemented.
Students need to work more at references
Students gained more experience for academic writing and its process.
Students collaborated well for presentations.
Students evaluation were quite well represented and many seemed satisfied with the course.
For this teacher, many of the tasks requiring technological skills were lacking. The designers of the course, Toland and Sakamoto, provided enough material for students to lean and master such techniques and were very supportive to this teacher.
For my own self assessment I was proud of the work the students did. It was enjoyable to help and coach them through these new and somewhat difficult but enjoyable assignments.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの社会
授業コード 31E07-001
教員名 松波 京子
教員コード 103864
登録人数 155
回答数 27
回答率 17.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

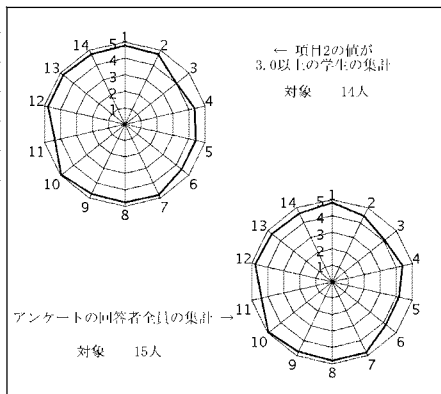


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
「イギリスの社会について、その社会的・歴史的背景を理解しつつ、現在いかなる問題を抱えているかを知り、その問題について自らの意見を考え、またそれを主張することができる」との問題設定であったが、ほとんどの学生が目標については到達できたと感じています。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
南山大学は出欠を正確に確認できるシステムが未構築であること、また担当者が南山大学での講義が初めてであったため、スムーズな出席確認作業が確立できず、結果的に学生からの改善要望が強く残ってしまった形となりました。今後、改善する予定です。
なお講義の内容については、イギリスのことをいろいろ知りたいという学生の要望には概ね応えられたかと考えています。意欲的に講義に参加してくれる学生が非常に多く、担当者も非常に刺激を受けました。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
講義内容の方向性については維持しつつ、学生とのディスカッションの時間を少しでも多くしていきたいと考えています。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語翻訳法1
 授業コード 31E23-001
 教員名 クマイ 恭子
 教員コード 101131
 登録人数 17
 回答数 15
 回答率 88.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

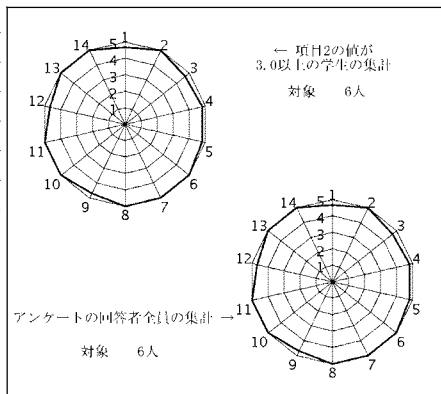
翻訳の初歩の初歩、入口といった感じの授業である。それよりも訳出のための基礎となる英語力向上に重点をおき、まとまった量を読み、複雑な文章のセンスグループ間の関係を理解し、それを日本語として分かりやすく表現することに重点をおいた。そのためにテキストにはペーパーバックも使用し、毎週理解度をチェックした。その際、焦点をおいたのはセンスグループ順の理解と、上記のセンスグループ間関係を訳に反映できるかどうかということだった。それと並行して様々なタイプの翻訳を経験してもらった。字幕翻訳と小説翻訳を面白いと感じる学生が多かったようである。恐らく登場人物の性格や物語の文脈等、想像するという作業が多分に含まれ、限られた中で想像力を駆使して自由に表現する醍醐味を分かってもらえたからではないかと思う。同時に訳すということの難しさ、怖さも体験してもらえたのではないかと感じる。課題が多いという意見もあったが、英語能力及び技術力を1クォーターで向上させようと思ったら、現在の量でミニマムだと考えている。

私自身の課題としては、より良い教材の選定と興味を引く授業展開を心がけていきたいと思う。正直もう少し学生の反応があると（表情などで）ありがたいと思うが、授業後の質問などで楽しんで取り組んでいることもわかり、安心するということもあった。全員の前での意思表示が苦手なようである。後半になって課題の評価が上がった学生が結構いたことにより、学生の真面目な取り組みが分かった。これは嬉しい傾向だった。

物理的側面ではログイン状態が20分で落ちてしまうため、解説をしている間にPCがオフになりログインしなおしという手間が何度もあった。大学側の事情もあるのだろうが、授業の運営上、もう少し長い時間ログインを保てるようにしていただくと有難いです。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III[FS]1
 授業コード 11D03-005
 教員名 HOPKINS Mariella
 教員コード 103653
 登録人数 15
 回答数 6
 回答率 40.0%
 休講回数 2 回
 補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) Para este segundo trimestre los objetivos señalados en el syllabus fueron desarrollados en su totalidad, para lo cual se han realizado diferentes actividades vinculadas al proceso de aprendizaje de una nueva lengua, tal como le mencioné en el reporte anterior. Habiendo obtenido resultados favorables para los alumnos.
- (2) Hemos observado en este segundo trimestre en relación al desarrollo de las clases una participación más activa de los alumnos por medio de consultas y aclaraciones de los temas que estamos tratando. De igual forma la expresión oral de los alumnos han tenido un mayor dinamismo por las actividades de parejas y grupales, lo que nos va permitiendo clase a clase evaluar el buen desempeño de los alumnos en estas áreas.
- (3) Para este próximo trimestre en general insistiremos y daremos mayor énfasis en cuáles son los objetivos que el alumno debe alcanzar para cumplir con las metas propuestas, y en particular reforzaremos la corrección de tareas en clase.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション特論A
授業コード 33C01-001
教員名 SANCHEZ Isabel
教員コード 063263
登録人数 10
回答数 4
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

All students studied assiduously as I'd expected. They had much interest in the topics I presented. The topics they showed much interest in were the difference of the notion of 'superstition' between France and Japan and cosmetic surgery among young French. I hope they can talk about these topics with French people.

To my relief they were contented with my way of teaching according to the questionnaires. They usually listen to English in daily Japanese life but rarely listen to French. But nowadays they can listen to the radio in French through Internet service. I hope they can search for more chances to use new media actively. Through this method they can cultivate their abilities of French communication.

The objective of this Special French Communication Class is to talk about some topics with French people. I think the topics are very important to develop the discussion. If they are interested in the difference of the way of thinking between French and Japanese people, they can talk with French people smoothly.

I'd like to make this class more active. I will give them more chances to cooperate in role-play activity.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語実践演習B
授業コード 33C06-001
教員名 清水 ベアトリックス
教員コード 047845
登録人数 14
回答数 3
回答率 21.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives of the course were to prepare students for various examinations, specifically the 仏検 and the DELF B2. French Practical Seminar B follows French Practical Seminar A and it was clearly stated that the level was to be higher, but some students were unaware of this apparently.

The contents of the course included:

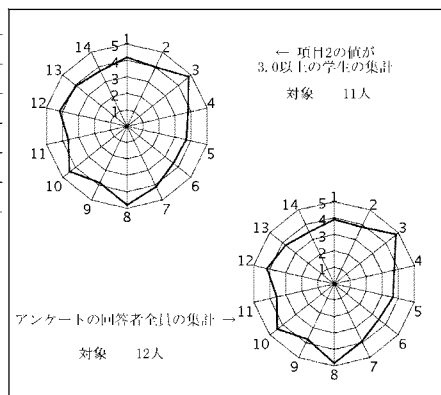
- reviewing important grammatical points: we reviewed various grammatical tools to create sophisticated sentence patterns.
- improving written skills; we focused on the expression of one's opinion regarding documents dealing with important topics that help understand French culture and France as a country.
- improving oral comprehension skills and spelling; every week we had a dictation using vocabulary studied the previous week.

Too few students participated in the evaluation. Thus the results, although excellent, are hardly a representation of all the students' opinion. The university should consider adopting another method of implementation of these evaluations.

In the future, the course will continue to be organized along its present lines, always adjusting its contents and degree of difficulty to the actual level of proficiency of students.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ思想史
授業コード 34D06-001
教員名 高畑 祐人
教員コード 048736
登録人数 47
回答数 12
回答率 25.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

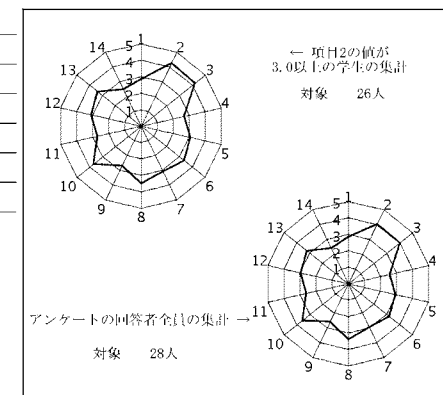


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回のアンケートについて、数字的には可もなく不可もないという結果であるとも言えるが、自由記述については反省する点もあり、こちらにもいいことがある。まず、基本的にこの授業は専門課程の授業であるということをこちらは前提していたのであるが、その認識はこれからは棄てなければならないということが分かった。しかし、あらかじめドイツ哲学についての授業だと分かって参加しておいて、ときどきドイツ語で板書するとは何という言い草だろうか。自分で調べるか、授業後に質問に来るのが学生というものではないのか。資料が多くて複雑だという点については、やはり専門課程の学生だということを前提していたのだが、もっと要点を絞ったものにするなど改善したい。ただあえて一言言わせていただければ、こちらは非常勤として任されている身であり、この科目の該当学科の学生に対して日常的にドイツ哲学の基礎についての指導がどれほど為されているのか、疑問に思う。日頃のそうした指導なしに、非常勤一人の身にドイツ哲学思想に関して丸投げされるのもどうかと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門4
授業コード 40B03-004
教員名 近藤 仁
教員コード 014431
登録人数 38
回答数 28
回答率 73.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【1】授業目標および達成度

本講義は、Officeを用いて、プレゼンテーションとしての観点を含めて、日本語ワープロの習得、統計的データ分析手法やデータ加工手法、およびグラフ作成手法の習得を目的としている。授業の目的の達成度としては、高校までで文章を作成する訓練やデータを読む訓練ができていないため、完全とまではいえないが、目標はほぼ達成できたと考えられる。

【2】授業評価

今回の評価では、設問4以下の回答がすべて1という評価の学生が28名中4名、14.3%もいる。学生のPC機種やOFFICEのVersionが異なっているため、授業が中断することがあり、時間がかかっている。そのため、講義のスピードが速いか学生の理解度に合わせてほしいとか言うコメントがあり、設問4や設問9の評価が低くなっていると思われる。その都度、時間を設けて、理解できていないところを聞いており、授業後も質問に応じている。

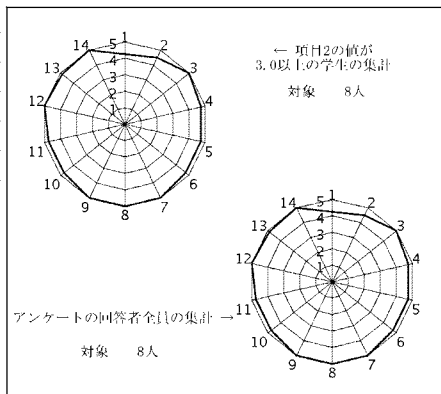
学生に正確な理解を促すため、提出されたテーマレポートの誤りを説明し、再提出を義務付けているが、他のクラスには、再提出がないため、それが負担である旨の評価がある。

【3】改善点

プレゼンテーションを意識した文書や表の作成、データの取り扱い、社会人として重要であることは、常に言っており、また毎回レポートをチェックして返し、再提出させているが、それが負担であるということであれば、どう対応すればよいか、どのように理解させるのか、模索中である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門5
授業コード	40B03-005
教員名	西 一夫
教員コード	103655
登録人数	39
回答数	8
回答率	20.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

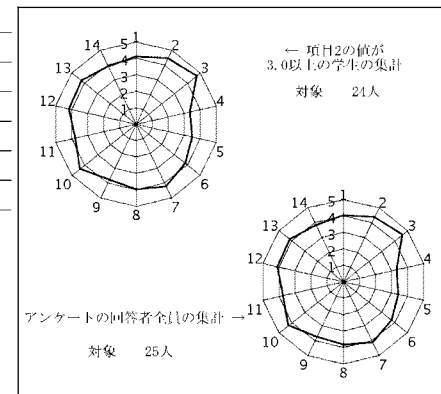


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は回答学生の人数が少ないため、参考データとして評価報告を行う。
データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。
『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』
この目標に対しては、授業評価項目番号5（この授業の到達目標を理解することができましたか。）と、6（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）共に4.75の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。
今年度のQ2も優秀なTAの学生に助けられ、学生の質問にも「痒いところに手が届く」感じで授業ができたことは評価できる。また、昨年度とは設備も大きく変わり、視覚・音響的にも学生に分かりやすい環境が整ったおかげだと感じる。
座席も自由席であるためなかなか学生の氏名も覚え辛いですが、今後もできるだけ学生の特徴を掴んで楽しい授業を心掛けたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済統計入門1
授業コード	40D05-001
教員名	荒深 美和子
教員コード	049353
登録人数	45
回答数	25
回答率	55.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

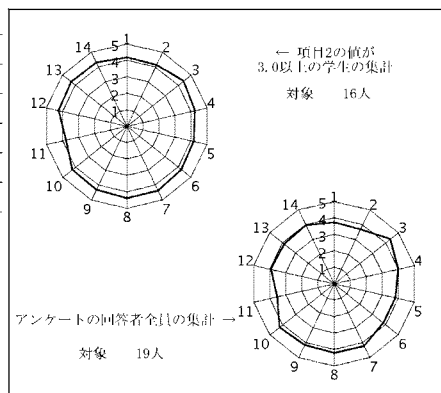


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は「統計学」をパソコンのExcel上で学んでいく入門科目である。今回、履修者45名中、出席者43名の授業中にアンケートを実施したが、回答したのは25名であり、回答率は58%であった。各設問に対して「はい(5,4)」と「いいえ(2,1)」の割合を使って評価していく。学生の理解度に合わせた進度で授業することを心がけているが、今回も授業の進む速度が早すぎると記述した学生が数名いた。「授業についていけなくなった時点で、いつでも授業を止めるように」と最初の講義の際に授業の進め方を説明し、単元ごとに確認しながら授業を進めているが、実際に学生からの中断はなかった。設問4の進行速度が適切48%に対し、不適正40.0%という回答であった。非常勤であることから、質問や相談の機会を授業時間以外にとることができないが、毎回、授業時間内にできるだけ全員が理解できたかどうかのチェックをしたい。TAによる授業補助があるとよいと考える。配布プリントの内容に復習しやすいように操作手順なども盛り込み、授業中に使っている教員のファイルをネット上に置いておくことで、自主的な学習の機会をさらに促進し、それぞれの知識が本当に身につく授業を目指したい。設問13の「新しい知識を得て理解が深まった」では76%の学生がそう思うとの結果を励みに、さらに学生が授業へ積極的に参加できる授業構成にしていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 農業経済論B
 授業コード 40D53-001
 教員名 園田 正
 教員コード 102233
 登録人数 119
 回答数 19
 回答率 16.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

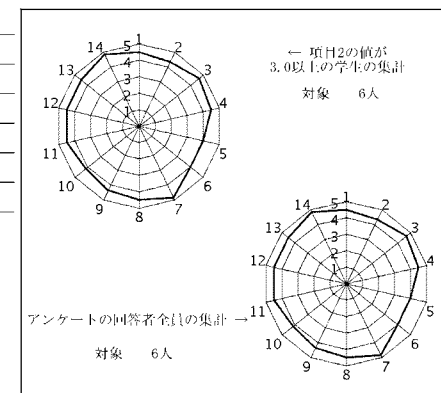


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、①中国の農業を取り巻く問題の変遷を、経済発展と関連づけて理解できるようになる、②これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようになる、③中国と日本の農業問題の類似点、相違点について理解できるようになる、というものであった。①と②については、中国が経済発展を進める中で、農業生産体制を地主制、私有制、合作社・人民公社制、農家生産責任制と変遷させてきたこと、その中で農民がどのような生活水準にあったかを学び、試験の成績から、相応の理解が得られたものとする。③については、講義での質問などから、各学生が中国の農業に関心をもつようになり、日本の農業との比較もある程度できるようになったことがうかがえた。授業評価集計とレーダーチャートから、教員サイドの評価である設問3以降では、設問11以外の評価は3.8~4.4であり、おおむね良好な評価が得られていると考えられる。設問11は3.5であり、学生の学習意欲を引き出すことについてやや問題があるが、農業経済という科目の性質上、評価が低いともいえないと考えている。以上から、細かい修正点は必要かもしれないが、基本的には現在の講義方法を継続していけばよいと考える。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語A2
 授業コード 40E06-002
 教員名 森川 信子
 教員コード 100136
 登録人数 11
 回答数 6
 回答率 54.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

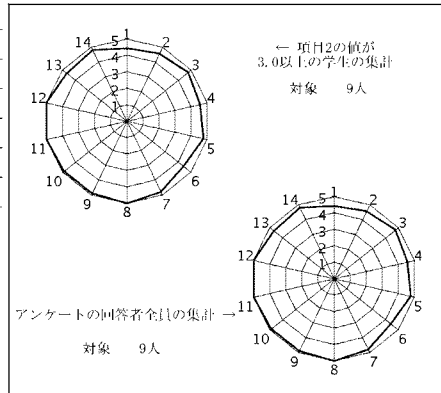


授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本の新聞社が発行する英字新聞や通信社等の記事を収録したテキストを使用し、社会問題や環境、科学技術、スポーツなど身近なトピックを中心とした記事のリーディングを通して、英文記事に慣れながら、読解力と語彙力を養うことを目標とした授業を行った。受講者が11名と非常に少人数であったので、「演習」の授業らしいことをすることができ、よかったと思う。が、それでも（あるいは、たいへんであったがゆえに？）課題提出や予習が滞りがちになる人もあった。これらを改善するためにどのような対策や声かけをするのが効果的かは今後の課題として考えたい。また、個人的には、板書の仕方や重要点の強調などが十分ではない時があったとも感じているので、次のクォーターではもっとわかりやすくするように留意したい。ともあれ、開講当初に設定していた目標は、アンケートの結果と期末試験の結果から、総体的にはほぼ到達できたと言ってよいのではないかと受け止めている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営学総論A
授業コード	40F01-001
教員名	太田 幸治
教員コード	103267
登録人数	15
回答数	9
回答率	60.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

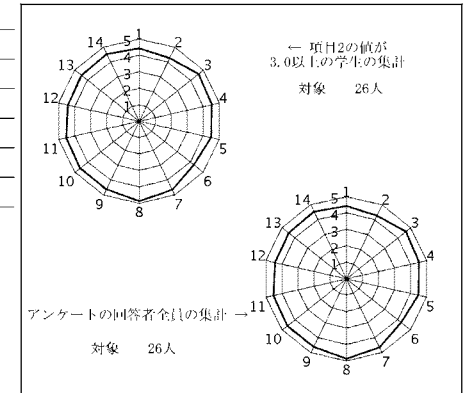
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
クォーター制に慣れていないゆえ、授業の展開スピードが定まらず、当初設定した目標まで到達できなかった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
概ね高評価をもらったと考えている。
ただ履修人数が15名と少ない科目ゆえ、もっと各項目のスコアが上がってもよかったですと感じている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
講義は教員と学生で作るものである。今回のような高いスコアをもらったことは、学生たちの講義への取り組みによるところが大きい。
これまで複数の大学で展開してきた対話型の講義を今年度も展開した。これまで小生が担当してきた大学の学生に比べ、南山大学の学生は理解度が高い。ゆえに対話型の講義であっても南山の学生の反応、理解度が速く、それに合わせたスピードで講義を展開していく必要があるように感じた。南山大学の学生には、対話型の講義でもスピーディーな展開し、また多くの分量を教授できそうである。次期以降、かようなことに挑戦していきたい。
また、何とか、履修生の数を増やせないかと考えている。かような対話型の講義は学生に毛嫌いされているようであるが、この講義の面白さを広めていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人事管理論A
授業コード	42C27-001
教員名	余合 淳
教員コード	103585
登録人数	73
回答数	26
回答率	35.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

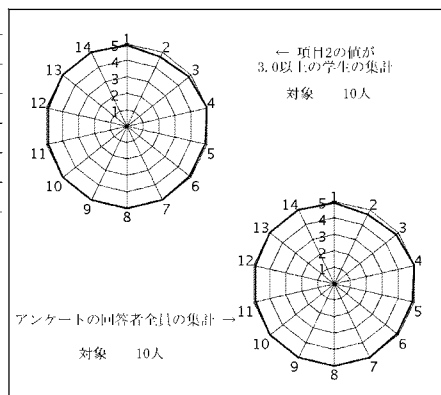
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本講義の目標は、企業に代表される組織と人のかかわり方、特に組織側の視点に立ち、組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて、体系的に理解することにあった。講義では、通常消費者、あるいは労働者として接する機会の多い企業におけるマネジメントについて、特に人材マネジメントについて、企業の経営者及び人事部門からの視点を重視した。レポート及び期末試験の結果からは、概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データ全体の平均値は、経営学科平均値より0.2~0.3程度高く良好である。満足度を問う問14に関しても、平均値より0.4程度高く良好である。特に項目8については高く、適切な声量で講義を行うことを心がけている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
最も数値の低いものが予習復習と到達目標の理解であった。まずは講義の中で到達目標を具体的に明示するような形をとり、その到達目標を達成しているかを学生が確認しやすい形をとるような仕組みを検討する。また、予習復習を促すような課題を毎回課すことも検討するが、一方で毎回のレポート実施には講義内容の見直しが必要になるため、可能なレベルで適切に実施するものとする。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報基礎1
授業コード 42D01-001
教員名 小澤 和弘
教員コード 103586
登録人数 50
回答数 10
回答率 20.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

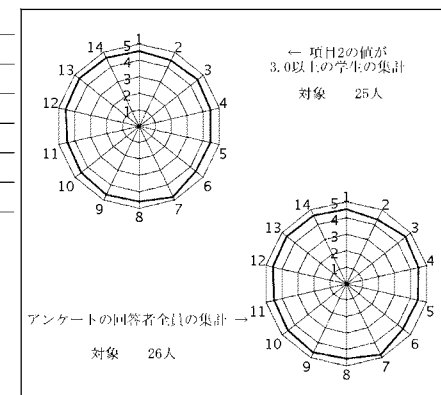
本授業は、情報処理機器の基本的な操作方法、文書作成、表計算処理の基本技術の習得を主な目標とし、コンピュータによるMicrosoft WordやExcelの演習を中心に授業を実施した。

学生による授業評価は、概ね高評価であり、授業目標もほぼ達成できたようである。自由記述には、「基礎固めができて少しはWordやExcelが使えるようになってよかった」「説明しながら実演してくれるのでわかりやすかった」「しっかりとできているのか確認していた」「学生一人ひとりへのサポートが充実していた」「わからないところも質問しやすかった」「わからないところはあとで質問ができたのですぐ解消できてよかった」などのコメントがみられ、知識や技術を効果的に習得できていたようである。

次年度においても、本年度の授業内容を踏襲しつつ、主体的にコンピュータ操作の特徴や利点をより深く理解し、実用的な技術が身につけられる授業を展開できるよう努力していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営管理論A
授業コード 42E03-001
教員名 藤川 なつこ
教員コード 101618
登録人数 205
回答数 26
回答率 12.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、①経営管理論の理論的内容を理解した上で、②現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、③現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価の設問13の回答の平均値が4.62、設問14の回答の平均値が4.62であることから、学修目標を概ね達成できたと判断できる。

また、全ての設問項目で学科平均を超える高い評価を学生から得ることができたが、これは以下の点に心がけながら講義を進めたことによるものであろう。

①小テストの実施

単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、講義の最後には小テストを実施し、その日の講義内容について学生に考える時間を与え、理解を深めるようにした。

②学生からの質問への対応

講義の最後に質問を書いて提出してもらうというを行った。また、そこで出た質問に対しては、次回の講義の最初に全体に対して回答した。このことによって疑問と答えの共有を進めることができた。

以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生からの意見や質問にも応えることによって、双方向の関係を築き、学生とともに講義をつくり上げていったことが、学生からの一定の評価に繋がったと考えられる。

しかしながら、以下の課題も残されている。

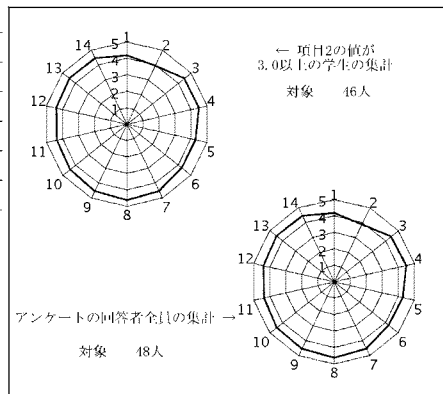
①アウトプットの時間および映像資料の視聴時間の配分

②授業外の自主的な学習意欲の喚起

以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるよう次クォーターはさらなる努力をしていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学原論B
授業コード 44B41-001
教員名 荒木 隆人
教員コード 103862
登録人数 316
回答数 48
回答率 15.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義の目標としては、政治学の主要な課題である一国家内における多文化共存の方策を学ぶことであった。具体的には、第一に多文化主義の理念と政策を理解できるようになること、第二に間文化主義の理念を理解できるようになることであったが、受講者の定期試験の採点結果から判断すれば、おおむね上記の目標を達成できていると言える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

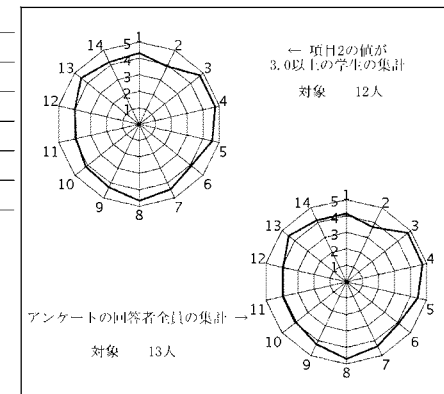
授業全体についての平均値は4.46であり、受講生はおおむね本講義に満足を感じているように思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

本講義では、教室が広くて教員の声が聴きづらいとの自由記述による回答もあったので、次回はその点を特に改善していきたいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法各論B
授業コード 44C10-001
教員名 山形 英郎
教員コード 101238
登録人数 33
回答数 13
回答率 39.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

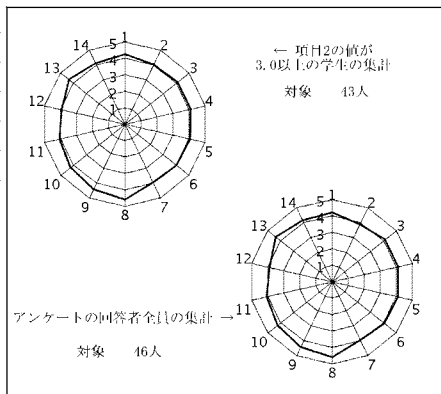


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①国際法の基礎知識を獲得し、国際法の全体像をつかみ、国際社会の構造を把握できるように努めた。シラバスで記した事項はすべて講義することができ、ある程度は実現できたと考えるが、学生にとって（そして教師にとっても）2コマ連続の授業では集中力を持続させることが難しい。受講生が少なく、そのため学生全体に目が届いたのはよかった。②講義方法は従来通りを踏襲した。満足度は、平均的なものに終わった。理解度はかなり高く、国際法について基礎知識を獲得できたものと思われる。その点では、この授業もある程度成功したと考えられる。③週2回の授業を別日程でくめればよいのだが、本務校でかなり忙しい役職に就いているため、現時点では困難。当該役職を離れてから時間割については再考したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 消費者法
 授業コード 44C14-001
 教員名 上杉 めぐみ
 教員コード 103096
 登録人数 91
 回答数 46
 回答率 50.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

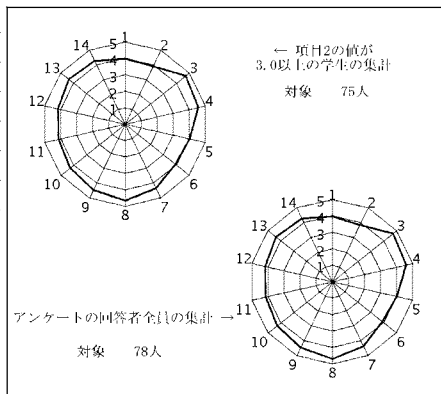


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、おおむね到達できたと思う。
 ② 4、5限に開講された講義であるにもかかわらず、出席していた受講生はほとんど静かに集中して聴講してくれたことは、感謝したい。
 「先生が怖い」というコメントがあるが、それは2度注意した結果だと思われる。1度は授業を一切聞かずにスマホでゲームをして一切ノートをとっていない学生に対して、もう1度は、一番後ろの席で私語をしていた学生たちに対して、非常に厳しく注意をした。こうした注意は、集中している学生にとっては好感をもっていたように思う。総合評価は平均を超えていたので、
 ③来年度受講を受け持つ機会があれば、スライドを次のページに移すのが少し早いという意見がいくつかあったので、ペースをもう少しおとすよう努めるようにしたい。
 また、厳しく注意することに対しても、一部好ましくないと感じる受講生もいるようなので、講義の最初に、講義中にスマホで遊ぶこと、私語については慎むようアナウンスをしたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B2
 授業コード 12D07-002
 教員名 金森 大成
 教員コード 103294
 登録人数 132
 回答数 78
 回答率 59.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

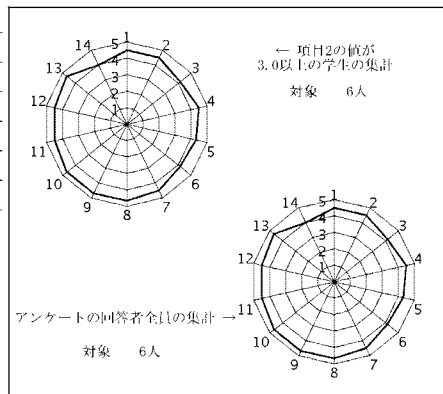


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. シラバスに記入した、講義内容についてはすべて行うことができた。したがって、本講義で設定した、地球システムの理解やその相互作用を理解するといった当初の目標は達成できたと思う。また、今年度は休講、補講を設けることがなかったため、受講生も出席がしやすく、スケジュールどおりに講義を進めることができたと考えている。
 2. スライドを見やすく作成したり、授業資料を配布したことが、評価されており、受講者の理解を深めるのに役立ったと思われる。また、物理学の基礎がない受講者に向けて、気象現象の説明をする際に、なるべく数式等を使わなかったことや、数式を使用した際にもその物理的意味の説明を工夫したことが評価されていると感じている。また、私語等により講義の雰囲気や壊されないようにしたことが評価されていると感じている。
 3. 2時限連続講義のため、各時限の時間の使い方などについては、今後、さらなる工夫が必要だと考えている。また、今後受講生が主体的に参加するような講義内容に改善するか、検討したいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の会話教育
 授業コード 24C63-001
 教員名 鎌田 修
 教員コード 100183
 登録人数 20
 回答数 6
 回答率 30.0%
 休講回数 2 回
 補講回数 2 回



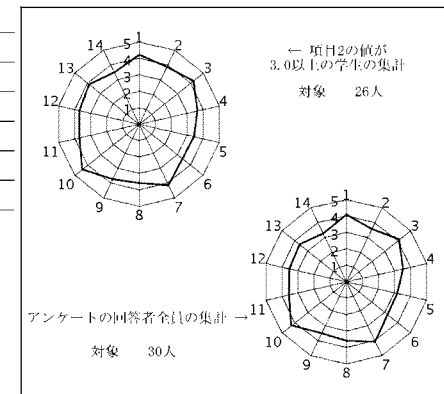
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①多くの受講生にとって母語である日本語を外国語として捉えるには、どうい
 うことを知らなければならぬかを実際の会話データを見て十分に理解すること。
 話し言葉と書き言葉の違いをしっかりと認識し、会話教育を行うということは
 どういうことかを知ること。国語教育からは決して見えない日本語教育の基
 礎的なことを知ること。これら日本語そのものに関する基本的な知識、言葉に
 対する見方を養い、その上で、話し言葉、会話をどう教えるかを考え、その方
 法論の基礎を身につける。

②上記の目的を達成するために、母語話者、非母語話者による、自然な生の日
 本語データをできるだけ多く提供するようにした。そのために、WebClassを使
 って、音声や動画データを配信し、宿題として与えたタスクシートに取り組み
 させた。授業では主にタスクシートを中心にしたグループワークを展開し、活発
 な議論が行われた。受講生には法学部、商学部、経済学部からの学生もいて、
 彼らの中には海外で長く生活した経験のあるものもあり、日本語に関する知識
 は日本文化学科の学生には劣るものの、別の視点からの鋭い意見を交わす光景
 があり、結果的には良い授業展開であったと思われる。ただ、外国人留学生を
 招くなどして、ハンズオンの実習活動もしたかったが実現できず、残念であ
 った。また、2コマ続きの授業よりは、やはり、旧セメスター式の授業配備の
 方が効果的であると思った。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学A1
 授業コード 12A03-001
 教員名 細谷 博
 教員コード 015768
 登録人数 97
 回答数 30
 回答率 30.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

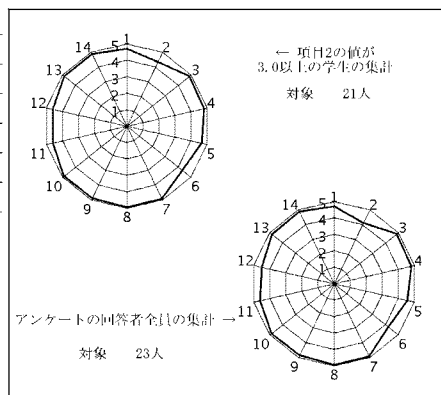


授業評価結果を踏まえた点検・評価

近現代文学の代表的作品数編を比較し、着実な読解力を養うことを目標とした
 が、提出物並びに試験結果によれば概ね達成されたものと認められる。
 自由記述欄の評価は大いに検討すべきであると考え、理解不足によるもの
 も見受けられた。
 署名不在の出席申し出に関しては出席扱いにした上での注意である。
 差別的発言等は、その場で「ではないだろうか」や「などの見方もある」と
 いった形で世にある評価の方向性について述べてきたものであるが、なお、単
 純な受け取めに対する注意が必要であったと考える。
 作中の、社会生活や人間生活に関わる人間と人間関係の叙述についての多岐に
 わたる論評は、理解の深化と啓発の目的で行ったものであるが、なお、理解し
 やすくより平易に解説すべきであったのであろうと考える。
 2コマ授業を増やしたというのは全くの誤解で、14回の授業に1回分が必要であ
 ると説明して1回分の補講をしたが、聞いていなかったものと思われる。
 授業中に私語は禁止だが、挙手しての発言は大いにしてい、と伝えしたが、残
 念ながら自主的な質問や発言がなかったことが残念である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語IV[FF]3
 授業コード 11B04-006
 教員名 NISHINO, Aurelie
 教員コード 103640
 登録人数 24
 回答数 23
 回答率 95.8%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

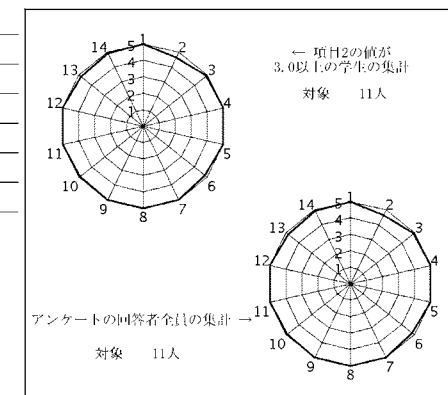
1. The goals of the course were achieved thanks to the students who put a lot of effort in their education. The students were lovely and willing to learn new things. we achieved the target of the quarter which was to finish the book. It was very hard especially towards the end, because it gets complicated and we don't have much time to go into the details.

2. the second quarter is always the difficult one, students are tired and it is getting hot. However, the students did their best to overtake the difficulties. I am very happy that the students respond well to the improvements I made for the class, such as to do the activity book for every classes. I know this is a lot of work for them but if they face a difficulty in the activity book they can ask me right away about it and like that they understand the point seen in the previous lesson.

3. I think I am going to continue with this method which I think is good for the students.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語ワークショップB
 授業コード 33B03-001
 教員名 HERGOTT, Florian
 教員コード 101725
 登録人数 13
 回答数 11
 回答率 84.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of the course being oral, the students have, it seems, had enough opportunity to speak. The activities proposed in class were carried out with enthusiasm and seriousness.

The only difficulty identified was the fact that students of very heterogeneous level were grouped together in the same class. It was difficult for me to offer a teaching adapted to the needs of 2nd year, 3rd year and 4th year students.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II<全>1
授業コード	11F02-028
教員名	李 香善
教員コード	103871
登録人数	18
回答数	2
回答率	11.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

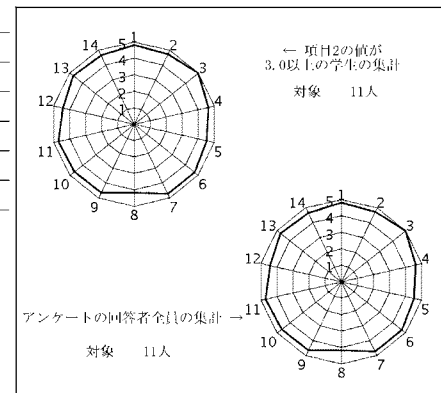
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

月、木の5時限の中国語を担当しております、19名の学生が登録をし、受講しています。最初の頃は出席率が悪く、徐々に改善が見られました。勿論これは出席がよくない学生に限ります。受講態度において、4名ほどの学生は中国語に大変興味を持地ながら、高い学習意欲で、毎回の授業に臨んでいました。その他のほとんどの学生は授業中に学習内容を理解しようとする努力が見られ、毎回の小テストを割と上手に完成していました。但し、毎回出席して、一生懸命に筆記をしたり頑張っているようですが、どうしても授業内容の理解に苦しむ学生もいました。5時限授業なので、担当教員として、授業中、学生の注意力が落ちないように、学生に書かせたり読ませたり答えさせたりする工夫をしましたが、これは大変効果的だったと思います。今後の課題として、学生が中国語学習により興味を持ち、しっかり中国語を勉強したい気持ちになれるよう、担当教員として新たな授業改善を試みたいと思います。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II発音・聴力1
授業コード	35A02-001
教員名	周 先民
教員コード	100112
登録人数	33
回答数	11
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

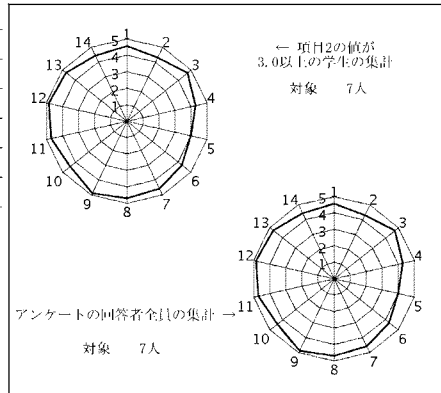


授業評価結果を踏まえた点検・評価

『学生による授業評価』のアンケートの結果を見て、授業に関する問題点、学生のご要望、授業の状況など、いろいろと分かってきました。項目1から14までの平均値4.66で（学部平均値4.47）、授業目標はおおむね達成していると思います。具体的に分析して見れば、設問8を除いて、ほかの13問は全部4.5以上の評価をいただきました。つまり、全体として、学生さんはこの授業に満足度かなり高いと考えられます。「説明が詳しくて分かりやすかった」、「先生がとても優しくかった」、「授業が毎回楽しかった」などコメントも書いてくれました。特にいつも課題になっている学生の予習や、復習や、自習の指導などに関するものは、前より改善したのです。でもこれは先生の指導力だけではなく、学生によるものです。同じ工夫をしても、必ずしもいい結果が出ない場合もよくあります。ですから、もっと工夫して、頑張らなければいけません。これからもいいことを続けてやっていくつもりです。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語III会話1
授業コード 35C05-001
教員名 張 静菴
教員コード 048047
登録人数 12
回答数 7
回答率 58.3%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

これは中級中国語III会話という授業で、会話を中心に受講生の皆さんの話す力を伸ばそうと工夫すると同時に、中国語や中国に関する幅広い知識も上達するよう授業を進めてきました。授業評価の集計を見れば、皆さんからけっこう満点に近い高い評価をいただいております。開講当初に設定された授業の目標には達したと思われまます。とりわけ、項目の9番、学生理解度に配慮し、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めた点においては高く評価され、項目の11番、12番13番も評価されたので、今後これら評価されたところを引き続き、努力していきたいと思ひます。

今後の課題としてやはり、すべての受講生の皆さんの学習意欲を引き出し、自主的、発展的に学習が出来るように、適切な指導と情報提供し、また明るい教室の雰囲気を作り、学生とのコミュニケーションを活発にすることです。引き続き、授業と関連のある情報や新しい知識を毎回学生に紹介し、より良い、学生の満足出来る授業を進めていきたいと思ひます。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語III会話2
授業コード 35C05-002
教員名 趙 晴
教員コード 100960
登録人数 27
回答数 2
回答率 7.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

会話の授業なので、習慣用語やよく使う言い方などを説明しながら学生に覚えさせていくことは本講義の目標ですが、学生のコメントを見て、その目標はほぼ達成したと思ひます。

「教科書の内容だけでなく実際に中国人が頻繁に使う言葉など普通では分からないポイントも解説して頂けたところが良かったです。」とコメントをしてくれたことはたいへん嬉しく思ひます。工夫していたところがちゃんと分かって来て、学生たちにも「ありがとう」と言ひたいです。

学生たちは真面目で明るく、授業の雰囲気もとても良かったです。私にとっても楽しい授業で、進みやすかったです。ありがとう！

会話を覚えて、そして応用できるには、理解した上の暗記と繰り返して練習することが重要だと思ひます。

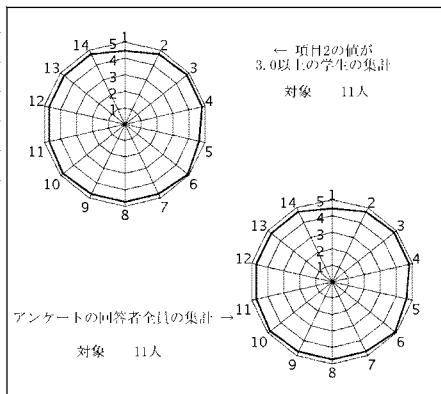
これからも学生たちと一緒に暗記しやすい方法を考えて、繰り返して練習し、応用できるようにしたいです。

勉強することは楽しいことです。でも「楽」なことではありません。努力が必要です。

共に頑張りましょう！加油！

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語II(読解)1
授業コード	11L09-001
教員名	鈴木 照
教員コード	103293
登録人数	11
回答数	11
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

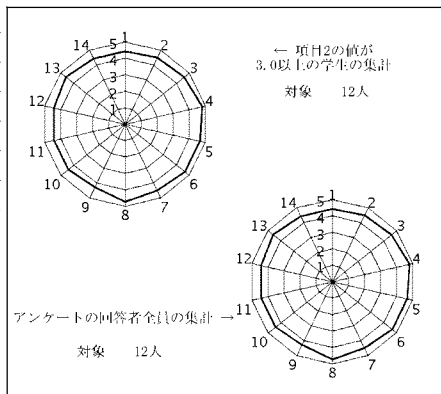
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。また、内容理解を深めるためにグループでの話し合いも取り入れた。

コース開始時には、それまでに学習してきた日本語を使い文章を読んで理解すること、また理解した内容を説明することに不慣れな様子だったが、コース終了時には学習した文法や語句、表現を概ね正確に使用し、理解した内容を自分の言葉でまとめ直すことができるまでになった。これらのことから、目標は概ね達成できたものと思われる。アンケートの回答においても、設問6で平均値が4.91、設問13で4.73と、学生自身も上達を実感できているようである。自由記述には、「説明が速い」との記述があったため、個々の学生の様子に更に気を配る必要があると思われる。

これらを踏まえ、次学期は、今学期の授業内容を中心に、学生がより興味を持てるような内容を組み込み、学生の理解度や様子に配慮しながら、授業を運営していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語II(表現技術A)1
授業コード	11L10-001
教員名	時田 雅子
教員コード	102042
登録人数	14
回答数	12
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

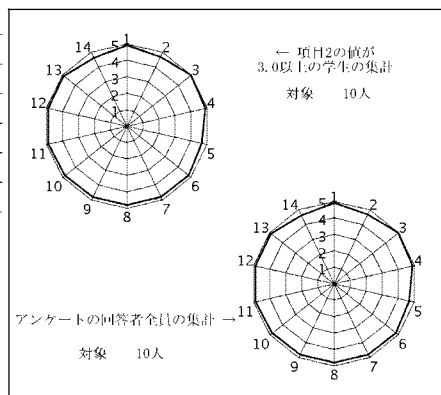


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、自分の意見をサポートするデータを適切に選択し、説得力を持つ意見を述べるようになること、他の学生の意見を聞き、関連のある質問や考えをディスカッションの場で表すことができるようになることを目標とした留学生の日本語科目である。そのため、進行役も学生が担当したディスカッション中心の授業となっている。いままで学習してきた文型を適切に使って自らの考えを表現することは難しい作業であったと思うが、苦勞しながらもよく努力しており、十分な結果を得られたと思う。しかし、学生にとっては自らの能力向上をあまり実感できなかったようだ(評価平均4.58)。自由記述において話す能力がついたという評価があった一方、授業前に興味を持っていない学生の意欲を引き出すことができない結果が出たことは残念であった(1名の学生から評価1の回答有)。次クォーターでは、形に残りにくいディスカッションという授業ではあるが、学生が手ごたえを実感できる方向も模索したい。また、もう少し授業前後において教員のかかわりを増やしていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)1
授業コード 11L11-001
教員名 三輪 志保
教員コード 103665
登録人数 12
回答数 10
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① この科目では、作文の基礎知識を理解し、表現したいことを正しい文で書けるようになること、また、研究計画書の作成に必要な表現や形式が身につくことを目標としていた。最終的な到達目標は、習得した基本的な表現を使用して、研究計画書を書くことだった。

ほとんどの学生が、作文の基礎知識を理解し、書きことば表現で作文を書くことができるようになったが、まだ文法的に正しい表現が完全に身につけているとは言えない。また、最終課題である研究計画書の作成においては、必要な表現や形式の習得には学生の能力に差があると同時に、その課題に対し努力する姿勢にも個人差が顕著に表れた。例えば、先輩のレポートをコピー＆ペーストするなどの行為も見られた。

② 学生からのコメントでは、

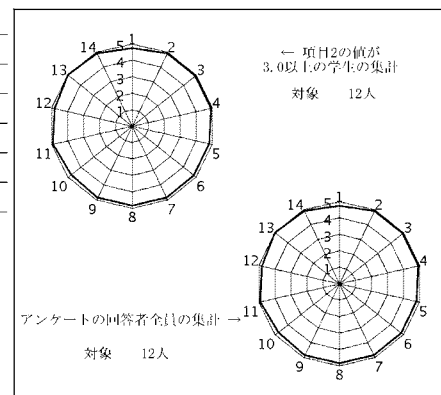
「非常に親切な先生だと思う」「授業もすごく面白いから私たちも理解しやすい」「先生の教え方は全部私にとって、理解しやすいと思います」

など、学生にとって理解しやすかったということで、授業内容に関しては評価できるが、個人差がかなりあったため、提出課題の個別フィードバックにもう少し工夫が必要であると感じた。

③ 来学期は、今学期の反省を踏まえ、全体フィードバックにかかる時間を毎回確保するとともに、個別フィードバックに関しても更に改善したいと考える。各学生の弱点強化のために補習授業担当の先生とも連携し、補習授業時間を活用させていただきたいとも考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)1
授業コード 11L15-001
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 14
回答数 12
回答率 85.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

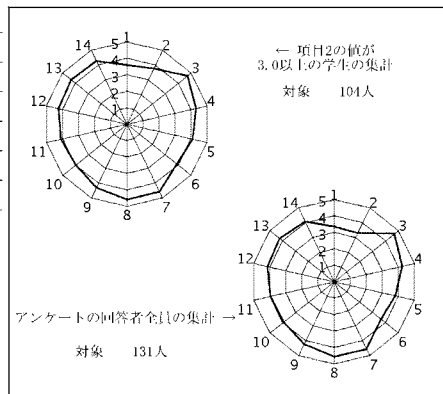
① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。文型・表現の練習と多くの作文課題を通して、個々の学生の文章力は向上した。文法的な正しさという点では不十分ではあるが、ほとんどの学生が基本的なレポートの形式・表現・文型等を用いてレポートを仕上げるできるようになったという点で、目標は達成されたと考えている。

② 授業を通して、文法・表現の適切さに注意しながら書くことと、書いた文章の不適切さに気づいて直すことを学生自身が行えることを目指して指導してきた。また、課題は丁寧に添削することを心がけた。数値データを見ると、概ねよい評価となっており、学生たちも自身の文章力の向上を実感していることがうかがえる。自由記述でも「レポートを書くために役立つ」「文法のチェック」などが良かった点として挙げられ、学生のニーズに応える授業になったのではないかと考える。一方で、授業中の課題に割く時間が少し長いという指摘も1件あり、時間配分と机間巡視について改善の余地があることがわかった。

③ 上述のように、授業内では時間配分と机間巡視の面で改善を試みる。また、より学生の實力向上につながるような課題となるよう、内容の見直しを行って、次学期の授業に臨みたい。総合的に書く力を身につけられるような指導を、引き続き工夫していく。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[IA・III]2
授業コード 10A01-003
教員名 大庭 貴宣
教員コード 103877
登録人数 150
回答数 131
回答率 87.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

15回の講義のために準備したことを全て教えることができた。学生のリアクションペーパーを読み、教える内容を理解したことを確認し、講義の目標は達成できたと判断する。

2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

評価できる点としては、自由記述にもあるように各宗教の特色をわかりやすく伝えることはできた点をあげることができる。また学生の興味を考えながら、内容を付け加えつつ講義したことで、最初は興味があまりなかった学生たちにも興味を与えることができた。

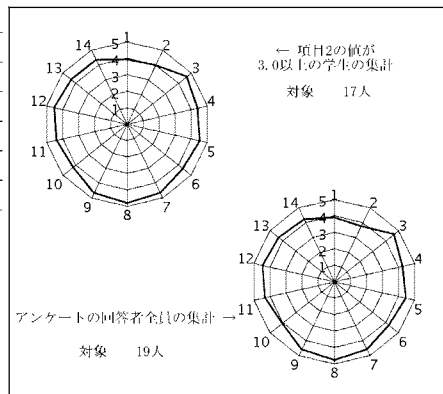
反省点としては、講義内でも改善に努めたが、使用したスライドを変えるタイミングが、学生たちにとって早い時があった。

3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

講義では、レジュメを配布し、スライドを用いて説明をした。講義をどのように進めていくかをより学生に話すことが今後の改善点である。また説明が少し早くなるがあったので、より丁寧に説明をすることが今後の抱負である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳4
授業コード 10D01-004
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 39
回答数 19
回答率 48.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的に昨年度よりも授業評価がいくらか向上した。それでも、他の「人間の尊厳科目」は授業評価が非常にいいので、私の授業もより感動的なものになるように努力する必要がある。

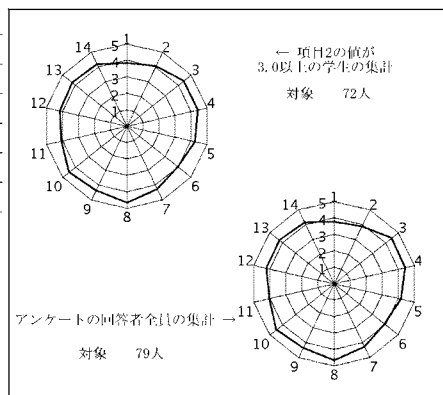
学生からは、「全体的に授業がグダグダに感じた」という意見があった。その点は私もそうだったろうと感じる。授業が単調に、硬くならず、なおかつただらとならないように、次学期からはメリハリをつけてテキパキとやっていきたい。

「プリントの読み物？の内容が少し難しかった」という意見もあった。資料を読む際にもっと丁寧に解説をしながら読むようにしたい。

「イラストや映像の教材も合わせてみたほうがわかりやすいと思いました！」という意見もあった。たしかに、現在は、映像教材と講義とが別立てのようになっている。講義をもう少し映像資料と関連付けるように注意したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法と人間の尊厳3
授業コード 10D05-003
教員名 土井 崇弘
教員コード 102440
登録人数 147
回答数 79
回答率 53.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

1. 授業概要

この授業は、講義形式で行われる。講義では、「個人の自由は無制限か?」「個人の自由はどこまで認められるべきか?」といった問題に対して、生命倫理の具体的事例とその背景にある理論の双方を取り上げながら検討を加える。なお講義の際には、レジュメの内容に沿って口頭で授業を進める。

2. 到達目標

(1) 法と密接に関係する現代社会の根源的問題を検討するために必要とされる基本的知識を理解する

(2) そのような問題に対して哲学的・理論的に考察するための基礎的素養と背景の視野を獲得する

3. 授業時間外の学習(準備学習等)

(1) 講義で使用するレジュメに目を通しておくこと

(2) 講義で取り上げるテーマについて日頃から問題意識を持つておくこと

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

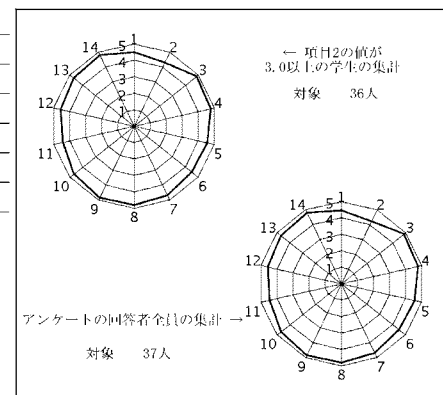
全体的には、担当教員が開講時に想定したとおりの評価を、学生諸君からいただくことができた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次年度以降の授業に際しても、基本的には、今年度の授業方針を継続したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳4
授業コード 10D06-004
教員名 三谷 竜彦
教員コード 102441
登録人数 105
回答数 37
回答率 35.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

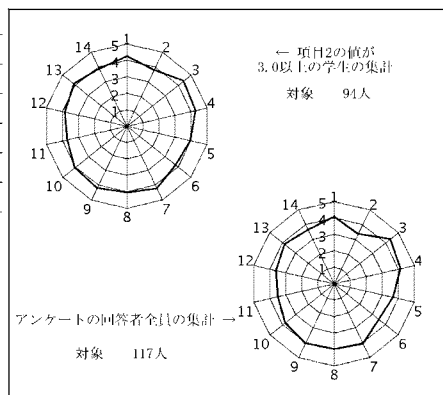


授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は105名、回答者数は37名(回答率35%)でした。回答率の低さが少し気になることはありませんが、今学期も全体的に好意的な評価をいただいたようで、ほっとしています。設問3~14の平均値は4.69で、昨年度後期(4.58)をやや上回りました。いつも最も重要視している設問13(「…新しい知識…」)および設問14(「全体として…」)の数字は、設問13が4.70、設問14が4.78でした。いずれも昨年度後期(設問17が4.73、設問18が4.83)とほぼ同じでした。またすべての設問において、「人間の尊厳」科目全体の平均を上回りました。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には(基本的な路線としては)今の授業の内容・方法を継続していったらいいだろうと思っています。もちろん細かい点での改善など(具体的には、配布プリントやプレゼン資料の内容面・形式面のいっそうの充実化、発声のいっそうの明瞭化など)には、今後もたえず取り組んでいきたいと思っています。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋史B
授業コード 12B08-001
教員名 大橋 真砂子
教員コード 100233
登録人数 241
回答数 117
回答率 48.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての総合的な自己点検・評価
- ③次クォーターに向けての改善点、今後の抱負、方針など

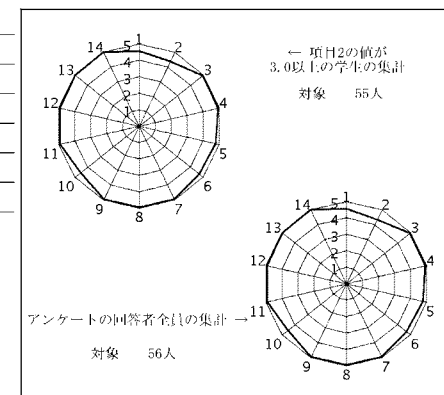
①今年度Q2の西洋史Bは、本来担当予定であった専任教員の代講の形で授業を行なった。すでに作成されていたシラバスに沿って授業を行い、配布予定となっていたプリントを全て配布した。履修者数が非常に多く大教室だったこともあり、板書が困難であると考えて、プリントの内容をできるだけ忠実に再現してスクリーンで提示した。シラバスに示された内容はほぼ授業内で紹介できたと考えている。

②学生からの評価は、予想通り高くはないと感じた。これは、このクォーターの授業が代講だったことで文責者自身にとっても少々やりにくく、そうした状況が学生にも影響したためとも考えられる。授業内容が密であることに加え、水曜日の1・2限の連続授業ということもあり、1日休むと授業になかなかついてこれないといこともあったであろう。

③今回は、文責者自身が初めてスクリーンを用いて授業を行なったケースであった。スクリーンの見易さなど改善すべき点はあると思われるので、今後に役立てたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命自然史1
授業コード 12D03-001
教員名 田中 康平
教員コード 103935
登録人数 101
回答数 56
回答率 55.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

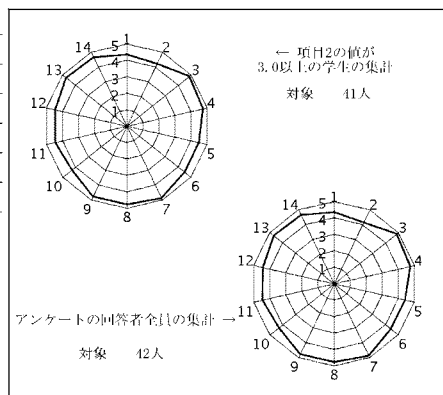


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバスに記載の到達目標は、おおむね達成できたと考えている。その理由として、シラバスに掲げた授業計画を遂行することが出来たことと、学生の中間・期末試験の成績が良く、学生が講義内容を理解できたと考えられることが挙げられる。授業では、ただ講義を聴くだけでなく、ワークシートに取り組んでもらう時間や、映像を見てもらう時間など、学生の理解度を促すしかけを取り入れたことが良かったのではないかと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
回答した学生全員が授業に満足してくれたことはありがたく思っている。自分で考えることを促す教材を取り入れたことがその要因ではないかと思う。来季の授業を行う上で大変励みになった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次クォーターでも学生の満足度の高い授業を提供できるように頑張りたい。今期の授業では、時折学生の私語が見受けられたため、誰もが授業を受けやすい教室環境に改善したいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較1
授業コード 13A01-001
教員名 山田 幸代
教員コード 101367
登録人数 78
回答数 42
回答率 53.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

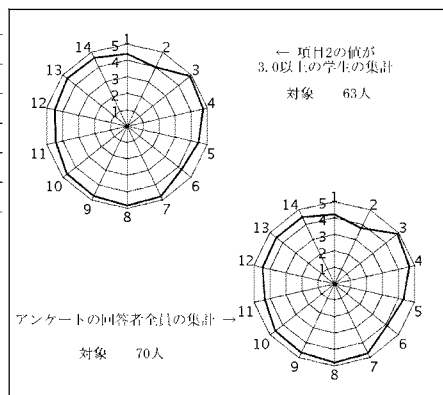
「授業の良かった点」のコメントを読むと、ケルトの文化圏およびアイルランドの歴史と文化について知識を得ることで、アイルランドに対する興味を引き出すという授業目標は、達成できたと思われる。授業内で集めていたコメントでも、日常生活の中にこれまで気づかなかったアイルランド文化を発見したという感想が複数あった。

特に、映画やドキュメンタリ映像、音楽などオーディオ・ビジュアル教材を視聴することに好意的な感想が寄せられていた。「映画を見ることによって興味関心がそそられた」「映画や音楽を用いて説明して下さったため、知識が非常にすんなりと頭に入ってきました」というコメントなどがあつた。

「改善すべき点」について、音声が「小さい」と「大きすぎる」というコメントがどちらもあつたが、これは使用する資料によって音量が変わることが原因であると思われる。今後は気をつけながら調整したい。あとは今期も出席と感想は毎回Eメールで集めたが、それについて手間がかかるという意見があつた。もうすこし時代に合わせたツールがあるかもしれないので検討したいと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって3
授業コード 13A04-003
教員名 小沢 優子
教員コード 101168
登録人数 134
回答数 70
回答率 52.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

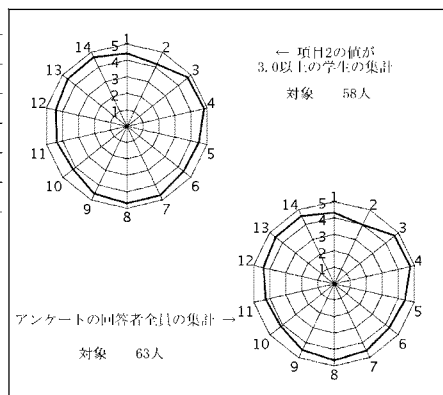
授業は予定どおりに進み、学生の出席状況や筆記試験の成績も良好だった。掲げていた目標に完全とは言えないまでもある程度達することができたのだと考えている。

授業はCD、DVD、ピアノを使いながらおこなっているので、それら視聴覚教材の使用が効果をあげているのかどうかはいつも気になるのだが、良かった点、評価できる点として、「実際に音楽を聴きながらおこなう授業が新鮮だった」「実際の音楽を聴くことができ、説明をより理解することができた」「講義と実際の音楽を聴くという2つのことが丁度良く構成されていた」などの記述があり、知識の習得と実際の音楽体験とを適切に結び付けながら授業ができたのではないと思う。また、「楽しかった」「興味深く楽しい授業でした」という記述も見受けられ、クラシック音楽の魅力を学問的な面だけでなく感性の面においても理解してもらえたのではないかと考えている。

設問1～14の平均が4.47、設問3～14の平均が4.55、設問13が4.50、設問14が4.49。評価アンケートの数値から、おおむね学生にとって満足のいく授業だったと考えられるので、来期も同じやり方で講義を進めていくつもりだが、設問の中で設問2が3.76、設問6が4.10、と低めの数値なので、学生の主体的な授業参加や、授業の到達目標を意識しながらの確実な内容の理解と習得のためにどうすれば良いのかを今後の課題としたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い3
授業コード 13B04-003
教員名 土屋 勝彦
教員コード 103268
登録人数 88
回答数 63
回答率 71.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

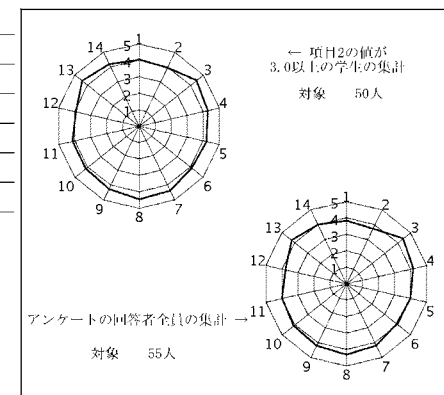


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1 ヨーロッパの歴史を第一次世界大戦から第二次世界大戦、戦後体制という時系列で、映像作品を通して理解することを目的とする。たんなる知識としてではなく、自分が同時代に生きていたらどのような経験をするのかという、当事者性を持つことがある程度できたように思う。
- 2 全体的な満足度が4.57であり、ある程度有意義な授業になったのは幸いである。コメントペーパーを見る限り、大部分の学生たちが真摯に各時代の諸問題を考えていることが分かった。一部残酷な場面があり、その辺は適宜省略するなりして配慮する必要があった。また適切な情報提供の部分では、もっと図書の紹介をすべきだったように思う。教室の設備が古く、映像を見せるには不適切な場所であった。また空調設備も問題があり、今後教室設備については最新の場所を選ぶべきであると思う。せっきくの映像の意図が伝わりにくい。
- 3 教室設備の変更と充実した視聴覚機材を選ぶこと、歴史に関する説明部分を増やし、図書を紹介すること、討論の時間を持つことを次回の課題としたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相2
授業コード 13C04-002
教員名 吉田 あけみ
教員コード 062661
登録人数 151
回答数 55
回答率 36.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

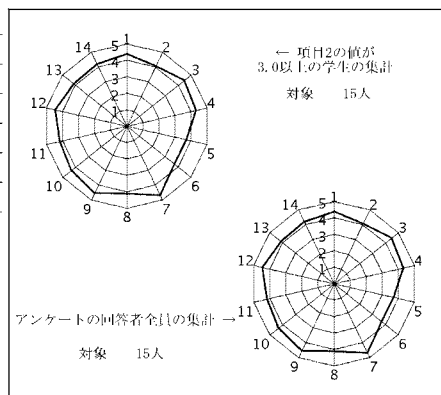


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ビデオ視聴を取り入れた点については、概ね好評価であった。現代社会の課題についての理解を深めてもらいたいと思っていたが、自らの問題としてそれらをとらえてもらうことには、ある程度の影響はあったと思われる。進度については、やや早すぎるかと懸念していたが、メリハリをつけて、重点的に抑えたい部分には時間をかけたのがよかったのか、「進度についてはちょうど良かった」との記述があった。質問についても、時間的な制約もあり、十分に答えられたかどうか不安であったが、「先生が質問に応じてくれること」が良かったとの記述があり、安心した。
- 改善点としては、「うるさい生徒への注意が少ない」ということが、複数あげられていた。ある程度は注意したつもりではあったが、まだまだ足りないということであろう。中高生ではなく、大学生なのだから、そのくらいは本人の自覚であったり、学生間での注意喚起で良いようにも思うが、実際問題として、それらの影響で、授業に集中できなかったり、聞き取りにくかったりということがあったということについては、真摯に受け止めて、今後はもう少し、指導していきたいと思った。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 自然環境と生物
授業コード 13D04-001
教員名 藤原 慎一
教員コード 102878
登録人数 38
回答数 15
回答率 39.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

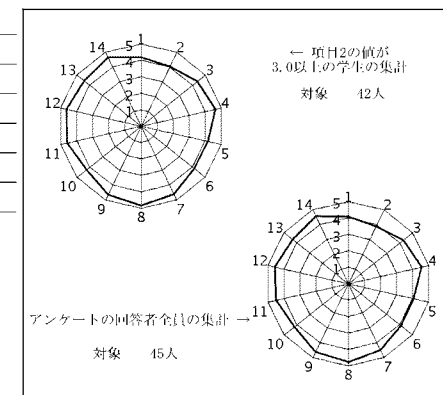


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本講義の到達目標は、「地球上の生命の進化史と多様化の過程」、「動物の「かたち」の多様性」、「動物の「かたち」の持つ意味と、環境への適応との関係」を理解することだが、好成绩を修めた学生は、普段の学習態度も真面目で、毎週の課題をこなしていく中で、これらの目標を到達できたと思う。
- ② 数値データでは、設問1～14の平均点が4.24であったことから、概ね高評価を得ていた、あるいは、満足度の高い授業ができていたのではないかとと思う。これは、講義中での標本の回覧や、実習を適切な人数（40人規模）で行えたことも、学生の満足度につながったと思う。
- ③ 毎週の講義で出た学生の質問や疑問に対して文章で回答していた点や、動物の骨格標本を用いた解説は高く評価されており、今後も維持していきたい。教員の声が届きにくいという意見もあったが、そこはなるべく意識して改善していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは2
授業コード 13E02-002
教員名 成瀬 翔
教員コード 103262
登録人数 131
回答数 45
回答率 34.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

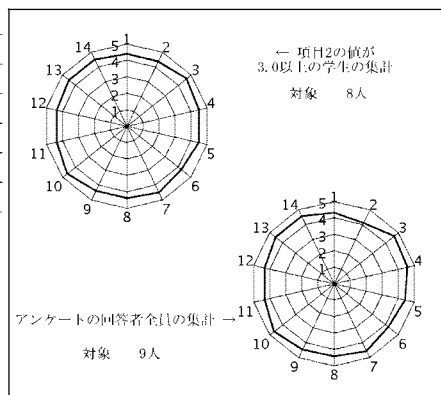


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初は「現代の社会の問題について考えることができる」という目標を掲げたが、これについては授業中に扱った議論を通じて、おおむね達成できたと思われる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
この授業で扱っているテーマが政治哲学という学生にとってなじみの薄いものであったため、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」は、比較的低い傾向が表れていた。しかし、授業を通じて学生の興味関心を高めることにある程度成功したのではないかとと思われる。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
受講人数が多く、私語や他の授業の課題をする生徒が見られるなどクラスコントロールが難しく感じる場面がたびたびあった。今後は、授業運営により注意を払い、改善をしていきたいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械4
授業コード 13E04-004
教員名 長滝 祥司
教員コード 100764
登録人数 43
回答数 9
回答率 20.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

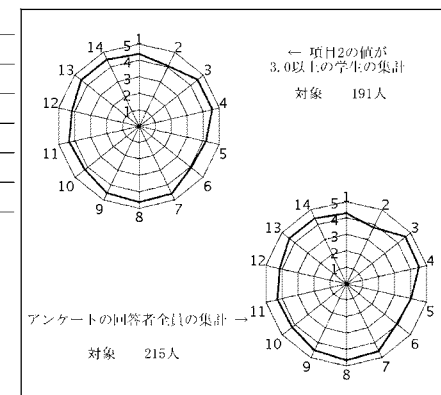


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①3つの目標（1. 科学技術が人間の本質にどう関わるかを理解すること。2. 講義で扱う問題を通じて論理的思考力を獲得すること。3. 現代社会を生きるために必要な教養に資するものを身につけること。）を掲げて講義を行ったが、テスト、レポートの結果、一部の学生を除いて、おおむね目標に到達したと考えられる。出欠確認をしていたが、まじめに出席して授業に集中する学生が多く見受けられた。
- ②アンケートに回答している学生数が少ないせいもあるだろうが、評価は極めて良好で、映像資料、配布資料などの使い方も功奏していたと考えられる。自由記述では、映像資料をきっかけに、こうした哲学的、抽象的な問題にも興味をもったとの回答があった。
- ③今後も、いまのやり方をブラッシュアップする方向でやっていきたいと考えている。また、授業環境についての欄でも書いたが、ホワイトボードマーカーのバリエーションを増やしていただきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報社会の構造1
授業コード 13E06-001
教員名 井上 寛雄
教員コード 102683
登録人数 407
回答数 215
回答率 52.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

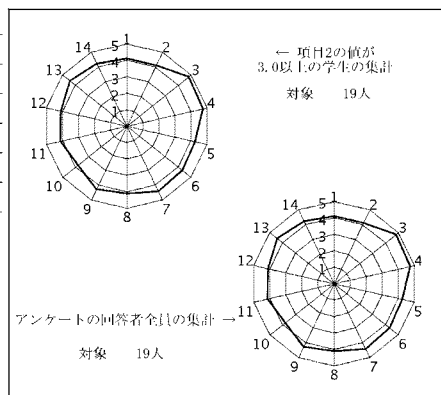


授業評価結果を踏まえた点検・評価

クォーター制にも慣れ、それに合わせて、全体の授業計画および毎回の授業構成を調整した結果、シラバスに記載された内容通りにすすめることができ、学生の期待にも答えることができていたようである。しかし、大教室で多数の学生を相手にした講義ということから、授業中の私語をなくすことがまだできていない。用意していた授業を進めるだけでなく、適宜学生の様子を伺いながら、注意する必要がある。また、個々の学生からの質問・相談に十分に応じることができなかった点、さらに、出席状況から学生の積極性は伺えるのだが、授業を聞くだけになってしまっており、日々のアクション（本講義で言えば、映像表現を自主的に鑑賞し、批評的な視点も向けるようになること）に結びついておらず、結果、具体的な力がついているか、という設問に対しての点が低くなってしまっている点について、来年度以降、リアクションペーパーをより積極的に活用し、学生からのアウトプットを拾い上げフィードバックする仕組みを作る必要がある。以上の点に留意し、来年度以降、より良い講義ができるように尽力したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学の諸相2
授業コード 13E08-002
教員名 大野 波矢登
教員コード 100625
登録人数 101
回答数 19
回答率 18.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

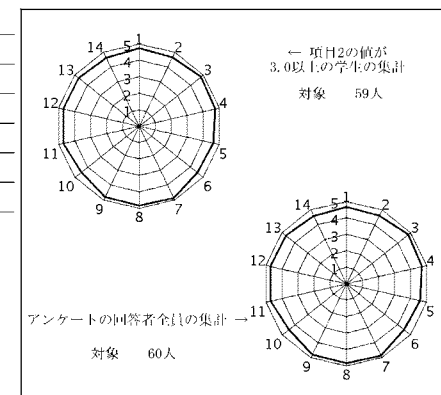


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業の目標は、西欧科学革命期の世界観・人間観、科学と宗教の関係、科学知識と科学者の活動の特徴、科学技術が社会に及ぼした影響等を知り、近代科学の成立とその思想的背景について理解を深めることであった。目標達成度は、授業時に実施した2回の小テストおよび定期試験の合計の平均が74.3点であったことから、70%程度であると思われる。
- ②アンケート結果については、設問6、7、8、9、10、12、14 の値が学際科目の平均値と比較して低く、改善が必要であることが分かる。特に、設問8が4.11、設問10が3.79となっており、教員の声の聞き取りやすさ、授業の妨げとなる学生の行為に対する対処といった点に、問題があったことが分かる。担当教員の気づいた点としては、設問10に関わることであるが、遅刻をする学生が毎回10名ほどおり、配布物を受け取るために授業中に教室内を移動するため、授業への集中の妨げになるようなことがあった。
- ③今後の改善点としては、私語や遅刻への適切な対応をすることによって学生が学習に集中できる環境を整備すること、授業での話し方や配布物の作り方を工夫することによって学生が理解しやすい授業を行うことを心がけていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インターンシップ研修I1
授業コード 14B01-001
教員名 樋口 貴子
教員コード 101484
登録人数 162
回答数 60
回答率 37.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

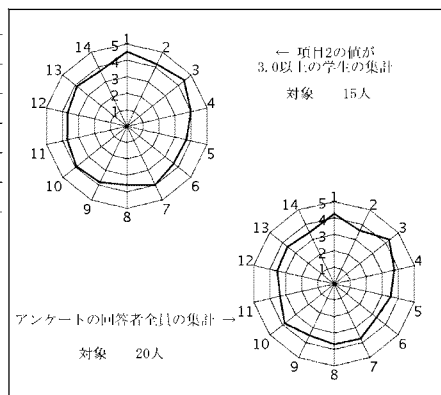


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- インターンシップのみならず、将来の就職活動を含めたキャリア選択を自主的に取り組めるような授業構成ならびに目標を掲げ、その内容はおおむね達成できたと思います。また、この授業はキャリア科目としての位置づけのため、「社会人」としての責任ある行動として、開講当初から無欠席で臨むこと、ならびに課題提出という形で成果を出すこと、その覚悟を持つことを求めてきましたが、それらにしっかりと学生たちは応えてくれました。
- しかし、時折、講義の途中に入室してくる数名の遅刻者に対して、それを特に厳しく指摘することを行いませんでした。それが一部の学生には不満に感じたことと自由記述で知ることができたため、次クォーターへの課題とします。
- また、授業の中で行うペアセッションやグループセッションに対してフィードバックする時間が短くなってしまったり、第6回のグループワークで十分なディスカッションの時間を取るができなかった点は反省しています。これらも次クォーターで改善に努めたいと思います。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 博物館学B
授業コード 15M02-001
教員名 鯨井 秀伸
教員コード 103690
登録人数 39
回答数 20
回答率 51.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

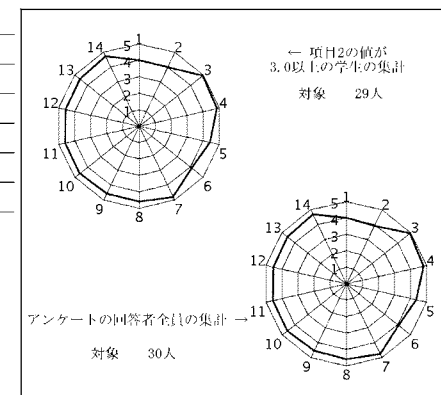


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初の設定は実際の授業の進行と合致しており、その目標と到達においては、適切なものだったと思う。授業内容もできるだけ、視覚的な配慮をもった図示などを多用したため、理解を得られたと考える。
2. 数値データ及び自由記述の内容から判断して、授業の全体的内容と説明方法などは学生の期待に沿うものだったと考える。ただし、副教材としての授業内容全体をまとめたレジュメが、記述方法に適切でない部分があったように見受けられた。
3. 現状の授業内容及び方法を維持するとともに、副教材の活用の仕方を見直しより適切な教材の提供に努力したい。また学生がより積極的に授業に参加しやすいような進め方を検討したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教芸術B(典礼音楽)II
授業コード 21C10-001
教員名 吉田 文
教員コード 102447
登録人数 47
回答数 30
回答率 63.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

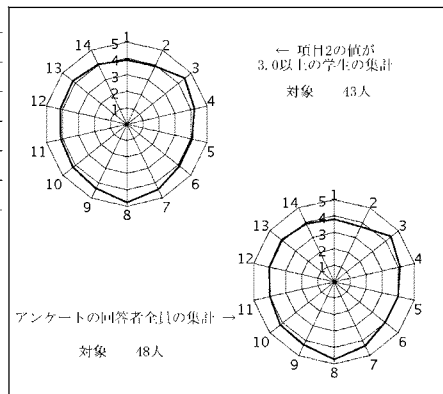


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①
到達目標は、以下の様に設定した。
 1. キリスト教典礼音楽への理解が深まっている。
 2. 歌唱を通して発声の基礎と斉唱、合唱の経験が深まっている。設問5と6ではやや低めの平均値の結果が出たが、設問13、14に於いては比較的良好な結果となっていることから考察すると、学生による評価の結果は、おおむね授業に対して肯定的なものであると思われる。授業ごとに行っている振り返り用紙の記入事項や期末レポートからも、学生の授業への理解度と経験値は深まっていると考えるが、今後は学生自身が目標を到達したという経験を実感できるようにも気を配りたい。
- ②
評価の中で比較的低い2の項目に関しては、シラバスに記載されているように、常に講義の内容は各自で予習復習し、また演習する作品とその他の作品も積極的に親しむようにすることとしている。特に決まった予習・復習の課題は与えていないが、常に発声練習の基となるストレッチや自己表現の方法について考察する等示唆はしている。今後は授業内でもさらに意識的に積極性を促していきたい。
- ③
今回はQ1とQ2が連動する内容であった為Q2から受講した学生のフォローが必要となってしまった。
今後はクォーター制の特徴と意図をより深く理解した上で、授業の構築にあたりたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地誌概説
授業コード 22C07-001
教員名 佐藤 久美
教員コード 102924
登録人数 137
回答数 48
回答率 35.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

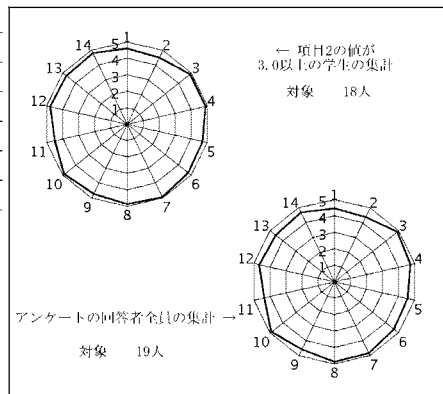


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業のテーマとしているグローバルな人の移動を説明するためには、数字や文字、写真だけでは伝えられないことが多く、授業内では映像を使って、学生たちが理解しやすいように工夫をしたが、効果があったようだ。日本の多文化社会の現状だけでなく、世界の多文化社会についての理解を進めるために映画を上映したが、学生たちは熱心に見ていた。江戸時代以降の人々の国境を越えた移動についての説明については、伝えたいことが多く、映画上映する時間はなく、紹介映像にとどまったが、もっと映画を見たかったというコメントがあった。なお、レポートと小テストの両方があることは納得できないというコメントがあったが、決して、負担が大きかったとは思えない。むしろ、学生たちにはもっと文献を読んで欲しい。前の方の座席に座っていた学生たちが真剣に聞いてくれていたので、授業はやりやすかった。一方で、後ろの方の座席の学生の表情を読み取ることができず、一方通行となっていないか、確認することが難しかった。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(個人スポーツ)卓球
授業コード 14E01-001
教員名 福田 和夫
教員コード 043950
登録人数 32
回答数 19
回答率 59.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修者状況は、次のようであった。男女比は、男子学生約6割、女子学生は約4割であった。学年は2年生から4年生までが均等に履修していたが、やや2年生が多い状況であった。大学院生の履修者もいた。中学や高校での卓球経験者は約2割であった。

授業展開としては、毎時前半に基本練習を行い、後半はゲームを実施した。ゲームの時間をできるだけ多く設けるように心掛けたが、学生からも好評であった。学生も多くのゲームを希望していることが再認識できた。ゲームの対戦組み合わせには、マンネリ化しないようになりかなり工夫を行った。当初は、経験者と非経験者を別にしたり、男女別で行った。授業回数が増えるにしたがって、クラス内での交流も盛んになり、男女、経験者・非経験者の別なく組み合わせを行った。卓球は男女の力の差が余りなく、楽しめる点も特長の1つだと思う。

授業評価で、高い評価を受けた項目は、「授業の開始と終了時間」、「教員の声の大きさ」、「私語、携帯電話などへの適切な指導」などであった。自由回答で、「初心者でも試合が楽しめた」、「楽しかった」などの記述があった。取り上げなければならない評価の低かった項目は特になく、全体として授業の目標は達成できたと思う。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化IV
授業コード 35C29-001
教員名 金 由那
教員コード 101171
登録人数 28
回答数 4
回答率 14.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

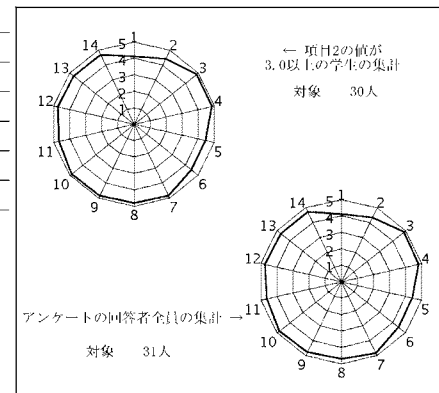
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では音声や映像教材も使い、中級レベルの学習者にとって必要な言語知識を、「話す、聞く、読む、書く」練習を通して、身につけていく。日常会話の表現力に重点を置きながら、韓国文化に関する文章を読み、読解力の養成にも力を入れる。なお、この言語の支えとなる風俗習慣や歴史、社会事情などの韓国朝鮮の文化に対する深い理解と、韓国の真の姿を知ようになることを目標に講義を展開した。

その結果、全体的に好意的評価をしていたように、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、韓国の言語と文化の両方を学べたこと、韓国料理体験があった。文化の授業で調理実習など興味を引き出させる工夫がたくさんあり楽しく学習できたと思う。とても楽しかったなどの評価があった。次学期以降の授業でも、今学期の授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育原論A2
授業コード 15A03-002
教員名 上地 香杜
教員コード 103830
登録人数 52
回答数 31
回答率 59.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

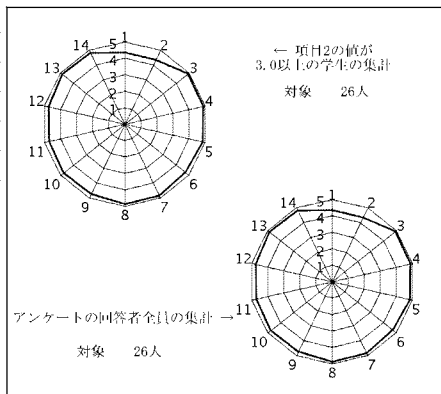
①について：本授業では、教育に関する基本的な概念・歴史・思想を理解することを通して、教職を目指すうえで必要な資質の基礎を養うことを目的としていた。そのため、授業ではルソーなどの代表的な思想家の思想についての解説や、主に西洋と日本を中心にした教育の歴史を概観すること、海外の教育実践（オランダのイェナプランなど）と日本の状況を比較することを通して、受講生に幅広く教育に関わる事項を伝えた。その結果、毎回多くの質問やコメントが見られ、それらへの返答も含め、受講生からはたいへん好評であった。テストでも、回答の質が高く、おおむね目的は達成されたと考えられる。

②について：数値データおよび自由記述等をもみても、受講生からの評価は高いものであった。とくに、受講生からの質問に対して、授業初めに毎回回答していたことが高評価となっていた。そのため授業準備や、授業の進行方法は適切であったと考えられるため、自己評価としても高い評価をくださるものである。一方、評価については受講生の自己評価点を成績に組み入れることに対しては疑問があがっている。今後は、評価について方法を再考すること、または自己評価の重要性（自ら目標を定め、評価することの難しさを体験することの意義）について説明を加えていきたい。

③について：受講生の評価が高かったことから、授業準備や授業進行についてはおおむね本年度の方法を踏襲していく予定である。受講生からのコメントにはなかったが、日本の教育史については質問が多く寄せられたため、内容についてはさらなる精査を行う予定である。また、海外の事例について関心を寄せる受講生が多かったため、海外の事例についての授業を組み入れるなどシラバスを再考する予定である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育原論B2
 授業コード 15A04-002
 教員名 木場 裕紀
 教員コード 103857
 登録人数 36
 回答数 26
 回答率 72.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

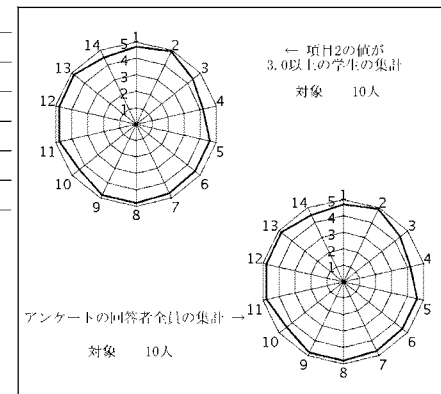


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は教育に関する様々な取り組みについて、公共性の観点から考察することを目標としていた。また、学生の到達目標としては(1)現代の教育課題について事例をもとに考察できるようになること、(2)教育の公共性に関わる重要な概念を理解し、説明できるようになること、(3)公教育をめぐる諸課題について、根拠を示しながら考察できるようになることの3点を示した。すでに期末試験の採点を終えたが、ほとんどの学生が上記の3点について満足のいく理解を示していたように思える。アンケート結果の平均値も4.35-4.92の間に収まっており、学生の満足度が高かった様子が窺える。自由記述について、映像教材の放映の意図がわからなかったというコメントがあった。授業の中で少子高齢化社会における子育てについて考察することを目的とすると述べたが、意図が十分に伝わるよう配慮したい。教育学はみじかな経験や事象から興味を持ちやすい学問分野であるため、今後もみじかな素材を糸口としながら丁寧な授業を心がけたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・地歴科教育法A1
 授業コード 15B03-001
 教員名 成田 健之介
 教員コード 101555
 登録人数 23
 回答数 10
 回答率 43.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、中学校社会科地歴分野と高等学校地歴科の授業に必要な授業実践力の基礎を養うことを目標としている。そのために、前半は、新学習指導要領改訂の経緯をふまえた「主体的・対話的で深い学び」の理解を中心とした理論編とDVDによる学校教育現場での授業の実際を学修した。後半は、3~4名のグループでの模擬授業に取り組みさせた。授業構想、学習指導案作成、模擬授業を通して体験的に学修させた。

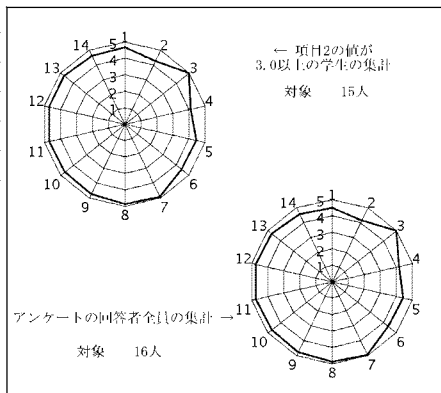
数値データからは、設問13「新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じたか。」、設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」は、いずれも4.80であり、本年度のQ1と同様に高い評価であった。

また、特に設問2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」の平均値が4.90と高いのは、設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はあったか」が4.80ということから、教員の働きかけが効果的であったことを示している。実際に、グループによる模擬授業作りで、休み時間などに自主的に集まって計画したり、板書の練習したりする姿が見られ、授業への主体的な参加を表している。自由記述からも、「実際に授業が経験出来てフィードバックも適切に行われていた。」、「黒板を使って模擬授業ができたのはよかった。」という記述が見られ、実際に模擬授業を体験したことによる効果が高いと考える。

受講生が多くなると、全員に満足な模擬授業をさせることが難しくなるが、今後も可能な限りこれまでの授業の流れを継続したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国語科教育法A
授業コード 15B07-001
教員名 上野 裕章
教員コード 103859
登録人数 24
回答数 16
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

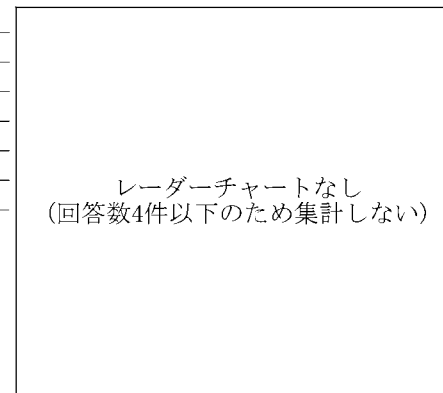


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「自信に自満ちあふれた国語教師を目指して」と題し、1「国語学習指導要領の目標、主な内容、全体構造の理解」、2「国語教育の現状と工夫改善の取組の理解」、3「1、2を踏まえ、授業実施の基本を身に付けること」を目標に実施した。学生は、出席状況もよく、学習と研究に対する意欲が旺盛で、主体的・積極的に授業に参加した。皆、優秀である。そのため、本授業の目標は概ね達成できたと思う。ただ、学生の授業評価の集計を見ると、見直すべき点がある。評価項目の1から14の平均が4.62、3から14の平均が4.67であった。最も平均値の低い評価項目は、「4 毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」の4.19であった。私にとっては、本学での初めての授業であり、学生に進度を聞きながら授業を進めたつもりであったが、学生の理解度を適切に把握していなかった結果であったと考える。他方、学生により理解度の違いがあることも分かった。今回の評価結果を踏まえて、第4クォーターの「国語科教育法B」を実施したい。本授業では、現代文論理的文章と古典の学習指導案の作成、模擬授業の実施、その相互評価を通して授業改善を行い、授業設計の向上に取り組む。履修者全員が目標が達成できるよう、授業の時間配分や授業の構成、進度を適切なものにしていきたい。出席者全員が「自信に満ちあふれた国語教師」になれるよう最善を尽くす所存である。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 書道B
授業コード 15E03-001
教員名 舟橋 武治
教員コード 101139
登録人数 6
回答数 1
回答率 16.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

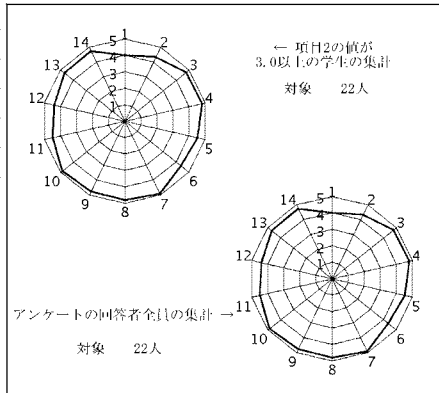


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価の平均値は、回答返却数が少ないため分からないが、学生の授業に取り組む様子などから、授業内容は、おおむね満足のいくものであったと思われる。
近頃、日常生活のなかで筆を使って文字を書くことはほとんどなくなり、筆を持つことは小中学校以来という学生も多い。また、身の回りは活字にあふれ、筆文字に触れる機会はますます少なくなってきている。こうした実情を考え、授業の前半は筆文字の文化について理解を深める授業に、後半は実際に筆を持って書く授業にして、毎回の授業を二部構成で進めている。
前半の筆文字文化の授業では、できるだけ多くの古筆や実際の作品を鑑賞させることによって、筆文字の魅力や美しさが実感できるように心がけている。
また、教職に必要なからという理由で受講する学生のために、生徒を指導する際に心得ておくといよい運筆法や指導上の留意点などを実技を通して指導している。学生からは、「万葉仮名を筆で書くことができて楽しかった」「行書の筆づかいがよくわかった」などの声があり、書道についての知識が広がり、書字技能も向上した。
今後も、毛筆文化の理解を深め、書写の技術向上と創作の楽しさが、より一層豊かに実感できる授業にしていきたいと考えている。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
12
授業コード 11A02-009
教員名 岩城 奈巳
教員コード 049601
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

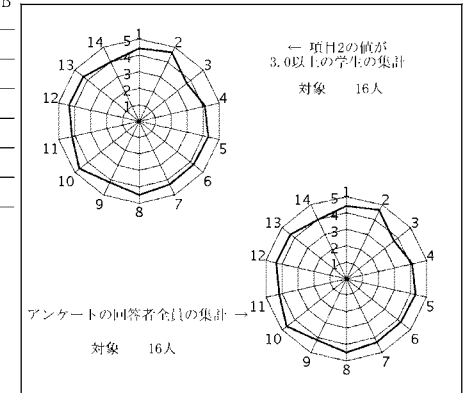


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1年間を通して行われる授業のため、1冊の教科書を柱に、サプリメントとして発音・リスニング教材、TOEIC問題集を取り入れ講義を実施した。教科書に沿ったテーマを基に、授業内での目標、そして授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。授業中は、複数名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にした。学生からの自由記述では、良かった点として、ペアワークがあること、グループで相談しながら問題に取り組みことができ多くあげられており、学生からも高評価であることがうかがえた。また、海外での生活についても教科書でも触れる場が多々あったため、自分の経験などを紹介しながら進めた結果、学生から、海外や英語の日常での知識が増えた、アメリカの文化や生活のことができた、などのコメントもあった。発音・リスニングのサプリメント教材に関しても、高校まではできなかった発音練習が良かった、発音練習がたくさんできて良い、消える音など聞き取りに必要な知識の詳しい説明がよく力がついた、など思った以上に学生からは高評価であった。全体の満足度も高く、Q3、4でもしっかりと学生の興味、やる気を引き出ししながら授業を実施していきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
13
授業コード 11A02-010
教員名 HERSCHLER, Brian
教員コード 100552
登録人数 24
回答数 16
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

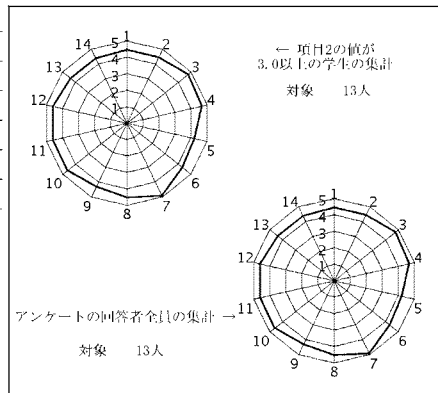


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The results show that the course as a whole is greatly appreciated by students. Students worked reasonably well, though I had hoped for more from them. However, they seem well-pleased. I do believe as a whole student confidence in their abilities is on the rise: in speaking and listening. So the goals were met. Next quarter, I would like students to pay more attention to activating their vocabulary, using it in the presentations and conversations they do in class.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
14
授業コード 11A02-011
教員名 VEGEL, Anton
教員コード 103503
登録人数 24
回答数 13
回答率 54.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

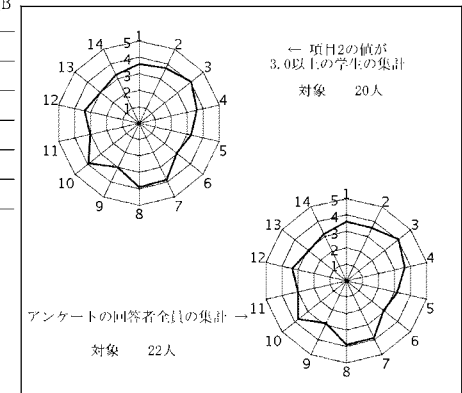


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) Similarly to the first quarter, I aimed to utilize more student reflection and self-evaluation to increase learner autonomy. So far, the students are understanding the materials used for self-evaluation and as a whole improving by making meaningful comments about their own performance. (2) Based on the numerical data, students clearly believe they are benefiting from this course. I think overall the class has continually been successful, and the goals I have set have been taken-up well. Additionally, specifically based on the comments students appreciate the practice opportunities. (3) The two points that could be addressed next quarter would be using materials more clearly and making goals more clear. The last few quarters I have tried to ween-off using the textbook for more than grammatical rote practice/review and vocabulary preparation as to make ample time to apply grammatical points, communicative strategies, and vocabulary in class through practice. Additionally, although there is a lower score indicating textbook use, the score is still considerably high, and possibly just clearer homework goals should be given to make this score higher. Also, students' understanding of goals has seemed based on the scores to be lower than others. Although this score is contradicted in the comments, goals can possibly be given earlier in the preparation stage of the syllabus. I believe this would make goals clearer.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
18
授業コード 11A02-015
教員名 BINFORD, Paul
教員コード 046037
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

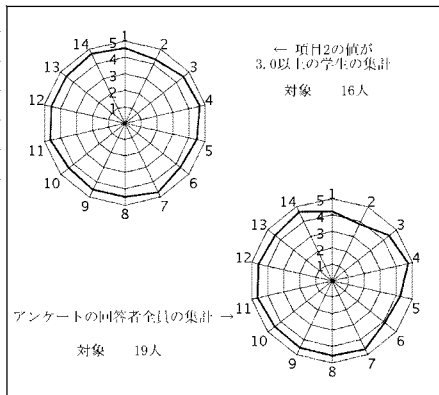


授業評価結果を踏まえた点検・評価

In this First Year Oral Communication class we had slightly different curriculum for the first and second quarters. In the first quarter we used a basic conversation textbook that gave the students useful ways to start and continue a conversation on common topics. In the second quarter, using basically the same topics, the students got more practical and structured strategies. The emphasis in quarter two was follow-up questions and continuing a conversation and clarifying what the listener understood. From the radar chart it seems that the understanding of the students was not great but not too bad. By observing the students on a twice-weekly basis, I think they could have used a bit more basic instruction and I would also have to say that the students in this class were not exactly attentive. I had a lot of trouble getting them to put away their keitai phones. I will address that problem in quarter three and four. I will also make more effort to explain the goals and methods of the class more clearly and concisely. In general the difference between the student's communication skills at the beginning of the spring term and at the end of the spring term was noticeable, and I would say that the student evaluation reflects this improvement.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
110
授業コード 11A02-017
教員名 QUINN Kelly
教員コード 049379
登録人数 24
回答数 19
回答率 79.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

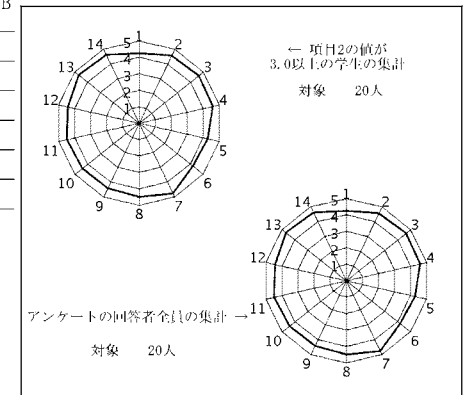


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) Goals were set at the start of the course and to an extent they were achieved. The goals were set based on students' level, ability, and overall career aspirations. How to spend this 90 minutes in a painless and productive manner was foremost of my ambitions and it was largely achieved. Students were pliant and cooperative to the point of passivity displaying none of the difficult or aggressive tendencies so often associated with high-achieving students. (2) Frankly, I am completely satisfied with the class, eight weeks sixteen class meetings and not one difficult or hostile interaction, near perfection. (3) Having achieved a near 90% satisfaction rate, I believe that I have cracked the code and achieved a class that is as smooth and satisfying as a prime time tv show, popular with seniors, middle-school students, and the all important 19 - 35 demographic. I intend to change nothing.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
111
授業コード 11A02-018
教員名 MEJCHAR Benny
教員コード 100666
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

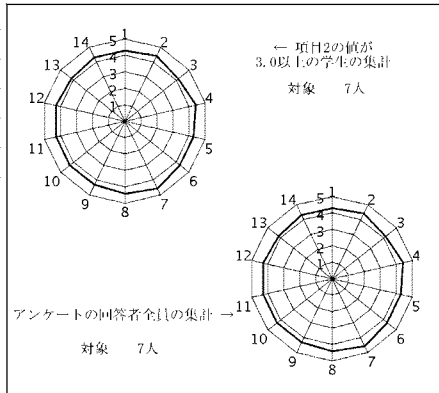


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class assessment was on the whole pleasing as well as the interaction with the students over the past two quarters. The generally solid scores across most of the questions shows a reasonable satisfaction level from the students perspective. In particular I was pleased with the response to question 7. The appreciation of the sincerity of the teacher's work and effort is the most rewarding aspect of teaching so this instructor was very happy to get a good score on this question. In terms of teaching philosophy establishing a good relationship with the students is my most essential goal. Once a good relationship is established other class goals are more readily attainable. I believe this is particularly the case in language study. Questions related to clearly stating class goals are always the weakest of my assessment. This is due a teaching approach that as alluded to above puts emphasis on class atmosphere and relationship with students and their relationships with each other. One of the extra comments referred to this. "授業の内容がディスカッションが多くてクラスメートと仲良くなるきっかけになれた." This was good to hear. However, despite improvement in clarity of class goals there is more that can be done. Some improvement can come easily by increasing the number of activities and assignments that are repeated. This is an improvement that has been made over time. I will consider this strategy while keeping in mind not to lose the the relatively "free atmosphere" that I believe is conducive to a successful communication class.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
112
授業コード 11A02-019
教員名 佐藤 ゆかり
教員コード 047605
登録人数 24
回答数 7
回答率 29.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

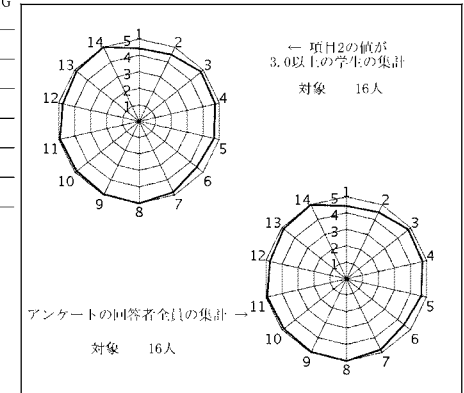


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講の目標は、クラスの誰とも仲良くカジュアルに英語で会話を続けることができることと、さまざまなトピックや話し合いの形式にも柔軟に対応し、適切な表現を繰り返し駆使しながら自分の発想と自分の英語で即興的な力をつけることを第一の目標とした。その上で、自分が本来言いたかった内容の正確な表現を、再考する機会を与え、より流暢に話せる自信をもつ機会を繰り返し提供した。少ない人数のクラスなので、2週に1回グループ変更し全員のクラスメートと話す機会を楽しんだ。②アンケートの結果で一番の反省は、アンケートの回答人数が少ないこと、授業後期は実技に追われわたしが一斉にremindするのを忘れたので、個々の対応になりました。全体としてアンケートの数字は悪くなく、満足しているようだ。より学習意欲をわかせる授業を今後も心がけていきたい。そのためには、簡単な表現をしっかり意識させた上で、繰り返し話すこと、それを振り返ること、できたという実感を持たせられることが大切だと思います。③次のQからは、よりプレゼンテーション色のたかい内容にし、深めていく予定

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G]
17
授業コード 11A02-038
教員名 DAVANZO, Christopher
教員コード 101653
登録人数 19
回答数 16
回答率 84.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

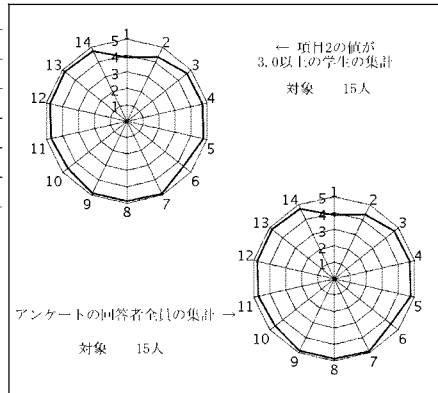


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class as a whole achieved the goals set at the beginning of the course. Most students indicated in their numerical responses and written comments that they felt they had improved their presentation ability and successfully engaged in active learning. The students often worked in pairs and participated in discussions and problem solving. Moreover, before checking the homework as a large group, students were put in pairs to compare their answers and ask each other questions and research together when they did not understand something. The students engaged in a great deal of listening homework from the textbook, in addition to preparing for class presentations and producing a written analysis of those presentations. Furthermore, the students participated in impromptu speaking drills which are a fantastic training tool. Although it was quite difficult for them, they indicated to me in person that they felt the impromptu practice was quite useful. The overall class evaluation was quite positive and of course I was delighted by that. The goals for next semester are under discussion within the department, but certainly further increasing presentation ability will be among them.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G
18
 授業コード 11A02-039
 教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
 教員コード 102955
 登録人数 18
 回答数 15
 回答率 83.3%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

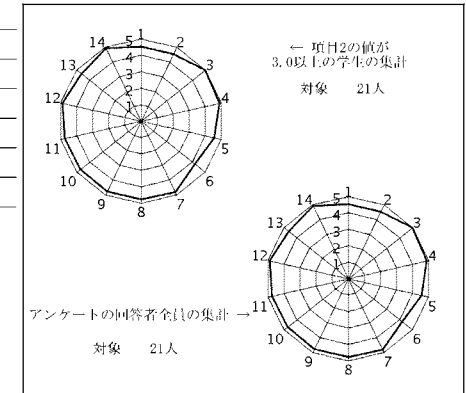
The goals, which included: speaking, listening, discussing and presenting, to name a few, were, for the most part, met. Students were lively, and participated in classroom discussions. The class had good camaraderie, and worked well with each other.

Reading the data and comments from the survey, I was glad to note that the students considered my class very informative, and my teaching method was effective in helping students understand the class goals, and thereby, making it possible for them to work toward achieving those goals.

Thinking ahead, I believe some recommendations given by the students, for example, watching movies/videos in class to help with listening and understanding, is worth careful consideration, of course, taking into account time constraints and effectvity of the activity. I will be looking into possible learning materials both from the textbook website and from credible sources on the Internet, i.e. TED Talks, and the like.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]3
 授業コード 11A06-010
 教員名 NICKSICK, Thomas
 教員コード 102113
 登録人数 24
 回答数 21
 回答率 87.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

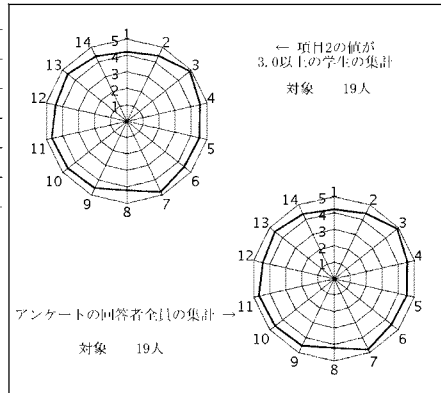
The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students will learn various reading strategies to improve reading proficiency. Activities include extensive and intensive reading tasks using a variety of texts. Students will also learn how to write clearly and effectively. To accomplish this, students will develop skills in planning, organizing, and developing ideas.

The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.76. Regarding appropriate guidance and provision of information in order to encourage the students to want to learn, the rating was 4.76. When asked if there were enough opportunities for questions or to consult the instructor, the rating was 4.90. Regarding overall satisfaction of the course, the rating was 4.90.

However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the rating was 4.62. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.19.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]5
授業コード 11A06-012
教員名 JONES William M.
教員コード 100263
登録人数 24
回答数 19
回答率 79.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

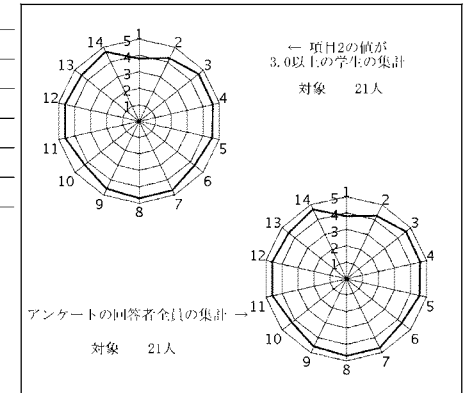


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor sees that only 19 of 24 students responded to the questionnaire. If it is possible for Instructors to see the results (how many participating) before the end of the quarter, he will be able to ensure an almost 100% response rate. If this is not possible, it might be difficult to ensure greater compliance. A 4.37 of 5.00 regarding overall student satisfaction is significantly lower than usual. This might be due to the reading section of the course where Instructor does not allow them to read extensively on topics of their own choices/interests, but rather the use of the textbook. As students have mentioned to Instructor in person, reading is challenging after a PE class and internal motivation is more difficult than usual because of exhaustion from PE. Instructor is extremely pleased with the writing progress of the students, as are the students themselves. The reading progress of the students is more difficult to accurately assess given many factors such as time, topic, vocabulary ability, etc. As always, Instructor will continue to work hard to ensure that students continue to receive a world-class education that is not only rigorous, but enjoyable as well.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]8
授業コード 11A06-015
教員名 ADRIANOWICZ, Zbigniew
教員コード 103868
登録人数 24
回答数 21
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

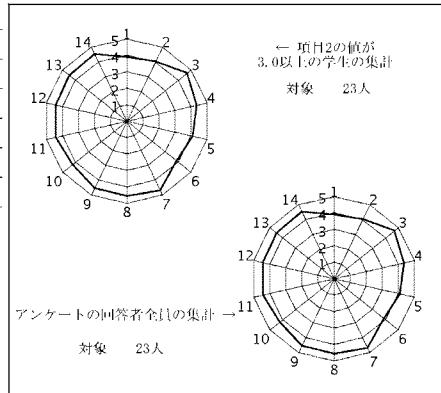
After the second quarter, I have come closer to understanding the level and expectations of the class. The course I have decided to take was realistic, but maybe a little bit difficult for the students. Still, I am afraid that if the class is too easy, it will not be interesting, so I will follow my own course I have decided to take.

I have tried to show clearly the expectations for the class, and also I have spent much time for class preparations, so I believe I have been able to both stimulate interest in the class content and in English itself. The students have very good attitude toward the class, so I hope I will be able to continue the class with a similar attitude.

In the next quarter I will moving forward to the next rising techniques, and even though it's a reading/writing class, I also hope to introduce more discussions or conversations on the topics we are talking. The students seemed to have enjoyed the discussions, so I will try to continue and develop the conversation and discussions techniques.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]9
授業コード 11A06-016
教員名 山田 秀子
教員コード 103595
登録人数 24
回答数 23
回答率 95.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

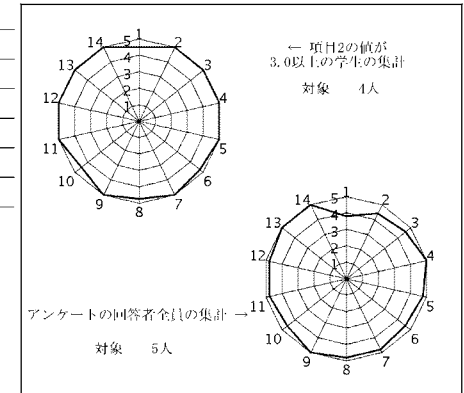
開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。予定していた学習内容・範囲の9割以上を終えた。学生の大半は主体的に取り組み、課題の提出状況などから、授業時間外でも学習を進めていることがうかがえる。

アンケートでは、到達目標に向けて力がついてきていると思うかを問う項目6の平均値が最も低かった。課題・小テスト・期末試験等の結果を踏まえると意外な結果であった。原因として、シラバスに記載した到達目標が学年末時点のもので、それを念頭に回答した学生が多いた可能性が挙げられる。次回からはクォーター単位の目標も明示することとする。良かった点は、授業運営や指導に関する項目および知識の習得や理解に関する項目の平均値が高かったことである。授業では講師の解説を聞き、個々に問題に取り組んだ後、協同学習を行うという手順を取ることが多い。この手順は知識の整理、理解の深まり、学習意欲の向上などに効果があると考えられ、今後も続けていきたい。

今後の課題としては、多読活動の取り組み方の改善が挙げられる。ほとんどの学生が指定ワード数を満たしているが、一時期に集中して読んだり、レベルが高い作品でワード数を稼いだりするケースが見受けられた。多読の本来の目的や注意点を再確認させて、取り組み方の改善を図りたい。また、自由記述の回答で私語が多いことが挙げられていたため、今後は適切に対処するよう心掛ける。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]10
授業コード 11A06-017
教員名 BONDORC, Jeffrey
教員コード 103469
登録人数 24
回答数 5
回答率 20.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

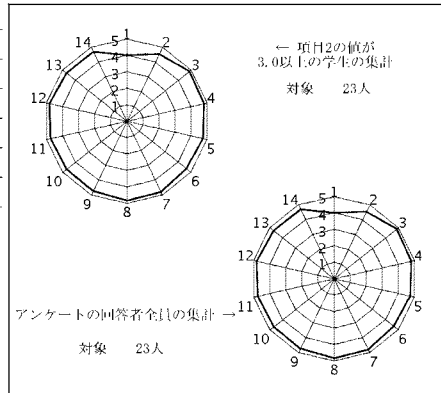
The goals set out at the beginning of the quarter were largely achieved. The students were able to build upon the skills that were introduced in quarter one. They were able to build upon the vocabulary and reading skills within the reading component. The student were able to understand the purpose of topic and concluding sentences of a paragraph.

The things i would change is to modify the genres that the students were writing within. The genres were somewhat elementary. Perhaps the students would further benefit practicing paragraph writing if the topic was a a little more serious.

The next quarter I would further focus of topic and concluding sentences within a short essay format. Further, the genre would be a little more serious rather that light. I believe that the students would be more engaged to develop their writing and reading skills if this is changed.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]11
授業コード 11A06-018
教員名 平出 優子
教員コード 102521
登録人数 24
回答数 23
回答率 95.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

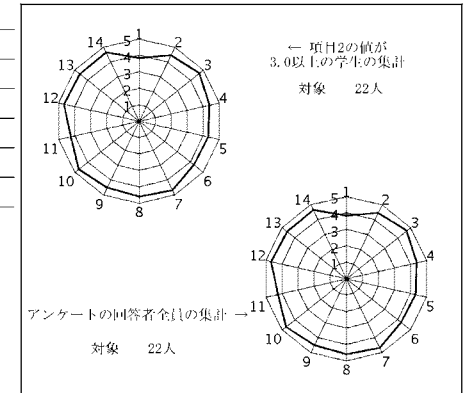


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2におけるWritingの目標は、書くための準備としてlistやmind mapなどの技術を使えるようになること、一般的及び自分に関する内容について150語以上の首尾一貫したパラグラフが書けるようになること、topic sentence, supporting sentenceなどWritingに関する基本的な用語を理解できること、基本的なエッセイのフォーマットが使えるようになること、つなぎ言葉をつかえるようになること、であった。また、Q2におけるReadingの目標は、流暢に英文を読むことが出来るようになること、様々な読解方略を効果的に使って読むことが出来るようになること、テキストの構造をとらえながら論理的に読み進めるcritical readingの力をつけること、読解を支える文法・語彙力をつけること、であった。データの数値が全般的に高い数値であり自由回答でも高評価を沢山得られていることから、学生は授業の内容を十分に理解しており、この授業の掲げた目標に到達していると考えられる。今後はより難易度の高い様々なトピックを提供し、WritingとReadingの能力向上に向けて努めたいと考える。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]12
授業コード 11A06-019
教員名 加藤 尚子
教員コード 103630
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

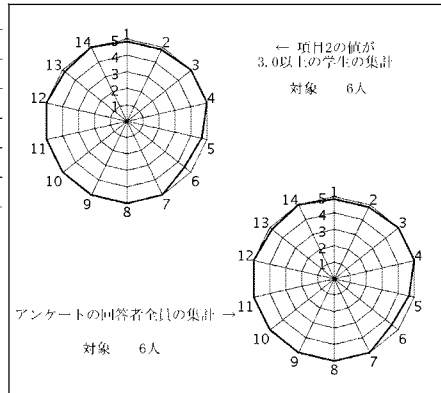
リテラシーのクラスではリーディングとライティングの能力の発達を促す為にクラスで活気の溢れたアクティビティーを行いました。リーディングでは教科書の他に、インターネットから引き出してきた話を読み、読解力を高める事に努めました。また、新しい単語を文章の前後で理解をするというエクササイズも行いました。更に、リーディングの力を伸ばす為に週ごとに4000字以上の本を読むという目標も生徒それぞれが果たすことにも成功致しました。ライティングではトピックセンテンスとそれを支える詳細を含んだ段落を書くことの習得にちからを注ぎました。最後のドラフトでは生徒同士で読みあって助言をするというアクティビティーも行い、生徒達の間で様々な角度で物事を考えるということも体験しました。

2 数値データからは生徒のやる気を起こさせる授業にはまだ遠いという事が判明いたしました。

3 秋からは更に生徒の好奇心が湧くような題材を使用して彼らが常に知識を広めることが出来る様に努めます。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]10
授業コード 11A06-029
教員名 MOORE, Douglas
教員コード 100954
登録人数 18
回答数 6
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

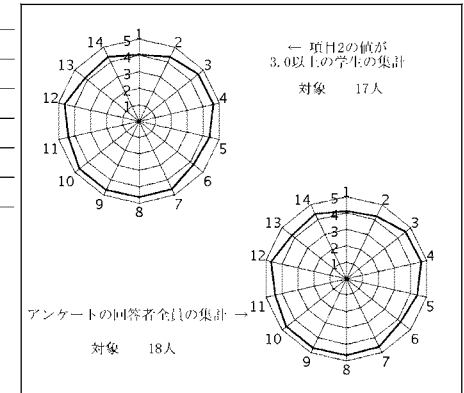
Overall, the survey results were better than last year, with a couple of exceptions. While a slim majority of students still seem to understand the direction of the class and their specific duties in the classroom, some students seem to have trouble understanding the grading and class schedule. Perhaps this is due to a slightly different style of grading than they are used to. For the next year, this will need to be addressed even more clearly than this year, and the presentation seems to need a bit of rewriting.

Regarding class activities and assignments, there seems to be acceptance of the teaching methodology, even though a small percentage do not support some parts of the class. Changes have been made in the second semester to cover a few of these perceived difficulties, so in theory, the students will be less concerned this semester.

Despite the above problems, the overall evaluation is about the same as the previous evaluation. This group of students is pretty good at the class, and while only a couple of students did very poorly, perhaps many do not realize the strides they made in this class since the beginning. Still, further work needs to be done.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]11
授業コード 11A06-030
教員名 鈴木 愛
教員コード 103596
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

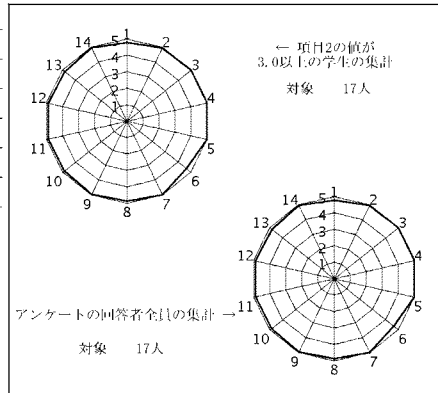
For reading goals, students will be able to read the main idea of a reading. Writing goal was to be able to write a paragraph on their personal topics. For reading goals, I do feel that most students were able to achieve this goal. For writing goals, I think that most students were able to achieve this goal. It was their 1st time in their life to write a 150-word-paragraph in English. They put a lot of effort in it.

Reflecting on the student evaluation, I am quite satisfied by their evaluation and comments. It seems that most students were able to learn a lot of new things in this quarter especially on writing. I do feel comfortable to say that students have gained skills to write a good paragraph and what a good English paragraph looks like. Although they need improvements in grammar, their writing in overall has improved.

As for next quarter, since they got used to writing a paragraph in English, I would like to extend it to an essay with three paragraphs. I would like to focus on essay coherence with each paragraph with a topic sentence and supporting sentences. I would like to use many pair and group works so that students will be able to learn from each other.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]8
 授業コード 11A06-039
 教員名 水野 眞紀
 教員コード 101981
 登録人数 18
 回答数 17
 回答率 94.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

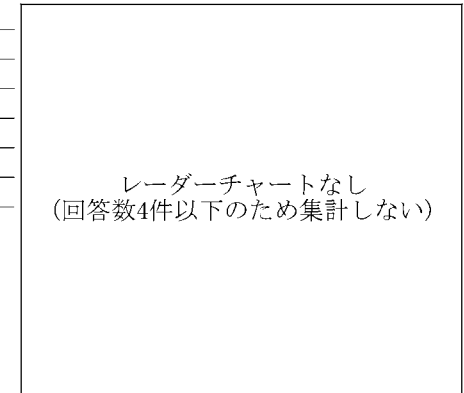


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 英語の読み書き運用能力を養成するという今期の目標は概ね達成できた。特にライティングでは、リーディングと同じテーマを扱うことで、背景知識をもとに批判的な意見を持つよう意識させることができた。フリーライティングに始まり、ドラフト、ファイナルと何度も校正して仕上げるプロセスを経て、複数のパラグラフからなるエッセイを様々な構成で書けるようになり、教員やクラスメートのフィードバックにより、コミュニケーション手段として使えるようになった。
- ② データからも、学生が目標を理解し、積極的に取り組んだことが伺える。これに対し目標到達に向けて力がついたかとの問いは、多少数値が低いがおそらく英語では意見を思うように表現できない虚しさに起因する。英語力の向上に伴い解決されていくと考える。自由記述でも英文がたくさん書けるようになり、授業もわかりやすかったとある。改善点としてWebclassを活用してほしいという理由として欠席すると評価が下がる、とあるが誤解である。確かにWebclassを活用することで解決できることもあるが、添削に限っては時間的制約もあり、記号や線を使うので難しい。
- ③ 今期は学生に評価されたことで報われたが、リーディングとライティングの授業を週2回で計画、実施することはかなり教員の負担も大きく効率のよい方法を常に模索している。Webclassも含め検討したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー<再>1
 授業コード 11A06-042
 教員名 SWEETLOVE, Douglas
 教員コード 102522
 登録人数 6
 回答数 3
 回答率 50.0%
 休講回数 1 回
 補講回数 0 回



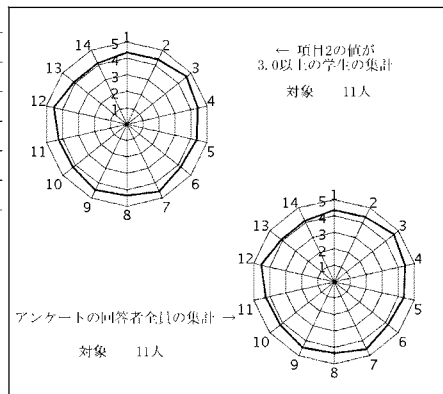
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a very small, repeater class. So as a result it is impossible to actually make any relevant or accurate comments about the results. I did try to follow the syllabus as best I could given the limits of the class situation. We were able to follow the syllabus without any trouble. Sometimes, student lateness and absences were a challenge. Given that this was a repeater class, this isn't too surprising.

Handling this kind of class is a bit delicate. All students have their reasons for failing English the first time, from conflicts with the teacher to sheding to personal issues. With a bit of patience and humor, it is possible to deal with these issues fairly.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]13
授業コード 11A06-043
教員名 島 禎子
教員コード 045559
登録人数 23
回答数 11
回答率 47.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

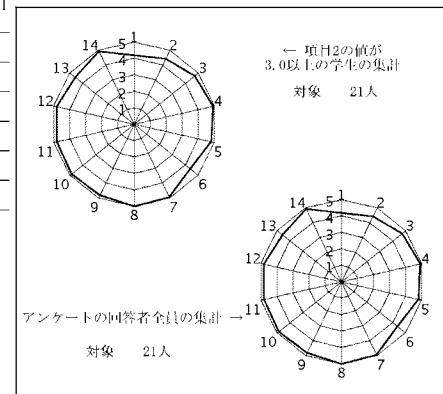


授業評価結果を踏まえた点検・評価

初めに、学生一人一人のよいエネルギーと共振して楽しく授業ができたことに心から感謝したい。placement testは苦手な彼らだが、reading/writingともに積極的にこれからどんな可能性を開花させていくのだろうかワクワクしながら授業をすることが多かった。Readingでは、特にgraded readersを読むことに熱心な学生が多く、こちらが少しアドバイスするだけで、現在の自分に合った本をコツコツ自分のペースで読み進めていく学生が多かった。この点においては、今まで担当したクラスの中でもかなり優れていると思う。自由記述で、「英語のレポートを書くのが良かった」と書いてくれたように、writingにおいても概ね書くことを楽しんでいるようにもみえる。First draftで、英語とは大きくかけ離れた不思議な言語で書いてくる学生も、「何か表現したいと思うときには、必ず動詞等の用例を辞書で確認しておくとうい」などと簡単にアドバイスするだけで、高い修正能力を示すこともある。もちろん、PCの翻訳機能の助けを借りてのことと推測するが、これからの時代こうした機能を上手に使いこなすことも能力の1つと考える。学生と接するうちに、ある思いが私の中に芽生えた。それは、彼らは単に今までわからなかった所を解きほぐす機会に恵まれなかっただけなのかもしれない。これからどんな風景が見えてくるか楽しみだ。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[II
A, 11P, 11J]6
授業コード 11A10-006
教員名 SCRUGGS, Edward
教員コード 101864
登録人数 22
回答数 21
回答率 95.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



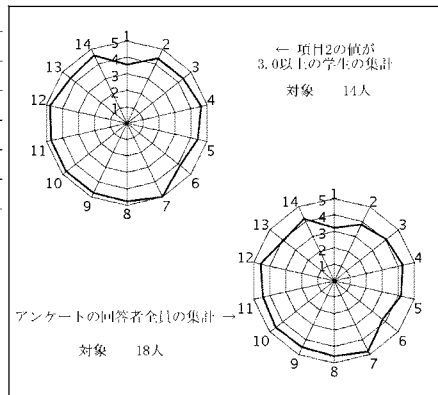
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am most pleased that our students this time seem well satisfied with the course. I was very happy to have taught such a fine group and enjoyed their motivation and interest in our class. Naturally, there is always room for improvement. With that in mind I plan the following:

Most of our original goals set out in the beginning of the term were met. The area that needs a bit more of my attention seems to be related to the statement of learning goals and how they will be implemented in the class. I will be most happy to focus more on these next term. I believe that there are two approaches to this. The first will be to spend more of the initial class in student discussion of the provided syllabus to insure a better understanding. Secondly, a follow-up session around the mid-term could also help clarify any points that might be needful of explanation. I shall certainly be pleased to do these. The only point of any discussion at all seemed to be related to stimulating outside interest in the class material. I plan to create a list of related on-line sources, which might be used by any students wishing for extension type activities. This will also be a pleasure to do. Again, thank you all for being such an attentive class.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[A, HP, HJ]12
授業コード 11A10-012
教員名 平野 みな
教員コード 152414
登録人数 22
回答数 18
回答率 81.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

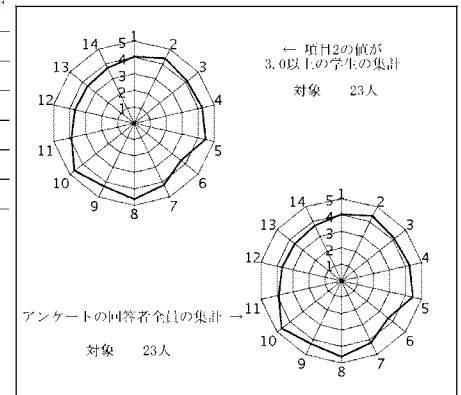


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今クォーターのスピーキングの目標は全員が達成することができ、様々なスピーキングストラテジーを積極的に使用しながらトピックに関して7分程度のペアスピーキングができた。リーディングに関しては、大部分の学習者が達成できた一方で、毎週の本読課題の提出をすることができず、まだ習慣化されていない学習者もいるため、引き続ききめ細かなフォローをしていきたい。今回のアンケートの数値データおよび自由記述を踏まえて、良かった点は、講義内で積極的に行ってきたグループディスカッションにより「理解が深まる」、「楽しい」という評価があった点である。先クォーターではなかなかディスカッションが難しかったが、今クォーターでは緊張がとれ、互いに意見を英語で交換しようという意欲がわき、それを実践することができた点が良かった。改善点としては、苦手意識があっても楽しく学べるという安心感はあることがわかったが、学習者がこの講義を通して英語力を伸ばすことができたという実感がやや低く感じたので、来クォーターでは、プレゼンテーションスキルやレベルアップしたディスカッションにもチャレンジし、学習者がもっと自信を持ち、新しい技術を習得できたと実感ができるような講義を行っていきたい。尚、授業終了時刻が延長することが何回かあったという記述が1名あったが、教室の時計が5分早いので、講師の手元の時計で正確な時間に講義が終了するように気をつけていた。時計の故障については伝えていたが、英語を聞き逃した可能性もあるので、再度説明し、対応したい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]8
授業コード 11A10-023
教員名 DRYDEN, Laurence
教員コード 101482
登録人数 25
回答数 23
回答率 92.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

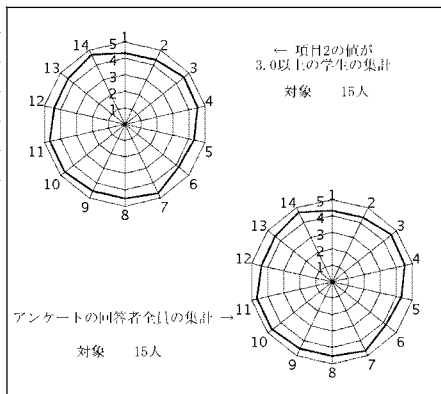
This was quarter 2 of the instructor's second iteration of a course in basic English speaking and reading for students majoring in other languages and cultures—Spanish and Latin American Studies, French Studies, German Studies, and Asian Studies.

Students' responses to the anketo in quarter 2 were respectably positive, more than 4.0 in both statistical categories, representing an improvement over the numbers in the first quarter. In their responses, the students indicated a growing satisfaction with course activities in reading and speaking in English.

The instructor continues to look for ways to optimize the activities in both textbooks in order to cover more of the curriculum. The primary goal is to help students enjoy even greater success in the third and fourth quarters of this continuing course.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]9
授業コード 11A10-024
教員名 SIMMONDS Brent
教員コード 103050
登録人数 24
回答数 15
回答率 62.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

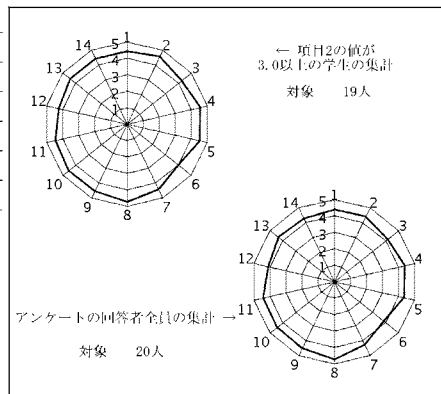


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was generally pleased with the student evaluation but need to tighten up and improve in certain areas. The students said that they would like more speaking practice and enjoyed short writing exercises each week. In the future I will give students greater autonomy to choose subjects for discussion. The students enjoyed the presentations but found making powerpoint difficult. The balance between the four skills was about right but I will add extra speaking to the syllabus in future classes. I will endeavour to learn more about the students and try to alleviate any problems they may have. Developing tasks related to the students majors will be a priority in the next quarter.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E
J]
授業コード 11A10-025
教員名 LENIHAN John
教員コード 045070
登録人数 20
回答数 20
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

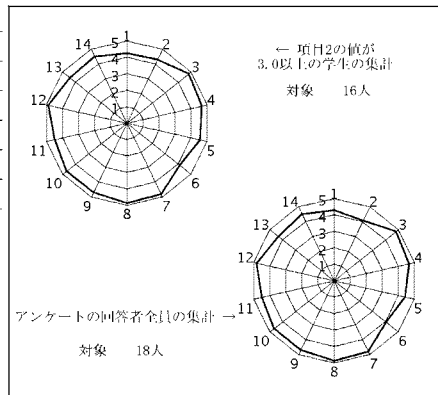


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the class were to continue improving the students' reading skills and spoken English in everyday situations, with particular emphasis on vocabulary, similes and idioms necessary to perform the various tasks at hand. The large majority of students showed improvement in these areas and enjoyed the variety of tasks we employed through the use of our outside materials. The students practiced speaking and writing the vocabulary words and phrases to further their retention. They wrote original short dialogues that we repeatedly used in class. They can understand that repetition is vitally necessary to develop a strong base for everyday vocabulary. We employed, once again, the graded readers, which the students seem to enjoy and get great benefits from. We use the graded readers for reading skills, discussion, comparisons and short reports. The attitude of the large majority of the students is very positive and they are very active learners in class. The attendance rate is very high and motivation is very good. We plan to continue with basically the same types of activities, graded reader exercises and extended vocabulary lists, while at the same time encouraging them to use them in both speaking and writing. We will continue to adapt to our activities according to the changing content of our outside materials. I look forward to more enjoyable classes with these students and look forward to witnessing their further improvement in various aspects of English reading and conversation.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E]
14
授業コード 11A10-028
教員名 伊藤 実里
教員コード 045542
登録人数 20
回答数 18
回答率 90.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



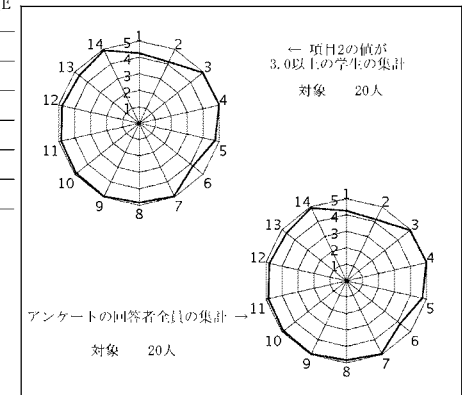
授業評価結果を踏まえた点検・評価

実際の日常会話で典型的に使われ、どんな会話にも応用することのできる基本的な英語表現の習得を目標としている。一年間を経てマスターしてもらいたい表現なので、第2クォーター終了時における評価ではまだ目標に到達していないと感じている人たちがいるのは当然である。第4クォーターを終えるときにはさらなる積み上げを実感することができるように十分な説明と練習を繰り返していく予定である。コミュニケーションの練習はアクティブラーニングそのものであり、ペア練習が多いこと、ペアの顔ぶれが替わることについては好反応が得られている。自由記述回答からは自ら考え、相手に質問し、相手の話すことに耳を傾け理解し対応することが実際に役立つ方法だと実感できている様子がうかがえるので、継続していきたい。

リーディングは一般的な会話の教科書にあるものよりは難易度が高い文章なので、理解の助けになるような説明をなるべく多くすることを心がけている。内容によって動画も取り入れて話題を広げるようにした。これらも役立っているようでよかったと思う。 semester制でコミュニケーションだけの授業をしていたときに比べ、取り上げている話題は現実社会で賛否両論あるものという難しさがある。英語での「おしゃべり」から、たとえ簡単な英語であっても、大学生らしい「ディスカッション」に発展させることができるよう、さらに工夫を重ねていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E]
15
授業コード 11A10-029
教員名 LANGER Daniel
教員コード 101438
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

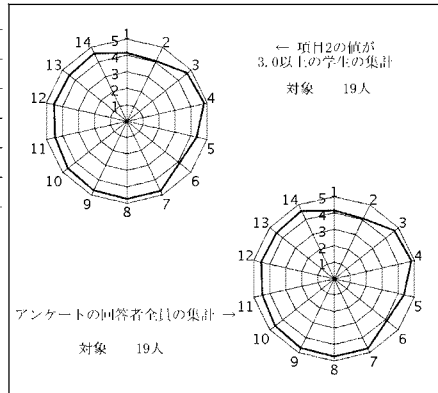
We have continued in much the same way as the previous quarter. Students have been required to give reading reports, and I have encouraged them, albeit very gently, to read outside the class. I could perhaps be more demanding with reading expectations. However, I would like them to think of reading as a fun choice, not as a dreaded chore.

I feel the students were very easygoing and fun to work with. I am glad that the scores are high, and the comments are positive. One notable low-scoring item was question six (4.2), a query which relates to an estimation of progress made. I'm not sure what this means (if anything), but I will try to keep it in mind, and see if there is some way to alleviate any concerns.

For the remainder of the year, we will maintain the same pace in the textbooks. For presentations and reports, I will try to think of a way to encourage creativity and detail in content delivery. I will also be looking for ways to increase reading outside the classroom.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E]
110
授業コード 11A10-034
教員名 大竹 万里
教員コード 047084
登録人数 20
回答数 19
回答率 95.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



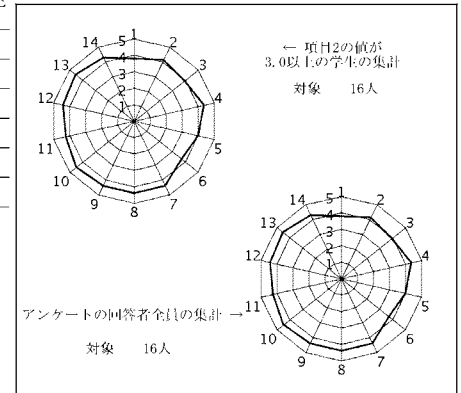
授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。第1、第2クォーターを通して学習を記録する小冊子(Class Book)を配布し、図書館のグレーディッドリーダーを利用した多読を目的とする自主学習の記録、グループでディスカッション内容を記録することを課題とした。グループ発表の機会も設けた。到達目標はほぼ達成できたと考える。

授業評価の設問3から18の平均数値データが4.57、学生の授業に対する全体的な満足度については4.58であった。週2回の授業をシラバス通りにおこなうことができ、学生の満足度も得られたように思う。記述欄のコメントに、「英語の語彙力がついた」「苦手の英語もしっかりまなびることができた」とあり、授業に対する興味を持てたのではないかと考える。改善点の指摘はないものの、第3クォーターでは、題材、課題、練習問題など、少しチャレンジングな内容を取り上げ、学生の積極的な授業参加を促すことのできる、インターアクティブな授業を心がけていきたい。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E]
112
授業コード 11A10-036
教員名 内川 元
教員コード 101922
登録人数 20
回答数 16
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はコミュニケーションをする上で欠かせない、聞く力と読む力をつけさせることに重点を置き、さらに日本人学習者の多くが持つ「英語を話すことへの壁」を壊すことを重要目標にして進めています。

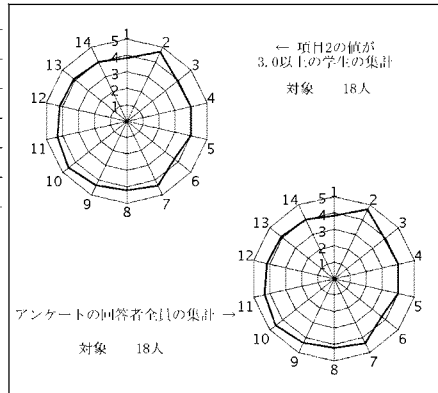
リスニングおよびスピーキングテストの結果、レポートの出来から大多数の生徒がそれぞれの力を徐々に伸ばしていることが感じられます。特にレポートの質が1学期に比べ大きく向上したのは喜ばしいことです。その一方で1学期に他の設問より評価数値の低かった「力がついてきているか」との間に対する数値はほとんど上がっておらず、相変わらず他の設問より低いのが気になります。これは3・4学期の取組課題にしたいと思います。

自由記述欄に目を向けると、「終了時間ギリギリまで授業をすること」をあげた1人以外、改善点に関する記入はありませんでした。また今年度は授業計画をより明確に分かりやすくするよう努めましたが、それを評価するコメントがあり嬉しく思います。

今後も引き続き必要に応じた改善を行い、授業の質の向上を図っていきたく思います。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[J]
12
授業コード 11A10-038
教員名 PALISADA Eloisa
教員コード 055830
登録人数 20
回答数 18
回答率 90.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

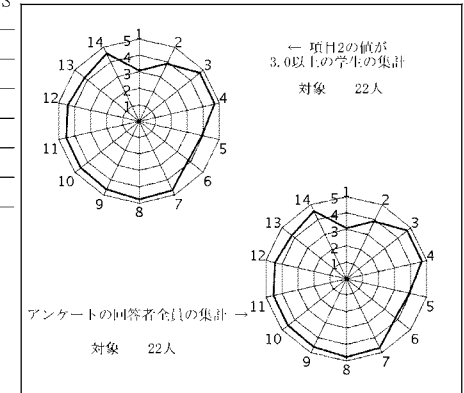


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class aimed to develop student's ability to use spoken English and learn a variety of reading strategies to improve reading proficiency. Based on the survey results, students highly rated (93%) their proactive participation by constantly coming to class prepared, with homework done, and doing efforts to understand course content. However, it seemed that many felt they have not achieved their goals, getting 74% only, and their understanding of the target at 80%. Despite this, they recognized the teacher's sincerity, determination, challenge, providing them opportunities to learn better and effectively (88%), and appropriate action to disruptive behavior (91%). There is still room for improvement for the instructor to give enough guidance before and after assigned tasks and to be self-directed and responsible for their learning. Based on the teacher's particular class survey, students valued our pair/group sharing of the books they have read. Although they found oral presentations challenging, they enjoyed listening and learning new things from each other. The textbook for communication seemed to be unpopular, that I need to supplement more engaging activities for them. On the other hand, many commented on the value of reading extensively through the MReader program. It may seem average their overall satisfaction with the course, but in actuality, I see students' enthusiasm for learning and a great rapport in class that makes it encouraging to keep it up next time.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[S]
19
授業コード 11A10-057
教員名 ウエストビィ 三奈
教員コード 102952
登録人数 23
回答数 22
回答率 95.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、学生の文法の基礎知識を伸ばし、英語の文章の読解力を高め、様々な問題点について自分の言葉で表現できることを目標とした。英語そのものに苦手意識を持つ学生が多い中、ライティングとスピーキングの両方で正確さと流暢さを追求し、ペアやグループでの活動を通して学びあいの意識を育て、学習意欲を上げることを試みた。週二回の授業だったこともあり、学生同士や教員とも親しい関係を築くことができ、発言が多く活動しやすい雰囲気が築くことができた。半面、授業中の私語が多く、授業の妨げとなる学生への対応に追われたこともあった。次年度からは前期の段階でももう少し厳しく対処したいと思う。今期は、過去形と未来形を用いて二つのトピックについて書き、クラスメートを話すことを目的とした。Follow up questions やConversation Strategies を使うことによって、自然な流れの会話を楽しんで行うことができたと思う。また、ERの活動を通してreading とspeakingの流暢さに改善が見られたように思う。学生による授業評価の結果、おおむねは当初の授業目的を達成できたと感じるが、学生自身の授業参加において、自主的な学習に結び付いていない者も何人か見受けられるため、各学生の学習意欲がより上がるよう、さらなる授業内容の工夫、改善が必要だと感じる。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[S
13
授業コード 11A14-009
教員名 GAFFNEY, Sean D
教員コード 101224
登録人数 26
回答数 2
回答率 7.7%
休講回数 1 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

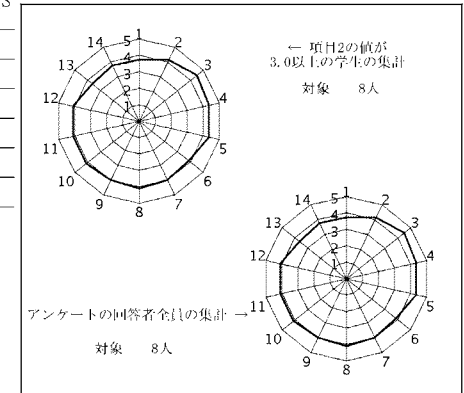
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a pleasant and enjoyable class to teach. The students were amiable, motivated and easy to teach. For some reason or another the survey I asked the students to do was not carried out. However I felt that most of the goals I set for this class were achieved, in both the reading and speaking components. My sense is that the class was satisfied with the materials we used and that my goals of using stimulating and interesting materials to read and talk about in order to improve reading and speaking skills were largely achieved. Overall I was pleased with the way the class responded to the activities. Students were attentive and stayed on task. I used my own materials that seemed to match well with the student levels.

Most of the students seemed to be motivated and interested in the materials presented. However during pair work and group work the students would sometimes lapse into Japanese, which seemed to frustrate some of the higher-level students. I feel that the students who made the most progress were some of the lowest level students in the class. I was very pleased with these particular students' progress and seemingly newfound interest in studying English. They appeared to be pleasantly surprised by their progress.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[S
14
授業コード 11A14-012
教員名 HAYES, Mary
教員コード 103625
登録人数 25
回答数 8
回答率 32.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals set for this second year communication skills class were twofold. On the one hand, the speaking and listening skills were to be practiced and improved. This goal was achieved in general. There was a certain amount of improvement in spoken responses, fluency and pronunciation. Listening comprehension definitely was greatly improved due to online practice exercises, as well as listening practice in class.

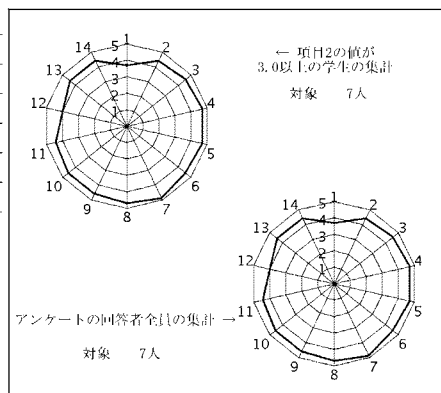
The goal of improving extensive reading skills was achieved to some extent, as all members completed assigned reports. In class intensive readings showed much improvement. Outcomes were satisfactory.

2. The results are not surprising in light of the fact that this is a mixed level class. About one fifth of students are driven to excel. Another one fifth are reluctant to make a positive effort. The remainder are progressing sufficiently well. I need to improve class management.

3. Going forward, I plan to get increased feedback from the class in order to adjust the pace and will organize the class into groups so that students of similar levels can work together. This should improve motivation and lead to more active participation.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ<全>1
授業コード 11A14-017
教員名 HASTINGS, Christopher Robert
教員コード 103137
登録人数 23
回答数 7
回答率 30.4%
休講回数 4 回
補講回数 4 回

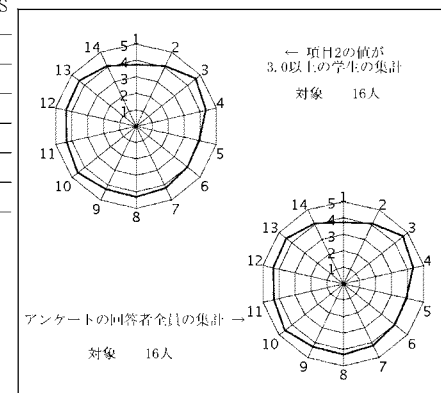


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals as they are outlined in the syllabus were met satisfactorily. They seem to be a good balance of challenging but achievable for classes with mixed levels of English language proficiency.
2. The numerical data from the student survey suggests that students were satisfied with the course. In all categories, scores were either close to or above departmental averages.
3. If I were to teach this class again, I would inform students of the e-book library sooner and also make sure they were all correctly registered on Mreader at the beginning of the course.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[S11]
授業コード 11A14-027
教員名 加藤 善由子
教員コード 101654
登録人数 24
回答数 16
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

24名中16名の回答数であり、6割強の意見である。質問1の授業の内容に対する興味は平均値で3.75。Q1では評価対象授業ではなかったため比較ができないが、半期を通しての私の感想と概して一致する。他方で、質問2の回答平均値が4.06、5と4を選択した学生の割合は7割強であり、自身の主体的学習姿勢を評価している。質問15の自由記述では「楽しかった」とあり、指導法に対しても「とてもわかりやすい」「レベルに合わせてくれる」「一人一人にわかりやすく説明してくれるところ」とある。他方で質問6に対しての平均値が4.00であり、2名が到達目標に向けて力がついてきているとは感じていない。自由記述欄に「練習問題をもっと欲しい」という意見も寄せられており、Q3以降で彼らの主体的積極的姿勢に対応していきたい。また、総合的評価を問うた質問14の回答平均値は4.06であるが、2と1を選択した学生が1名ずついることを意識すべきである。なお、授業環境に関して、テキストブック、ノート、辞書を同時に利用するには机が小さすぎ、学生は難儀していた。自由記述欄にも指摘があった。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ<E>1
 授業コード 11A14-032
 教員名 FOX, Aaron
 教員コード 103869
 登録人数 24
 回答数 4
 回答率 16.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. The reading goals set for the in the handbook were achieved by almost all of the students in the class. Most impressive were the high scores achieved by the majority of students on all quizzes and tests.

2. I would say that reaching the reading goals was quite satisfactory and that based on the outcomes of the students test scores and application of the skills covered in regards to reading I am very pleased with the results.

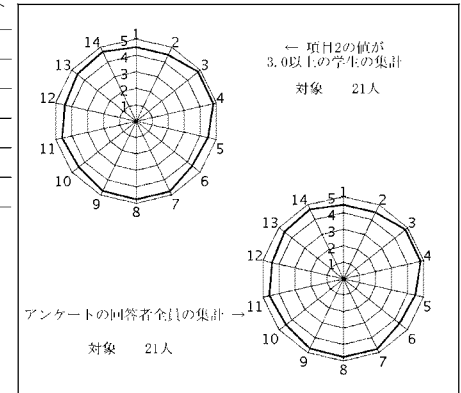
On the other hand, I hope for better progress regarding student speaking skills. The balance of the course was focused on reading skills and practice, with a secondary focus on discussions related to the topics read. It comes as no surprise that progress, in terms of speaking skills, would lag behind those of reading.

As for the attitude of the class, it was positive, overall. For the most part, students were courteous, attentive, and punctual. They completed their assignments on time and worked well together on in class activities such as group discussions.

3. Thinking toward the next quarter, my primary goal is it increases the progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook. I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. It may better support the students to practice speaking about the topics read to discuss the material along with with reading it.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ<E>2
 授業コード 11A14-033
 教員名 LANDSBERRY, Lauren
 教員コード 103626
 登録人数 24
 回答数 21
 回答率 87.5%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

In Quarter one I was in a smaller classroom and I felt the close proximity to the students kept them quieter and more focused on their study. Quarter two saw me back in a big classroom with more distance between me and the students. I felt that this made some of the more lax students feel as though they could be rowdy in class. Some students continued on with the course from quarter one while some students were new.

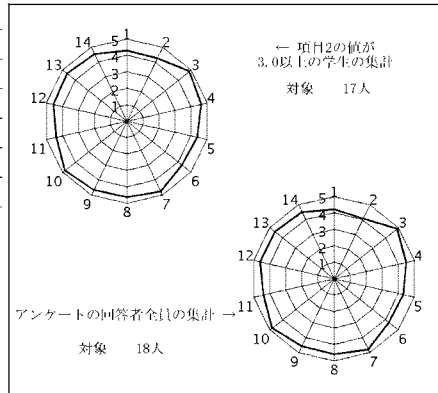
I felt that all of the goals that were set were achieved in the class.

I also used some online activities with their smartphones to keep their motivation up and we also enjoyed some activities using youtube.

I love that wi-fi is available in the classroom this year. It is an enormous benefit as the students don't have to worry about their data and are all able to participate in online activities. I look forward to the remaining quarters.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<IIA, IIP, IJ>1
授業コード 11A26-001
教員名 VIADO Cora
教員コード 100553
登録人数 21
回答数 18
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

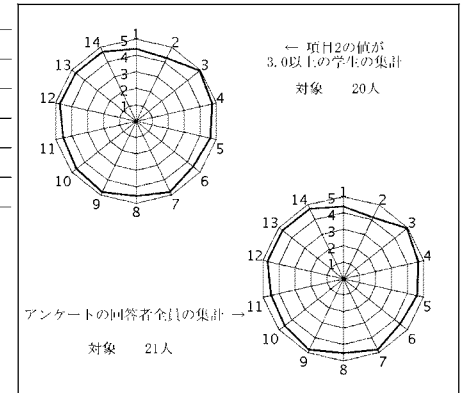


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was delivered using practical and collaborative teaching styles. The purpose of this course is to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. Students were given listening activities through various forms of media. This course provided students with a variety of listening strategies such as recognizing intonation, rhythm, and stress to improve English listening comprehension. Listening texts included audio items, conversations, or songs to promote student interest, and to broaden students' exposure to English. Activities included listening for key points, note-taking, and dictation. Students were given opportunities to talk to other classmates, share ideas, report on what they heard, and exercise the use of listening strategies. The overall positive results of the students' evaluation indicate their satisfaction with the content and dynamics used in the class. Students pointed out the clarity of speech of the teacher and also reiterated the importance of the relaxed and friendly atmosphere in the classroom that created a comfortable space for them to learn.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<IIA, IIP, IJ>2
授業コード 11A26-002
教員名 酒井 美納江
教員コード 046060
登録人数 24
回答数 21
回答率 87.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

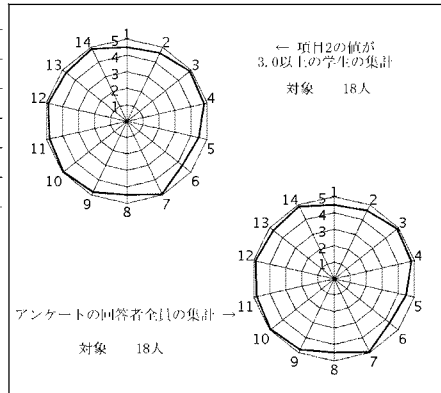


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2年生以上の学生を対象とした中級レベルのリスニング講座で、Quarter1同様、(1)全体のトピックの把握、(2)必要な詳細の聞き取り、(3)日本語話者が苦手とする英語の音の認識と聞き分け、(4)シャドーイングによる発話の練習、を柱に授業を行った。
Quarter2では、(4)のシャドーイングをより頻繁に行った。さらに学生の発話を録音し、良い点と改善点をフィードバックする事を3回行って、リスニングからスピーキングへの橋渡しの学習作業を行った。LL機器でマイクに向かって発話することに違和感があったようで、学生の発話は最初のうち小声で遠慮がちだったが、回を重ねるごとに自信を増した話し方になっていくのが分かった。フィードバックで多少なりとも個別の指導らしきものができたことも良かった。
講座中に3度小テストを行ったのだが、1回目と2、3回目の行い方を変えてしまったので、それについて自由記述で意見が出ており、反省すべき点だと思う。
その他、自由記述でドラマを用いたリスニング練習に肯定的なコメントが複数あったので、今行っている基本的な練習だけでなく発展的な練習もこの教材を用いてできるかもしれないな、と思案している。

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング2
授業コード 11A26-006
教員名 木田 パルビン
教員コード 102322
登録人数 24
回答数 18
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



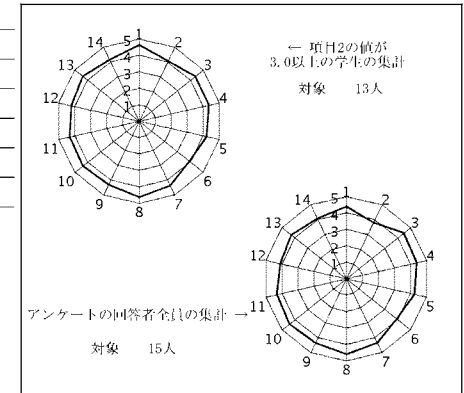
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The listening course was a task-based approach to develop listening skills, and strategies necessary for effective communication in English. The topics in the textbook included a variety of real-life situations such as following directions, listening to telephone messages, understanding announcements. The situations included shopping, food, and overseas travel. The lessons were taught and practiced through the following steps, starting with the presentation of new vocabulary, and then listening for an overview and again for details, followed by practice with pronunciation, listening and responding, and finally, a short dictation and fill-in the gap exercise. Students were given opportunities to practice what they had learned in class through pair and group work. I did not provide supplemental materials such as handouts or links to listening sites. Instead, during the question/answer in class, I tried to encourage the students to use their background knowledge, imagination, combined with the new information learned from textbook to engage them in critical thinking. In addition to vocabulary tests, writing homework on the topics studied in class were assigned to enable the students to use the vocabulary and expressions as well as the information learned.

I have carefully studied the students' evaluation and comments. In my judgment, most students demonstrated improvement of their listening abilities since the beginning of the course. I continue to work on the students' progress in communicative skills through listening.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<J>3
授業コード 11A26-011
教員名 KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数 19
回答数 15
回答率 78.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

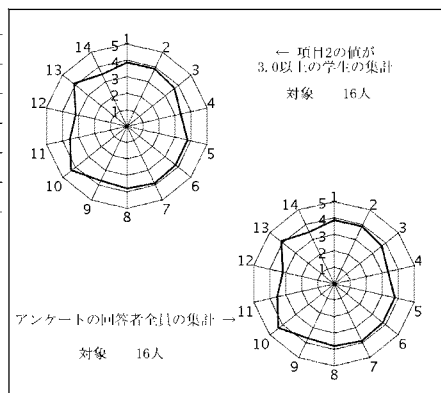


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.29 and 4.34 for the courses in the band of 11A01-001~111.16-999, the scores of this course were 4.40 and 3.80. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.59, 4.55, 4.39, 4.21, and 4.69 for all courses, the scores for this course were 4.47, 4.59, 4.40, 4.27, and 3.93. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.64, 4.53, 4.57, 4.47, and 4.48 for all courses, the scores of this course were 4.60, 4.33, 4.40, 4.33, and 4.13. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.48 and 4.47 for all courses, the scores of this course were 4.27 and 4.07. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students gave a lot of good comments, which I find profoundly encouraging.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語A2
授業コード 40E04-002
教員名 MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数 38
回答数 16
回答率 42.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

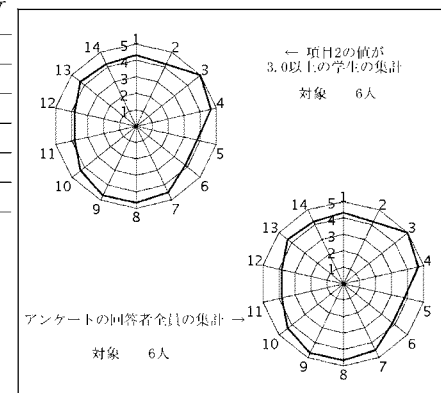
The scoring of the set of questions was positive for this Business English Class. Attendance was excellent. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing for classes and review. I felt they were interested in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the format of the course and the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained.

The class was adjusted to the student's needs and level. There were no behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier class was especially useful for independent and developmental learning. Although the class size was large, effort was made to consult with each student.

Students were encouraged to participate in class. Students seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2018年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション3
授業コード 42G03-003
教員名 IVANCHENKO, Andriy
教員コード 102754
登録人数 7
回答数 6
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The learning objectives as presented in the course description seem to be fully achieved. All the students fulfilled the course requirements with regard to written work, oral presentation, class participation and homework assignments. The students' coursework was of good quality, showing attention to the class contents.

Judging from the students' answers, most seem quite satisfied with the course in general, as well as with the class management, including effective use of equipment and materials. Most students report having improved their skills and knowledge through the course, the classroom environment being mostly conducive to learning and participation.

My goal is to continue working on the latter point, aiming to stimulate everyone's interest in the subject and to help students acquire new knowledge, techniques and abilities. Individual guidance, conducive to independent learning, will always have an important position. I shall keep up my efforts in these areas, aiming to increase overall satisfaction with my courses in the future.